

田口上田尻遺跡 田口下田尻遺跡

— 本文編 —

一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2012年3月

国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

田口上田尻遺跡
田口下田尻遺跡

— 本文編 —
一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

二〇一二年三月

国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



田口上田尻遺跡 田口下田尻遺跡

－ 本文編 －

一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2012年3月

国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



遺跡遠景（西から）



遺跡遠景（北から）



綠釉陶器補修痕內面(第512圖-27)



綠釉陶器補修痕(第502圖-9)



綠釉陶器補修痕(第512圖-27)



灰釉陶器補修痕



焙烙使用痕(第86圖-17)



焙烙使用痕(第142圖-4)



焙烙使用痕(第140圖-1)



美濃陶器筒形香炉使用痕(第192圖-5)

序

一般国道17号は、関東と北陸を結ぶ大動脈であり、本県においては県北部と南部を結ぶ地域の主要道路であります。前橋渋川バイパスは、前橋市と渋川市における交通渋滞解消と県中央部の道路ネットワーク強化を目的として、前橋市田口町から渋川市半田に至る延長5.7kmが計画されました。

前橋渋川バイパスの埋蔵文化財調査は、一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、平成15年10月に国土交通省関東地方整備局・群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者で締結された協定書のもとに、平成15年度から平成20年度までの6カ年にわたり渋川市半田、北群馬郡吉岡町漆原地内、前橋市田口町地内での発掘調査が行われました。

田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡の発掘調査は、平成17年8月から平成21年1月までの4カ年度にわたって行い、平成19年4月から整理作業を開始し、本報告書にその成果をまとめることができました。

田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡では、天明三年(1783)の浅間山噴火に伴う天明泥流に埋もれた田畑の復旧跡や建物が発見され、この地域の甚大な被害状況と、当時の人々の復旧への取り組みが明らかになりました。また、古墳時代には予想を大きく上回る大規模な集落が確認されたほか、平安時代の遺構からは当時の高級食器の緑釉陶器が多数出土したことが特筆されます。

今回の報告書では、これら地域の歴史解明に貴重な資料となる遺構・遺物を報告させていただきます。

本報告書の刊行に際し、国土交通省関東地方整備局、同高崎河川国道事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者の皆様には、格別の御尽力を賜りました。銘記して心から感謝申し上げますとともに、本報告書が基本的な歴史資料として広く活用されることを念願し、序といたします。

平成24年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 須 田 栄 一

例 言

1 本書は、一般国道17号(前橋渋川バイパス)改築工事に伴って発掘調査を行った田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡の発掘調査報告書である。

2 遺跡所在地

田口上田尻遺跡

前橋市田口町168-1、169-2、169-3、170、172、173-2、173-3、173-4、183-1、183-2、187-1、187-2、187-4、187-5、191-3、191-4

田口下田尻遺跡

前橋市田口町130-1、131-1、132-1、133-3、134-1、135-1、136-1、153-1、153-2、154、155、156、157-1

3 事業主体 国土交通省 関東地方整備局

4 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5 調査体制および期間

【平成17年度】

期 間 平成17年8月1日～平成17年12月31日

調査担当 桜岡正信、齋藤聡

【平成18年度】

期 間 平成18年4月1日～平成18年12月31日

調査担当 飯塚卓二、桜岡正信、山田精一

【平成19年度】

期 間 平成19年9月1日～平成20年3月31日

調査担当 西田健彦、桜岡正信、弥城淳

【平成20年度】

期 間 平成20年4月1日～平成21年1月31日

調査担当 桜岡正信、弥城淳

6 整理体制および期間

【平成19年度】

期 間 平成19年4月1日～平成20年3月31日

整理担当 友廣哲也

【平成21年度】

期 間 平成21年4月1日～平成22年3月31日

整理担当 山口逸弘(桜岡正信)

【平成22年度】

期 間 平成22年4月1日～平成23年3月31日

整理担当 桜岡正信

【平成23年度】

期 間 平成23年4月1日～平成24年3月31日

整理担当 桜岡正信

7 本書作成の担当は次のとおりである。

編 集	桜岡正信	デジタル編集	齊田智彦
執 筆	第4～7章	弥生時代～古代の土器観察	関晴彦、大木紳一郎、友廣哲也、大西雅広、神谷佳明
		中世～近世遺物観察	大西雅広
		石造物観察	大西雅広、神谷佳明
		石器観察	岩崎泰一
		金属製品観察	大西雅広、関晴彦、笹澤泰史
第9章	第1節第1項		大木紳一郎
	第1節第3～5項		大西雅広
	第2節第2項		笹澤泰史
	第2節第3項		村田敬一（群馬県文化財保護審議会委員）
	上記以外の本文		桜岡正信

遺構写真撮影 調査担当 飯塚卓二、桜岡正信、山田精一、齋藤聡、弥城淳

遺物写真撮影 佐藤元彦

8 報告書の作成に際して、以下の方々へ分析・同定を依頼した。

骨・歯鑑定 宮崎重雄氏
近世建物分析 村田敬一氏（群馬県文化財保護審議会委員）
石器・石造物の石材鑑定 飯島静男氏
炭化材樹種同定 株式会社 パリノ・サーヴェイ
炭化種実同定 株式会社 パリノ・サーヴェイ
炭化材・炭化種実放射性炭素年代測定 株式会社 パリノ・サーヴェイ
金属分析 株式会社 九州テクノリサーチTACセンター
火山灰同定 株式会社 古環境研究所

9 本遺跡の出土遺物および図面・写真等の資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

10 発掘調査および報告書作成にあたっては、次の方々へ有益な指導と助言を賜った。記して感謝の意を表する所である。

石井清司（京都府埋蔵文化財調査研究センター主幹、大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館特別学芸顧問）、
蔵持大輔（西武鉄道株式会社）、小森俊寛（京都市埋蔵文化財研究所）、藤澤良祐（愛知学院大学文学部教授）、
宮崎重雄、村田敬一（群馬県文化財保護審議会委員）、森島康雄（京都府埋蔵文化財調査研究センター主任調査員）、
茂木孝行（栃木県文化財保護指導委員）、山下歳信（前橋市教育委員会文化財保護課）

凡 例

- 調査区域には、平面直角座標系(日本測地系)第IX系のX=48,720、Y=-70,210を起点として、5m方眼となるグリッドを設定した。グリッドは、起点から東に向かって100mごとの大区画にアルファベット大文字A～を付し、さらにそれぞれの大区画内の5mごとにアルファベット小文字a～を付し、これを合わせてAa・Ab～と表記した。また、北に向かっては原点から5m間隔で0～の数字で表記した。したがって5m×5mのグリッドを呼称するには、南西部の交点を基準としてAe-10、Bn-22のように表記した。さらに遺構近くに適当なグリッド交点が無い場合は、基準となる交点から○m東または北の位置として(Ae+○)-10、(Bn+○)-(22+○)のように表記し、プラスした○mの単位を省略した。
- 挿図中の方位は、座標北を表しており、真北方向角は、東偏0°27'59"である。
- 本報告で使用したテフラの記号は以下のとおりである。
As-A：浅間Aテフラ、As-B：浅間Bテフラ、Hr-FP：榛名二ツ岳軽石、Hr-FA：榛名二ツ岳火山灰、
FA泥流：Hr-FAに伴う泥流堆積物、二ツ岳系軽石：Hr-FA、Hr-FPどちらに起源するか判断できない軽石
- 挿図中の遺構図縮尺は原則下記のとおりであるが、この縮尺を使用しなかった場合は個々に明示した。
竪穴住居、土坑、ピット：1/60、竪穴住居カマド・炉：1/30、墓坑：1/40、水田・畑：1/100、復旧痕：1/200
- 挿図中の遺物図の縮尺は、原則1/3であるが、大形品については、1/4、1/6、陶磁器の小形品・石器・金属製品・銭貨などの小形品については、1/1、1/2で掲載したものがある。また、原則以外の縮尺を使用した場合は、図中に縮尺を示した。
- 挿図中の遺構名称は、遺跡ごとに通番となっているので調査区名称は省いた。
- 挿図中のスクリーントーン表示は下記による。

天明日流	As-C	楳乱	硬化面	灰	焼土	粘土	還元焼土
灰釉	緑釉	黒色	スス	粘土	漆	赤色塗彩	
羽口滓化	羽口熱変色範囲	黒色ガラス範囲	酸化土砂	炉床土	鉄錆化部		
- 挿図中の遺物記号は下記による。

● 土器	○ 緑釉陶器	▲ 石製品	△ 種実	■ 金属製品
□ 鉄滓	★ 骨	☆ 土製品	× 炭化物	
- 遺構計測値単位は、m、㎡である。
- 復旧痕の計測に当たっては、溝状は長さ×幅、土坑状は長軸×短軸とし、全体が検出されていないものについては()で記載した。方位の計測については、直線的に掘削されたものばかりではないため、条件の良い遺構について計測し代表させ、東西または南北軸線からの振角としてE-○°-Nのように表記した。
- 溝の走行方位の計測にあたっては、直線的な部分において基準線を設定し、東西または南北軸線からの触角としてE-○°-Nのように表記した。蛇行または湾曲など直線的な基準線設定のできないものについては、計測値を記載しなかった。
- 住居の主軸方位については、カマドのある住居については、カマドの設置された方向を主軸として捉え、軸線を出すに当たってはカマドの設置されている壁に直行する軸線の方位、またはカマドの設置されている壁に直行する壁の条件が良好な場合は、壁の方位を計測した。カマドの設置されていない住居については、長方形の平面形の住居については、長軸方向を主軸とし、正方形の平面形の住居については、炉が偏る方向を主軸方向として捉えて計測をした。
- 住居の時期については、床面付近出土土器の年代観をもとに記した。

目次

口 絵 序 言 凡 例 目 次

挿図目次・表目次・本文写真図版目次・写真図版目次

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第3節 整理事業の経過と方法	4
第2章 調査の方法と基本土層	5
第1節 調査区の設定	5
第2節 調査面の呼称	5
第3節 グリッドの設定	6
第4節 基本土層	6
第5節 調査の概要	9
第1項 1面の調査	9
第2項 2面の調査	9
第3項 3面の調査	10
第3章 地理的・歴史的環境	11
第1節 地理的環境	11
第2節 歴史的環境	13
第4章 1面の調査(近世)	19
第1節 第Ⅰ期(天明泥流被災以降)	21
第1項 田口上田尻遺跡	21
第2項 田口下田尻遺跡	57
第2節 第Ⅱ期(天明泥流直下)	78
第1項 田口上田尻遺跡	78
第2項 田口下田尻遺跡	129
第3節 第Ⅲ期	133
第1項 田口上田尻遺跡	133
第2項 田口下田尻遺跡	220
第5章 2面の調査(中世～古墳時代後期)	229
第1節 第Ⅰ期 中世	232
第1項 田口上田尻遺跡	232
第2項 田口下田尻遺跡	264
第2節 第Ⅱ期 古代～古墳時代後期	294
第1項 田口上田尻遺跡	294
第2項 田口下田尻遺跡	470
第6章 3面の調査(古墳時代中期～前期)	739
第1節 第Ⅰ期 (As-C降下以降)	741
第1項 田口上田尻遺跡	741
第2項 田口下田尻遺跡	823
第2節 第Ⅱ期 (As-C降下以前)	871
第1項 田口上田尻遺跡	871
第2項 田口下田尻遺跡	893

第7章 時期不明遺構と遺構外出土遺物	907
第1節 時期不明遺構	908
第2節 遺構外出土遺物	908
第8章 科学分析	927
第1節 炭化材および炭化種実の放射性炭素年代測定	928
第2節 田口上田尻遺跡23号土坑出土炭化種実同定	931
第3節 田口上田尻遺跡5号住居出土炭化材の樹種同定	936
第4節 田口上田尻遺跡9号住居出土炭化材の樹種同定	943
第5節 田口上田尻遺跡33号住居出土赤色物質のX線回折分析	946
第6節 田口下田尻遺跡の指標テフラ分析	948
第7節 人骨・獣歯骨分析	953
第8節 田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査	964
第9章 総括	981
第1節 遺物について	982
第1項 古墳時代前期の土器について	982
第2項 土師器系羽釜について	985
第3項 緑釉陶器と灰釉陶器の素地補修	986
第4項 陶磁器について	986
第5項 砥石について	987
第2節 遺構・遺跡について	988
第1項 古墳時代前期～平安時代の集落について	988
第2項 鍛冶工房について	993
第3項 田口上田尻遺跡1・2号建物について	996
第4項 天明泥流の復旧について	1000

抄録

遺物観察表	第2分冊
写真図版	第2分冊

付図1. 田口上田尻遺跡・下田尻遺跡1面遺構全体図
付図2. 田口上田尻遺跡・下田尻遺跡1面～2面溝等全体図
付図3. 田口上田尻遺跡・下田尻遺跡2面遺構全体図
付図4. 田口上田尻遺跡・下田尻遺跡3面遺構全体図
付図5. 田口上田尻遺跡・下田尻遺跡1面～3面土坑・墓坑全体図
付図6. 田口上田尻遺跡・下田尻遺跡ピット全体図
付図7. 田口上田尻遺跡・下田尻遺跡ピット詳細図

挿 図 目 次

第 1 章 調査の経緯

第 1 図	前橋河川バイパスと遺跡の位置	3
-------	----------------	---

第 2 章 調査の方法と基本土層

第 2 図	調査区設定図	5
第 3 図	グリッド設定図	6
第 4 図	基本土層(模式図)	7
第 5 図	基本土層	8
第 6 図	1 面の調査	9
第 7 図	2 面の調査	10
第 8 図	3 面の調査	10

第 3 章 地理的・歴史的環境

第 9 図	遺跡の位置と地形	11
第 10 図	前橋地区の地形区分図	12
第 11 図	周辺の主要道路	15

第 4 章 1 面の調査(近世)

第 12 図	1 面 1 期全体図	20
第 13 図	1・2 号復旧痕	26
第 14 図	3・4・10・11 号復旧痕	27
第 15 図	3 号復旧痕上層断面図	28
第 16 図	4 号復旧痕上層断面図	29
第 17 図	11 号復旧痕	30
第 18 図	10 号復旧痕	31
第 19 図	5・8 号復旧痕	32
第 20 図	7・8 号復旧痕上層断面図	33
第 21 図	9 号復旧痕	34
第 22 図	12・22 号復旧痕	35
第 23 図	12 号復旧痕上層断面図	36
第 24 図	13 号復旧痕	37
第 25 図	13 号復旧痕上層断面図・高低図	38
第 26 図	14・27 号復旧痕	39
第 27 図	15 号復旧痕	40
第 28 図	28 号復旧痕	41
第 29 図	16・17・18 号復旧痕	42
第 30 図	16・17・18 号復旧痕上層断面図・高低図	43
第 31 図	19・21・23～26・29 号復旧痕	44
第 32 図	19・21・26 号復旧痕高低図	45
第 33 図	20・21・23～26・30 号復旧痕高低図	46
第 34 図	20・30 号復旧痕	47
第 35 図	18・19 号復旧痕	48
第 36 図	1～4 号復旧痕出土遺物	49
第 37 図	7～10 号復旧痕出土遺物	50
第 38 図	11 号復旧痕出土遺物	51
第 39 図	12・13 号復旧痕出土遺物	52
第 40 図	13・15 号復旧痕出土遺物	53
第 41 図	18・19・20・23・27 号復旧痕出土遺物	54
第 42 図	4・28 号復旧痕出土遺物	55
第 43 図	5 号溝	56
第 44 図	1 号復旧痕	61
第 45 図	2・3 号復旧痕	62
第 46 図	3 号復旧痕上層断面図・4 号復旧痕	63

第 47 図	10 号復旧痕	64
第 48 図	5・12 号復旧痕	65
第 49 図	5 号復旧痕上層断面図・6・7 号復旧痕	66
第 50 図	7 号復旧痕上層断面図・8 号復旧痕	67
第 51 図	8 号復旧痕上層断面図・9 号復旧痕	68
第 52 図	11・13 号復旧痕	69
第 53 図	13 号復旧痕上層断面図・高低図・14・15 号復旧痕	70
第 54 図	14・15 号復旧痕上層断面図・高低図・16・18 号復旧痕	71
第 55 図	17・19 号復旧痕	72
第 56 図	20～27 号復旧痕	73
第 57 図	28 号復旧痕	74
第 58 図	2・4～9・13 号復旧痕出土遺物	75
第 59 図	41 号溝・1a 号道	76
第 60 図	1 面 II 期全体図	77
第 61 図	1 号建物	79
第 62 図	1 号建物上層断面図・高低図(1)	80
第 63 図	1 号建物上層断面図・高低図(2)	81
第 64 図	1 号建物厨伊裏・厩	82
第 65 図	1 号建物出土遺物(1)	83
第 66 図	1 号建物出土遺物(2)	84
第 67 図	1 号建物出土遺物(3)・2 号建物出土遺物	85
第 68 図	2 号建物・1 号桶	86
第 69 図	2 号建物 2・3 号桶	87
第 70 図	3 号建物	88
第 71 図	1 号井戸	89
第 72 図	1 号井戸出土遺物	90
第 73 図	1 号溝	92
第 74 図	1 号溝上層断面図・19 号溝	93
第 75 図	48a 号溝(1)	94
第 76 図	48a 号溝(2)・出土遺物(1)	95
第 77 図	48a 号溝出土遺物(2)	96
第 78 図	48a 号溝出土遺物(3)	97
第 79 図	49・50 号溝	98
第 80 図	49・50 号溝出土遺物	99
第 81 図	50・57 号溝出土接合遺物	100
第 82 図	51 号溝	100
第 83 図	52・73・76・77 号溝	101
第 84 図	1 号土塁上層断面図・出土遺物(1)	102
第 85 図	1 号土塁	103
第 86 図	1 号土塁出土遺物(2)	104
第 87 図	1 号土塁・34・48b・50・57 溝出土接合遺物	105
第 88 図	2・3 号道	106
第 89 図	4 号道	107
第 90 図	5・6・7 号道	108
第 91 図	1～6 号水田全体図	110
第 92 図	1・2 号水田	111
第 93 図	3・4・5 号水田	112
第 94 図	1 号畑	115
第 95 図	2 号畑	116
第 96 図	3 号畑	117
第 97 図	8・10 号畑	118
第 98 図	9 号畑	119
第 99 図	11・12 号畑	120
第 100 図	13・14 号畑	121
第 101 図	15・16 号畑	122
第 102 図	25 号畑	123
第 103 図	1・11・13・14・16・30 号畑出土遺物	124

第104図	34号土坑・15号堀1・2号堀	125
第105図	墓地出土遺物	126
第106図	281号土坑・出土遺物(1)	127
第107図	281号土坑出土遺物(2)	128
第108図	1・4号配石	129
第109図	4号配石出土遺物	129
第110図	1b号道・出土遺物	130
第111図	10号堀	131
第112図	1面Ⅰ期全体図	132
第113図	8号溝全体図	141
第114図	8号溝詳細図1	142
第115図	8号溝上層断面図(1)	143
第116図	8号溝詳細図2	144
第117図	8号溝上層断面図(2)	145
第118図	8号溝詳細図3	146
第119図	8号溝詳細図4	147
第120図	8号溝高低図・出土遺物(1)	148
第121図	8号溝出土遺物(2)	149
第122図	8号溝出土遺物(3)	150
第123図	8号溝出土遺物(4)	151
第124図	8号溝出土遺物(5)	152
第125図	8号溝出土遺物(6)	153
第126図	8号溝出土遺物(7)	154
第127図	8号溝石積み出土遺物(1)	155
第128図	8号溝石積み出土遺物(2)	156
第129図	8号溝石積み出土遺物(3)	157
第130図	8号溝石積み出土遺物(4)	158
第131図	8・48号溝出土接合遺物	159
第132図	9号溝	159
第133図	11・12・13号溝	160
第134図	11号溝上層断面図・出土遺物	161
第135図	16・21・22号溝	162
第136図	21・22号溝上層断面図・出土遺物	163
第137図	22号溝出土遺物	164
第138図	24号溝・23・25号溝上層断面図	164
第139図	23・25号溝	165
第140図	25号溝上層断面図・出土遺物	166
第141図	26・28・29号溝	166
第142図	28・29号溝上層断面図・出土遺物	167
第143図	30・31・47号溝	167
第144図	22・30・31・47号溝上層断面図・出土遺物	168
第145図	33～36・38～43・46号溝	169
第146図	35・39～43・46号溝上層断面図・出土遺物	170
第147図	34・35・36・40・42・43・46号溝出土遺物	171
第148図	48b・58号溝	172
第149図	48b・58号溝・48b号溝出土遺物(1)	173
第150図	48b・58号溝上層断面図・48b号溝出土遺物(2)	174
第151図	48b号溝出土遺物(3)	175
第152図	48b号溝出土遺物(4)	176
第153図	48b号溝出土遺物(5)	177
第154図	48b号溝出土遺物(6)	178
第155図	48b号溝出土遺物(7)	179
第156図	48b号溝出土遺物(8)	180
第157図	48b号溝出土遺物(9)	181
第158図	48b号溝出土遺物(10)	182
第159図	48b号溝出土遺物(11)	183
第160図	48b号溝出土遺物(12)	184
第161図	48b号溝出土遺物(13)	185
第162図	48b・8号溝出土接合遺物	185
第163図	48b・57号溝出土接合遺物(1)	186
第164図	48b・57号溝出土接合遺物(2)	187
第165図	48b号溝・1号土壇・25・60号溝出土接合遺物	187
第166図	48b・21・31・47号溝・1号井戸出土接合遺物	188
第167図	58号溝出土遺物	188
第168図	57号溝上層断面図・出土遺物(1)	188
第169図	57号溝・出土遺物(2)	189

第170図	57号溝出土遺物(3)	190
第171図	57・48b号溝出土接合遺物(1)	190
第172図	57・48b号溝出土接合遺物(2)	191
第173図	57・50号溝・1号土壇出土接合遺物	192
第174図	59・60号溝上層断面図・出土遺物	192
第175図	59・60号溝	193
第176図	60・48b号溝出土遺物	194
第177図	63号溝	194
第178図	64号溝	195
第179図	65～68号溝	196
第180図	67号溝出土遺物	197
第181図	78・90号溝・出土遺物	197
第182図	82・83・89・91・92号溝	198
第183図	61・86・87・94号溝	199
第184図	1・2号低地・出土遺物	200
第185図	2号低地出土遺物	201
第186図	1・8・9号道・出土遺物	202
第187図	8・9号道上層断面図	203
第188図	6号堀	204
第189図	18・19・20号堀	204
第190図	18・19・20号堀出土遺物	205
第191図	66号土坑	205
第192図	6号集石・出土遺物(1)	206
第193図	6号集石出土遺物(2)	207
第194図	2・11・25・26号土坑・出土遺物	209
第195図	4・51号土坑・出土遺物	210
第196図	53～56・67・71・74・75・77・78・79・88号土坑・出土遺物	211
第197図	81・84・86・89・90・92・97～100・103号土坑・出土遺物	212
第198図	118・123・124・129・130・131・147・148・152・182号土坑	213
第199図	153～157・159・160・161・165・166・167・171・178・179・180・186号土坑	214
第200図	150・160・161・165～168・171・178・179・180・186号土坑・出土遺物	215
第201図	164・168・215・216・221・280・285・286号土坑・出土遺物	216
第202図	287～293・296～299号土坑・出土遺物	217
第203図	295・308・309・310・313～316・321～324・339号土坑・出土遺物	218
第204図	284・343・344・354・372・379・394・395号土坑	219
第205図	48・49号溝	220
第206図	22号溝・48・49号溝出土遺物	221
第207図	1c号道・4号溝全体図・詳細図1	221
第208図	1c号道・4号溝詳細図2・上層断面図(1)	223
第209図	1c号道・4号溝上層断面図(2)・出土遺物(1)	224
第210図	1c号道・4号溝出土遺物(2)	225
第211図	9c・204・212号土坑・出土遺物	226
第212図	204・212号土坑出土遺物	227
第213図	18・62・214号土坑・出土遺物	228

第5章 2面の調査(中世～古墳時代後期)

第214図	2面Ⅰ期全体図	230
第215図	墓坑全体図	231
第216図	2・3・4・6号溝・出土遺物	236
第217図	14号溝・出土遺物(1)	235
第218図	14号溝出土遺物(2)	237
第219図	27号溝	237
第220図	37号溝・出土遺物(1)	238
第221図	37号溝出土遺物(2)	239
第222図	37号溝出土遺物(3)	240
第223図	53・54・55号溝全体図	240
第224図	53・54・55号溝詳細図1	241
第225図	53・54・55・62号溝上層断面図	242

第226回	53・54・55号講詳細図2・出土遺物	243
第227回	53・54号講出土遺物	244
第228回	54・55号講出土遺物	245
第229回	56号講	245
第230回	62号講出土遺物	245
第231回	62号講(1)	246
第232回	62号講(2)	247
第233回	69号講	248
第234回	70号講・出土遺物	249
第235回	29号畑	250
第236回	3・112号上坑	252
第237回	213号上坑・出土遺物	253
第238回	251・283・338号上坑	253
第239回	283・338号上坑出土遺物	254
第240回	350・396・397号上坑	254
第241回	2号配石	254
第242回	3・4号集石	255
第243回	4・5号集石出土遺物	256
第244回	5号集石	257
第245回	17・24・40・49・57・59・60号上坑・出土遺物	259
第246回	65・72・76・85・104・115・116号上坑	260
第247回	122・181・211・233・242・243・244号上坑・出土遺物	261
第248回	306・307・311・327～330・342・349・358号上坑 ・出土遺物	262
第249回	360・362・374・376・382・383・402号上坑・出土遺物	263
第250回	5・6・7号溝上層断面図	267
第251回	5～8号溝	268
第252回	9号溝	269
第253回	11・12号溝	270
第254回	13・15・16・17号溝	271
第255回	18・38号溝	272
第256回	21・24・39号溝・出土遺物	273
第257回	33～36号溝	274
第258回	37・40号溝・出土遺物	275
第259回	47号溝	276
第260回	46・51・53・55号溝	277
第261回	107・202号上坑・出土遺物	279
第262回	202・205・206号上坑・出土遺物	280
第263回	206・227号上坑・出土遺物	281
第264回	1・2号集石全体図	281
第265回	1号集石B～C・出土遺物	283
第266回	1号集石H・I、2号集石A～D、3号集石・出土遺物	284
第267回	20・24～28号上坑・出土遺物	286
第268回	29・30・34・35・39・52・53・54号上坑・出土遺物	287
第269回	46号上坑・出土遺物	288
第270回	55・63～66・68・69号上坑・出土遺物	289
第271回	73・74・79・80・82・85・91号上坑・出土遺物	290
第272回	104・154・196・197・198・203・215・217・220号上坑 ・出土遺物	291
第273回	229・254・257・267・345号上坑	292
第274回	2面Ⅱ期全体図	293
第275回	2号住居・出土遺物(1)	294
第276回	2号住居カマド・出土遺物(2)	295
第277回	3a・3b号住居・3a号住居出土遺物(1)	296
第278回	3a・3b号住居カマド・3a号住居出土遺物(2)	297
第279回	3a・3b号住居出土遺物	298
第280回	5号住居・出土遺物(1)	299
第281回	5号住居出土遺物(2)	300
第282回	8号住居	300
第283回	8号住居遺物出土状況・カマド	301
第284回	8号住居出土遺物(1)	302
第285回	8号住居出土遺物(2)	303
第286回	11号住居	304
第287回	11号住居出土遺物	305
第288回	16号住居出土遺物(1)	305
第289回	16号住居・出土遺物(2)	306

第290回	16号住居カマド	307
第291回	16号住居出土遺物(3)	308
第292回	17号住居・出土遺物	309
第293回	19号住居	309
第294回	20号住居・出土遺物	310
第295回	25号住居出土遺物(1)	310
第296回	25号住居・出土遺物(2)	311
第297回	25号住居カマド	312
第298回	29号住居出土遺物	312
第299回	29号住居	313
第300回	30・31号住居・出土遺物	314
第301回	34号住居	315
第302回	34号住居出土遺物	316
第303回	37号住居	316
第304回	37号住居カマド・出土遺物	317
第305回	41号住居	317
第306回	41号住居カマド・出土遺物	318
第307回	42号住居・出土遺物	319
第308回	46号住居出土遺物	319
第309回	46号住居	320
第310回	48号住居	320
第311回	48号住居出土遺物	321
第312回	50号住居	321
第313回	52号住居・出土遺物	322
第314回	53号住居・出土遺物	323
第315回	56号住居・出土遺物(1)	324
第316回	56号住居カマド・出土遺物(2)	325
第317回	59号住居	326
第318回	60号住居	327
第319回	60号住居カマド上層注記・出土遺物	328
第320回	61号住居	329
第321回	61号住居カマド・出土遺物	330
第322回	62号住居	331
第323回	62号住居カマド・出土遺物	332
第324回	63号住居・出土遺物(1)	333
第325回	63号住居カマド・出土遺物(2)	334
第326回	64号住居	335
第327回	64号住居Aカマド・出土遺物(1)	336
第328回	64号住居Bカマド・出土遺物(2)	337
第329回	66号住居出土遺物(1)	337
第330回	66号住居・出土遺物(2)	338
第331回	67号住居出土遺物	338
第332回	67号住居	339
第333回	68号住居・出土遺物(1)	340
第334回	68号住居カマド・出土遺物(2)	341
第335回	68号住居貯蔵穴	342
第336回	69号住居・出土遺物(1)	343
第337回	69号住居カマド・出土遺物(2)	344
第338回	69号住居出土遺物(3)	345
第339回	71号住居・出土遺物	345
第340回	72号住居・出土遺物(1)	346
第341回	72号住居カマド・出土遺物(2)	347
第342回	73号住居・出土遺物	348
第343回	74号住居	349
第344回	74号住居出土遺物	350
第345回	75号住居・出土遺物	351
第346回	76号住居・出土遺物	352
第347回	77号住居・出土遺物	353
第348回	78号住居・出土遺物(1)	354
第349回	78号住居カマド・出土遺物(2)	355
第350回	79号住居・出土遺物(1)	356
第351回	79号住居カマド・出土遺物(2)	357
第352回	80号住居・出土遺物(1)	358
第353回	80号住居カマド・出土遺物(2)	359
第354回	82号住居	360
第355回	82号住居出土遺物	361

第356図	83号住居	361	第422図	135号住居出土遺物	416
第357図	83号住居カマド・出土遺物	362	第423図	136号住居出土遺物	416
第358図	84号住居	363	第424図	136号住居	417
第359図	84号住居廻り方・遺物出土状況・カマド	364	第425図	137号住居・出土遺物	418
第360図	84号住居炉・殿治御連遺物分布図(1)	365	第426図	139号住居出土遺物(1)	418
第361図	84号住居殿治御連遺物分布図(2)	366	第427図	139号住居	419
第362図	84号住居殿治御連遺物分布図(3)・出土遺物(1)	367	第428図	139号住居カマド・出土遺物(2)	420
第363図	84号住居出土遺物(2)	368	第429図	141号住居	421
第364図	84号住居出土遺物(3)	369	第430図	141号住居出土遺物	422
第365図	84号住居出土遺物(4)	370	第431図	142号住居	423
第366図	86・90号住居	371	第432図	142号住居出土遺物	424
第367図	90号住居カマド・86号住居出土遺物	372	第433図	143号住居	425
第368図	90号住居出土遺物	373	第434図	143号住居出土遺物	426
第369図	87号住居・出土遺物	373	第435図	144号住居・出土遺物	427
第370図	88号住居・出土遺物(1)	374	第436図	144号住居カマド	428
第371図	88号住居出土遺物(2)	375	第437図	145号住居	428
第372図	92号住居・出土遺物	375	第438図	147号住居・出土遺物	429
第373図	94号住居・出土遺物	376	第439図	150号住居・出土遺物	430
第374図	97号住居	376	第440図	152号住居・出土遺物	431
第375図	97号住居上層断面図・出土遺物	377	第441図	153号住居・出土遺物	432
第376図	98号住居・出土遺物(1)	377	第442図	153号住居カマド	433
第377図	98号住居出土遺物(2)	378	第443図	154号住居	434
第378図	99号住居	379	第444図	154号住居廻り方・カマド	435
第379図	101号住居	379	第445図	154号住居出土遺物	436
第380図	101号住居廻り方・出土遺物	380	第446図	156号住居・出土遺物	437
第381図	102号住居	380	第447図	156号住居カマド	438
第382図	103号住居・出土遺物	381	第448図	157号住居	439
第383図	105号住居・出土遺物(1)	382	第449図	157号住居カマド土層注記・出土遺物	440
第384図	105号住居出土遺物(2)	383	第450図	158号住居出土遺物(1)	440
第385図	109号住居・出土遺物	383	第451図	158号住居	441
第386図	110号住居	384	第452図	158号住居出土遺物(2)	442
第387図	110号住居カマド・出土遺物	385	第453図	160号住居	442
第388図	112号住居廻り方	385	第454図	160号住居カマド・出土遺物	443
第389図	112号住居・出土遺物	386	第455図	161号住居・出土遺物	444
第390図	113号住居	386	第456図	162号住居・出土遺物	444
第391図	115号住居・出土遺物	387	第457図	167号住居	445
第392図	116号住居・出土遺物(1)	388	第458図	167号住居廻り方・出土遺物(1)	446
第393図	116号住居カマド・出土遺物(2)	389	第459図	167号住居カマド	447
第394図	117号住居	390	第460図	167号住居出土遺物(2)	448
第395図	117号住居廻り方・出土遺物(1)	391	第461図	168号住居	449
第396図	117号住居カマド・出土遺物(2)	392	第462図	170号住居・出土遺物(1)	450
第397図	117号住居出土遺物(3)	393	第463図	170号住居カマド・出土遺物(2)	451
第398図	117号住居出土遺物(4)	394	第464図	172号住居・出土遺物	452
第399図	118号住居	394	第465図	175号住居・出土遺物(1)	453
第400図	118号住居廻り方・カマド・炉・出土遺物(1)	395	第466図	175号住居カマド・出土遺物(2)	454
第401図	118号住居出土遺物(2)	396	第467図	176号住居・出土遺物(1)	454
第402図	119号住居・出土遺物	397	第468図	176号住居出土遺物(2)	455
第403図	120号住居	398	第469図	179号住居・出土遺物	455
第404図	120号住居廻り方・カマド・出土遺物(1)	399	第470図	180号住居・出土遺物	456
第405図	120号住居出土遺物(2)	400	第471図	7・17・18・71号溝・出土遺物	457
第406図	120号住居出土遺物(3)	401	第472図	74・81号溝・出土遺物	458
第407図	121号住居・出土遺物	402	第473図	5・6号土坑・出土遺物	461
第408図	125号住居	403	第474図	10・12・13・15・32・33・38・41～44・46号土坑 ・出土遺物	462
第409図	125号住居出土遺物	404	第475図	58・63・64・83・87・125・126・149・175・188 ・190号土坑・出土遺物	463
第410図	126号住居	404	第476図	191・193・206・208・209・210・222・223・224号土坑 ・出土遺物	464
第411図	127号住居・出土遺物	405	第477図	225・228・229・230・232・236・245・246・248・256 ・257・258・261・262号土坑・出土遺物	465
第412図	128号住居・出土遺物	406	第478図	239・240・241・263・264・277・282・304・305号土坑 ・出土遺物	466
第413図	130号住居	407	第479図	312・317・318・326・331・332・333・334・340・341 ・377号土坑・出土遺物	467
第414図	130号住居遺物出土状況・廻り方・カマド	408	第480図	335・336・346・347・348・370・411・414・415・417 ・419号土坑・出土遺物	468
第415図	130号住居出土遺物(1)	409			
第416図	130号住居出土遺物(2)	410			
第417図	131号住居	411			
第418図	131号住居出土遺物	412			
第419図	132号住居	413			
第420図	132号住居出土遺物	414			
第421図	135号住居	415			

第481図	368号土坑・出土遺物	469	第547図	25号住居カマド振り方・出土遺物	533
第482図	1号住居	470	第548図	26号住居	534
第483図	1号住居遺物出土状況・カマド	471	第549図	26号住居出土遺物	535
第484図	1号住居出土遺物(1)	472	第550図	28号住居・出土遺物	536
第485図	1号住居出土遺物(2)	473	第551図	29号住居	537
第486図	2号住居	474	第552図	29号住居出土遺物(1)	538
第487図	2号住居出土遺物(1)	475	第553図	29号住居出土遺物(2)	539
第488図	2号住居出土遺物(2)	476	第554図	30号住居・出土遺物	539
第489図	3号住居	477	第555図	31号住居・出土遺物	540
第490図	3号住居カマド振り方・出土遺物	478	第556図	33号住居出土遺物(1)	540
第491図	4号住居・出土遺物	479	第557図	33号住居・出土遺物(2)	541
第492図	5号住居	480	第558図	35号住居	542
第493図	5号住居カマド・竪溝関連遺物出土状況	481	第559図	35号住居Aカマド	543
第494図	5号住居出土遺物(1)	481	第560図	35号住居Bカマド・出土遺物	544
第495図	5号住居出土遺物(2)	482	第561図	36号住居	545
第496図	7・8号住居	483	第562図	36号住居カマド・出土遺物(1)	546
第497図	7・8号住居出土遺物	484	第563図	36号住居出土遺物(2)	547
第498図	9号住居・出土遺物(1)	485	第564図	37号住居	548
第499図	9号住居出土遺物(2)	486	第565図	37号住居出土遺物	549
第500図	10号住居	487	第566図	38号住居	550
第501図	10号住居出土遺物(1)	488	第567図	38号住居カマド・出土遺物	551
第502図	10号住居出土遺物(2)	489	第568図	39号住居	552
第503図	11号住居	490	第569図	39号住居カマド・出土遺物(1)	553
第504図	11号住居振り方・カマド振り方	491	第570図	39号住居出土遺物(2)	554
第505図	11号住居カマド・出土遺物(1)	492	第571図	40・50号住居	554
第506図	11号住居出土遺物(2)	493	第572図	40・50号住居カマド・50号住居出土遺物	555
第507図	11号住居出土遺物(3)	494	第573図	41号住居	556
第508図	11号住居出土遺物(4)	495	第574図	41号住居カマド・出土遺物	557
第509図	12号住居	496	第575図	43号住居・出土遺物	558
第510図	12号住居振り方・カマド	497	第576図	43号住居カマド	559
第511図	12号住居カマド振り方・出土遺物(1)	498	第577図	44号住居・出土遺物(1)	559
第512図	12号住居出土遺物(2)	499	第578図	44号住居カマド・出土遺物(2)	560
第513図	12号住居出土遺物(3)	500	第579図	44号住居出土遺物(3)	561
第514図	14号住居・出土遺物	501	第580図	45号住居	562
第515図	15号住居	502	第581図	45号住居カマド・出土遺物(1)	563
第516図	15号住居カマド・出土遺物	503	第582図	45号住居出土遺物(2)	564
第517図	16号住居	505	第583図	45号住居出土遺物(3)	565
第518図	16号住居振り方・カマド	506	第584図	47号住居	566
第519図	16号住居詳細図	507	第585図	47号住居カマド・出土遺物(1)	567
第520図	16号住居出土遺物(1)	508	第586図	47号住居出土遺物(2)	568
第521図	16号住居出土遺物(2)	509	第587図	48号住居出土遺物(1)	568
第522図	17・18号住居	511	第588図	48号住居・出土遺物(2)	569
第523図	17号住居遺物出土状況・17・18号住居ピット上層断面図	512	第589図	48号住居出土遺物(3)	570
第524図	17・18号住居カマド	513	第590図	49号住居・出土遺物	570
第525図	17・18号住居カマド上層注記・17号住居出土遺物(1)	514	第591図	52号住居・出土遺物	571
第526図	17号住居出土遺物(2)	515	第592図	53号住居・出土遺物	572
第527図	17号住居出土遺物(3)	516	第593図	54号住居・出土遺物	573
第528図	17号住居出土遺物(4)	517	第594図	55号住居	573
第529図	17・18号住居出土遺物	518	第595図	55号住居カマド・出土遺物	574
第530図	19号住居	519	第596図	56号住居	575
第531図	19号住居カマド・出土遺物(1)	520	第597図	56号住居カマド・出土遺物	576
第532図	19号住居出土遺物(2)	521	第598図	57号住居・出土遺物(1)	577
第533図	20号住居	521	第599図	57号住居カマド・出土遺物(2)	578
第534図	20号住居カマド・出土遺物(1)	522	第600図	58号住居・出土遺物	578
第535図	20号住居出土遺物(2)	523	第601図	59号住居	579
第536図	22号住居	523	第602図	59号住居振り方・カマド・貯蔵穴	580
第537図	22号住居振り方・カマド	524	第603図	59号住居出土遺物(1)	581
第538図	22号住居出土遺物(1)	525	第604図	59号住居出土遺物(2)	582
第539図	22号住居出土遺物(2)	526	第605図	59号住居出土遺物(3)	583
第540図	23号住居	527	第606図	60号住居	584
第541図	23号住居カマド・出土遺物(1)	528	第607図	60号住居振り方・出土遺物(1)	585
第542図	23号住居出土遺物(2)	529	第608図	60号住居カマド・出土遺物(2)	586
第543図	24号住居出土遺物(1)	529	第609図	60号住居出土遺物(3)	587
第544図	24号住居	530	第610図	61号住居・出土遺物	588
第545図	24号住居出土遺物(2)	531	第611図	62号住居・出土遺物(1)	589
第546図	25号住居	532	第612図	62号住居出土遺物(2)	590

第613図	63号住居	590	第679図	97号住居	646
第614図	63号住居カマド・出土遺物(1)	591	第680図	97号住居カマド・出土遺物(1)	647
第615図	63号住居出土遺物(2)	592	第681図	97号住居出土遺物(2)	648
第616図	68号住居	592	第682図	98号住居・出土遺物(1)	649
第617図	68号住居出土遺物	593	第683図	98号住居カマド・出土遺物(2)	650
第618図	70号住居・出土遺物(1)	593	第684図	99号住居	651
第619図	70号住居出土遺物(2)	594	第685図	99号住居カマド・出土遺物(1)	652
第620図	74号住居出土遺物(1)	594	第686図	99号住居出土遺物(2)	653
第621図	74号住居	595	第687図	100号住居・出土遺物	654
第622図	74号住居出土遺物(2)	596	第688図	101号住居	655
第623図	75号住居カマド・出土遺物(1)	597	第689図	101号住居出土遺物	656
第624図	75号住居	598	第690図	102号住居出土遺物(1)	656
第625図	75号住居出土遺物(2)	599	第691図	102号住居	657
第626図	77号住居・出土遺物(1)	600	第692図	102号住居出土遺物(2)	658
第627図	77号住居カマド・出土遺物(2)	601	第693図	103号住居・出土遺物(1)	659
第628図	77号住居出土遺物(3)	602	第694図	103号住居カマド・出土遺物(2)	660
第629図	78号住居・出土遺物	603	第695図	108号住居・出土遺物	661
第630図	78号住居掘り方・カマド	604	第696図	109号住居	661
第631図	79号住居出土遺物(1)	604	第697図	109号住居出土遺物	662
第632図	79号住居	605	第698図	110号住居	662
第633図	79号住居出土遺物(2)	606	第699図	110号住居カマド・出土遺物	663
第634図	80号住居	606	第700図	111号住居	664
第635図	80号住居カマド・出土遺物(1)	607	第701図	111号住居出土遺物	665
第636図	80号住居出土遺物(2)	608	第702図	112号住居	666
第637図	81号住居出土遺物(1)	608	第703図	112号住居出土遺物	667
第638図	81号住居	609	第704図	118号住居	668
第639図	81号住居出土遺物(2)	610	第705図	126号住居・出土遺物	668
第640図	82号住居カマド	611	第706図	128号住居・出土遺物(1)	669
第641図	82号住居	612	第707図	128号住居カマド・出土遺物(2)	670
第642図	82号住居出土遺物(1)	613	第708図	128号住居出土遺物(3)	671
第643図	82号住居出土遺物(2)	614	第709図	129号住居	672
第644図	83号住居	615	第710図	129号住居カマド・出土遺物(1)	673
第645図	83号住居カマド・出土遺物(1)	616	第711図	129号住居出土遺物(2)	674
第646図	83号住居出土遺物(2)	617	第712図	129号住居出土遺物(3)	675
第647図	84号住居	618	第713図	130・136号住居	676
第648図	84号住居出土遺物(1)	619	第714図	130号住居出土遺物	677
第649図	84号住居出土遺物(2)	620	第715図	130・136号住居出土遺物	678
第650図	85a・85b号住居	621	第716図	131号住居出土遺物	678
第651図	85a号住居カマド・出土遺物	622	第717図	131号住居	679
第652図	86号住居	623	第718図	132・133・134号住居	681
第653図	86号住居出土遺物	624	第719図	132・133・134号住居掘り方	682
第654図	87号住居	624	第720図	132・133・134号住居カマド	683
第655図	87号住居カマド・出土遺物(1)	625	第721図	132・133・134号住居出土遺物(1)	684
第656図	87号住居出土遺物(2)	626	第722図	132・133・134号住居出土遺物(2)	685
第657図	88号住居	627	第723図	135号住居	685
第658図	88号住居出土遺物	628	第724図	135号住居上層住記・出土遺物	686
第659図	89号住居	629	第725図	137・138号住居	687
第660図	89号住居出土遺物	630	第726図	137・138号住居高低図・138号住居カマド	688
第661図	90号住居	630	第727図	137号住居出土遺物	688
第662図	90号住居カマド・出土遺物(1)	631	第728図	138号住居出土遺物	689
第663図	90号住居出土遺物(2)	632	第729図	140号住居・出土遺物	690
第664図	91号住居・出土遺物(1)	633	第730図	141号住居・出土遺物	691
第665図	91号住居出土遺物(2)	634	第731図	10・19号溝・出土遺物	694
第666図	92号住居	634	第732図	14号溝全体図	695
第667図	92号住居カマド・出土遺物	635	第733図	14号溝詳細図1・2	696
第668図	93号住居・出土遺物(1)	636	第734図	14号溝詳細図3・出土遺物	697
第669図	93号住居カマド・出土遺物(2)	637	第735図	25・27・29号溝・出土遺物	698
第670図	93号住居出土遺物(3)	638	第736図	31号溝	699
第671図	93号住居出土遺物(4)	639	第737図	54号溝・出土遺物	700
第672図	94号住居・出土遺物(1)	640	第738図	44・45・52号溝	701
第673図	94号住居出土遺物(2)	641	第739図	1号低地廃浄場遺物分布図	703
第674図	95号住居	641	第740図	1号低地廃浄場出土遺物(1)	704
第675図	95号住居カマド・出土遺物	642	第741図	1号低地廃浄場出土遺物(2)	705
第676図	96号住居	643	第742図	1号低地廃浄場出土遺物(3)	706
第677図	96号住居カマド・出土遺物(1)	644	第743図	2号低地	706
第678図	96号住居出土遺物(2)	645	第744図	3号低地・出土遺物(1)	707

第745図	3号低地出土遺物(2)	708
第746図	2・3号遺体	709
第747図	3号遺詳細1	710
第748図	2・3号遺上層断面図・高鉄図(1)	711
第749図	2・3号遺詳細2	712
第750図	2・3号遺上層断面図・高鉄図(2)	713
第751図	2・3号遺出土遺物	714
第752図	3号遺出土遺物(1)	715
第753図	3号遺出土遺物(2)	716
第754図	170号土坑・出土遺物	717
第755図	346号土坑・出土遺物	718
第756図	4号集石・出土遺物	719
第757図	5・6・8号集石・出土遺物	720
第758図	7号集石・出土遺物	721
第759図	10・19・22号土坑・出土遺物	725
第760図	23・33・36・37・41・51号土坑・出土遺物	726
第761図	45・58・78号土坑・出土遺物	727
第762図	95・96・97・99・100・101・111・113号土坑・出土遺物	728
第763図	114・115・121・122・128～131・144号土坑・出土遺物	729
第764図	140・142・146・155～159号土坑・出土遺物	730
第765図	168・171・174・189・194・208・209号土坑・出土遺物	731
第766図	218・221・223・228・248・251・252・255・256号土坑・出土遺物	732
第767図	258・264・272・278・279・282・283・284・286・287号土坑・出土遺物	733
第768図	295・305・307・316・328・334号土坑・出土遺物	734
第769図	342・348・353・355・358・369・370・373号土坑・N区上坑群	735
第770図	359・367・368・377・378・379号土坑・出土遺物	736
第771図	360・362～366・371・372号土坑・出土遺物	737
第772図	42・53・54・56・75・110・124・167・190・234・243・266・269・273・288・296・318・332・337・343・354号土坑出土遺物	738

第6章 3面の調査(古墳時代中期～前期)

第773図	3面全体図	740
第774図	4号住居	741
第775図	4号住居出土遺物	742
第776図	6号住居出土遺物(1)	742
第777図	6号住居・出土遺物(2)	743
第778図	9号住居	744
第779図	9号住居遺物出土状況・掘り方・跡・出土遺物(1)	745
第780図	9号住居出土遺物(2)	746
第781図	9号住居出土遺物(3)	747
第782図	12号住居	747
第783図	13号住居・出土遺物(1)	748
第784図	13号住居出土遺物(2)	749
第785図	14号住居	749
第786図	14号住居掘り方・出土遺物(1)	750
第787図	14号住居出土遺物(2)	751
第788図	15号住居出土遺物(1)	751
第789図	15号住居・出土遺物(2)	752
第790図	18号住居出土遺物(1)	752
第791図	18号住居・出土遺物(2)	753
第792図	18号住居掘り方・出土遺物(3)	754
第793図	21号住居	754
第794図	23号住居	755
第795図	24号住居・出土遺物(1)	755
第796図	24号住居出土遺物(2)	756
第797図	27号住居	756
第798図	28号住居	756
第799図	28号住居跡・出土遺物(1)	757
第800図	28号住居出土遺物(2)	758
第801図	32号住居・出土遺物	759
第802図	33号住居出土遺物(1)	760
第803図	33号住居	761

第804図	33号住居掘り方	762
第805図	33号住居跡・ビット上層断面図・出土遺物(2)	763
第806図	33号住居出土遺物(3)	764
第807図	33号住居出土遺物(4)	765
第808図	35号住居	765
第809図	35号住居跡	766
第810図	36号住居	766
第811図	36号住居跡破穴・ビット上層断面図・出土遺物	767
第812図	38号住居・出土遺物(1)	767
第813図	38号住居出土遺物(2)	768
第814図	39号住居・出土遺物	768
第815図	40号住居出土遺物	769
第816図	40号住居	770
第817図	40号住居掘り方	771
第818図	43号住居出土遺物(1)	772
第819図	43・44号住居	773
第820図	43号住居出土遺物(2)	774
第821図	43・44号住居出土遺物	775
第822図	45号住居・出土遺物	776
第823図	47号住居出土遺物(1)	776
第824図	47号住居・出土遺物(2)	777
第825図	49号住居出土遺物(1)	777
第826図	49号住居・出土遺物(2)	778
第827図	55号住居出土遺物(1)	779
第828図	51・55号住居・55号住居出土遺物(2)	780
第829図	51・55号住居遺物出土状況・ビット上層断面図	781
第830図	54号住居出土遺物(1)	781
第831図	54号住居・出土遺物(2)	782
第832図	57号住居・出土遺物	783
第833図	58号住居出土遺物(1)	783
第834図	58号住居・出土遺物(2)	784
第835図	58号住居出土遺物(3)	785
第836図	81号住居出土遺物(1)	785
第837図	81号住居・出土遺物(2)	786
第838図	89号住居・出土遺物	787
第839図	91号住居	788
第840図	91号住居出土遺物(1)	789
第841図	91号住居出土遺物(2)	790
第842図	93号住居出土遺物	790
第843図	93号住居	791
第844図	96号住居・出土遺物	791
第845図	100号住居・出土遺物	792
第846図	106号住居・出土遺物(1)	793
第847図	106号住居出土遺物(2)	794
第848図	107号住居	794
第849図	108号住居出土遺物	794
第850図	108号住居	795
第851図	111号住居	795
第852図	114号住居・出土遺物	796
第853図	122号住居出土遺物(1)	796
第854図	122号住居・出土遺物(2)	797
第855図	123号住居・出土遺物	798
第856図	124号住居	799
第857図	129号住居	799
第858図	129号住居出土遺物	800
第859図	133号住居出土遺物(1)	800
第860図	133号住居	801
第861図	133号住居出土遺物(2)	802
第862図	138号住居	802
第863図	140号住居出土遺物(1)	802
第864図	140号住居・出土遺物(2)	803
第865図	146号住居	803
第866図	148号住居	804
第867図	149号住居出土遺物(1)	804
第868図	149号住居・出土遺物(2)	805
第869図	149号住居出土遺物(3)	806

第870图	151号住居・出土遺物	806	第936图	30号溝詳細図1	858
第871图	155号住居	807	第937图	30号溝詳細図2・出土遺物	859
第872图	155号住居廻り方・出土遺物	808	第938图	30号溝上新断面図	860
第873图	159号住居出土遺物(1)	808	第939图	1号低地出土遺物(1)	861
第874图	159号住居・出土遺物(2)	809	第940图	1号低地全体図	862
第875图	159号住居出土遺物(3)	810	第941图	1号低地出土遺物(2)	863
第876图	163号住居・出土遺物	810	第942图	2号堀	864
第877图	165号住居	811	第943图	1・5・6号堀・出土遺物	865
第878图	165号住居出土遺物	812	第944图	7b・7c・8号堀	866
第879图	169号住居	813	第945图	7b・7c・8号堀上新断面図・出土遺物	867
第880图	171号住居・出土遺物(1)	813	第946图	5号堀出土遺物	868
第881图	171号住居出土遺物(2)	814	第947图	237・240・330号土坑・出土遺物	868
第882图	173号住居・出土遺物	815	第948图	193・259・260号土坑・出土遺物	869
第883图	174号住居・出土遺物	816	第949图	230・289・325・327・376号土坑・出土遺物	870
第884图	177号住居	816	第950图	1号住居	871
第885图	177号住居出土遺物	817	第951图	1号住居廻り方・出土遺物	872
第886图	178号住居	817	第952图	7号住居出土遺物	872
第887图	32・72号溝	818	第953图	7号住居	873
第888图	21・22号堀	819	第954图	10号住居出土遺物(1)	873
第889图	23・33a・36・39号堀	820	第955图	10号住居・出土遺物(2)	874
第890图	38号堀	821	第956图	26号住居	875
第891图	134・278・406・424・426号土坑・出土遺物	822	第957图	104号住居	875
第892图	6号住居	823	第958图	104号住居廻り方・出土遺物	876
第893图	6号住居出土遺物	824	第959图	134号住居	877
第894图	21号住居・出土遺物(1)	825	第960图	134号住居遺物出土状況	878
第895图	21号住居出土遺物(2)	826	第961图	134号住居廻り方	879
第896图	32号住居	826	第962图	134号住居出土遺物(1)	880
第897图	32号住居出土遺物	827	第963图	134号住居出土遺物(2)	881
第898图	42号住居・出土遺物	827	第964图	134号住居出土遺物(3)	882
第899图	65号住居・出土遺物	828	第965图	164号住居	883
第900图	66号住居出土遺物(1)	828	第966图	164号住居遺物出土状況・出土遺物(1)	884
第901图	66号住居・出土遺物(2)	829	第967图	164号住居出土遺物(2)	885
第902图	66号住居出土遺物(3)	830	第968图	166号住居	885
第903图	67号住居・出土遺物(1)	831	第969图	166号住居出土遺物	886
第904图	67号住居出土遺物(2)	832	第970图	45号溝	886
第905图	67号住居出土遺物(3)	833	第971图	4・5号堀	888
第906图	67号住居出土遺物(4)	834	第972图	7号堀	889
第907图	69号住居	834	第973图	31・35号堀・出土遺物	890
第908图	69号住居出土遺物	835	第974图	32・33b・37号堀	891
第909图	71号住居出土遺物(1)	835	第975图	34・38b号堀	892
第910图	71号住居	836	第976图	13号住居	893
第911图	71号住居出土遺物(2)	837	第977图	13号住居廻り方・出土遺物	894
第912图	71号住居出土遺物(3)	838	第978图	51号住居	895
第913图	72号住居・出土遺物	838	第979图	51号住居廻り方・出土遺物	896
第914图	73号住居	839	第980图	64号住居出土遺物(1)	897
第915图	73号住居出土遺物	840	第981图	64号住居	898
第916图	76号住居・出土遺物	840	第982图	64号住居ビット・廻り方・出土遺物(2)	899
第917图	105号住居出土遺物(1)	841	第983图	104号住居出土遺物	900
第918图	105号住居・出土遺物(2)	842	第984图	104号住居	901
第919图	105号住居出土遺物(3)	843	第985图	104号住居廻り方	902
第920图	107号住居・出土遺物	844	第986图	120号住居出土遺物(1)	902
第921图	115・117号住居・出土遺物	845	第987图	120号住居	903
第922图	116号住居	846	第988图	120号住居廻り方・出土遺物(2)	904
第923图	118号住居廻り方・出土遺物	847	第989图	7a・9号堀	905
第924图	119号住居・出土遺物(1)	848	第990图	9号堀出土遺物	906
第925图	119号住居出土遺物(2)	849			
第926图	121号住居・出土遺物	850			
第927图	122号住居・出土遺物(1)	851			
第928图	122号住居出土遺物(2)	852			
第929图	124号住居	852			
第930图	125号住居・出土遺物	853			
第931图	127号住居・出土遺物	854			
第932图	139号住居出土遺物	854			
第933图	139号住居	855			
第934图	23・26・32号溝	856			
第935图	30号溝全体図	857			
第7章 時期不明遺構と遺構外出土遺物					
第991图	田口上田尻遺跡 ビット出土遺物	919			
第992图	田口下田尻遺跡 ビット出土遺物	920			
第993图	遺構外出土遺物(1)	921			
第994图	遺構外出土遺物(2)	922			
第995图	遺構外出土遺物(3)	923			
第996图	遺構外出土遺物(4)	924			
第997图	遺構外出土遺物(5)	925			
第998图	遺構外出土遺物(6)	926			

第8章 科学分析

第999図	田口上田尻遺跡	223号土坑出土炭化榊実の組成	934
第1000図	田口上田尻遺跡	33号住居 ベンガラX線回折図	947
第1001図	田口下田尻遺跡	4号トレンチの上層柱状図	948
第1002図	田口下田尻遺跡	5号復旧壁面の土層柱状図	949
第1003図	田口下田尻遺跡	6号復旧壁面の土層柱状図	949
第1004図	田口下田尻遺跡	6号復旧壁面上の土層柱状図	949
第1005図	轉石に含まれる重鉱物の組成ダイヤグラム		950
第1006図	Fa ₀ -SiO ₂		970
第1007図	TAG-44およびTAG-18のX線回折図		980

第9章 総括

第1008図	3世紀後半～4世紀前半の住居等分布図	989
第1009図	4世紀後半～5世紀後半の住居等分布図	989
第1010図	7世紀代の住居分布図	990
第1011図	8世紀代の住居分布図	990
第1012図	9世紀代の住居等分布図	991
第1013図	10世紀～11世紀前半の住居等分布図	991
第1014図	緑釉陶器出土位置図	992
第1015図	1号建物 番付、柱心・柱寸法を記した礎石	997
第1016図	1号建物 推定柱位置及び推定番付	997
第1017図	1号建物 復元平面図	998
第1018図	2号建物 復元平面図	999

表 目 次

第3章 地理的・歴史的環境

第1表	周辺遺跡一覧	16～18
-----	--------	-------

第4章 1面の調査(近世)

第2表	田口上田尻遺跡	復旧壁一覧表	56
第3表	田口下田尻遺跡	復旧壁一覧表	60
第4表	田口上田尻遺跡	Ⅱ期土坑一覧表	207～209
第5表	田口下田尻遺跡	Ⅲ期土坑一覧表	227

第5章 2面の調査(中世～古墳時代後期)

第6表	田口上田尻遺跡	I期土坑一覧表	258・259
第7表	田口下田尻遺跡	I期土坑一覧表	285
第8表	田口上田尻遺跡	Ⅱ期土坑一覧表	459～461
第9表	11号住居	土坑・ピット計測表	491
第10表	19号住居	土坑・ピット計測表	519
第11表	22号住居	土坑・ピット計測表	524
第12表	23号住居	土坑計測表	527
第13表	45号住居	土坑計測表	563
第14表	75号住居	土坑計測表	598
第15表	82号住居	土坑・ピット計測表	612
第16表	99号住居	ピット計測表	651
第17表	129号住居	土坑・ピット計測表	672
第18表	130号住居	土坑計測表	676
第19表	田口下田尻遺跡	Ⅱ期土坑一覧表	721～725

第6章 3面の調査(古墳時代中期～前期)

第20表	40号住居	ピット計測表	770
第21表	51号住居	ピット計測表	781
第22表	165号住居	ピット計測表	811
第23表	田口上田尻遺跡	I期土坑一覧表	821
第24表	田口下田尻遺跡	I期土坑一覧表	808
第25表	田口下田尻遺跡	Ⅱ期土坑一覧表	906

第7章 時期不明遺構と遺構外出土遺物

第26表	田口上田尻遺跡	時期不明土坑一覧表	908
第27表	田口下田尻遺跡	時期不明土坑一覧表	908-909
第28表	田口上田尻遺跡	ピット一覧表	909～915
第29表	田口下田尻遺跡	ピット一覧表	915～918

第8章 科学分析

第30表	放射性炭素年代測定結果	929	
第31表	樹年較正結果	930	
第32表	榊実同定結果	933	
第33表	樹種同定結果	937	
第34表	樹種同定結果	944	
第35表	重鉱物組成分析結果	951	
第36表	屈折率測定結果	951	
第37表	田口上田尻遺跡	3号土坑歯計測表	953
第38表	田口上田尻遺跡	215号土坑歯計測表	953
第39表	田口上田尻遺跡	281号土坑歯計測表	953
第40表	田口上田尻遺跡	338号土坑歯計測表	954
第41表	田口上田尻遺跡	338号土坑歯計測表	954
第42表	田口上田尻遺跡	350号土坑歯計測表	955
第43表	田口上田尻遺跡	396号土坑歯計測表	956
第44表	田口下田尻遺跡	202号土坑歯計測表	957
第45表	田口下田尻遺跡	202号土坑歯計測表	957
第46表	田口下田尻遺跡	205号土坑歯計測表	958
第47表	田口下田尻遺跡	206号土坑歯計測表	958・959
第48表	田口上田尻遺跡	限歯計測表	960
第49表	田口下田尻遺跡	限歯計測表	963
第50表	供試材の履歴と調査項目		971
第51表	供試材の組成		971・972
第52表	出土遺物の調査結果のまとめ		972

遺物観察表・写真図版編

第53表	遺物集計表	145
------	-------	-----

本文写真図版目次

第8章科学分析

図版1	種実遺体	935
図版2	炭化材(1)	940
図版3	炭化材(2)	941
図版4	炭化材(3)	942
図版5	炭化材(4)	943
図版6	炭化材(5)	945
図版7	338号土坑出土人骨	955
図版8	350号土坑出土人骨	955
図版9	202号土坑出土人骨	957
図版10	205号土坑出土人歯	958
図版11	206号土坑出土人歯	959
図版12	1・8号溝・2号低地出土煎歯骨	960
図版13	3号道・14・50号溝・35号住居出土煎歯骨	963

図版14	銅鍍組織(1)	973
図版15	銅鍍組織(2)	973
図版16	銅鍍組織(3)	974
図版17	銅鍍組織(4)	974
図版18	銅鍍組織(5)	975
図版19	銅鍍組織(6)	975
図版20	銅鍍組織(7)	976
図版21	銅鍍組織(8)	976
図版22	銅鍍組織(9)	977
図版23	銅鍍組織(10)	977
図版24	銅鍍組織(11)	978
図版25	マクロ組織	978
図版26	田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡出土銅治浄における 鉱物相の析出模式図	979

写真図版目次

遺構写真図版

1面Ⅰ期	田口上田尻遺跡	復旧痕	PL. 1 ~ PL. 8
1面Ⅰ期	田口上田尻遺跡	溝・土坑	PL. 8
1面Ⅰ期	田口下田尻遺跡	復旧痕	PL. 9 ~ PL. 15
1面Ⅰ期	田口下田尻遺跡	溝	PL. 15
1面Ⅱ期	田口上田尻遺跡	建物	PL. 16 ~ PL. 22
1面Ⅱ期	田口上田尻遺跡	井戸・溝・土塁・道・水田 ・畑・墓坑・埋設桶	PL. 22 ~ PL. 28
1面Ⅱ期	田口下田尻遺跡	道・畑	PL. 28・PL. 29
1面Ⅱ期	田口上田尻遺跡	溝・低地・道・配石・畑 ・埋設桶・集石・土坑	PL. 29 ~ PL. 45
1面Ⅲ期	田口下田尻遺跡	溝・道・墓坑・土坑	PL. 46 ~ PL. 47
2面Ⅰ期	田口上田尻遺跡	溝・畑	PL. 47 ~ PL. 50
2面Ⅰ期	田口上田尻遺跡	墓坑・土坑・配石・集石 ・ビット	PL. 50 ~ PL. 54
2面Ⅰ期	田口下田尻遺跡	溝・墓坑・集石・土坑	PL. 54 ~ PL. 59
2面Ⅱ期	田口上田尻遺跡	竪穴住居	PL. 60 ~ PL. 105
2面Ⅱ期	田口上田尻遺跡	溝・畑・土坑	PL. 105 ~ PL. 109
2面Ⅱ期	田口下田尻遺跡	竪穴住居	PL. 110 ~ PL. 163
2面Ⅱ期	田口下田尻遺跡	溝・低地・道・墓坑 ・集石	PL. 164 ~ PL. 169
2面Ⅱ期	田口下田尻遺跡	土坑・ビット	PL. 169 ~ PL. 175
3面Ⅰ期	田口上田尻遺跡	竪穴住居	PL. 176 ~ PL. 199
3面Ⅰ期	田口上田尻遺跡	溝・畑・土坑	PL. 200
3面Ⅰ期	田口下田尻遺跡	竪穴住居	PL. 201 ~ PL. 212
3面Ⅰ期	田口下田尻遺跡	溝・畑・土坑	PL. 212 ~ PL. 214
3面Ⅱ期	田口上田尻遺跡	竪穴住居	PL. 215 ~ PL. 220
3面Ⅱ期	田口上田尻遺跡	溝・畑	PL. 220 ~ PL. 221
3面Ⅱ期	田口下田尻遺跡	竪穴住居	PL. 222 ~ PL. 226
3面Ⅱ期	田口下田尻遺跡	畑・土坑	PL. 226 ~ PL. 227

遺構写真図版

1面Ⅰ期	田口上田尻遺跡	PL. 228 ~ PL. 229
1面Ⅰ期	田口下田尻遺跡	PL. 229
1面Ⅱ期	田口上田尻遺跡	PL. 230 ~ PL. 233
1面Ⅱ期	田口下田尻遺跡	PL. 233
1面Ⅲ期	田口上田尻遺跡	PL. 233 ~ PL. 241
1面Ⅲ期	田口下田尻遺跡	PL. 242
2面Ⅰ期	田口上田尻遺跡	PL. 242 ~ PL. 244
2面Ⅰ期	田口下田尻遺跡	PL. 244 ~ PL. 245
2面Ⅱ期	田口上田尻遺跡	PL. 245 ~ PL. 258
2面Ⅱ期	田口下田尻遺跡	PL. 258 ~ PL. 289
3面Ⅰ期	田口上田尻遺跡	PL. 290 ~ PL. 301
3面Ⅰ期	田口下田尻遺跡	PL. 301 ~ PL. 307
3面Ⅱ期	田口上田尻遺跡	PL. 308 ~ PL. 309
3面Ⅱ期	田口下田尻遺跡	PL. 309 ~ PL. 310
	ビット	PL. 310
	遺構外	PL. 311 ~ PL. 313

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

前橋渋川バイパスは、前橋市から渋川市に至る「交通渋滞の解消及び群馬県中心部における道路ネットワークを強化する地域高規格道路」（『一般国道17号 前橋渋川バイパス』国土交通省高崎河川国道事務所）と位置付けられた。前橋市田口町から渋川市半田までを結ぶ延長5.7kmの一般国道17号のバイパスである。

群馬県教育委員会文化財保護課は、平成13年度に国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所からバイパス建設の事業照会を受けて、事業予定地内の埋蔵文化財の有無について協議を行った。平成14年度から用地買収の進んだ北群馬郡吉岡町漆原地内を対象として、群馬県教育委員会文化財保護課が試掘調査を実施した。その結果、古代の集落及び近世の埋没水田、畑が広く分布していることが明らかとなったため、本格的な発掘調査を行う必要があることを事業者へ通知した。

国土交通省関東地方整備局長は、平成14年度に文化財保護法第57条3（当時）に基づき群馬県教育委員会教育長あて周知の埋蔵文化財包蔵地における前橋渋川バイパスの事業実施を通知し、群馬県教育委員会は平成14年11月25日付けで事業地における発掘調査が必要であることを勧告した。

これを受けて、国土交通省関東地方整備局長渡辺和足（当時）、群馬県教育委員会教育長高井健二（当時）、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長小野宇三郎（当時）の三者は、平成15年10月1日付けで、「一般国道17号（前橋渋川バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」を締結し、11月から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって北群馬郡吉岡町漆原地内における本格的な発掘調査が開始された。

平成16年度には、利根川以東の前橋市田口町の用地買収が進捗したことから群馬県教育委員会文化課（当時）によって試掘調査が行われた。桃ノ木川から利根川までの間は、一部で天明三年の浅間山噴火に伴う泥流（天明泥流）は検出されたものの、その直下から遺構の確認はな

かったため、遺跡はないものと判断された。

桃ノ木川よりも東側の前橋市田口町上田尻・下田尻の両地区については、一部用地買収が済んだ地点の試掘調査で遺構が確認されたことで、田口町地内における発掘調査が必要となったため、平成17年2月25日付けで第1回の協定変更を行った。

平成17年5月には、用地買収の進んだ地点について試掘調査が行われ、天明三年の泥流被害の復旧痕跡の他、下部に古墳時代から古代の竪穴住居の存在が確認されたため、隣接地点を含めて全面調査が必要と判断された。このことにより田口町上田尻・下田尻両地区の調査面積がさらに増加することとなり、平成17年7月13日付けで第2回の協定変更を行い、総面積15,485㎡を対象として同年8月から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が本格的な発掘調査に着手した。

当遺跡に隣接する国道17号の拡幅部分については、試掘調査により遺構が確認されないことから調査対象とはならず、工事における立会いの対応となった。国道17号の西側拡幅部分については、曝露近くまで掘削を受けており遺構は確認されなかった。東側拡幅部分においては、拡幅工事に先行して行われた水道管理設工事の立会いにおいて、古代の竪穴住居2棟と溝を確認したが、工事掘削部分の立会い調査が行われただけで終了した。

第2節 調査経過

発掘調査は、平成17年8月から準備を開始し、田口下田尻遺跡のうち用地買収の済んだ2区画について南側調査区をⅠ区、未買収地点を挟んだ北側調査区をⅡ区として調査区を設定した。最初にⅡ区の調査に着手し、Ⅱ区のⅠ面調査が軌道に乗った時点でⅠ区の調査を開始した。Ⅰ区の調査では、表土及び調査時の排土を置く場所が確保できなかったために、南北2次の調査を行うこととなった。Ⅰ面調査が終了後、掘削機械によって近世の耕作土を除去し、順次2・3面の調査を行った。この間、11月に浅間山噴火に伴う泥流（天明泥流）の復旧痕が密

第1章 調査の経緯

に検出されたⅠ区南側調査区について現地説明会を行った。12月にはⅡ区の2・3面の調査を終了し、調査区の埋戻しを行った。Ⅰ区については、南側調査区の調査は3面まで終了することができたが、北側調査区は予定された期間の中では終了できないと判断されたことから1面調査までを終了させ、2・3面の調査は次年度に持ち越して対応することとなった。

平成18年度の調査は、4月当初からⅠ区北側調査区2・3面の調査を開始し、5月からⅡ区北側の未着手であった残地の調査、及び田口上田尻遺跡Ⅰ・Ⅱ区について調査を行ったが、Ⅰ区については排土の関係で東西2区に分けて調査を進めることとなった。前年度からの継続調査となった田口下田尻遺跡Ⅰ区北側調査区と平成18年度に着手したⅡ区北側の残地部分は、7月に埋戻しまでを含め終了した。8月には田口上田尻遺跡Ⅰ・Ⅱ区の調査に併行して、桃ノ木川寄りのⅢ区の1面調査に着手した。同月に、Ⅱ区で検出した近世初頭と考えられる大規模な溝と、これに伴う石積み遺構について現地説明会を行った。9月にはⅠ区東側調査区の調査と埋戻しが終了し、Ⅱ区2・3面及び併行してⅠ区西側調査区の調査を開始した。10月には、Ⅱ区の3面調査までが終了し埋戻しを行った。また、Ⅲ区は1面の調査が終了し、2・3面の調査を開始し、12月末にⅠ区西側調査区及びⅢ区2・3面の調査を終了した。

平成19年度の調査は、前年度においては土地買収が済んでいなかった田口下田尻遺跡Ⅲ区、及び桃ノ木川に架る橋の橋台工事部分を先行して調査する必要が生じたため、桃ノ木川から約30m幅の範囲を田口上田尻遺跡Ⅳ区として2区画を対象とした。調査は田口上田尻遺跡Ⅳ区を先行して着手し、3面調査へと移行した段階で田口下田尻遺跡Ⅲ区の1面調査を開始した。田口上田尻遺跡Ⅳ区の調査は、埋戻しを含めて12月末で終了し、田口下田尻遺跡Ⅲ区の調査も平成20年3月末に終了した。この間、10月に田口上田尻遺跡Ⅳ区で検出された近世の建物跡について現地説明会を行った。

平成20年度の調査は、国道17号の東側拡幅部分の田口下田尻遺跡Ⅳ区と、田口上田尻遺跡の未着手部分をⅤ区とⅥ区として実施した。4月から田口上田尻遺跡Ⅴ区の調査を開始し、1面調査がほぼ終了した時点で田口下田尻遺跡Ⅳ区の調査に着手した。田口下田尻遺跡Ⅳ区は狭

い範囲の調査であったため9月段階で2・3面の調査を終了させ、田口上田尻遺跡Ⅵ区の調査を開始し、平成21年1月末に全調査区の調査を終了した。

調査日誌抄

平成17年度

8月 田口下田尻遺跡Ⅰ区南側調査区・Ⅱ区の1面調査に着手。

9月 田口下田尻遺跡Ⅱ区1面調査を終了し、2・3面調査開始。Ⅰ区は一部1面の遺構調査継続、及び2・3面調査着手。

11月 田口下田尻遺跡Ⅰ区北側調査区1面調査に着手。Ⅱ区2面調査継続。

11月29日 田口下田尻遺跡Ⅰ区1面の天明泥流の復旧痕について現地説明会を開催。

12月 田口下田尻遺跡Ⅱ区調査終了。Ⅰ区北側調査区2面以降の調査は次年度実施となる。

平成18年度

4月 田口下田尻遺跡Ⅰ区北側調査区2・3面調査再開。

5月 田口下田尻遺跡Ⅰ区2・3面調査継続。Ⅱ区北側残地の1面調査開始。田口上田尻遺跡Ⅰ区東側調査区の1面調査着手。

6月 田口下田尻遺跡Ⅰ区北側調査区調査終了。Ⅱ区北側残地2・3面調査開始。田口上田尻遺跡Ⅰ区東側調査区1面調査継続。Ⅱ区1面調査に着手。

7月 田口下田尻遺跡Ⅱ区北側残地調査終了。田口上田尻遺跡Ⅰ区東側調査区2・3面調査開始。Ⅱ区2・3面調査開始。

8月 田口上田尻遺跡Ⅰ区東側調査区及びⅡ区2・3面調査継続。Ⅲ区1面調査着手。

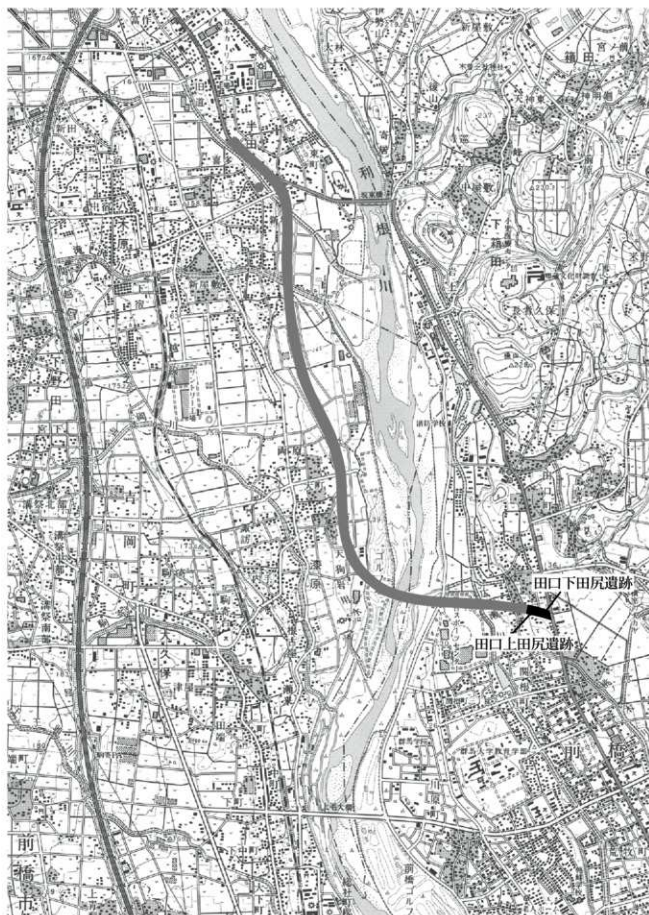
8月19日 田口上田尻遺跡Ⅱ区2面として調査した8号溝と石積み遺構について現地説明会を開催。

9月 田口上田尻遺跡Ⅰ区東側調査区終了。Ⅱ区2・3面調査継続。Ⅲ区1面調査継続。

10月 田口上田尻遺跡Ⅰ区西側調査区1面調査開始。Ⅱ区調査終了。Ⅲ区1面調査を終了し、2・3面調査開始。

11月 田口上田尻遺跡Ⅰ区西側調査区1面調査を終了し、2・3面調査開始。

12月 田口上田尻遺跡Ⅰ区西側調査区及びⅢ区調査終了。



第1図 前橋渋川バイパスと遺跡の位置(国土地理院1:25,000地形図「渋川」平成14年10月1日発行使用)

平成19年度

- 9月 田口上田尻遺跡IV区1面調査に着手。
- 10月 田口上田尻遺跡IV区調査継続。田口下田尻遺跡Ⅲ区1面調査に着手。
- 10月20日 田口上田尻遺跡IV区1面の近世建物跡について現地説明会を開催。
- 11月 田口上田尻遺跡IV区2・3面の調査開始。
- 12月 田口上田尻遺跡IV区調査終了。田口下田尻遺跡Ⅲ区1面の調査に着手。
- 平成20年2月 田口下田尻遺跡Ⅲ区3面の調査開始。
- 3月 田口下田尻遺跡Ⅲ区の調査終了。

平成20年度

- 4月 調査準備。
- 5月 田口上田尻遺跡V区1面調査に着手。
- 6月 田口下田尻遺跡IV区1面調査に着手。田口上田尻遺跡V区1面調査を終了し、2・3面調査開始。
- 7月 田口下田尻遺跡IV区1面調査を終了し、2・3面調査開始。田口上田尻遺跡V区2・3面調査継続。
- 9月 田口下田尻遺跡IV区調査終了。田口上田尻遺跡VI区1面調査に着手。
- 10月 田口上田尻遺跡V区2・3面調査継続。VI区1面調査継続。
- 11月 田口上田尻遺跡V区調査終了。VI区1面調査を終了し、2・3面調査開始。
- 平成21年1月末 田口上田尻遺跡VI区調査終了。

第3節 整理事業の経過と方法

整理事業は、平成19年度に発掘調査と併行する形で、前年度までに発掘調査を終了した田口下田尻遺跡Ⅰ・Ⅱ区の古墳時代から古代の遺物の接合、復元、実測作業を実施した。平成20年度は整理事業が中断し、平成20年度の発掘調査を終了を待って平成21年7月に再開した。平成21年度の整理事業は、平成19年度に接合、復元、実測を行った、田口下田尻遺跡出土の古墳時代から古代の遺物について写真撮影を行った。また、平成19年度時点では未調査であった田口下田尻遺跡Ⅲ・Ⅳ区出土の古墳時代から古代の遺物について、接合、復元、実測、トレース、及び遺物写真撮影を進めた。さらに、田口上田尻遺跡出

土の古墳時代から古代の遺物についても整理事業に着手し、併せて検出遺構図面の修正と、修正を済ませた一部の遺構図については、デジタルトレースを行った。遺跡の全体図については、整理事業の効率化を図るために調査区ごと、調査面ごとに作成されていた遺構配置図の合成業務を技研測量設計株式会社に委託した。また、古墳時代前期の竪穴住居から検出された炭化材、及び土坑から出土した炭化種実の放射性炭素年代測定を株式会社バリノ・サーヴェイに委託した。

平成22年度の整理事業は、平成21年度事業を継続したもので、田口下田尻遺跡出土の古墳時代から古代の遺物実測図のトレース、田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡出土の中・近世陶磁器、石造物、金属製品などの実測、トレース、写真撮影を進めた。また、併行して田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡の遺構図の修正及びデジタルトレース、及び遺構の事実記載などの本文原稿の執筆を行った他、土坑からまとめて出土した炭化種実の種同定を株式会社バリノ・サーヴェイに委託した。

平成23年度の整理事業は、平成22年度事業を継続して行い、田口上田尻遺跡の遺物実測及びトレース、本文原稿執筆を進めた他、8世紀代、10世紀代、近世の鍛冶関連の遺物について、原料鉄と精錬過程を明らかにするための金属分析を株式会社九州テクノリサーチTACセンターに委託し、近世建物については群馬県文化財保護審議会委員の村田敏一氏に分析を依頼した。以上の作業に併行して本文・図版のレイアウトをフルデジタルで行い、平成24年1月に入札を行い、3月に本文編、遺物観察表・写真図版編の2分冊として報告書を刊行した。

付記

整理段階で遺構番号の統合及び欠落の再確認を行った結果は、以下のとおりである。

遺構番号の統合

田口上田尻遺跡	85号住居→84号住居に統合
田口下田尻遺跡	106号住居→64号住居に統合
	113号住居→73号住居に統合
	114号住居→51号住居に統合

住居番号の欠番

田口上田尻遺跡	22・65・70・85・95号住居
田口下田尻遺跡	27・34・46・106・113・114・123号住居

第2章 調査の方法と基本土層

第1節 調査区の設定

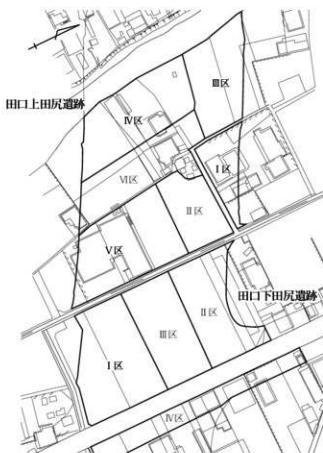
田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡の調査区については、路線を南北に走る市道を境にして字名が変わるため、これより西側の桃ノ木川までの間を田口上田尻遺跡、市道東側で国道17号を挟んでさらに東側の国道抜幅部までを田口下田尻遺跡として調査を行った。国道東側抜幅部よりさらに東側に遺跡が広がっていることは確実であるが、これより東側は上武道路にあたり事業を異にすることから、後年の調査となる予定である。田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡の調査区設定にあたっては、調査着手時点で用地買収がされていない場所などもあったことから、当初から計画的な調査区設定はできなかった。したがって用地買収が済んだ土地で予定された調査期間で調査可能な範囲、及び工事との関連で調査を先行する必要がある範囲をそれぞれの年度の調査区とした。

調査区には、田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡それぞれ調査順にⅠ区からの調査区名称を付した。その結果、田口上田尻遺跡はⅠ区～Ⅵ区、田口下田尻遺跡はⅠ区～Ⅳ区の調査区設定となった。調査は、平成17年度から開始したが、初年度には田口下田尻遺跡Ⅰ区南半及び北半のⅠ面とⅡ区、平成18年度に田口上田尻遺跡Ⅰ区～Ⅲ区、及び田口下田尻遺跡Ⅰ区北半2・3面とⅡ区北側の残地、平成19年度に田口下田尻遺跡Ⅲ区、田口上田尻遺跡Ⅳ区、平成20年度に田口下田尻遺跡Ⅳ区、田口上田尻遺跡Ⅴ区・Ⅵ区という順序で実施した。

第2節 調査面の呼称

田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡の一带は、天明三年(1783)の浅間山噴火に伴って発生した泥流(天明泥流)被害を受けた地域であり、この泥流に埋もれた農地などの復旧の痕跡が調査区ほぼ全面にわたって検出されている。復旧痕は、充填されている泥流が卵大の焼石を含む黒色のざらついた土質なので、黄土色がかった灰色を呈する近世耕作土中での確認は容易であった。基本的には

この泥流復旧痕の確認できる天明三年当時の地表面または近世耕作土中を1面とした。次に、近世耕作土を取り去るとAs-B混土層が比較的安定して検出されたので、本来であればこのAs-B混土層上面または層中で中世の遺構確認が可能はずであるが、As-B混土層中には広範囲にわたって硬化した酸化鉄層が形成されており、面的な遺構確認ができなかった。したがって、As-B混土層下に形成されている二ッ岳系軽石とAs-Cを含む暗褐色土層(Ⅶ層)、またはAs-Cを含む暗褐色～黒褐色シルト層(Ⅷ層)上面で確認した面を2面として扱った。したがって、古墳時代後期～中世までの遺構のほとんどがこの2面で検出された。3面の調査は、当遺跡のベースとなっているAs-Cを含まない黄褐色シルト層(Ⅷ層)中で行ったもので、古墳時代前期～中期の遺構を調査した。

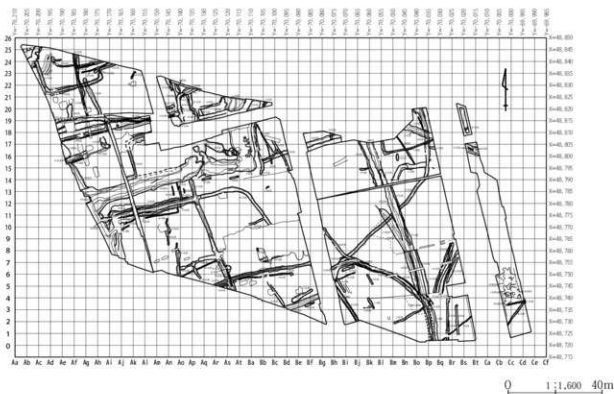


第2図 調査区設定図(1:2,000)

第3節 グリッドの設定

発掘調査時点では、調査区内にグリッドの設定は行わなかった。それは、調査区全域から泥流の復旧のための溝状遺構(復旧痕)が検出されることが予測されたために、グリッド表示のための杭を設定しても、1面調査の段階で障害となることが想定されたためである。しかし、整理段階で各遺構の位置を記述するにあたって、平面直角座標系の値をそのまま使用することが煩雑であるために、整理段階で全体図を基にしてグリッド設定を行い、

X=48,720、Y=-70,210の交点を起点として調査区全域を覆うような5m×5mの方眼を設定した。起点から東方向に100mを一つの大グリッドとし、大グリッドの呼称として「A～」のようにアルファベット大文字で表記した。また、間の5mごとには起点側から「a～」のようにアルファベット小文字で表記した。起点から北に向かっては5mごとに「0～」の数字で表記した。したがって5m×5mの最小グリッドを呼称するにあたっては、起点側となる南西コーナー部の名称を用い「Aa-0」、「A1-12」などと表記した。(第3図)



第3図 グリッド設定図

第4節 基本土層

田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡は、桃ノ木川の自然堤防上に形成された遺跡であり、旧利根川によって堆積した安山岩類を主体とした砂礫層を基盤として、その上は洪水起源の黄褐色を呈するシルト質土によって覆われている。基盤の砂礫層の頂部は場所によって高低差があり、そのため上部を覆う洪水堆積層の厚さにも違いがあ

る。上部を覆う土層は、火山起源の層を除いて基本的には洪水起源のシルト質土をベースとして土壌化したものであり、全体に粘性に欠ける傾向がある。鍵となるテフラは、遺跡全域で安定的に検出されたものではなく、低地部と見られる場所に純堆積層として存在したものであるが、高い部分においても攪拌された状況で存在していることが確かめられていることから、標準土層の中に鍵

となるテフラをも位置付けた。

調査は複数年度にわたり、田口上田尻遺跡と田口下田尻遺跡では微妙に土層の捉え方に差異が生じてしまったので整理段階で統合し、基盤となる砂礫層までをI～XII層に分層した。

I・II層は、遺跡全域で確認できるもので、天明泥流被災後の復田によって形成された層であり、遺跡内においては灰色を呈する水田土壌の場所が主体であった。I・II層共に色調や粘性など類似しているが、酸化鉄の凝集した層が間に形成されていることからI層とII層を分層した。

III層とした天明泥流層は、基本的には耕地などの復田によって人為的な攪拌を受けたもの(III')であるが、流下堆積したものが、田口上田尻遺跡の桃ノ木川際のごく一部で確認されている。流下堆積した状態の天明泥流層は硬く締まっており、人為的に動かされた層とは比較的容易に見分けることが可能である。

IV層は、天明泥流による被災当時の耕作土であり、II層に類似するような灰色の強い色調を呈している。

V層はAs-B層が耕作に伴って攪拌され形成されたもので、攪拌の程度によって上下2層(Va・Vb)に分層できる場所がある。上層のVa層は茶褐色を呈しており、耕土化が進みVbと比較してAs-Bの含有がやや少ない。Vb層は、灰褐色を呈しており、As-Bを主体として構成されている。

VI層は、As-Bそのものであるが、遺跡全体に層として確認できるものではなく、遺構の埋土中に純層として検出した。

VII層は、As-B降下以前に形成されたもので、洪水堆積起源のシルト質土をベースとして土壌化した黒色土中にAs-Cと二ヶ岳系軽石を含むものであり、古墳時代後期から平安時代の遺構の埋土となっている。

VIII層はHr-FAであり、田口下田尻遺跡北東部の南東側へと続く低地部に純層として存在した他、西側においてはブロック状に検出された場所もある。

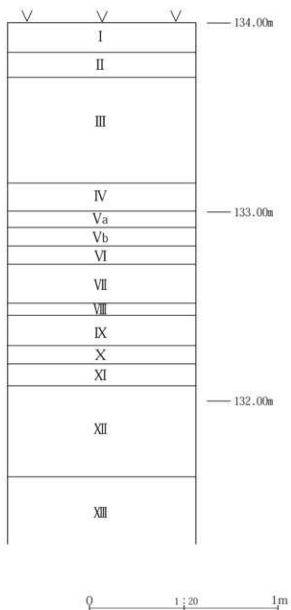
IX層は、洪水起源のシルト質土が土壌化して形成されたとと思われる黒褐色土をベースにして、As-Cを均質に含む層で、いわゆるC黒、C混などと呼ばれている層である。

X層は、As-C層であり古墳時代前期の遺構埋土の一部として検出されており、遺跡内で安定的に検出されたものではない。

XI層は、黒褐色を呈するシルト質土であり、IX層土のベースとなった層である。

XII層は、基盤となる砂礫層を覆っている洪水起源の黄褐色シルト質土である。

XIII層は、基盤となる砂礫層であり、安山岩類を主体とした大小の砂礫によって構成されている。堆積の状況は平坦ではなく、凹凸が顕著である。(第4・5図)



第4図 基本土層(模式図)



第5図 基本土層

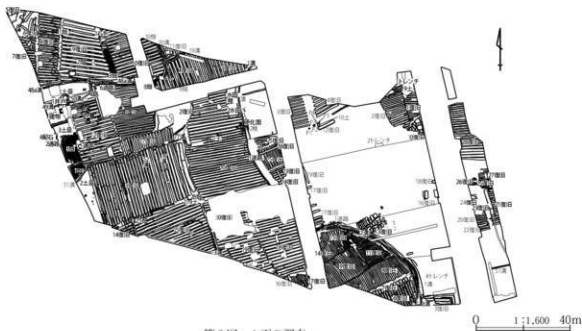
第5節 調査の概要

第1項 1面の調査

1面の調査は、天明泥流被災後の耕地復旧痕の調査と、天明泥流直下の調査、さらに当時の耕作土を掘り下げていく過程で検出した中世末から近世の遺構を対象とし、復旧痕の掘削以降をⅠ期、泥流直下をⅡ期、それ以前をⅢ期とした。

(1) 田口上田尻遺跡

田口上田尻遺跡では、Ⅰ期とした天明泥流の被害を受けた耕地の復旧痕が31単位検出された。Ⅱ期とした遺構では、建物跡3棟、井戸1基、溝10条、道6本、水田6枚、



第6図 1面の調査

第2項 2面の調査

2面の調査は、Ⅶ層土からⅨ層土を遺構確認面とし、Ⅴ層土を埋没土とする中世遺構についてⅠ期、Ⅶ層土主体の埋没土を持つ古墳時代後期から古代の遺構についてⅡ期とした。

(1) 田口上田尻遺跡

Ⅰ期の遺構は、溝14条、畑1枚、墓坑9基などが主体で、Ⅱ期の遺構は106棟の竪穴住居が主体である。7世紀後半と10世紀代が主体で、8世紀後半や9世紀代の竪穴住居は10世紀代と比較すると顕著ではない。特筆され

畑16枚、墓坑1基などであり、特筆されるのは、桃ノ木川寄りから、母屋1棟、大小便所2棟、井戸1基、庭とこれらをつなぐ道、排水路などの1軒の屋敷を構成すると思われる遺構が検出されたことである。Ⅲ期では、溝52条、道3本、畑4枚などである。

(2) 田口下田尻遺跡

田口下田尻遺跡では、Ⅰ期とした復旧痕は28単位であったが、本来は全面に掘削されていたものと考えられる。特筆されるのは、調査区南から西に大きく曲線を描くような泥流上面を路面とした道が1本検出されたことである。Ⅱ期では道1本、畑が1枚で、Ⅲ期では溝4条、道2本、墓坑3基などである。

るのは、8世紀前半と10世紀代の鍛冶遺構が検出されたことである。他に溝6条などと、土坑が全域にわたって検出された。遺物では、灰陶器・緑釉陶器の出土量が多いことが特筆される。

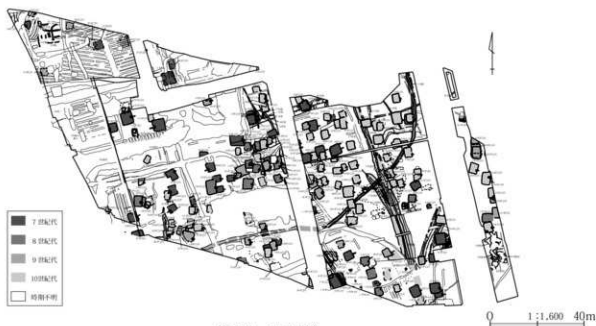
(2) 田口下田尻遺跡

Ⅰ期では溝27条、墓坑5基、集石などが主体であり、Ⅱ期では竪穴住居106棟、溝11条、道2本、墓坑2基の他、集石や多数の土坑を検出した。竪穴住居では7世紀後半と10世紀代に主体があり、8世紀代と10世紀代の鍛冶遺構がそれぞれ1棟確認されたことに加え、廃滓場と見ら

第2章 調査の方法と基本土層

れる場所が検出された他、10世紀代の新田2本の道が検出された。遺物で特筆されるのは、灰釉陶器・緑釉陶器

の出土量が多いことと、住居から馬具が出土していることである。



第7図 2面の調査

第3項 3面の調査

3面の調査は、XII層土面を確認面としたもので、As-Cを含む埋没土を持つものをI期、As-Cを埋没土中に含まないか、埋没土中にAs-C純層が確認されたものをII期とした。

(1) 田口上田尻遺跡

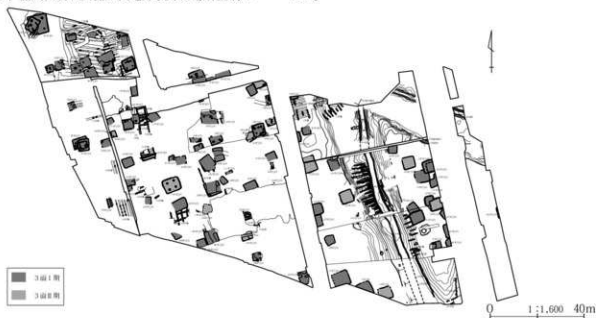
I期では、竪穴住居62棟、溝2条、畑7枚と土坑を検出しており、竪穴住居は西側の低地部以外の場所全域に

わたって展開していた。II期では、竪穴住居8棟、溝1条、畑10枚などが検出された。

(2) 田口下田尻遺跡

I期では、竪穴住居24棟、溝4条、畑7枚などで、特筆されるのは低地部を貫くように南北に掘削された大規模な溝の存在である。

II期では、竪穴住居5棟、畑2枚などが検出されており、低地部に検出した畑にはAs-Cで埋没したのが見られた。



第8図 3面の調査

第3章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

前橋市は、関東北部山地から関東平野へと移行した場所に位置しており、北東に赤城山、北に子持山・小野子山、北西に榛名山、西には遠く浅間山を望むことができる。

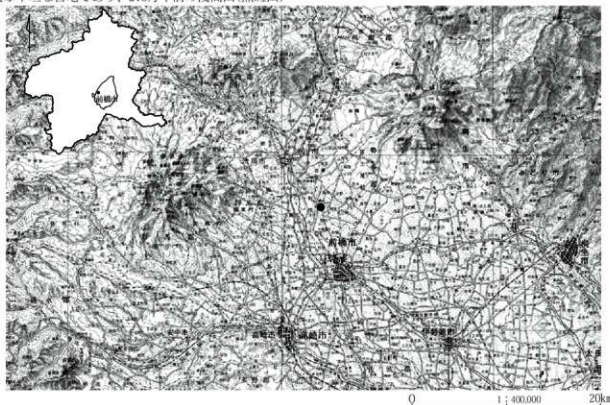
田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡は、前橋市の北端部に位置しており、遺跡の東端には国道17号が南北に走り、西端には桃ノ木川が南東流し、遺跡地の大部分は畑地と宅地で、東側の赤城山山麓崖との間には水田が広がっている。

遺跡の所在する前橋市の地形は、北東側の赤城火山斜面、南西側の前橋台地、赤城火山斜面と前橋台地との間に北西から南東方向に形成された広瀬川低地帯の3つに区分することができる。赤城火山斜面は、比較的緩やかな傾斜面であり、多くの浅い谷が樹枝状に形成され、南西側の広瀬川低地帯と接する面は、比高10m前後の崖となっている。前橋台地は、前橋市から高崎市・伊勢崎市に及ぶ平坦な台地であり、2.3万年前の浅間山(黒斑山)

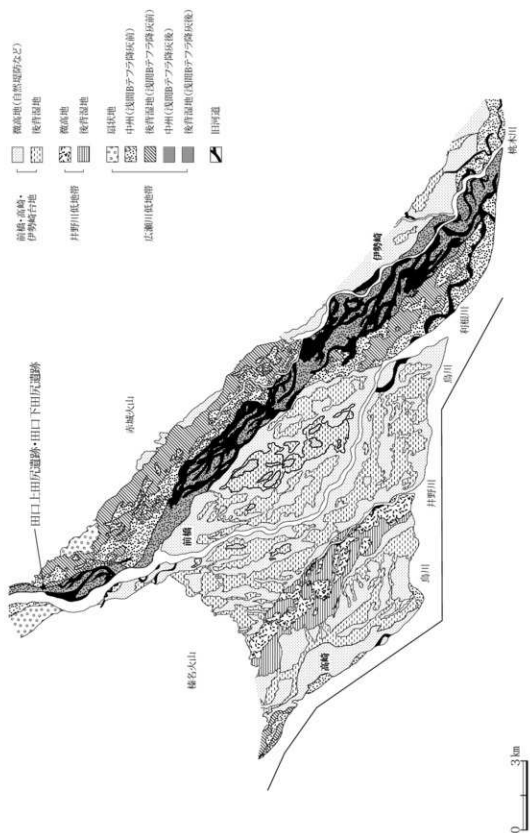
噴火の山頂部大崩壊によって発生した、前橋泥流の流出によって形成されたものである。この前橋泥流は、県庁西側の現利根川の崖に見られるように、15m前後の厚さで堆積している。

広瀬川低地帯は、前橋台地形成後の旧利根川の流下による浸食と砂礫の堆積によって形成されたもので、赤城火山斜面に接する部分から西に向かって形成が進んだと考えられている。前橋中心市街を東に迂回するように流れる広瀬川流路は、利根川が中世に大きく流路変更する前の流路と考えられている。この広瀬川低地帯には、現在広瀬川・桃ノ木川・白川などが流下しており、小扇状地と見られる高まりや自然堤防が形成されている。

田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡の位置は、広瀬川低地帯が現利根川氾濫原から南東へと分岐する入口部にあたり、広瀬川低地帯のほぼ中央を南東流する桃ノ木川によって形成された標高134m前後の自然堤防上に立地している。



第9図 遺跡の位置と地形(国土地理院1:200,000地形図「宇都宮」平成18年4月1日発行、「長野」平成18年11月1日発行使用)



第10図 前橋地区の地形区分図(早田勉「新編高崎市史 通史編1」2005高崎市史編さん委員会図49を改変)

第2節 歴史的環境

旧石器時代

遺跡の立地する自然堤防は、2.3万年前以降に形成されたと考えられるものであり、これより古い時期の文化層が検出される可能性は無いものと思われる。一方、田口下田尻遺跡において行ったテフラ分析によれば、As-BP層群の上部に類似する屈折率を持つ軽石が検出されており、こうした軽石が堆積し得るような環境の場所が出現していた可能性もあるが、少なくとも広瀬川低地帯において旧石器時代の遺跡は発見されておらず、至近のものは赤城火山斜面に位置する旧勢多郡北橋村(以後北橋村)の上原遺跡(41)だけである。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、赤城火山斜面に立地しているものが多く、特に早期と前期の遺跡分布が顕著である。早期の遺跡では北橋村にある城山遺跡(29)、開発遺跡(40)、上原遺跡(41)、東諏訪遺跡(43)などが知られており、中でも城山遺跡では住居が6棟、上原遺跡では集石遺構が137カ所検出されている。前期の遺跡では、旧勢多郡富士見村(以後富士見村)の陣場遺跡(17)、愛宕山遺跡(23)、北橋村の芝山遺跡(27)、上原遺跡(41)、下箱田向山遺跡(30)などで集落が確認されている。中期の遺跡では、陣場遺跡(17)で15棟、富士見村の向吹張遺跡(31)で10棟、上原遺跡(41)で14棟の住居が検出されたのが比較的規模の大きなものである。利根川右岸においては、渋川市の半田南原遺跡(66)で前期の住居が28棟検出されている。後期の遺跡は少なく、陣場遺跡(17)で住居2棟、北橋村の天神山遺跡(33)で住居が4棟検出されているに過ぎず、晩期の遺跡は確実な事例を見つけることができなかった。

弥生時代

弥生時代の遺跡では、後期の標識遺跡である旧勢多郡赤城村(以後赤城村)の樽遺跡が、分布図の範囲外であるが北方の赤城山西南麓に位置しており、至近の遺跡では後期の住居が24棟検出された北橋村の下遠原遺跡C・D区(50)が最も顕著なものである。

利根川右岸の横名山麓には弥生時代後期の遺跡分布は比較的多いが、中期の遺跡は渋川市の中村遺跡(51)で遺構がわずかに検出されているだけである。後期の遺跡では八木原沖田Ⅱ遺跡(52)で住居が検出されている他、分布図範囲外であるが有馬遺跡で礎床墓を主体とする墓域が確認されている。

古墳時代

古墳の分布は、旧市町村ごとにまとまる傾向があるようで、北橋村部分では、八幡塚古墳(35)、朝日塚古墳(38)、真壁諏訪遺跡(44)で円墳が1基確認されている。前橋市から富士見村にかけては、当遺跡至近の田口冠木遺跡(4)で円墳が4基、田口八幡1遺跡(6)で円墳1基が調査されている他、塩原塚古墳(5)が良く知られたものである。また、当遺跡の南東側に位置する九十九山には近隣で唯一の前方後円墳とされている九十九山古墳(9)が立地している他に、富士見村の上庄司原東遺跡(21)などで円墳が調査されている。利根川右岸の渋川市部分では、半田南原遺跡(66)で5世紀代及び7世紀末の円墳が28基群集して検出されており、北群馬郡吉岡町(以後吉岡町)では八角墳として有名な三津屋古墳(73)や源平山古墳(76)などが当遺跡の対岸に位置している。以上の古墳は中期から終末期に属するものであり、前期の墓の検出例は極めて少ない。分布図に示したものでは、富士見村の下庄司原東遺跡(19)と上庄司原西遺跡(20)で方形周溝墓が検出され、特に下庄司原東遺跡では前方後方形周溝墓が1基検出されていることが特筆される。また、他には利根川右岸の中村遺跡(51)で方形周溝墓が確認されているだけである。

同様に前期の集落遺跡も検出例は少なく、利根川左岸では下庄司原東遺跡(19)で住居が1棟検出されている他、比較的至近の台地上に位置する田中田遺跡(8)で37棟にも及ぶ住居が検出されているのが顕著なものである。利根川右岸では、中村遺跡(51)で住居3棟、隣接する八木原沖田Ⅱ遺跡(52)で集落が展開していることが確認されている。中期集落の実態は判然としていないが、後期の集落は前期集落と比較すると多く確認されているもの大規模集落と呼べるような例はほとんどなく、田中田遺跡(8)で住居24棟が検出されたものが顕著

な例である。他に、利根川左岸では富士見村の岩之下遺跡(11)、下庄司原東遺跡(19)、北橋村の東篠遺跡(28)、水泉寺B遺跡(48)、利根川右岸では中村遺跡(51)、八木原沖田遺跡(52)、吉岡町の金竹西遺跡(77)、七日市遺跡(78)、大久保A遺跡(80)などで住居の検出が報告されている。

奈良・平安時代

奈良時代から平安時代の遺跡は、各地域で数多く検出されている。旧市町村ごとに代表的な遺跡をあげると、前橋市部分では当遺跡北東の台地部分に位置する田口八幡Ⅰ・Ⅱ遺跡(6・7)で平安時代の集落が検出されている。富士見村部分では、岩之下遺跡(11)、陣場遺跡(17)、下庄司原東遺跡(19)、窪谷戸遺跡(24)、向吹弧遺跡(31)などで住居が検出されているが、中でも73棟の住居の検出された陣場遺跡が拠点的な集落と見ることができる。北橋村部分では、天神山遺跡(33)、上原遺跡(41)、真壁向山遺跡Ⅴ(45)、水泉寺遺跡B(48)などで複数の住居が検出されており、中では上原遺跡の検出数が抜きでている。渋川市部分の遺跡では、中村遺跡(51)、八木原沖田Ⅲ遺跡(52)、半田中原・南原遺跡(66)などがあるが、中でも八木原沖田Ⅲ遺跡と半田中原・南原遺跡で検出された住居数は他を圧倒しており、拠点的な集落と見られ、特に半田中原・南原遺跡は「牧」関連の遺構が検出されている。吉岡町部分では、万歳寺廻り遺跡(72)、熊野遺跡(74)、七日市遺跡(78)、大久保A遺跡(80)などに大規模な集落が検出されている。

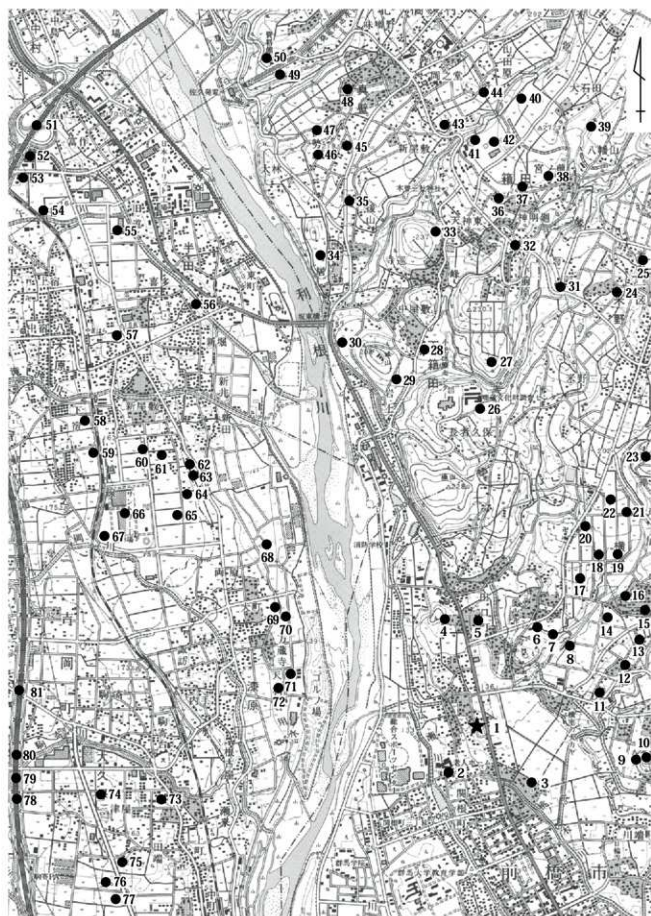
中世

中世と見られる遺構が検出された遺跡としては、上庄司原東遺跡(21)で土坑墓が1基、半田築地前遺跡a地点(59)で火葬墓が1基、城山遺跡(29)では炭窯が5基、十二廻り遺跡(69)で墓坑に転用された井戸が1基検出されているなど、断片的な検出例が多く遺跡の全体像がつかみにくいものが多い。当遺跡の南東至近に位置する関根の寄居(3)は発掘調査されたものではないが、土塁状の高まりで囲まれており、山崎一氏によって中世の誓の可能性が指摘されている。

近世

近世遺構の検出された遺跡は、赤城火山斜面側にも認められるが、時期の断片的なものが多く、特徴的に検出されているのは利根川右岸側の天明泥流によって埋没した遺跡である。その代表的なものとしては中村遺跡(51)、半田常法院遺跡(56)、吉岡町の中町遺跡(68)、桑原田遺跡(70)、阿久津遺跡(71)などがあり、天明泥流に埋没したまま放棄された水田や畑、用水路などが埋没当時のままで検出されている。

遺跡の位置している前橋市田口町付近は、もと勢多郡田口村であり、徳川家康が江戸城に入場した天正十八年(1590)以降、平岩氏、酒井氏、松平氏と藩主が代わったが、酒井氏の時代には調査地点の西側を流れる桃ノ木川を挟んだ対岸に、五科・前橋・沼田を結ぶ沼田街道が走り、街道を挟んだ両側には町並が発達していたようである。この街道は、沼田・利根方面からの物資輸送や沼田藩主の参勤路となっており、旧南橋村の上小出・関根と同様に田口にも宿が設けられ荷馬の交換が行われるなど、人馬の往来が盛んな場所であったと考えられる。遺跡周辺は宅地と畑地であり、水田は東側の低地と南側の荒牧寄りの低地部に展開していたものと思われる。こうした田畑への給水は、利根川から分岐する広瀬・桃木両用水が使われていた。広瀬用水の取水は、田口西側の旧関根村元斎堰、桃木用水が上手に位置する旧真壁村桃木堰と、田口の比較的至近の場所から両用水ともに取水されており、用水管理上でも重要な位置を占めていたものと思われる。



第11圖 周辺の主要遺跡(国土地理院1:25,000地形図「渋川」平成14年10月1日発行使用)

第3章 地理的・歴史的環境

第1表 周辺道跡一覧

番号	道跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	内 容	文 献
1	田口上田尻道跡・田口下田尻道跡	前橋市			○	○	○	○			
2	間根内山道跡	前橋市							○	江戸堀9・溝1	1
3	間根の寄居	前橋市						○		中世勢	2
4	田口冠木道跡	前橋市				○				円墳4	3
5	塩原塚古墳	前橋市				○				円墳1	4・9
6	田口八幡1道跡	前橋市				○	○			円墳1・平安住居14	4
7	田口八幡2道跡	前橋市					○			平安住居24	5
8	田中田道跡	富士見村		○		○				縄文前期住居1・中期住居1・古墳前期住居37・後期住居24・溝1・他	6
9	九九九山古墳	富士見村				○				前方後円墳1	4・7
10	九九九古墳	富士見村				○					4
11	岩之下道跡	富士見村		○		○	○			縄文土坑3・古墳住居9・奈良～平安住居15・掘立2・他	7
12	荒井古墳	富士見村				○				円墳1	4・7
13	寄居道跡	富士見村		○				○	○	中・近世溝4	7
14	横室中道跡	富士見村								不明土坑	8
15	横室古墳	富士見村				○				円墳10	4・7
16	陣場古墳	富士見村				○				終末期円墳1	4・7
17	陣場道跡	富士見村		○	○	○				縄文前期住居7・中期住居15・後期住居2・土坑50以上・終末期円墳2・平安住居73	10
18	下庄司原西道跡	富士見村		○	○	○				縄文前期住居4・土坑5・終末期円墳1・平安住居20・溝2・土坑・ピット	10
19	下庄司原東道跡	富士見村		○	○	○				縄文前期住居5・中期住居1・古墳前期住居1・方形周溝墓3・前方後方形周溝墓1・後期住居9・奈良～平安住居41・他	10
20	上庄司原西道跡	富士見村		○	○	○				古墳時代前期方形周溝墓1・中期溝1・終末期住居6・奈良～平安時代住居6	10
21	上庄司原東道跡	富士見村		○	○	○		○		縄文前期住居4・後期円墳2・平安住居7・土坑墓1・中世墓1	10
22	上庄司原北道跡	富士見村		○	○					縄文前・中期包含層・土坑群・終末期円墳1	10
23	愛宕山道跡	富士見村								縄文前期住居11・土坑150・平安塚原1・道路1	11
24	窪谷戸道跡	富士見村		○	○					縄文前期住居1・古墳住居1・奈良～平安住居44・他	6
25	見取道跡	富士見村		○						縄文中期住居2・土坑50・奈良～平安住居23・掘立2・棚列・土坑	6
26	瓜山道跡	北橋村		○						縄文中期住居2・土坑12	12
27	芝山道跡	北橋村		○						縄文前期住居16・中期住居1・土坑73・陥し穴4	13
28	東藤道跡	北橋村		○	○	○		○	○	縄文前期集石遺構4・土坑12・古墳～平安住居6・中・近世掘立10・棚列2・道路1	12
29	城山道跡	北橋村		○						縄文早期住居6・集石6・土坑31・平安住居1・中世灰窯5・箱田城跡跡	14
30	下箱田向山道跡	北橋村							○	縄文前期住居7・中期住居1・土坑24・溝1・中世溝8・土坑26・墓塚1・棚列2	15
31	向吹張道跡	富士見村		○	○	○		○	○	縄文前期住居3・土坑2・中期住居10・土坑8・古墳～平安住居27・掘立1・他	7
32	指示前道跡	北橋村			○				○	弥生土坑2・近世墓・道路・ピット31	16
33	天神山道跡	北橋村								縄文後期住居4・奈良～平安住居10	17
34	真壁城山道跡	北橋村		○						縄文前期住居1・土坑	18
35	八幡塚古墳	北橋村								円墳1	19
36	西浦道跡	北橋村		○						縄文土坑1・奈良住居1	18
37	宮廻り道跡	北橋村					○			奈良住居3	17
38	朝日塚古墳	北橋村								円墳1	20
39	八幡山道跡	北橋村		○						縄文前期住居5・土坑2	18
40	間見道跡	北橋村		○	○	○				縄文早期集石3・前期住居3・土坑9・平安住居1	21
41	上原道跡	北橋村	○				○			旧石器2地点・土坑2・縄文早期集石137・前期住居15・中期住居14・土坑294・陥し穴3・奈良～平安住居46・掘立30・溝31・灰窯3・井戸3・道路3	22
42	三角道跡	北橋村					○		○	上に同じ	22
43	東渡訪道跡	北橋村								道路1	18

番号	道跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	内容	文獻
44	真壁諏訪道跡	北橋村		○					○	縄文早期住居1・終末期円墳1・近世溝・墓坑・道路	22
45	真壁向山道跡V	北橋村				○				緑塚1・平安住居5・ビット群	23
46	真壁向山道跡II	北橋村		○						縄文前期住居1・土坑15・平安住居1	18
47	真壁向山道跡I	北橋村		○				○		縄文土坑1・中世溝1	18
48	水泉寺道跡B	北橋村								古墳～平安住居10	17
49	下達原道跡B区	北橋村								縄文時代中層土坑2	18
50	下達原道跡C・D区	北橋村			○					弥生後期住居24・他住居11・時期不明土坑37	18
51	中村道跡	渋川市			○	○	○	○	○	弥生中期～古墳前期住居3・周溝墓1・古墳中期～後期住居3・古墳1・水田・畑・奈良～平安住居34・掘立5・櫛列・中・近世竪穴13・井戸11・墓7・江戸畑・田・道・用水他	24
52	八木原沖田道跡	渋川市				○				古墳住居6・土坑ないし墓塚10前後・掘立2	25
	八木原沖田Ⅱ道跡	渋川市				○				弥生後期～古墳前期集落。後期水田・畑・奈良～平安集落	26
	八木原沖田Ⅲ道跡	渋川市								奈良～平安住居70・掘立31・井戸・土坑・溝	27
	八木原沖田Ⅳ道跡	渋川市								古墳後期住居1・奈良～平安住居8・掘立20・溝・耕作跡	28
	八木原沖田Ⅴ道跡	渋川市				○				古墳後期住居2・奈良～平安土坑・ビット70・有馬条里に伴う溝	28
	八木原沖田Ⅵ道跡	渋川市				○				奈良～平安住居4・掘立1	29
八木原沖田Ⅶ道跡	渋川市				○				奈良住居3・掘立1・溝・土坑	30	
八木原沖田Ⅷ道跡	渋川市				○				奈良溝群・ビット群	30	
53	八木原沖田Ⅵ・X道跡	渋川市			○	○				古墳水田・奈良溝4・ビット5・平安住居2	31・32
54	有馬条里道跡	渋川市								奈良～平安時代住居52・掘立2・土坑61・溝1・井戸1・製鉄精錬跡3・鍛冶跡関連土坑1	33
55	岩宮道跡	渋川市						○		奈良～平安時代集落。江戸時代水田	34
56	半田常法院道跡	渋川市						○		近世溝2・土坑17	35
57	新城道跡	渋川市						○		中世溝	36
58	半田新城道跡C・D・g地点	渋川市								奈良～平安住居15・土坑・中世城館跡に伴う塚・他	34・37・38
59	半田築地前道跡a地点	渋川市				○	○			奈良住居1・土坑・中世火葬墓1	39
60	半田築地前道跡H地点	渋川市								時期不明土坑・掘立・竪穴状遺構	34
61	半田築地A道跡	渋川市				○				平安住居1・土坑4	36
	半田築地B道跡	渋川市								奈良～平安時代水田2	36
	半田築地C道跡	渋川市								平安土坑・溝	36
	半田築地D地点	渋川市								平安住居3・掘立1・土坑7	40
62	半田築地E地点	渋川市								平安住居跡2・他	41
63	半田築地F地点	渋川市								平安住居8・掘立1・土坑	41
64	中原道跡	渋川市								平安住居3	42
65	半田工業団地取付道路道跡	渋川市					○			奈良～平安住居・掘立・溝・谷・水田・他	43
66	半田南原道跡	渋川市		○		○				縄文前期住居28・土坑194・小穴117・終末期円墳26・中期円墳2・墓2・道1	44
	半田中原・南原道跡	渋川市								奈良～平安住居162・掘立38・井戸3・道1・櫛列2・地割れ40・他	45
67	半田古墳群	渋川市				○				古墳12	46
68	中町道跡	吉岡町							○	近世水田43・溝6	35
69	十二廻り道跡	吉岡町						○		中世井戸1・不明土坑16・井戸2・溝2・ビット24	35
70	桑原田道跡	吉岡町							○	水田102・溝21・畑8	35
71	阿久津道跡	吉岡町							○	近世水田80・溝20・道3・土坑8	35
72	万蔵寺廻り道跡	吉岡町						○		平安住居42・掘立2・不明土坑272・井戸1・溝10・ビット37・竪穴遺構1	35
73	三津屋古墳	吉岡町			○					八角墳1	47
74	熊野道跡	吉岡町				○				古墳～平安住居43・掘立3・土坑26・溝4・井戸1・ビット群	48
75	辺玉道跡	吉岡町								奈良～平安住居3・土坑3・ビット群	48
76	源平山古墳	吉岡町								古墳1	47
77	金竹西道跡	吉岡町								古墳後期以降住居81・掘立6・土坑25・溝15・井戸2・道路1・ビット群	49
78	七日市道跡	吉岡町		○	○	○	○			縄文住居1・土坑4・古墳～平安住居48・土坑112・溝8・井戸6・墓石7	50

第3章 地理的・歴史的環境

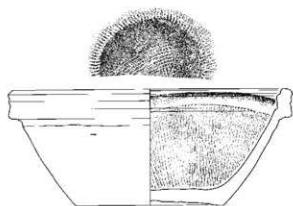
番号	道跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	内容	文献
79	女塚道跡	吉岡町					○			奈良～平安住居3・溝1・道路1	50
80	大久保A道跡	吉岡町				○	○			古墳～平安住居255・土坑123・溝90・掘立10・井戸11・道路2・掘立2・石垣道槽1	51
81	大久保B道跡	吉岡町					○			奈良～平安住居6・土坑9・溝1・掘立1・井戸2	52

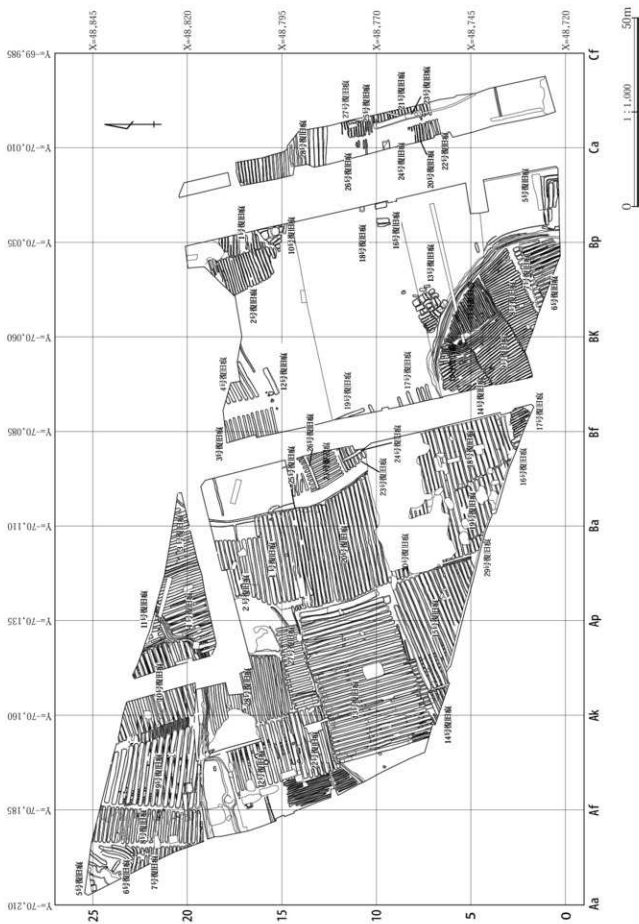
文献

- 『年報』第38集 2007 前橋市教育委員会
- 『群馬県古城跡地の研究』上巻 1978 群馬県文化事業振興会
- 『文化財調査報告書』第35集 2004 前橋市教育委員会
- 『田口八幡Ⅰ道跡』2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査班
- 『田口八幡Ⅱ道跡』2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査班
- 『富士見道跡群 田中道跡 窪谷戸道跡 見取道跡』1986 富士見村教育委員会
- 『富士見道跡群 向吹張道跡 岩之下道跡 田中道跡 寄居道跡』1987 富士見村教育委員会
- 『平成9年度 村内道跡』1998 富士見村教育委員会
- 『南橋村誌』1955 南橋村誌編纂委員会
- 『富士見地区道跡群 陣場・庄原古墳群』1991 富士見村教育委員会
- 『富士見地区道跡群 愛宕山道跡 初室古墳 愛宕道跡 日向道跡』1994 富士見村教育委員会
- 『北橋道跡群発掘調査報告書Ⅱ 東線道跡・瓜山道跡』1990 北橋村教育委員会
- 『北橋道跡群発掘調査報告書Ⅲ 芝山道跡』1993 北橋村教育委員会
- 『北橋道跡群発掘調査報告書Ⅰ 城山道跡』1989 北橋村教育委員会
- 『下箱田山道跡』1990 (財)群馬県埋蔵文化財調査委員会
- 『陽示前道跡』1987 北橋村教育委員会
- 『北橋村村内道跡Ⅱ』1994 北橋村教育委員会
- 『村内道跡Ⅰ』1993 北橋村教育委員会
- 『北橋村村内道跡Ⅳ』1996 北橋村教育委員会
- 『朝日塚古墳』1985 北橋村教育委員会
- 『開発道跡』1995 北橋村教育委員会
- 『秩丸第二水道開通埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 箱田道跡群(上原・三角道跡)真原諏訪道跡』1999 北橋村教育委員会
- 『真原山道跡Ⅴ』1995 北橋村教育委員会
- 『中村道跡』1986 渋川市教育委員会
- 『市内道跡Ⅲ』1990 渋川市教育委員会
- 『市内道跡Ⅳ』1991 渋川市教育委員会
- 『八木原沖田Ⅲ道跡』1993 渋川市教育委員会
- 『八木原沖田Ⅳ・Ⅴ道跡』1993 渋川市教育委員会
- 『八木原沖田Ⅵ道跡』1996 渋川市教育委員会
- 『八木原沖田Ⅶ・Ⅷ道跡』1996 渋川市教育委員会
- 『八木原沖田Ⅷ道跡』1995 渋川市教育委員会
- 『八木原沖田Ⅹ道跡』1998 渋川市教育委員会
- 『有馬条里道跡』1983 渋川市教育委員会
- 『市内道跡Ⅹ』1997 渋川市教育委員会
- 『阿久津道跡・万蔵寺廻り道跡・桑原田道跡・十二廻り道跡・中町道跡・平田常法院道跡』2011 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『市内道跡Ⅱ』1989 渋川市教育委員会
- 『市内道跡Ⅵ』1994 渋川市教育委員会
- 『市内道跡Ⅶ』1996 渋川市教育委員会
- 『平田築地前道跡』1996 渋川市教育委員会
- 『平田築師道跡』1995 渋川市教育委員会
- 『市内道跡Ⅵ』1993 渋川市教育委員会
- 『渋川市内道跡Ⅷ』1999 渋川市教育委員会
- 『平田工業団地取付道路道跡』1991 渋川市教育委員会
- 『平田南原道跡』1994 渋川市教育委員会
- 『平田中原・南原道跡』1994 渋川市教育委員会
- 『群馬県道跡台帳Ⅱ(西毛編)』1972 群馬県教育委員会
- 『三津屋古墳』1996 吉岡町教育委員会
- 『熊野・辺玉道跡』1995 吉岡町教育委員会
- 『金竹西道跡』1994 吉岡町教育委員会
- 『七日市道跡 滝沢道跡 女塚道跡』吉岡村教育委員会
- 『大久保A道跡』1986 吉岡村教育委員会
- 『有馬道跡Ⅰ 大久保B道跡』1989 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

第4章 1面の調査

(近 世)





第12図 1面1期全体図

第4章 1面の調査(近世)

1面調査で検出した遺構は基本的に近世遺構と考えられるものであるが、すべてが一時期のものではなく検出された状況から3時期に分離することができそうである。つまり、第1期は天明三年以降に実施された天明泥流被害の復旧作業の痕跡であり、泥流復旧痕が主体をなしている。第2期は、天明三年の泥流被害を受けた当時の遺構であり、検出遺構には、建物、井戸、土塁、溝、道、畑、水田、墓地などがある。第3期が近世の耕作土中または下部で検出された天明三年よりも古い時期の遺構であり、一部は中世末まで遡る可能性のあるものも含んでいる。検出された遺構は、手の加えられた痕跡のある河川流路跡や溝である。本稿で「復旧痕」と呼称したのは、天明三年の浅間山噴火に伴う泥流被害を受けた水田や畑を復旧するために掘削された、溝状または土坑状の遺構を総称したものである。また、調査時点では掘削方向や仕様の違いなどから、一連の作業と考えられる群を1単位と捉えて遺構番号を付したが、一部整理段階で遺構番号を変更したものもある。田口上田尻遺跡Ⅱ区で復旧痕の残存しなかった部分で、表土を含む層によって埋没した溝について遺構番号を付して調査を行ったものがあるが、近代～現代に構築されたと判断したためにここでは報告を省いている。また、できる限り遺構の個別記載に努めたが、土坑・ピットについては、検出数が多いため一覽で必要事項について提示している。

第1節 第1期(天明泥流被災以降)

第1項 田口上田尻遺跡

(1) 復旧痕

田口上田尻遺跡の調査では、Ⅳ区西半が泥流で埋もれたまま復旧の痕跡がなく、Ⅴ区北側の一角の墓地部分に復旧痕が及んでいない2カ所を除いて全域から復旧痕が検出されている。Ⅱ区東半に空白部分が見られるが、調査区際の断面では浅い部分で終わっている復旧痕が観察できることから、本来は隙間なく復旧が行われていたも

のと考えられる。当遺跡において平面プランが確認できた部分について単位として捉え得たのは、31カ所であった。遺構番号は調査段階に付した番号を踏襲しているが、変更をしたものがある。19号復旧痕として広範囲に捉えていたものを掘削状況の違いから19号と30号に分離した。また、12号復旧痕としていたものを12号と22号に分離して報告している。

1号復旧痕(第13・36図 P.L.228)

位置:Ap ~ Ba-14 ~ 16グリッド 形状:溝状 検出条数:10条 規模:23.9m×1.10m 残存深度:0.40 ~ 0.50m 条間隔:0.25 ~ 0.45m 条方位:E-10°-N
遺物:陶磁器・銭貨 所見:全体に10cm大の焼石をまばらに含む締まりの弱い泥流が充填されており、焼石をある程度取り除いた泥流を埋め込んだものと考えられる。また、断面形は台形状を呈する傾向があり、掘削容量を増やす意図が感じられる。東側には底面付近に川原石が多数出土したが、これは後述する河川左岸際に設けられた石積みを崩した結果と見られる。また、この位置には天明三年当時に機能していた道が想定できるので、この道際から掘削を開始したものと考えられる。南端の1条は西側で南にやや曲がり、20号復旧痕を掘り込んでいます。南寄りに掘削された復旧痕中央の底面に径0.7mほどの範囲に被熱痕跡のある小礫と炭化物が盛り上がったような状況で検出されている。これは、泥流を埋め込む以前と同様な状況であったものと見られることから、復旧痕掘削作業に伴って焚火のような行為を行った痕跡ではないかと考えられる。

2号復旧痕(第13・36図 P.L.228)

位置:Aq ~ At-15 ~ 18グリッド 形状:溝状 検出条数:9条 規模:15.10 ~ 17.4m×0.80 ~ 1.00m 残存深度:0.40 ~ 0.50m 条間隔:0.15 ~ 0.65m 条方位:E-12°-N 遺物:鉄製品等 所見:1号復旧痕と平行しており一連の作業で掘削された可能性があるが、開始位置が異なるために別単位として扱った。天明三年当時水田であった場所に掘削されたもので、1号復旧痕よりも5mほど西側から掘削が開始されているのは、東側に

ある石積み部分を崩すことを避けるためと考えられる。西側は、湾曲した端部を形成して終了しているが、これは西側にあった墓地の境界をトレースしたものと思われる。充填していたのは、焼石をまばらに含む締まりのない泥流である。確認面からの残存深度は上記の通りであるが、西側断面での確認では、近世の耕作土面と考えられるIV層上面からは1.10mほどの深さがあった可能性がある。

3号復旧痕(第14・15・36図 P.L. 3・228)

位置:Ar~Ba-19~21グリッド 形状:溝状 検出条数:11条 規模:(9.00)m×0.90~1.00m 残存深度:0.60~0.70m 条間隔:0.10~0.60m 条方位:N-20°-W 遺物:砥石 所見:4号復旧痕との間にやや小規模な復旧痕が介在することから区別した。掘削は水田面から行われたものと考えられ、東側に想定される道路部分から掘削を開始したと思われる。断面は袋状を呈しており、4号復旧痕側の復旧痕には焼石を主体とした埋め込みが行われていた。また、現道際の断面で見ると、掘削面の上に20~40cmの厚さを付けた泥流が見られることから、復旧痕の容量では泥流を片付けきれずに、上面に泥流をならしたものと考えられる。

4号復旧痕(第14・16・36・42図 P.L. 3・228)

位置:An~As-18~21グリッド 形状:溝状 検出条数:18条 規模:(12.60)m×0.40~1.10m 残存深度:0.50~0.80m 条間隔:0.30~0.65m 条方位:N-20°-W 遺物:砥石 所見:水田から畑にかけて掘削された復旧痕で、北側は泥流直下から検出されたクランク状の19号溝に沿って止まっている。3号復旧痕との境の復旧痕2本が極端に小規模であり、この部分が作業境として最後に掘削されたものと考えられる。

5号復旧痕(第19図)

位置:Aa~Ab-24・25グリッド 形状:溝状 検出条数:3条 規模:(1.40)m×1.40~1.70m 残存深度:0.70m 条間隔:0.50m 条方位:N-13°-W 遺物:なし 所見:15号溝を南限として北側に掘削されているが、調査範囲が狭いため詳細は不明である。

6号復旧痕(第19図 P.L. 3)

位置:Ab~Ad-22~25グリッド 形状:溝状 検出条数:6条 規模:2.90~9.00m×0.60~1.10m 残存深度:0.25~0.50m 条間隔:0.20~0.55m 条方位:蛇行

するため計測不可 遺物:なし 所見:7・8号復旧痕と15号溝との間に形成された三角形の場所を埋めるかのよう方向を変えて掘削されている。

7号復旧痕(第19・20・37図 P.L. 4・228)

位置:Ab~Ad-19~22グリッド 形状:溝状 検出条数:15条 規模:(7.50)m×0.80~1.20m 残存深度:0.60~0.80m 条間隔:0.30~0.40m 条方位:E-2°-S 遺物:砥石 所見:8号復旧痕と桃ノ木川との間に検出したもので、北側は6号復旧痕の掘り方に合わせるように湾曲している。調査区際の断面では、復旧痕内だけでは泥流を処理しきれず、残った泥流を上面に0.60m程度の厚さに覆っていたことが判明した。

8号復旧痕(第19・20・37図 P.L. 3)

位置:Ad~Af-19~25グリッド 形状:溝状 検出条数:25条 規模:8.20~10.00m×0.50~0.90m 残存深度:0.20~0.40m 条間隔:0.35~0.60m 条方位:E-6°-S 重複:1号畑→8号復旧痕 遺物:底面付近から「景元通宝」が1枚出土したが、復旧痕の掘削に伴い周辺から混入したのと考えられる。所見:48号溝を南限として、7・9号復旧痕とわずかの間隔を置いて短冊状に復旧痕が掘削されている。9号復旧痕などと比較するとやや小規模であり、掘り方も雑な印象を受ける。充填していた泥流は焼石が少ない傾向がある。畑の残存は認められなかったが、畑地に掘削されたものと考えられる。

9号復旧痕(第21・37図 P.L. 4・228・239)

位置:Af~Aj-19~23グリッド 形状:溝状 検出条数:15条 規模:11.70~22.90m×1.00~1.20m 残存深度:0.50~0.70m 条間隔:0.40~0.70m 条方位:E-7°-S 重複:1~3号畑→9号復旧痕 遺物:陶磁器・煙管 所見:48号溝を南限として台形状に復旧痕が配置されている。西側はわずかの間隔を空けて8号復旧痕に隣接する。復旧痕の間に1~3号畑が残存しており、被災前は畑地であった場所である。断面は台形状に南北両側がオーバーハングするものと片側だけのものがある。

10号復旧痕(第14・18・37図 P.L. 4・5・228)

位置:Ai~An-19~23グリッド 形状:溝状 検出条数:21条 規模:20.20~20.80m×0.80~1.20m 残存深度:0.50~0.60m 条間隔:0.10~0.75m 条方

位: E-18°-N 重複: 3・10号畑→10号復旧痕 遺物: 砥石 所見: 東側は19・20号溝、南側は19号溝とその延長上にある48号溝で区切られた範囲に掘削されたもので、西側は2.4mほどの間隔を置いて9号復旧痕と隣接している。断面は概ね方角を呈するが、南側をわずかにオーバーハングさせる特徴的な掘り方をしている。北寄りの復旧痕に焼石がやや多く、南側は目立たない。復旧痕の間に3・10号畑が残存しており、被災前は畑地であった場所である。

11号復旧痕(第14・17・38図 P.L.228)

位置: Ao-Ap-21グリッド 形状: 溝状 検出条数: 6条 規模: (2.20)m×0.60~1.00m 残存深度: 0.70m 条間隔: 0.30~0.70m 条方位: N-17°-W 遺物: 石臼 所見: 底面の深さが一定しないため、土坑状に検出された部分があるが、基本的には溝状に掘削されたものである。4号復旧痕と同様に19号溝に沿って掘削されている。

12号復旧痕(第22・23・39図 P.L.5・229)

位置: Af-Aj-14~17グリッド 形状: 溝状 検出条数: 12条 規模: 12.60~16.40m×0.60~1.10m 残存深度: 0.60~0.70m 条間隔: 0.40~0.75m 条方位: E-20°-N 遺物: 陶磁器・石臼 所見: 西側の復旧が1・2号建物跡にまで及んだために、建物の礎石が多量に復旧痕内に廃棄されていた。北側は1号建物跡の北側にあった土塁状の高まりにまでは達していないので、9号復旧痕との間には復旧痕の掘削されていない空間がある。調査区際の断面で、復旧痕掘り込み面の上に0.40mほどの厚さの泥流層が確認されているので、1区などで確認されていた状況と同様に、復旧痕だけでは泥流の処理ができていない泥流を上面にならしたものと考えられる。南端の1条が短く、しかも22号復旧痕と重複するようなあり方をしていることから、北側から掘削開始され、各条は東から西に向かって掘削されたものと考えられる。

13号復旧痕(第24・25・39・40図 P.L.5・6・229)

位置: Ah-Aq-7~14グリッド 形状: 溝状 検出条数: 32条 規模: 22.00~27.30m×0.90~1.90m 残存深度: 0.35~0.70m 条間隔: 0.30~0.60m 条方位: N-15°-W 遺物: 18世紀代の瀬戸陶器(鉢(61)や、在地系土器焙烙(71)が出土しているが、周辺からの混入

である。所見: 一連の復旧痕としては、20号復旧痕に次いで広い面積を占めているものである。水田との境界を北限とし、南は14・15号復旧痕、東側は20号復旧痕と、それぞれわずかの間隔を置いて隣接しており、西側は桃ノ木川河川敷への落ち際まで掘削されている。東側の4本の復旧痕はやや規模が大きく、その内の2本はやや湾曲ぎみに掘削されている。これは、西側が作業開始部分であり、終点となる東側の20号復旧痕と間隔をすり合わせるために掘削幅を変えたものと考えられる。各復旧痕には北側の部分を深掘りし緩やかに立ち上げる傾向があり、この部分が終点と考えられる。また、西側の作業開始地点は基盤となる層の締まりが弱く、さらにオーバーハングぎみに掘削したためか、復旧痕掘削直後に壁の崩壊があったらしく、崩れ落ちた壁をそのまま泥流で埋めていた場所があった。

14号復旧痕(第26図)

位置: Aj-AI-6・7グリッド 形状: 溝状 検出条数: 5条 規模: (7.00)m×0.50~1.10m 残存深度: 0.45~0.65m 条間隔: 0.50~0.75m 条方位: E-25°-N 遺物: なし 所見: 調査区の際で検出されたために全体像は判然としない。西側の状況がわからないので即断はできないが、東端部が深く掘削される傾向が窺えるので、13号復旧痕の事例から見ると西側から掘削を開始しているものと考えられる。

15号復旧痕(第27・40図 P.L.229)

位置: AI-As-4~9グリッド 形状: 溝状 検出条数: 19条 規模: 24.40~29.60m×0.90~1.50m 残存深度: 0.30~0.70m 条間隔: 0.15~0.55m 条方位: E-22°-N 遺物: 中世となる龍泉窯系青磁皿(80)と盤類(81)が出土したが、周辺からの混入と考えられる。所見: 泥流で埋没した73号溝を東限としてわずかの間隔を空けて20号復旧痕に隣接する。13号復旧痕との間に掘削された1本だけが他の復旧痕よりも短く設定されていることから、掘削の開始は南から行われた可能性が高く、各条の掘削は西側から開始されたものと考えられる。

16号復旧痕(第29・30図 P.L.6)

位置: Be-2グリッド 形状: 溝状 検出条数: 3条 規模: (3.50)m×1.10m 残存深度: 0.40~0.55m 条間隔: 0.10~0.25m 条方位: N-21°-W 遺物: 中世の瀬戸・美濃陶器(緑釉はさみ皿)が出土したが、周辺

からの混入である。所見：調査区南端でわずかに検出されたもので、全体像は不明である。東側の17号復旧痕とは掘削規模の違いから分離した。

17号復旧痕(第29・30図 P.L. 6)

位置：Be～Bg-1・2グリッド 形状：溝状 検出条数：11条 規模：3.70～6.10m×0.50～0.60m 残存深度：0.20～0.30m 条間隔：0.05～0.30m 条方位：N-28°-W 遺物：なし 所見：16号復旧痕などと比較すると掘り込み幅、深さともに小規模で、条間が極めて狭い特徴がある。こうした掘り方の特徴は、現道東側の田口下田尻遺跡9号復旧痕と共通するものであり、位置関係から見ても一連の作業として行われた可能性が高いものである。

18号復旧痕(第29・30・35・41図 P.L. 6・229)

位置：Bb～Bf-2～6グリッド 形状：溝状 検出条数：14条 規模：(16.90)m×0.95～1.25m 残存深度：0.35～1.05m 条間隔：0.15～0.45m 条方位：E-16°-N 遺物：底面付近から「天冠通宝」が1点(91)出土したが、掘削に伴い混入したものと考えられる。所見：西側でわずかの間隔を置いて19号復旧痕と隣接し、東側は現道下で不明であるが、田口下田尻遺跡までは及んでいない。南側の2条が他と比較して深く掘削されており、焼石を主体に埋め込んでいた。掘削の開始は北側からと考えられ、条端部の配置から3条単位で掘削されたものと考えられる。

19号復旧痕(第31・32・35図 P.L. 7・229)

位置：At～Bd-3～5グリッド 形状：溝状 検出条数：14条 規模：11.50～13.70m×0.85～1.10m 残存深度：0.30～0.40m 条間隔：0.10～0.50m 条方位：E-15°-N 遺物：砥石 所見：18号復旧痕の西側に位置し、29号復旧痕とわずかに重複するが、新旧関係は不明である。掘り方は18・29・30号復旧痕と共通する。

20号復旧痕(第33・34・41図 P.L. 7・229)

位置：Ap～Bf-5～14グリッド 形状：溝状 検出条数：21条 規模：26.00～29.70m×0.65～1.15m 残存深度：0.35～0.69m 条間隔：0.15～0.35m 条方位：E-12°-N 遺物：煙管 所見：道路遺構を東限として西側は13号復旧痕に隣接する。北側の1号復旧痕の南端の1条は当復旧痕の部分まで掘り込んでいる。各条の掘削は道路を基準として東側から開始されたものと考え

られる。条端部の状況から3条が1単位であったものと考えられるが、中央部分に2条1単位となる部分があり、この2条と北側の単位では端部に開きが認められることから、分離できる可能性がある。

21号復旧痕(第31～33図 P.L. 7)

位置：Bb～Bd-11～14グリッド 形状：溝状 検出条数：10条 規模：8.90～9.80m×0.55～0.75m 残存深度：0.45～0.55m 条間隔：0.45～0.55m 条方位：N-28°-W 遺物：なし 所見：道路遺構を西限として設定されたものと考えられ、西側の20号復旧痕とは3.30mほどの間隔を置いて掘削されている。26号復旧痕・31号復旧痕と重複しているが、31号復旧痕に充填していた泥流は暗色でオリジナルに近いものであるのに対して、21号復旧痕に充填していたのはやや明るい色調の泥流であることから、31号復旧痕が先行して掘削・埋め戻しが行われたものと考えられる。また、26号復旧痕については、重複する際に両側ともに底面が上がっていることから、掘削に際して26号復旧痕の存在が意識されていると考えられることから、21号復旧痕に先行しているものと考えられる。

22号復旧痕(第22図 P.L. 6・7)

位置：Ag～Ak-12～14グリッド 形状：溝状 検出条数：8条 規模：17.90m×0.70～1.20m 残存深度：0.70～0.90m 条間隔：0.45～0.55m 条方位：E-14°-N 遺物：なし 所見：当初は12号復旧痕と一連の復旧痕と捉えていたが、12号復旧痕が畑地と宅地に掘削されているのに対して、当復旧痕は水田面に掘削され規模も若干違っていることから新たに遺構番号を付けた。南側の2条が余った空間を埋めるかのように掘削されていることから 掘削の開始は北側からで、各条は東側から掘削されたものと思われる。

23号復旧痕(第31・33・41図 P.L. 7)

位置：Bc～Be-10～12グリッド 形状：溝状 検出条数：7条 規模：(6.80)m×0.60～0.90m 残存深度：0.45～0.55m 条間隔：0.10～0.30m 条方位：E-25°-N 遺物：陶磁器 所見：21号復旧痕と同様に道路遺構を西限としており、20号復旧痕と3.30mほどの間隔が開いている。当復旧痕も直行する24号復旧痕と重複している。24号復旧痕は当復旧痕よりも0.20mほど深く掘削されているが、重複する際に底面が上がっていることから、

21号復旧痕の場合と同様に、24号復旧痕が先行するものと考えられる。また、底面の標高が南に向かうにしたがって下がる傾向がある。これは南の復旧痕ほど深く掘削されたのではなく、当時の地形が南に緩やかに傾斜していたことを示していると思われる。

24号復旧痕(第31・33図 P.L.7)

位置: Bd・Be-10・11グリッド 形状:溝状 検出条数:1条 規模:(8.20)m×0.80m 残存深度:0.60m 条間隔:-m 条方位:N-31°-W 遺物:なし 所見:現道下の状況がわからないが、単独で掘削された復旧痕と見られる。前述のように23号復旧痕に先行して掘削・埋め戻しされたものと考えられる。

25号復旧痕(第31・33図 P.L.8)

位置: Bb・Bc-13・14グリッド 形状:溝状 検出条数:4条 規模:3.70~6.70m×0.55~0.70m 残存深度:0.07m 条間隔:0.45~0.75m 条方位:E-0~20°-N 遺物:なし 所見:掘り込みが浅く残存状態の悪い復旧痕であり、31号復旧痕と類似するものである。条の掘削方向は一定せず、6号復旧痕のように復旧痕間の隙間を埋めるように設定されたものと見られる。また、当復旧痕の北側(Ⅲ区)には復旧痕の空白の部分があるが、この部分にも道路遺構部分の空白を除いて当復旧痕と同様の浅い復旧痕が掘削されていたと考えられる。

26号復旧痕(第31~33図 P.L.8)

位置: Bc・Bd-13グリッド 形状:溝状 検出条数:1条 規模:(9.50)m×0.80m 残存深度:0.90m 条間隔:-m 条方位:E-24°-N 遺物:なし 所見:24号復旧痕と同様に単独で掘削されたものであり、21号復旧痕に先行する。

27号復旧痕(第26・41図 P.L.8)

位置: Ak~Ao-13~15グリッド 形状:溝状 検出条数:17条 規模:5.70~7.00m×0.70~0.80m 残存深度:0.50~0.90m 条間隔:0.30~0.75m 条方位:N-17°-W 遺物:16世紀代の瀬戸・美濃陶器丸皿(101)が出土したが、周辺からの混入である。所見:周辺よりも一段低い水田部分に掘削された復旧痕で、掘削断面は方形で東側がややオーバーハングぎみである。比較的粘性のある水田耕土中に掘り込まれているために残存状況が良く、掘削面に鋤先と思われる工具痕が観察された。掘削は西側から開始され、各条は北から南に向かって掘

削されたものと思われる。

28号復旧痕(第28・42図 P.L.8・229)

位置: Aj~An-14~19グリッド 形状:溝状 検出条数:19条 規模:13.20~18.00m×0.80~0.90m 残存深度:0.35~0.50m 条間隔:0.25~0.60m 条方位:E-10°-N 遺物:底面付近から「皇宋通宝」が1枚(107)出土したが、復旧痕の掘削に伴い周辺から混入したのと考えられる。所見:48号溝を北限、墓地和4号道を東限として、西側で12号、南側で27号復旧痕に隣接する。めだって焼石の多い条は見られなかったが、部分的に人頭大の焼石が入っていた。復旧痕の配置状況から北側から掘削が開始され、各条は東から西に向かって掘削されたものと思われる。

29号復旧痕(第31図)

位置: As・At-4・5グリッド 形状:溝状 検出条数:5条 規模:(3.90)m×0.70~0.95m 残存深度:0.20~0.60m 条間隔:0.10~0.35m 条方位:E-17°-N 遺物:なし 所見:19号復旧痕と15号復旧痕の間を埋めるように小規模に掘削されたものである。南側の4条はほぼ同様の掘り方であるが、北端の1条はやや幅が狭く南側にオーバーハングして深く掘られている。掘削は南側から開始されたものと考えられる。

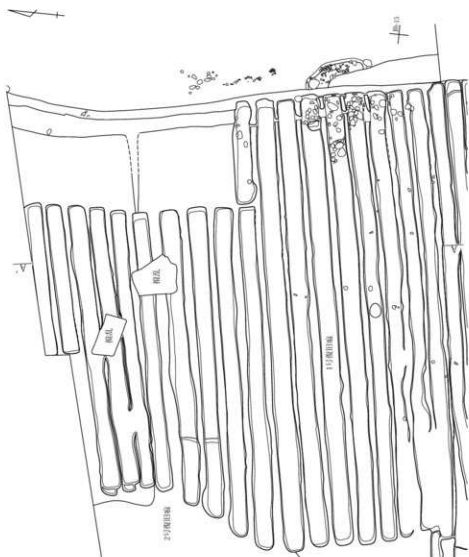
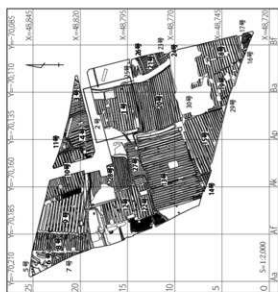
30号復旧痕(第33・34図)

位置: Ar~Bf-5~10グリッド 形状:溝状 検出条数:16条 規模:(34.40)m×0.75~1.05m 残存深度:0.40~0.70m 条間隔:0.18~0.55m 条方位:E-13°-N 遺物:なし 所見:病院の建物によって擾乱されているため不明瞭であるが、天明泥流で埋もれた73号溝を西限として20・29号復旧痕と西端を揃えている。掘削の順序については不明であるが、南西部分の端部の状況から3条1単位の掘削がされたことがわかる。

31号復旧痕

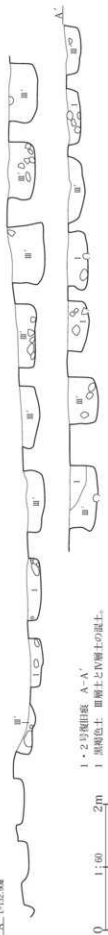
位置: Bc~Bd-11~14グリッド 形状:溝状 検出条数:4条 規模:-m×-m 残存深度:0.07m 条間隔:0.45~0.55m 条方位:不明 遺物:なし 所見:残存状況が悪く断片的に検出したために平面の図化までできなかった。

田口上田瓦葺跡 復旧痕



0 1:200 10m

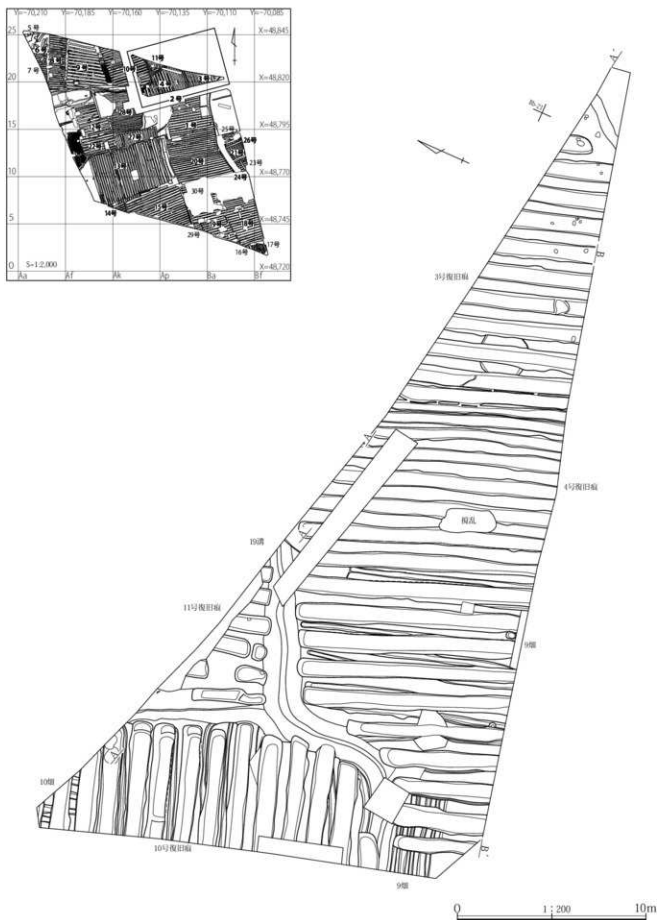
A-132.06



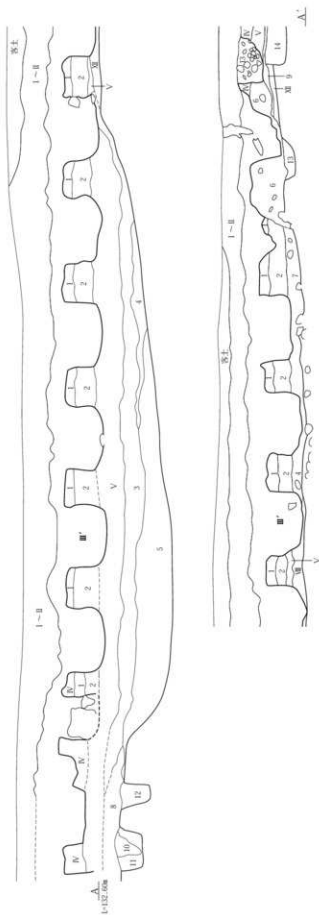
1・2号復旧痕 A-A'
 1 黒褐色土 田層土とIV層土の混土。

0 1:60 2m

第13図 1・2号復旧痕



第14图 3・4・10・11号復旧痕



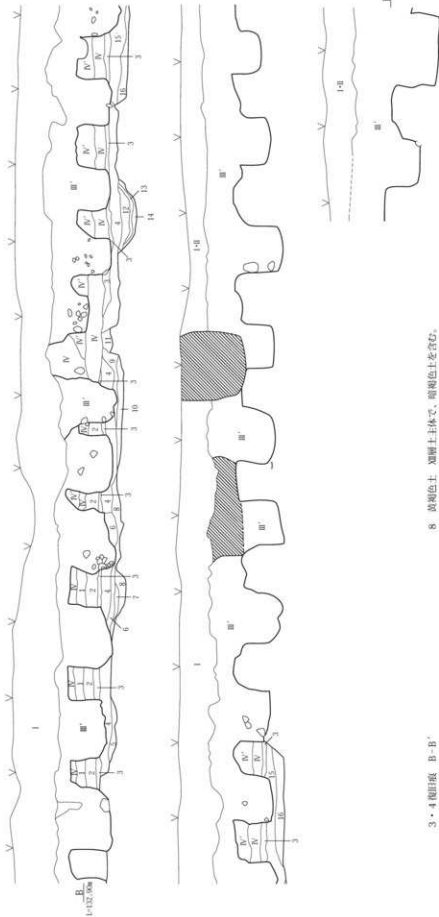
3号復旧棟 A-A'

- 1 灰褐色土 IV層土に類似する水田耕作土。
- 2 暗褐色土 白色砂を含む粘質土。(近世耕作土)
- 3 暗褐色土 白色砂と灰化物を少量、As-Bを多量に含む。
- 4 灰褐色土 燧層土を主体とする層。
- 5 灰色砂質 燧層土中に含まれる砂層。
- 6 暗褐色土 粗粒砂を多量に、小礫を少量含む。
- 7 灰褐色土 IV層土を主体としより強い。

- 8 暗褐色土 Va・Vb層土と燧層土ブロックの混在で、灰化物を僅かに含む。
- 9 褐色土 灰化層の復元した層。
- 10 暗褐色土 As-Bを多く含む、しよりが強い。(14号土坑埋設土)
- 11 暗褐色土 10層土と燧層土の混在。(14号土坑埋設土)
- 12 暗褐色土 燧層土を主体で、全体に暗色を呈する。(8号ピット埋設土)
- 13 灰褐色土 Va・Vb層土を主体で、砂を含む。
- 14 暗褐色土 IV層土を主体で、燧層土ブロックを少量含む。(19号住居埋設土)



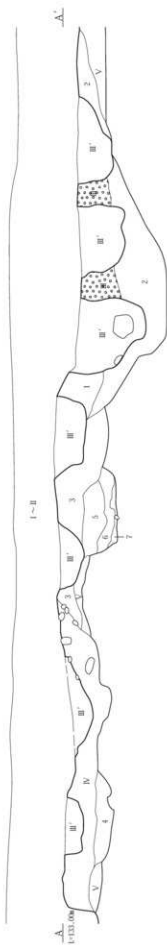
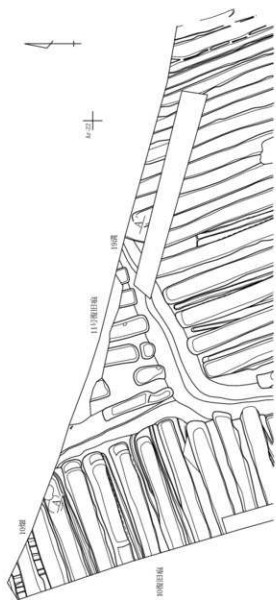
第15図 3号復旧棟土層断面図



- 3・4 褐色土 Ⅳ層に類似するが色調が明るい。
 Ⅳ' Ⅳ層に類似するが色調が暗い。
 1 褐色土 Ⅳ層土を多く含む。硬い。
 2 褐色土 Ⅰ層より明るい色調を呈する。硬い。
 3 褐色土 赤褐色土粒を含む。硬い。
 4 暗褐色土 Ⅳ層土小ブロックを含む。硬い。
 5 黄褐色土 Ⅳ層土主体で、暗褐色土を少量含む。
 6 暗褐色土 Ⅳ層土・Ⅳ層土粒を多く含む。
 7 赤褐色土 Ⅳ層土主体で、暗褐色土を含む。
 8 黄褐色土 Ⅳ層土主体で、暗褐色土を含む。
 9 暗褐色土 Ⅳ層土主体で、暗褐色土とⅣ層土を含む。
 10 暗褐色土 Ⅳ層土主体で、暗褐色土とⅣ層土を含む。
 11 暗褐色土 Ⅳ層土小ブロックを含む。
 12 黄褐色土 Ⅳ層土と暗褐色土の混在。(18号土坑)
 13 黄褐色土 Ⅳ層土主体で、暗褐色土を多く含む。(18号土坑)
 14 黄褐色土 Ⅳ層土主体で、暗褐色土を含む。(18号土坑)
 15 暗褐色土 暗褐色土を主体に含むⅣ層土との混在。
 16 黄褐色土 Ⅳ層土主体で、暗褐色土を全体に含む。

第16図 4号復旧痕土層断面図

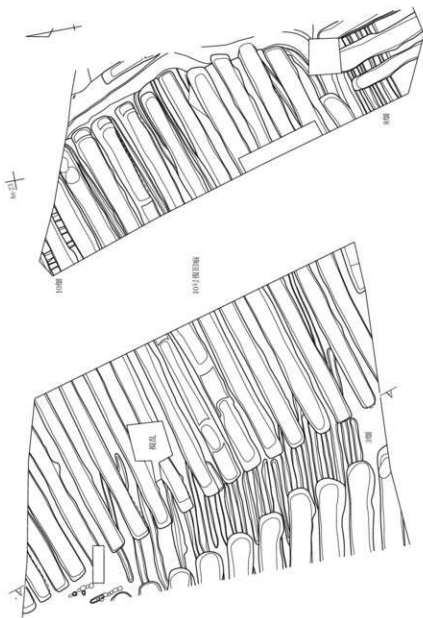
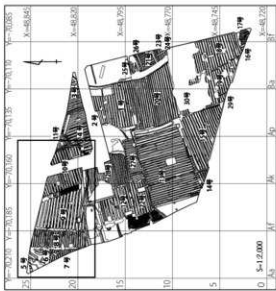
0 1:60 2m



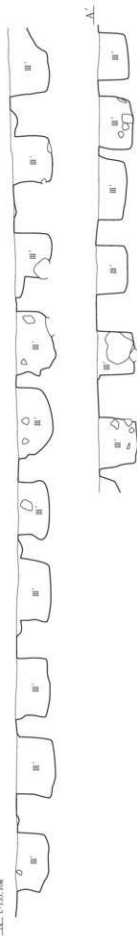
11号復旧痕 A-A'

- 1 暗褐色土 N層土~Va層土の混土。(35号溝埋没土)
- 2 灰褐色土 N層土主体、硬くしまりが強い。(35号溝埋没土)
- 3 暗褐色土 Va・Vb層土とⅡ層土の混土で、小礫及び20cm以上の礫を多量に含む。(35号溝土層)
- 4 40号溝埋没土。
- 5 95号土坑埋没土。
- 6 95号土坑埋没土。
- 7 95号土坑埋没土。

第17図 11号復旧痕

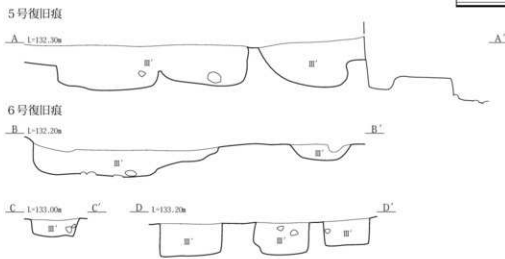
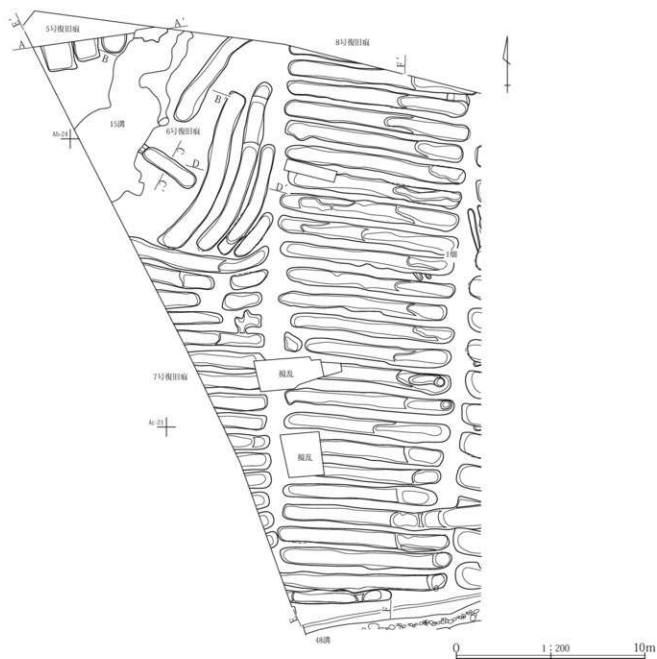


A. 1-133.106



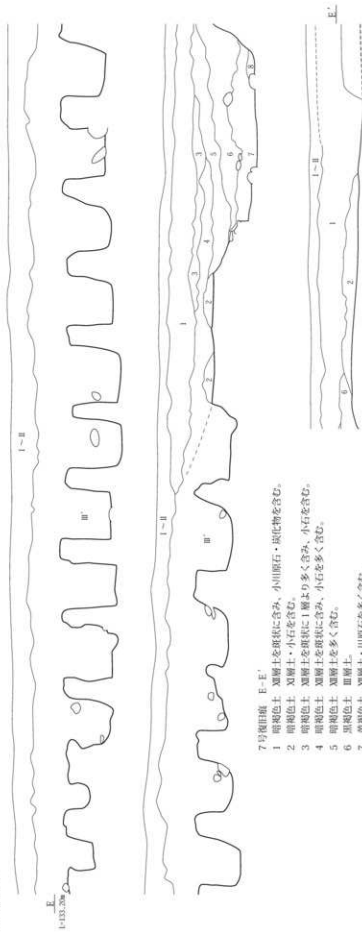
第188圖 10号復旧痕

第4章 1面の調査(近世)



第19図 5~8号復旧痕

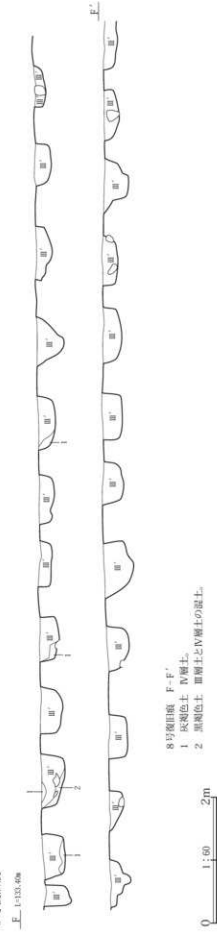
7号復旧痕



7号復旧痕 F-E'

- 1 暗褐色土 Ⅲ層土を炭状に含み、小川原石・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 Ⅲ層土・小石を含む。
- 3 暗褐色土 Ⅲ層土を炭状にⅠ層より多く含み、小石を含む。
- 4 暗褐色土 Ⅲ層土を炭状に含み、小石を多く含む。
- 5 暗褐色土 Ⅲ層土を多く含む。
- 6 黒褐色土 Ⅲ層土。
- 7 黄褐色土 Ⅲ層土・川原石を多く含む。
- 8 黄褐色土 川原石を多く含む。

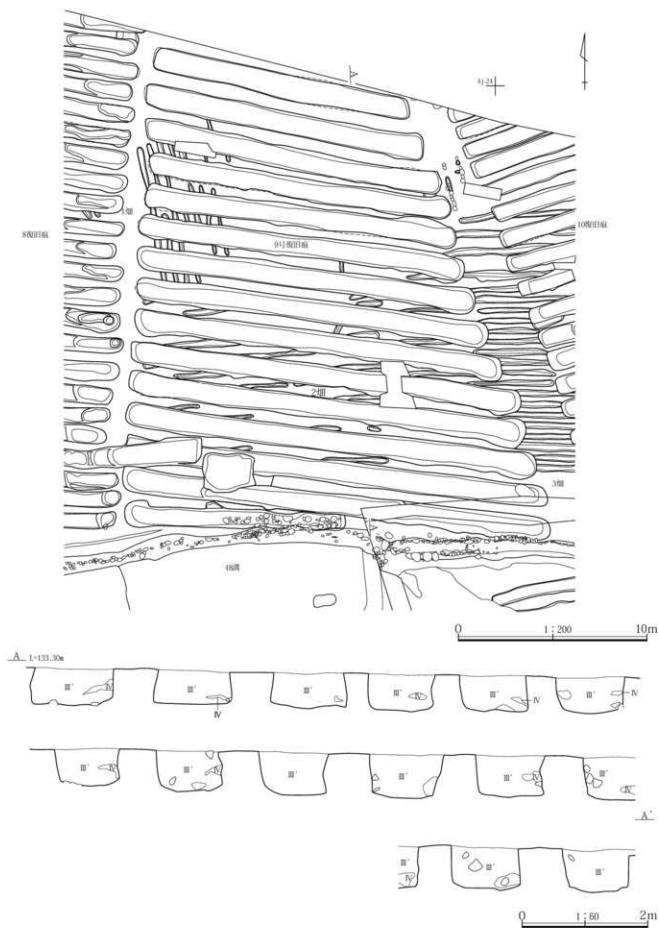
8号復旧痕



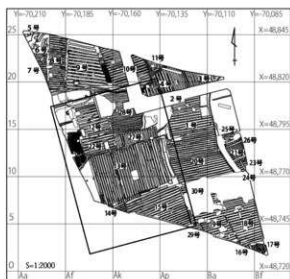
8号復旧痕 F-E'

- 1 黄褐色土 Ⅲ層土。
- 2 黄褐色土 Ⅲ層土とⅣ層土の混土。

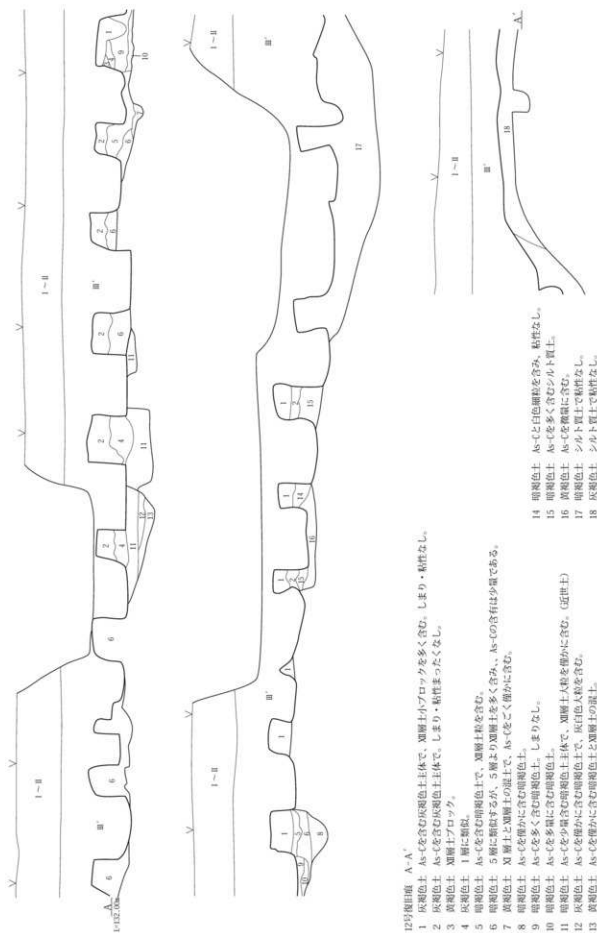
第20図 7・8号復旧痕土層断面図



第21図 9号復旧痕



第22図 12・22号復旧痕

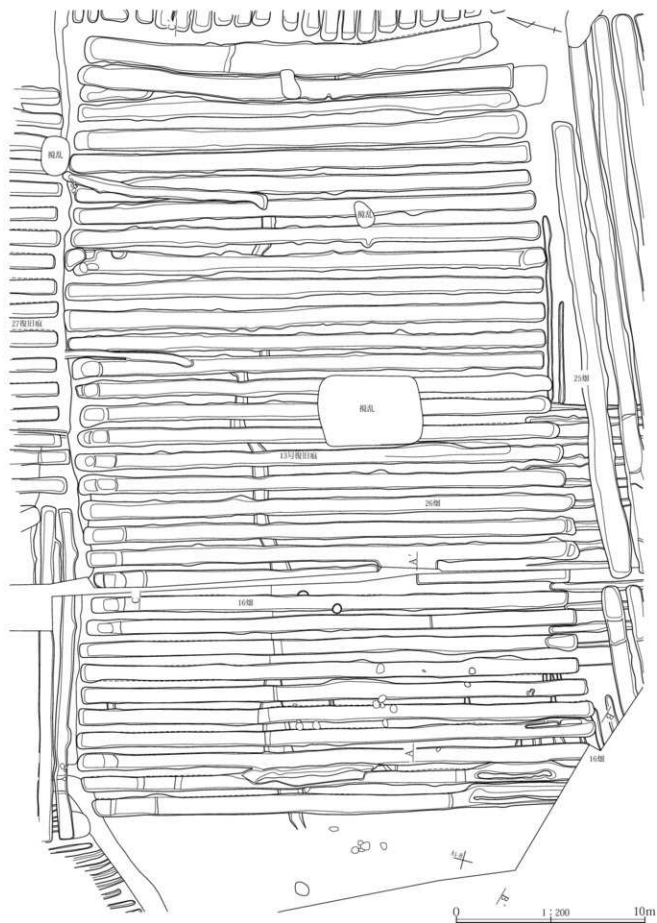


12号横田田 A-A'

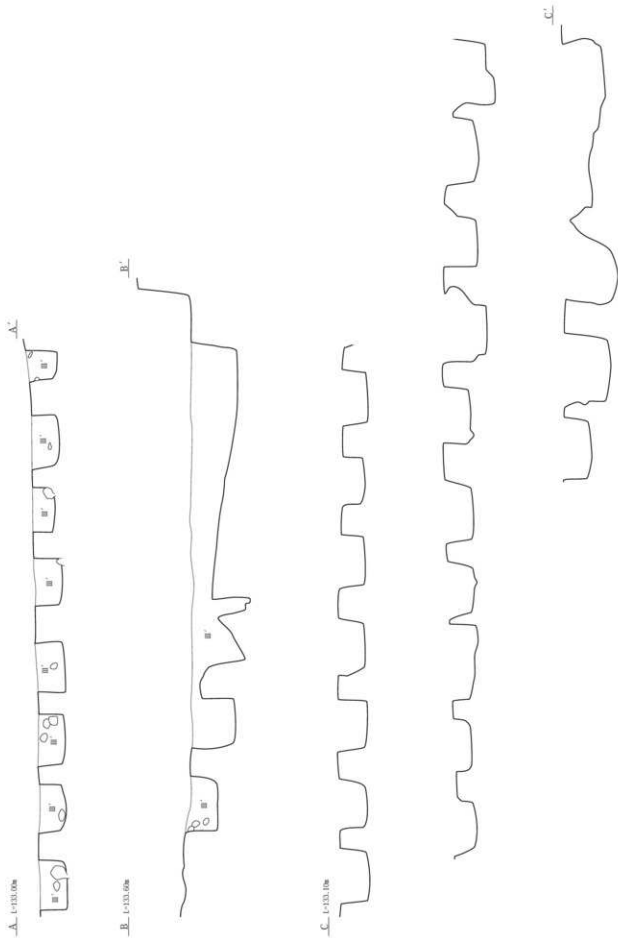
- 1 灰褐色土 As-cを含む灰褐色土主体で、X層土小ブロックを多く含む。しまり・粘性なし。
- 2 灰褐色土 As-cを含む灰褐色土主体で、しまり・粘性まったくなり。
- 3 黄褐色土 X層土ブロック。
- 4 灰褐色土 1層に類似。
- 5 暗褐色土 As-cを含む暗褐色土で、X層土粒を含む。
- 6 暗褐色土 5層に類似するが、5層よりX層土を多く含む。As-cの含有は少量である。
- 7 黄褐色土 X層土とX層土の混土で、As-cを多く含む。
- 8 暗褐色土 As-cを僅かに含む暗褐色土。
- 9 暗褐色土 As-cを多く含む暗褐色土。しまりなし。
- 10 暗褐色土 As-cを多量に含む暗褐色土。
- 11 暗褐色土 As-cを少量含む暗褐色土主体で、X層土人粒を僅かに含む。(近世土)
- 12 灰褐色土 As-cを僅かに含む暗褐色土で、灰白色人粒を含む。
- 13 黄褐色土 As-cを僅かに含む暗褐色土とX層土の混土。
- 14 暗褐色土 As-cと白色腐粒を含む。粘性なし。
- 15 暗褐色土 As-cを多く含むシルト質土。
- 16 黄褐色土 As-cを微量に含む。
- 17 暗褐色土 シルト質土で粘性なし。
- 18 灰褐色土 シルト質土で粘性なし。

第23図 12号横田田土層断面図



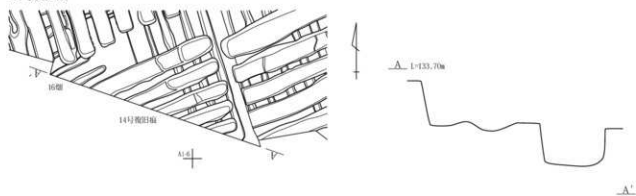


第24图 13号復旧痕

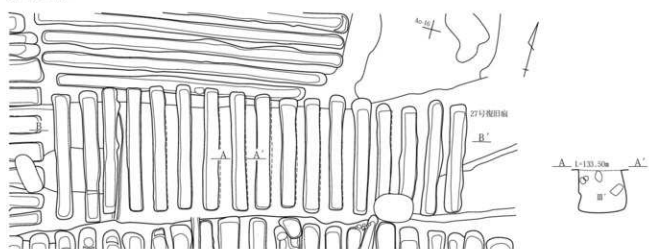


第25図 13号複田痕土層断面図・高低図

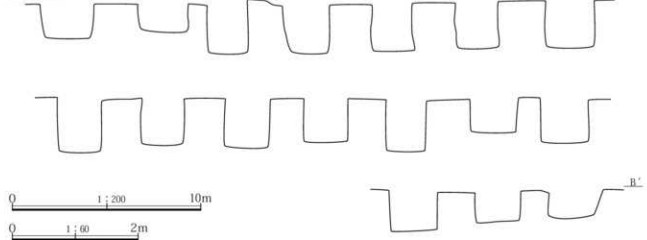
14号復旧痕



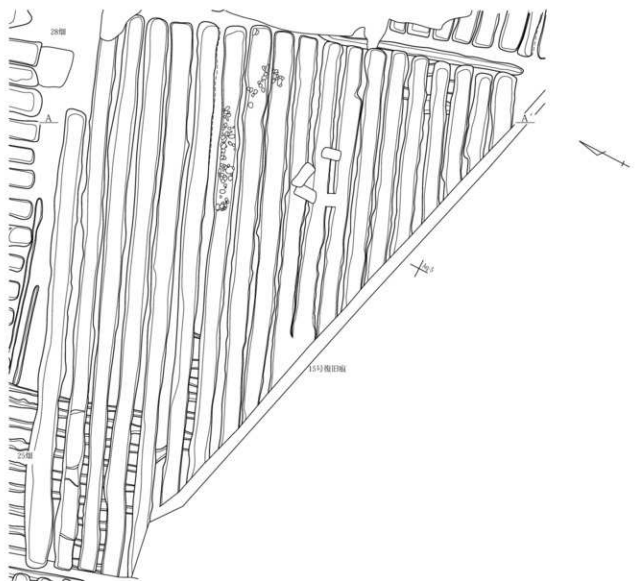
27号復旧痕



B_ L=132.50m



第26图 14・27号復旧痕



0 1:200 10m

A-1(133.00m)

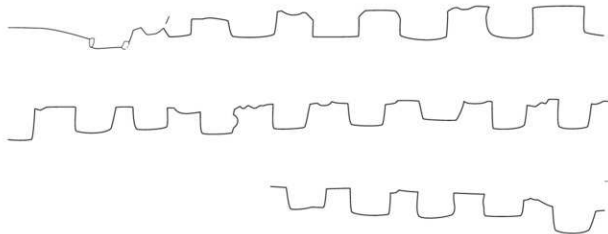


0 1:60 2m

第27図 15号復旧面



A-1-133.30a



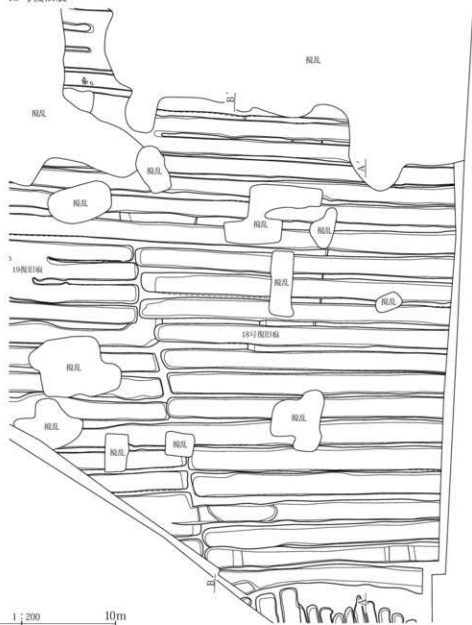
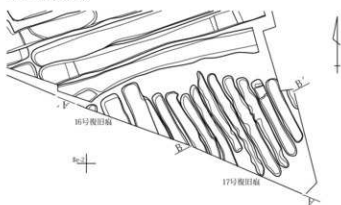
第28回 28号復旧痕

第4章 1面の調査(近世)



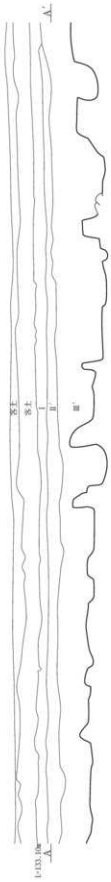
18号復旧痕

16・17号復旧痕



第29図 16・17・18号復旧痕

16・17号復旧痕

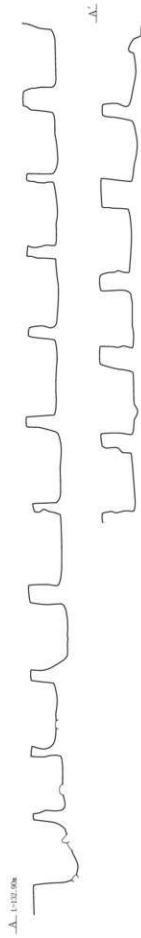


17号復旧痕



16・17号復旧痕 A-A'
II' 灰褐色土 III' 腐土と面層土の混土

18号復旧痕



B-B' 18号復旧痕



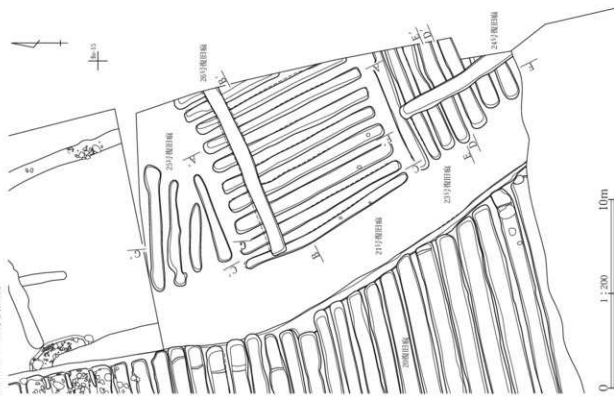
第30図 16・17・18号復旧痕土層断面図・高低図



19・29号復旧痕



21・23～26号復旧痕



第31図 19・21・23～26・29号復旧痕

19号復旧痕

A. 1-132.8m



A.



21・26号復旧痕

A. 1-133.3m



B.



21号復旧痕

A. 1-133.3m



A.

21号復旧痕

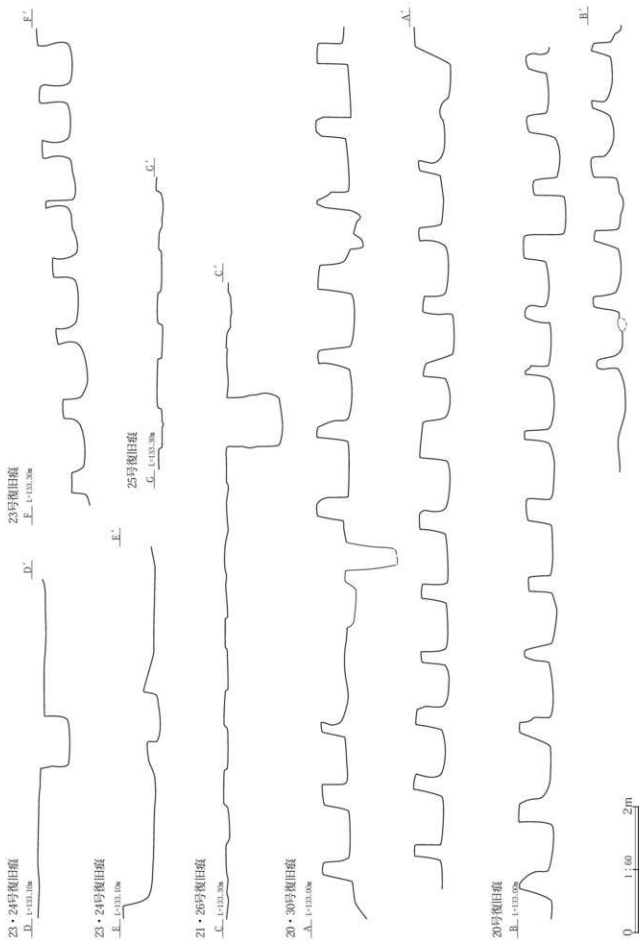
B. 1-133.3m



B.



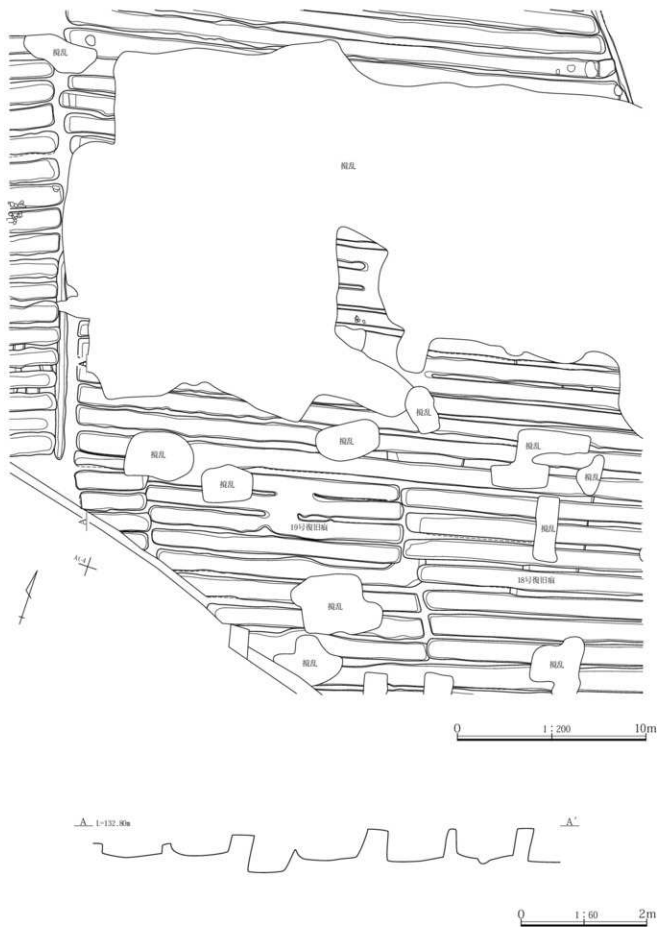
第32図 19・21・26号復旧痕高低図



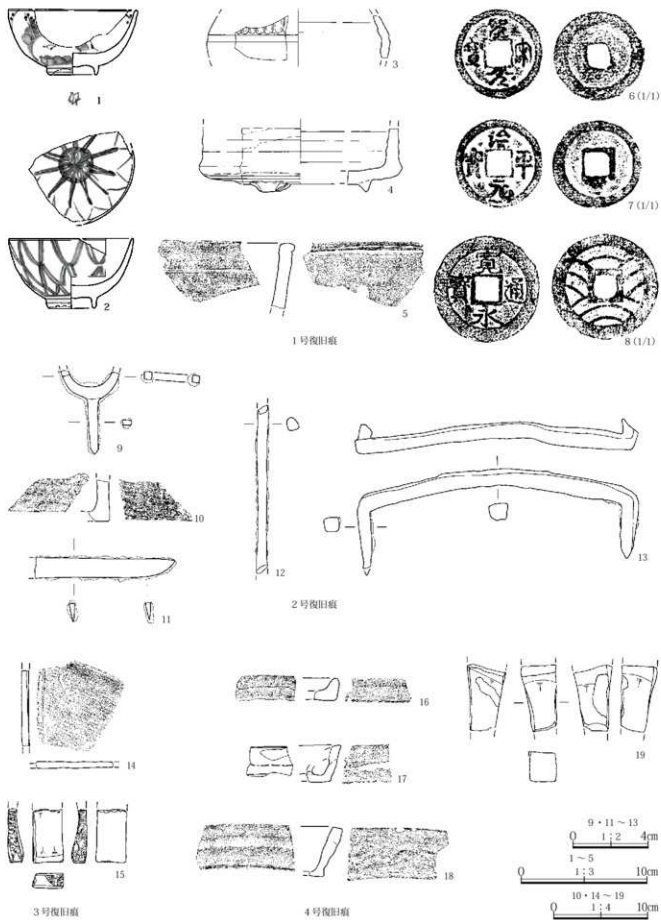
第333図 20・21・23～26・30号復旧痕高低図



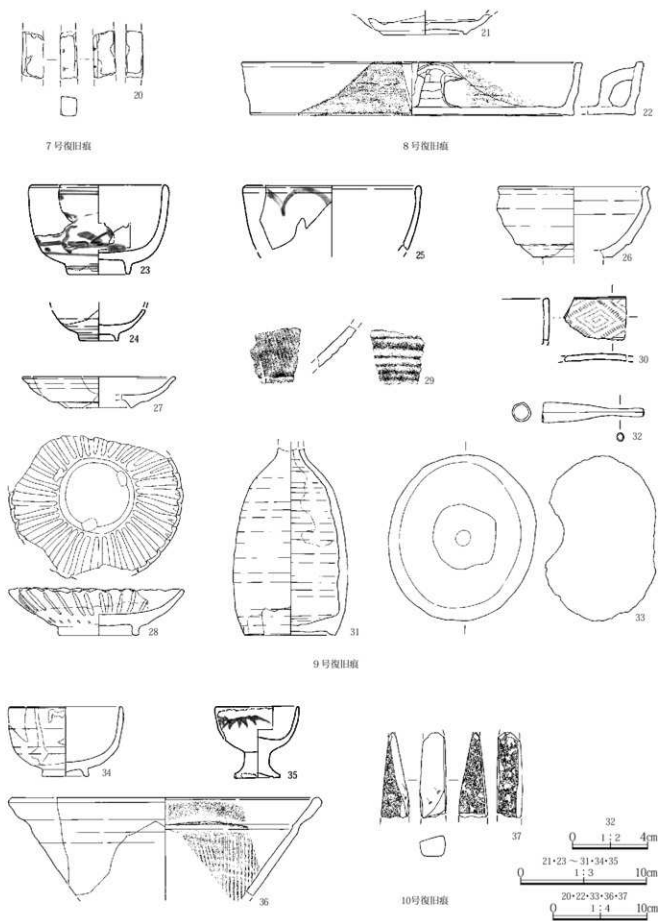
第34图 20・30号復旧痕



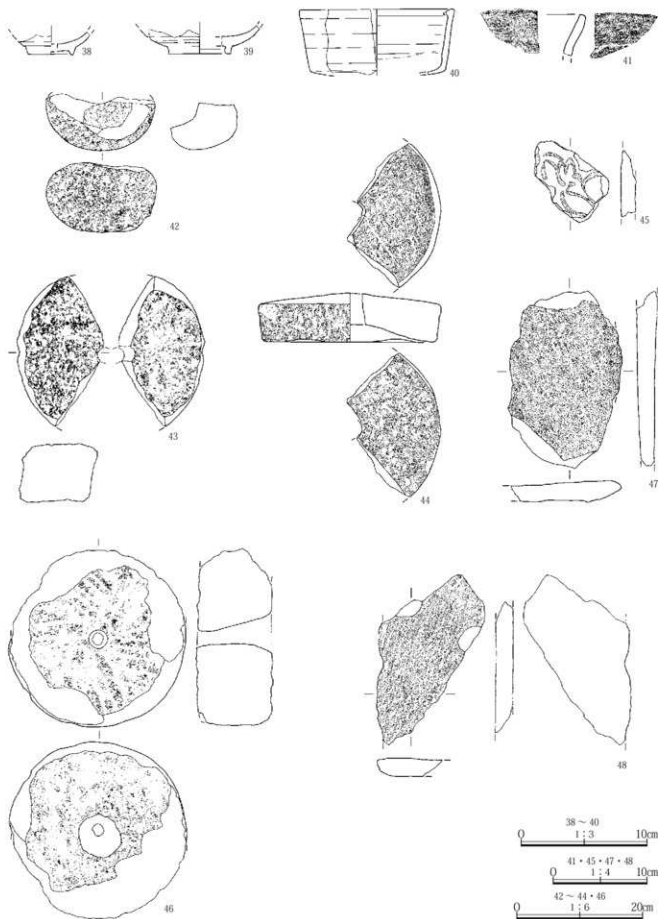
第35図 18・19号復旧痕



第36图 1～4号復旧痕出土遺物

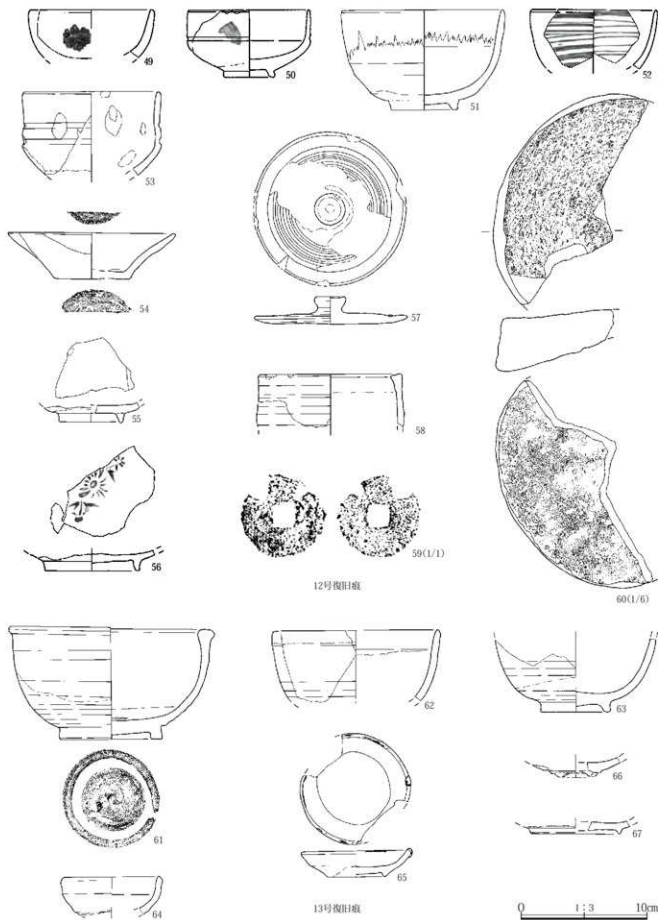


第37図 7～10号復旧痕出土遺物

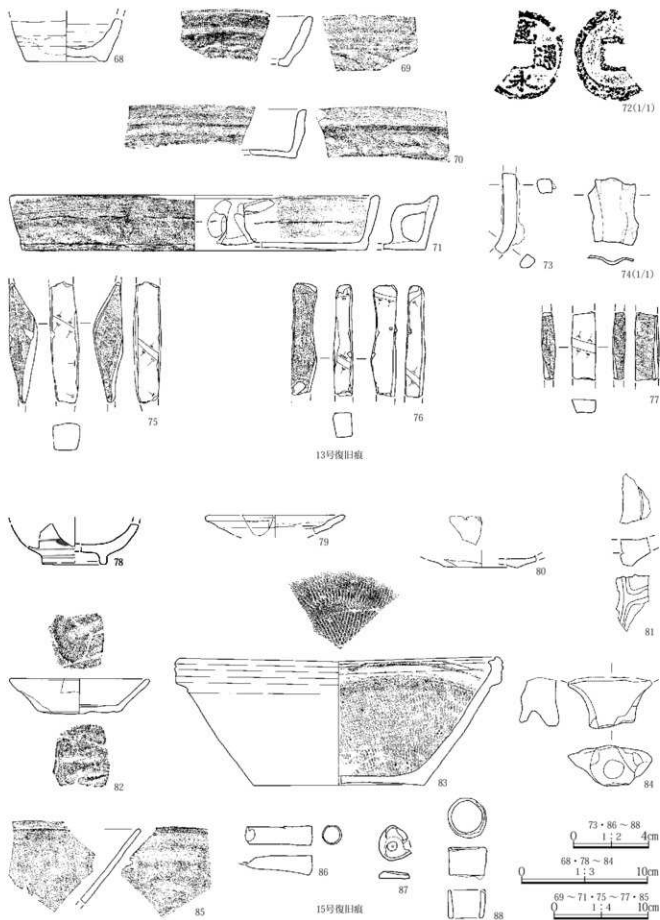


第38図 11号復旧痕出土遺物

第4章 1面の調査(近世)

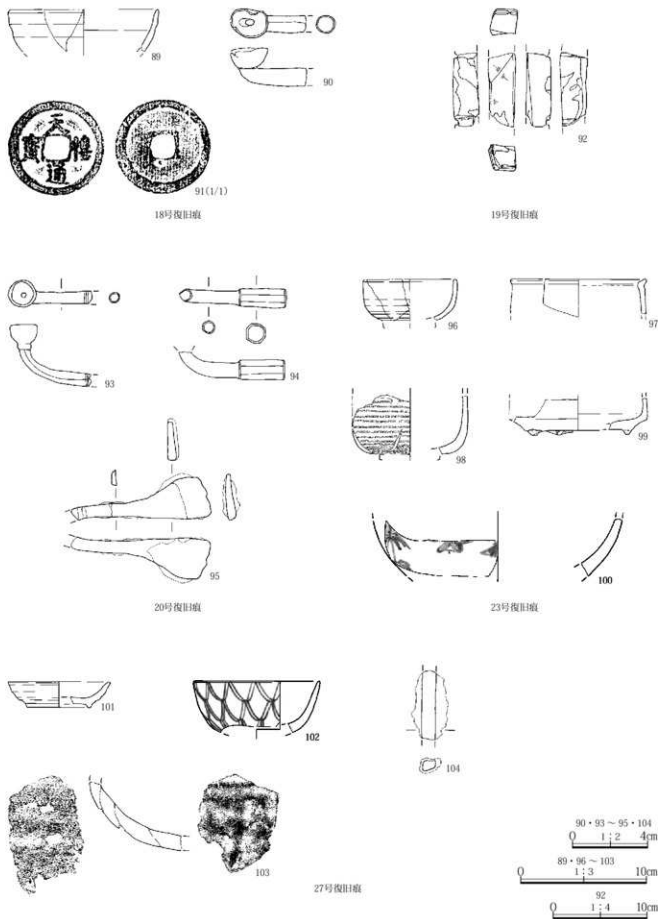


第39図 12・13号復旧瓶出土遺物

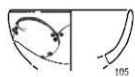


第40图 13・15号復旧品出土遺物

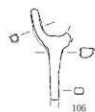
第4章 1面の調査(近世)



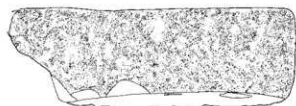
第41図 18・19・20・23・27号復旧痕出土遺物



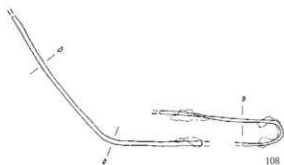
105



106

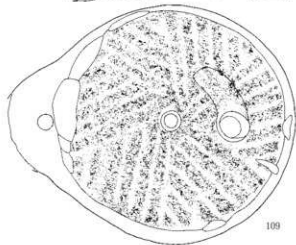
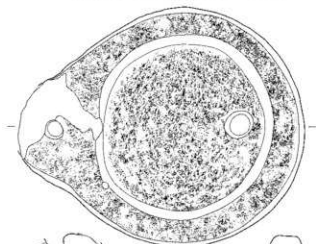


107 (1/1)



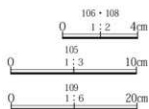
108

28号復旧痕



109

4号復旧痕

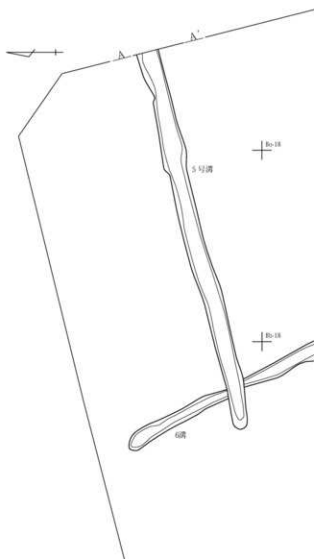


第42図 4・28号復旧痕出土遺物

第4章 1面の調査(近世)

第2表 田口上田尻遺跡 復旧痕一覧表

番号	遺構種	面	時期	グリッド	方位	備考
1	復旧痕	I	I	Ap ~ Ba-14 ~ 16	E-10°-N	10条
2	復旧痕	I	I	Aq ~ At-15 ~ 18	E-12°-N	9条
3	復旧痕	I	I	Ar ~ Ba-19 ~ 21	N-20°-W	11条
4	復旧痕	I	I	An ~ As-18 ~ 21	N-20°-W	18条
5	復旧痕	I	I	Aa ~ Ab-24 ~ 25	N-13°-W	3条
6	復旧痕	I	I	Ab ~ Ad-22 ~ 25	—	6条
7	復旧痕	I	I	Ab ~ Ad-19 ~ 22	E-2°-S	15条
8	復旧痕	I	I	Ad ~ Af-19 ~ 25	E-6°-S	25条
9	復旧痕	I	I	Af ~ Aj-19 ~ 23	E-7°-S	15条
10	復旧痕	I	I	Al ~ An-19 ~ 23	E-18°-N	21条
11	復旧痕	I	I	Ao ~ Ap-21	N-17°-W	6条
12	復旧痕	I	I	Af ~ Aj-14 ~ 17	E-20°-N	12条
13	復旧痕	I	I	Ab ~ Aq-7 ~ 14	N-15°-W	32条
14	復旧痕	I	I	Aj ~ Al-6 ~ 7	E-25°-N	5条
15	復旧痕	I	I	Al ~ As-4 ~ 9	E-22°-N	19条
16	復旧痕	I	I	Be-2	N-21°-W	3条
17	復旧痕	I	I	Be ~ Bg-1 ~ 2	N-28°-W	11条
18	復旧痕	I	I	Bb ~ Bf-2 ~ 6	E-16°-N	14条
19	復旧痕	I	I	At ~ Bd-3 ~ 5	E-15°-N	14条
20	復旧痕	I	I	Ap ~ Bf-5 ~ 14	E-12°-N	21条
21	復旧痕	I	I	Bb ~ Bd-11 ~ 14	N-28°-W	10条
22	復旧痕	I	I	Ag ~ Ak-12 ~ 14	E-14°-N	8条
23	復旧痕	I	I	Bc ~ Be-10 ~ 12	E-25°-N	7条
24	復旧痕	I	I	Bd ~ Be-10 ~ 11	N-31°-W	1条
25	復旧痕	I	I	Bb ~ Bc-13 ~ 14	E-0 ~ 20°-N	4条
26	復旧痕	I	I	Bc ~ Bd-13	E-24°-N	1条
27	復旧痕	I	I	Ak ~ Ao-13 ~ 15	N-17°-W	17条
28	復旧痕	I	I	Aj ~ An-14 ~ 19	E-10°-N	19条
29	復旧痕	I	I	As ~ At-4 ~ 5	E-17°-N	5条
30	復旧痕	I	I	Ar ~ Bf-5 ~ 10	E-13°-N	16条
31	復旧痕	I	I	Bc ~ Bd-11 ~ 14	—	4条



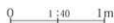
(2) 溝

5号溝(第43図 P.L.8)

位置: Ba ~ Bc-18グリッド 規模: 10.30m × 0.55m

残存深度: 0.45m 走行方位: E-14°-N 遺物: なし

所見: II区北寄りの位置で検出したもので、天明泥流で埋没していた。調査区東壁断面には復旧痕が観察されたが、これらの復旧痕よりは深く掘削されており、また、復旧痕を切り込むように掘削されているために溝として遺構番号を付した。しかし、V区などでは一定範囲の復旧作業終了後に、掘削方位や規模の異なる復旧痕が掘削された事例があることから、復旧痕である可能性がある。



第43図 5号溝

第2項 田口下田尻遺跡

(1) 復旧痕

田口下田尻遺跡ではⅠ区東側、Ⅱ区の中央から南寄りとⅢ区の大半には復旧痕は見られない。しかし、調査区際の上層断面を観察すると、わずかに復旧の痕跡が観察される場合が多く、浅いながらも基本的には全域について復旧痕が掘削されていたと見る必要がある。復旧痕番号の変更については、調査段階で10号復旧痕としたものは掘削の状況から6号復旧痕の一部として扱い、Ⅱ区で土坑番号を付して調査した土坑状の復旧痕について10号復旧痕と変更した。また、同じⅡ区西寄りの無名称の単独の復旧痕について欠番となっていた12号復旧痕を付した。

1号復旧痕(第44図 P.L.11)

位置: B₀・B_p-15 ~ 18グリッド 形状: 溝状 検出条数: 14条 規模: 0.90 ~ (5.40)m × 0.60 ~ 0.75m 残存深度: 0.06 ~ 0.09m 条間隔: 0.10 ~ 0.25m 条方位: E-0 ~ 10°-N 遺物: なし 所見: 現代の耕作土直下で確認したが、この段階でほとんど残存していなかった。復旧痕自体が浅く掘削されたものであろう。中央に空間が見られるが、本来はこの位置に2条の復旧痕があったものと考えられる。

2号復旧痕(第45・58図 P.L.11・229)

位置: B_m・B_o-15 ~ 18グリッド 形状: 溝状 検出条数: 24条 規模: 2.30 ~ 10.30m × 0.30 ~ 1.05m 残存深度: 0.06 ~ 0.18m 条間隔: 0.04 ~ 0.25m 条方位: E-17°-N 遺物: 底面付近から「元祐通宝」が1枚(1)出土したが、復旧痕の掘削に際して周辺から混入したものと考えられる。所見: 中央部の西端が直線的に揃っているのに対して南北端の条が小規模となっている。これは残存状況の悪いことによる可能性もあるが、南側の10号復旧痕のあり方を勘案すると土地区画に沿って掘削されたものと考えられる。また、各条の西端部分を見ると3条で1単位となっていることがわかる。

3号復旧痕(第45・46図 P.L.11)

位置: B_e ~ B_g-15 ~ 17グリッド 形状: 溝状 検出条数: 11条 規模: (5.70 ~ 7.00)m × 0.55 ~ 0.65m 残存深度: 0.32 ~ 0.53m 条間隔: 0.55 ~ 0.80m 条方位: E-13°-N 遺物: なし 所見: 条の規模に比較して

条間隔を広く取った復旧痕である。充填された天明泥流に混じって砂質土ブロックが目立つ傾向がある。端部の状況から4条単位で掘削された可能性がある。

4号復旧痕(第46・58図 P.L.11)

位置: B_g ~ B_j-16・17グリッド 形状: 溝状 検出条数: 7条 規模: 10.55m × 0.50 ~ 0.90m 残存深度: 0.35 ~ 0.55m 条間隔: 0.30 ~ 1.80m 条方位: E-31°-N 遺物: 不明金属製品 所見: 3号復旧痕と3.50mほど離れて掘削されている。3号復旧痕よりも規模は大きい。条間隔を広く取ること共通しており、端部の状況から3条単位で掘削されたことがわかる。南側の1条が小規模で離れているが一連の復旧痕として扱った。

5号復旧痕(第48・49・58図 P.L.12・229)

位置: B_p ~ B_s-0・1グリッド 形状: 溝状 検出条数: 6条 規模: 3.40 ~ 6.75m × 0.70 ~ 1.10m 残存深度: 0.20 ~ 0.81m 条間隔: 0 ~ 0.22m 条方位: E-0 ~ 8°-N 遺物: 棒状鉄製品 所見: 1条だけL字状に浅く掘り込まれた条があり、その南側に平行する条が掘られている。平行する条はいずれも比較的深く、南北と西側にオーバーハングし縄文時代のフラスコ状土坑のような断面を呈している。オーバーハングする傾向は東側には見られないので、東側から掘削が開始されたものと見られる。

6号復旧痕(第49・58図 P.L.12・229)

位置: B_l ~ B_p-0 ~ 2グリッド 形状: 溝状 検出条数: 14条 規模: 5.32 ~ (10.02)m × 0.60 ~ 1.10m 残存深度: 0.27 ~ 0.56m 条間隔: 0.12 ~ 0.62m 条方位: N-23°-W 遺物: 不明金属製品 所見: 1号道を東限として、道の湾曲に合わせて掘削の長さを変えており、天明泥流で埋没した10号畑を壊している。充填されているのは締まりの弱い天明泥流であり、焼石はあまり含まれていない。確認段階では天明泥流の中に灰色の近世耕作土が細い線状に検出されており、掘削時の条間は極めて狭く設定されていたことが窺われる。北端部分がやや深く掘削される傾向があるので、各条は南側から掘削された可能性がある。

7号復旧痕(第49・50・58図 P.L.12・229)

位置: B_l ~ B_o-1・2グリッド 形状: 土坑状 検出基数: 14基 規模: 1.70 ~ 2.15m × 0.85 ~ 1.05m 残存深度: 0.65 ~ 0.95m 坑間隔: 0.22 ~ 0.95m 軸方位: N-

25°-W 遺物:不明金属製品 所見:6号復旧痕と8号復旧痕は3mほどの間隔を置いて設定され、この間を埋めるかのように土坑状の当復旧痕が掘削されている。形状は比較的揃った長方形で、東西方向にわずかにオーバーハンクしている。上層0.20~0.40mほどは天明泥流が入っているが、それ以下は径30cm大の焼石が入られており、焼石の間には泥流が充填されず空間となっている復旧痕も見られた。焼石を選別廃棄するために掘削された特徴的な復旧痕である。

8号復旧痕(第50・51・58図 P.L.12・13・229)

位置:Bj~Bo-1~4グリッド 形状:溝状 検出条数:39条 規模:7.62~9.95m×0.37~0.65m 残存深度:0.25~0.45m 条間隔:0~0.12m 条方位:N-26°

W 遺物:不明金属製品 所見:1号道を東限として掘削され、6号復旧痕と同様に確認段階では近世耕作土が線状に検出されたことからほとんど条間に間隔を取らずに掘削されたようである。南北端で比較すると北側が揃っているため、各条は北から南に向かって掘削されたものと考えられ、西寄りの4条だけが1号道に合わせるように掘削方向を変えていることから、掘削は西側から開始されたものと見られる。また、端部の状況から基本的には3条を一つの作業単位として北から南に向かって掘削された可能性が高い。

9号復旧痕(第51・58図 P.L.12・13・229)

位置:Bh~Bl-1~5グリッド 形状:溝状 検出条数:28条 規模:11.90~12.30m×0.52~0.72m 残存深度:0.29~0.55m 条間隔:0~0.28m 条方位:N-40°-W 遺物:陶磁器 所見:8号復旧痕との間は線状に揃っており、間に掘削開始の基準線を設けて、8号復旧痕は南に、9号復旧痕は北へと掘削したのではないだろうか。当復旧痕においても3条単位で端部が揃っている様子が窺える。

10号復旧痕(第47図 P.L.13)

位置:Bo~Bp-14~16グリッド 形状:土坑状 検出基数:12基 規模:0.90m×0.60m~2.30m×2.10m 残存深度:0.73~0.76m 坑間隔:? 軸方位:- 遺物:なし 所見:東側の現道下に延びる部分については不明であるが、検出された部分では、掘削の単位としてA~D坑とE~I坑の2単位が捉えられる。E~I群の上層観察によれば、E坑の掘削と泥流の充填後にF坑の掘削・

充填が行われ、I坑に向かって作業が進められたと考えられるが、A~D群については判然としない。溝状の復旧痕の掘削においても観察されたことであるが、土坑状の復旧痕でも先に掘削された復旧痕側にオーバーハンクして掘削する傾向がある。7号復旧痕では土坑状の掘り方をした理由について焼石の選別廃棄を想定したが、当復旧痕ではE坑には焼石が多量に充填されていたが、他の復旧痕では目立って多いという傾向はなく、三角形の狭い土地区画に制約された特異な復旧痕である可能性が高い。

11号復旧痕(第52図 P.L.13)

位置:Bj~Bn-3~6グリッド 形状:溝状 検出条数:32条 規模:1.92~10.65m×m 残存深度:0.08~0.47m 条間隔:0~0.17m 条方位:E-30°-N

遺物:なし 所見:8・9号復旧痕と1号道との間を埋めるように南から北に向けて作業が進められ、各条は西側から1号道に向けて掘削されたものと思われ、中央から北寄りの条に焼石が多く入っていた。8号復旧痕などと比較するとやや小規模で、底面に連続的な段差を付ける独特な掘削をする条があるなど、8・9号復旧痕には認められない特徴があることから、掘削には8号復旧痕の掘削班とは別班が当たったものと考えられる。

12号復旧痕(第48図)

位置:Bg~Bi-15グリッド 形状:溝状 検出条数:1条 規模:7.55m×1.20m 残存深度:0.75m 条間隔:1m 条方位:E-25°-N 遺物:なし 所見:1条だけの復旧痕で他と比較して大規模である。上層は天明泥流で覆われていたが、内部は径30cmを超えるような焼石が充填されていた。3・4号復旧痕などには焼石がめだたないので、事前に選別された焼石を当復旧痕に廃棄したものと考えられる。

13号復旧痕(第52・53・58図 P.L.13・229)

位置:Bk~Bm-6~8グリッド 形状:土坑状 検出基数:27基 規模:1.68~3.52m×0.45~1.55m 残存深度:0.25~0.73m 坑間隔:0~0.25m 遺物:砥石など 所見:長方形の土坑状を呈するものと短い溝状の掘り方をするものが複合している。狭い範囲に集合しており10号復旧痕に近似していることから、土地区画が意識されているものと考えられる。溝状に掘削された復旧痕では西側に、土坑状の復旧痕では東西両方向に

オーバーハングさせている。充填されていたのは締まりの弱い泥流主体であるが、焼石の含有量も多く、意識的に焼石を選別廃棄していたものと思われる。

14号復旧痕(第53・54図 P.L.14)

位置: Bh・Bi- 3～6グリッド 形状: 溝状 検出条数: 9条 規模: 8.62～10.12m×0.44～0.71m 残存深度: 0.27～0.39m 条間隔: 0～0.05m 条方位: N-34°-W 遺物: なし 所見: 掘削された長さが短いことから15号復旧痕と分離したが、本来は一連の復旧痕と考えられる。条間隔が狭い上に、掘削された近世土壌がやわらかく締まりが弱いことから壁が崩落し、隣の条と連結しているものもあった。

15号復旧痕(第53・54図 P.L.14)

位置: Bh～Bj- 4～6グリッド 形状: 溝状 検出条数: 25条 規模: 1.34～11.45m×0.32～1.09m 残存深度: 0.20～0.50m 条間隔: 0～0.55m 条方位: N-33°-W 遺物: なし 所見: 14号復旧痕とは一連の復旧であり、西側から掘削され東側の11号復旧痕を包み込むように掘削方向及び規模を変えている。東寄りの数条は規模が11号復旧痕に類似し、底面に連続的な段差を付けた掘り方をしていることから、これらは11号復旧痕の掘削班が担当したものと見てよいであろう。

16号復旧痕(第54図 P.L.14)

位置: Bp～Br- 9・10グリッド 形状: 土坑状 検出条数: 3基 規模: 3.15～3.65m×0.50～1.50m 残存深度: 0.05～0.35m 坑間隔: 0.10～3.35m 軸方位: N-13°-W 遺物: なし 所見: 3基が東西方向に平行する。掘り方と間隔は一定せず、残存状況も悪い。

17号復旧痕(第55図 P.L.14)

位置: Bg～Bh- 7～10グリッド 形状: 溝状 検出条数: 6条 規模: (2.20～4.25)m×0.75～0.85m 残存深度: 0.18～0.72m 条間隔: 0.25～2.05m 条方位: E-18°-N 遺物: なし 所見: 平面図では間隔の開く部分があるが、調査区際の上層断面には浅い復旧痕が観察されているので、南側の部分のような間隔で19号復旧痕と重複する位置まで広がっていたものと思われるが、数条置きに深い条を配置する他に例のない掘削が行われている。確認段階で浅い条を削平してしまったため19号復旧痕との新旧関係を直接に確認することができないが、田口上田尻遺跡23・24号復旧痕の重複と似た状

況であることから、19号復旧痕の掘削が先行するものと考えられる。

18号復旧痕(第54図 P.L.14)

位置: Bq-10グリッド 形状: 土坑状 検出条数: 1基 規模: (1.60)m×1.65m 残存深度: 0.57m 坑間隔: -m 軸方位: E-3°-N 遺物: なし 所見: 径10cm前後の焼石だけを廃棄していた。

19号復旧痕(第55図 P.L.14)

位置: Bf・Bg-10～12グリッド 形状: 溝状 検出条数: 1条 規模: (6.35)m×0.90m 残存深度: 0.55m 条間隔: -m 条方位: N-22°-W 遺物: なし 所見: 複数の条を平行させない復旧痕で、17号復旧痕に先行して掘削された可能性が高い。

20号復旧痕(第56図 P.L.14)

位置: Ca・Cb- 6～8グリッド 形状: 溝状 検出条数: 11条 規模: (4.75)m×0.32～0.68m 残存深度: 0.06～0.09m 条間隔: 0.06～0.38m 条方位: E-6°-N 遺物: なし 所見: 比較的浅い復旧痕と見られ、確認段階でほとんど残存していなかった。21号復旧痕とは1.6mほどの空間を持って相対している。北側は後世の掘乱によって失われており、断面の観察によっても範囲は捉えられなかった。当復旧痕→22号復旧痕という関係で重複している。

21号復旧痕(第56図 P.L.14)

位置: Cb・Cc- 7～10グリッド 形状: 溝状 検出条数: 22条 規模: (3.35)m×0.28～0.82m 残存深度: 0.05～0.14m 条間隔: 0.08～0.30m 条方位: E-13°-N 遺物: なし 所見: 残存深度は20・27号復旧痕と同様に浅く、かろうじて平面が確認できる程度である。上面を削平されている可能性はあるが、当初から掘削深度が浅かったものと考えられる。当復旧痕→27号復旧痕という関係で重複している。

22号復旧痕(第56図)

位置: Ca・Cb-6・7グリッド 形状: 溝状 検出条数: 1条 規模: (4.28)m×0.98m 残存深度: 0.51m 条間隔: -m 条方位: E-14°-N 遺物: なし 所見: 20号復旧痕の埋設後に焼石埋設のために再掘削されたものと考えられる。21号復旧痕と23号復旧痕との関係のように、直行する方向で重複する事例は田口上田尻遺跡でも類例があるが、同一方向での重複は当復旧痕だ

けである。

23号復旧痕(第56図 P.L.14・15)

位置:Cb-7~10グリッド 形状:溝状 検出条数:1条 規模:15.92m×2.06m 残存深度:0.63m 条間隔:-m 条方位:N-17°-W 遺物:なし 所見:21号復旧痕の埋設後に直行する方向で掘削されている。充填されていたのは5~20cm大の焼石で、泥流はほとんど入っていないことから、焼石処理のために掘削されたものであることがわかる。底面は南側1/3ほどが深くなっていた。

24号復旧痕(第56図 P.L.15)

位置:Bt-Ca-9グリッド 形状:溝状 検出条数:1条 規模:(2.15)m×1.85m 残存深度:0.57m 条間隔:-m 条方位:E-11°-N 遺物:なし 所見:調査区の際にわずかに検出されたもので判然としませんが、深さが22・23号復旧痕に近いことから20号復旧痕から連続するような浅い復旧痕が埋設された後に掘削された可能性がある。充填されていたのは泥流であり、焼石の含有はない。

25号復旧痕(第56図)

位置:Ca-Cb-10・11グリッド 形状:溝状 検出条数:10条 規模:4.38m×0.72m 残存深度:0.06~0.12m 条間隔:0.06~0.16m 条方位:E-7°-N 遺物:なし 所見:21号復旧痕から連続するように掘削されたものであるが、東側で途切れるために分離した。

26号復旧痕(第56図)

位置:Bt-Ca-10・11グリッド 形状:溝状 検出条数:4条 規模:1.86~(4.12)m×0.45m 残存深度:0.06m 条間隔:0.21~0.88m 条方位:E-3°-N 遺物:なし 所見:25号復旧痕と1mほどの間隔を置いて掘削されている。検出したのは4条であり3条は長楕円形状の検出状況であったが、本来は南端の1条のように長く掘削されたものであり、北側にも広がっていたものと考えられる。

27号復旧痕(第56図 P.L.15)

位置:Cb-10・11グリッド 形状:溝状 検出条数:4条 規模:不明 残存深度:0.07m 条間隔:-m 条方位:- 遺物:なし 所見:25号復旧痕とわずかの間隔を置いて掘削されたものと考えられるが、検出されたのが末端部分のわずかの範囲であるため判然としない。

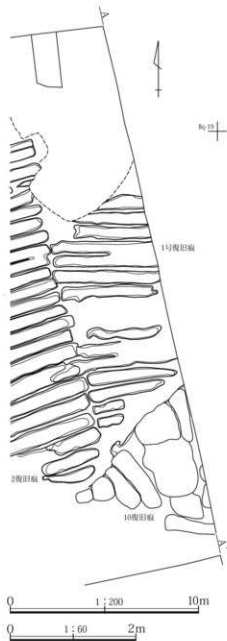
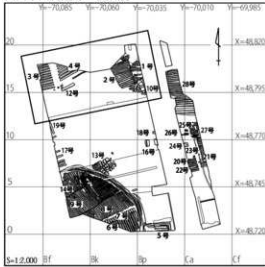
28号復旧痕(第57図)

位置:Bs-Cb-12~17グリッド 形状:溝状 検出条数:24条 規模:(5.40~12.50)m×0.66~1.18m 残存深度:0.03~0.20m 条間隔:0.10~0.50m 条方位:E-3°-N 遺物:なし 所見:26・27号復旧痕と平行し、ほぼ同じ深さに掘削されているが掘削幅が広いことから掘削班が違っていた可能性がある。底面付近だけの残存であったが焼石の含有は認められなかった。

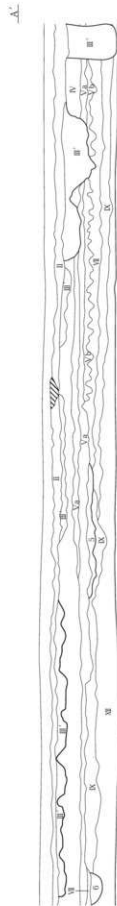
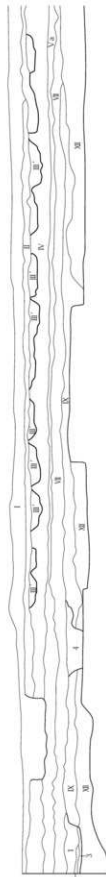
第3表 田口下田尻遺跡 復旧痕一覧表

番号	遺構種	面	時期	グリッド	方位	備考
1	復旧痕	1	I	Ba-Bp-15~18	E-0°~10°-N	14条
2	復旧痕	1	I	Ba-Bp-15~18	E-17°-N	24条
3	復旧痕	1	I	Ba-Bg-15~17	E-13°-N	11条
4	復旧痕	1	I	Bg-Bj-16~17	E-31°-N	7条
5	復旧痕	1	I	Bp-Bs-0・1	E-0°~8°-N	6条
6	復旧痕	1	I	B1-Bp-0~2	N-23°-W	14条
7	復旧痕	1	I	B1-Ba-1・2	N-25°-W	14条
8	復旧痕	1	I	Bj-Ba-1・4	N-26°-W	39条
9	復旧痕	1	I	Bh-B1-1~5	N-40°-W	28条
10	復旧痕	1	I	Ba-Bp-14~16	-	12条
11	復旧痕	1	I	Bj-Ba-3~6	E-30°-N	32条
12	復旧痕	1	I	Bg-B1-15・16	E-25°-N	1条
13	復旧痕	1	I	Bk-Ba-6~8	-	27条
14	復旧痕	1	I	Bh-B1-3~6	N-34°-W	9条
15	復旧痕	1	I	Bh-Bj-4~6	N-33°-W	25条
16	復旧痕	1	I	Bp-Br-9・10	N-13°-W	3条
17	復旧痕	1	I	Bg-Bh-7~10	E-18°-N	6条
18	復旧痕	1	I	Bq-10	E-3°-N	1条
19	復旧痕	1	I	Bf-Bg-10~12	N-22°-W	1条
20	復旧痕	1	I	Ca-Cb-6~8	E-6°-N	11条
21	復旧痕	1	I	Ch-Cc-7~10	E-13°-N	22条
22	復旧痕	1	I	Ca-Cb-6・7	E-14°-N	1条
23	復旧痕	1	I	Ch-7~10	N-17°-W	1条
24	復旧痕	1	I	Bt-Ca-9	E-11°-N	1条
25	復旧痕	1	I	Ca-Cb-10・11	E-7°-N	10条
26	復旧痕	1	I	Bt-Ca-10・11	E-3°-N	4条
27	復旧痕	1	I	Ch-10・11	-	4条
28	復旧痕	1	I	Bs-Cb-12~17	E-3°-N	24条

田口下田尻遺跡 復旧痕



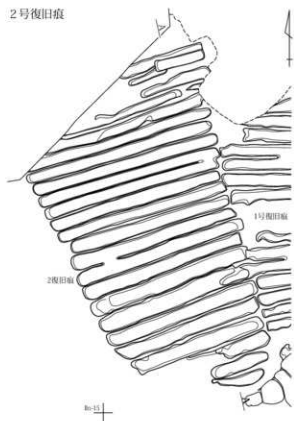
第44图 1号復旧痕



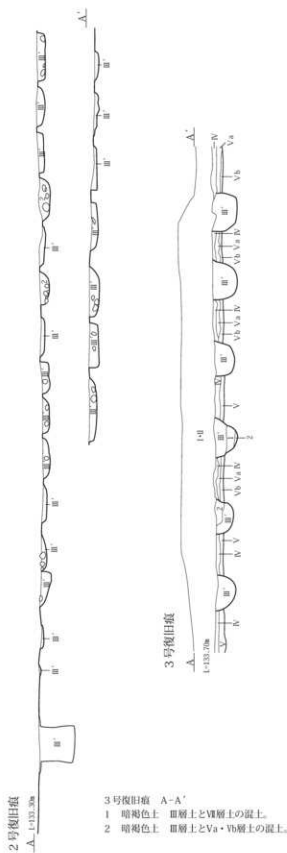
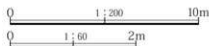
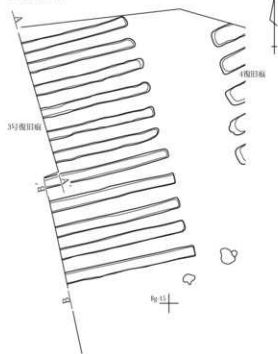
1号復旧痕 A-A'
1~6 道構埋没上

第4章 1面の調査(近世)

2号復旧痕

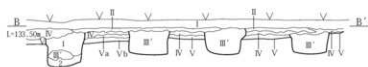


3号復旧痕



第45図 2・3号復旧痕

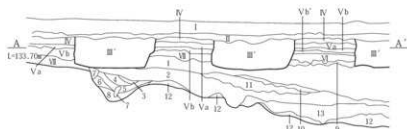
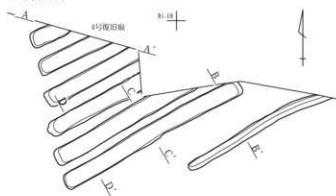
3号復旧痕



3号復旧痕 B-B'

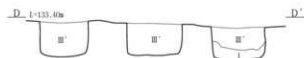
- 1 暗褐色土 黒褐色粘質土ブロック(径5cm以下)を多く含む。粘性あり。
- 2 黒褐色土 XI層土ブロック(径2cm以下)・炭化物(径5mm以下)を少量含む。柔らかい。(古い遺構の埋没土)

4号復旧痕



4号復旧痕 A-A'

- 1 暗褐色土 As-C・黄色粒を含む。
 - 2 暗褐色土 XI層土を全体にブロック状に含む。
 - 3 暗褐色土 XI層土と暗褐色土の混上で、やや黄色味があった色調を呈する。
 - 4 黄褐色土 XI層土主体で、暗褐色土を全体に含む。
 - 5 暗褐色土 XI層土を少量含む。
 - 6 暗褐色土 XI層土とXI層土の混上で、5層より明るい色調を呈する。
 - 7 黄褐色土 XI層土と暗褐色土の混上で、5・6層より明るい色調を呈する。
 - 8 暗褐色土 XI層土ブロックを多量に含む。
 - 9 黒褐色土 I層と黒褐色土の混上。
 - 10 黄褐色土 XI層土主体で、暗褐色土を多く含む。
 - 11 暗褐色土 XI層土小ブロックを多く含む。
 - 12 暗褐色土 XI層土主体で、XI層土小ブロックを含む。
 - 13 暗褐色土 XI層土主体で、XI層土粒・ブロックを含む。
- Vb 暗褐色土 Vb層に酸化鉄が凝集した層。

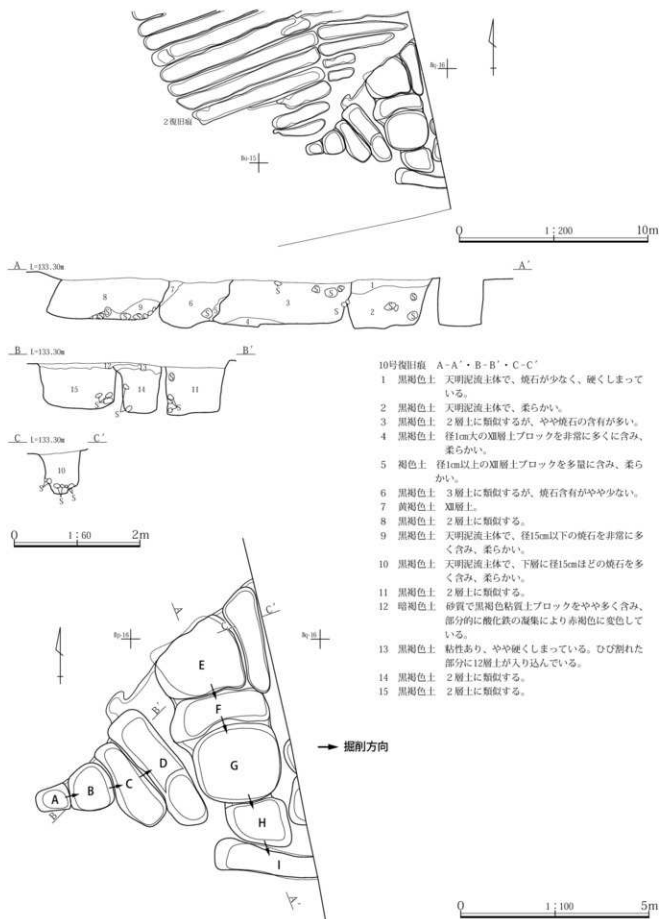


4号復旧痕 C-C'・D-D'

- 1 黒褐色土 III層土で、岩石の含有は少量である。粘性ややあり。
- 2 黒褐色土 III層土で、酸化鉄凝集により暗褐色土に変色し、岩石の含有は少量である。硬くしまりが強い。

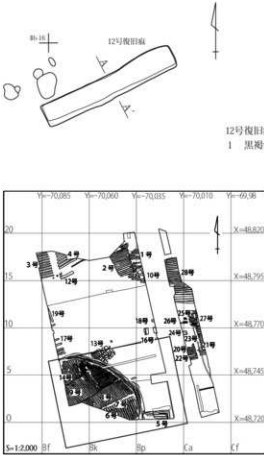


第46図 3号復旧痕土層断面図・4号復旧痕

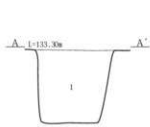
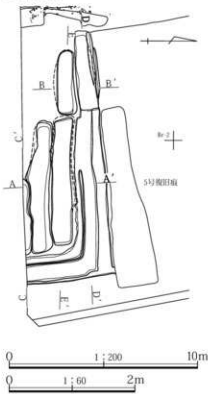


第47図 10号復旧痕

12号復旧痕



5号復旧痕

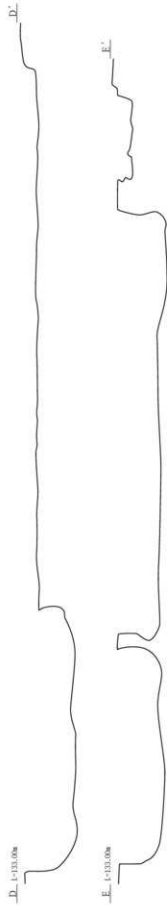


12号復旧痕 A-A'

1 黒褐色礫層 焼石が充填されていたもので、焼石間にはIII層土が完全には入らず空間が認められた。



5号復旧痕 A-A'



第48図 5・12号復旧痕

第4章 1面の調査(近世)

5号復旧痕 A-A'

- 1 黒褐色土 褐色粘質土ブロック(径2cm以下)を多く含む。硬くしまりが強い。
- 2 黒褐色土 III層上で、岩石(最大30cm)を多く、黒褐色粘質土ブロック(径2cm以下)を少量含む。
- 3 黒褐色土 III層上で、岩石(最大30cm)を多く含む。
- 4 黒褐色土 III層上で、岩石(最大30cm)を多く含む。
- 5 黒褐色土 III層上で、岩石(最大10cm)・褐色粘質土ブロック(径5mm以下)を少量含む。
- 6 黒褐色土 III層上で、岩石(最大3cm)を少量含む、褐色粘質土ブロック(径2cm以下)を多く含む。
- 7 黒褐色土 III層上で、岩石(最大30cm)を多く含む。

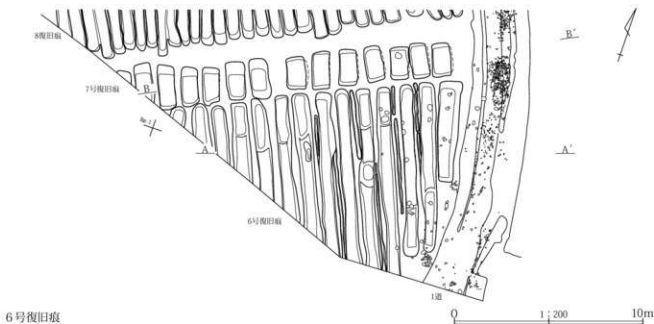
5号復旧痕 B-B'

- 1 暗褐色土 白色軽石(径1cm以下)を多く含む、酸化鉄凝集により部分的に褐色に変色している。
- 2 黒褐色土 III層上で、岩石(最大20cm)を多く、黒褐色粘質土ブロック(径2cm以下)を少量含む。
- 3 黒褐色土 III層上で、岩石(最大20cm)を多く含む。
- 4 暗褐色土 XI層土ブロック(径2cm以下)・黒褐色粘質土ブロック(径4cm以下)を多く、岩石(最大5cm)を少量含む。

5号復旧痕 C-C'

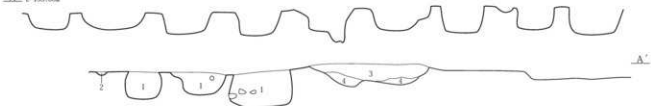
- II' 黄褐色土 酸化鉄の凝集した層。
- 1 暗褐色土 V・VI層土の混土。
 - 2 灰色土 IV層土主体の層。
 - 3 灰色土 IV・V層土の混土。

6・7号復旧痕



6号復旧痕

A-A' 1-133.00m



6号復旧痕 A-A'

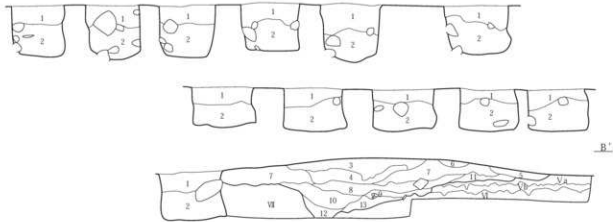
- 1 黒褐色土 III層上で、岩石(最大30cm)を多く含む。
- 2 黒褐色土 岩石(径0.5~2cm大)を少量含む。柔らかい。
- 3 暗褐色土 III層上で、岩石(最大10cm)を多く、白色軽石(径2cm以下)を少量含む、酸化鉄凝集により部分的に暗赤褐色に変色している。非常に硬くしまりが強い。(1号畦2号溝)
- 4 黒褐色土 III層上で、岩石(径2cm以下)をやや多く含む。硬くしまりが強い。(1号畦2号溝)

0 1:60 2m

第49図 5号復旧痕土層注記・6・7号復旧痕

7号復旧痕

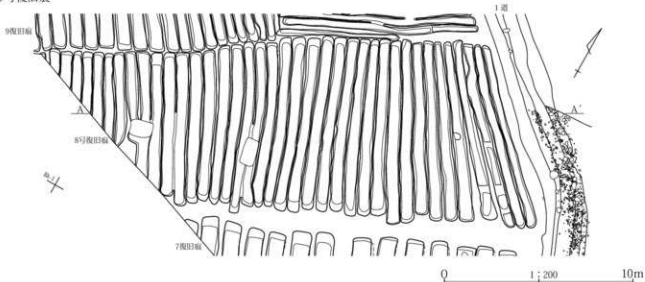
B-1-133.20m



7号復旧痕 B-B'

- 1 黒褐色土 Ⅲ層上で、Ⅹ層土粒・岩石(径2cm以下)を少量含む。
- 2 黒褐色土 Ⅲ層上で、岩石(最大径30cm)を多量に、Ⅹ層土粒を少量含む。岩石と岩石の間に空洞あり。
- 3 暗褐色土 Ⅲ層上で、岩石(最大径10cm)を多く、白色軽石(径2cm以下)を少量含む。酸化鉄凝集により部分的に暗赤褐色に変色している。非常に硬くしまりが強い。(上面はAs-A泥流後の道)(1号畦2号溝)
- 4 黒褐色土 Ⅲ層上で、岩石(径2cm以下)をやや多く含む。硬くしまりが強い。(下面はAs-A泥流前の道)(1号畦2号溝)
- 5 黒褐色土 岩石(径5cm以下)を少量含む。酸化鉄凝集により部分的に暗褐色に変色している。シルト質土で、柔らかい。(1号畦1号溝)
- 6 暗褐色土 岩石(径3cm以下)・白色軽石(径2cm以下)・川砂を少量含む。酸化鉄凝集により部分的に暗褐色に変色している。(1号畦3号溝)
- 7 黒褐色土 白色軽石(径10mm以下)・にぶい黄褐色軽石(5mm以下)をやや多く、炭化物(径5mm以下)を少量含む。硬くしまりが強い。(As-A泥流下の道に伴う盛土)
- 8 黒褐色土 4層直下に礫(最大径30cm、多くは径10cm以下)を多量に、白色軽石(径5mm以下)・にぶい黄褐色軽石(径5mm以下)・炭化物(径5mm以下)を少量含む。粘性あり。硬くしまりが強い。(1号畦4号溝)
- 9 暗褐色土 礫(最大径15cm、多くは径5cm以下)・砂を多量に含む。柔らかい。(1号畦4号溝)
- 10 暗褐色土 Va層上ブロック(径1cm以下)を多量に、白色軽石(径5mm以下)・にぶい黄褐色軽石(径3mm以下)をごく僅かに含む。硬くしまりが強い。(1号畦4号溝)
- 11 黒褐色土 にぶい黄褐色軽石(径5mm以下)を多く、白色軽石(径5mm以下)・炭化物(径5mm以下)を少量含む。粘性あり。硬くしまりが強い。(1号畦4号溝)
- 12 暗褐色土 11層に類似するが、白色軽石の含有は11層より少量である。やや柔らかい。
- 13 暗褐色土 11層に類似するが、As-Cの含有は11層より少量である。

8号復旧痕

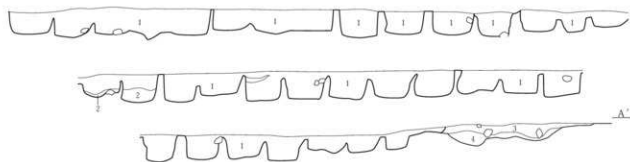


第50図 7号復旧痕土層断面図・8号復旧痕

第4章 1面の調査(近世)

8号復旧痕

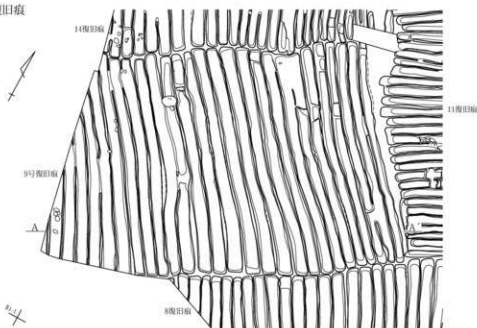
A-1-133.20m



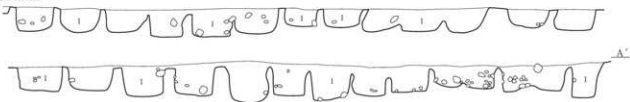
8号復旧痕 A-A'

- 1 黒褐色土 Ⅲ層上で、大礫(0.5~1cm)を含み、浅間石を僅かに含む。
- 2 黒褐色礫層 浅間石・礫(2~10cm大)を多く含む。
- 3 暗褐色土 Ⅲ層上で、浅間石(1~10cm大)を多く含み、酸化鉄が凝集、硬くしまりが強い。
- 4 暗褐色土 Ⅲ層上で、礫(0.5cm大)を多量に含む。

9号復旧痕



A-1-133.00m



9号復旧痕 A-A'

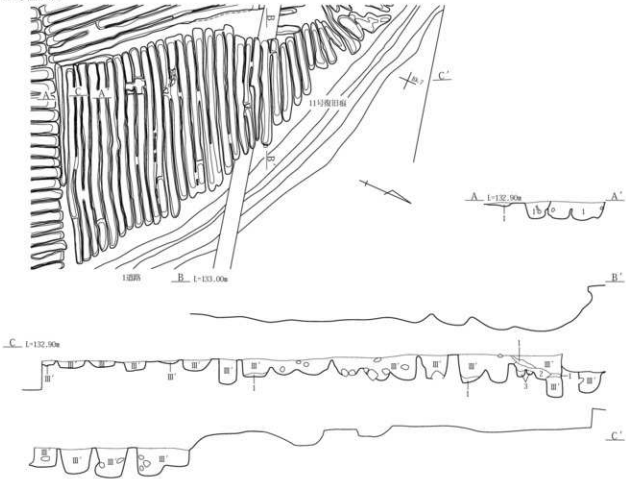
- 1 黒褐色土 Ⅲ層上で、6号復旧痕より浅間石の含有は多量で、8号復旧痕に類似。

0 1:200 10m

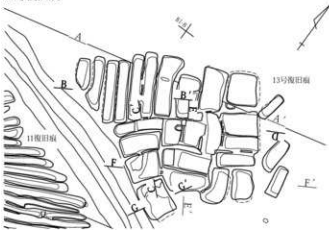
0 1:60 2m

第51図 8復旧痕土層断面図・9号復旧痕

11号復旧痕



13号復旧痕

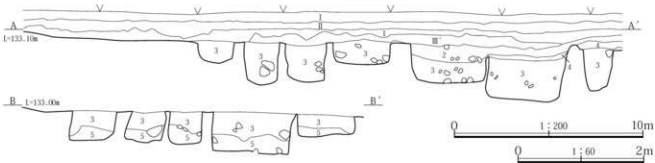


11号復旧痕 A-A'・C-C'

- 1 暗褐色土 Ⅲ層土とⅡ層土ブロックの混上。
- 2 灰褐色土 潤ったⅡ層土に類似、シルト質土。
- 3 暗褐色土 Ⅲ層土と2層の混上。

13号復旧痕 A-A'・B-B'

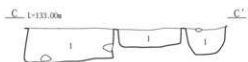
- 1 黄褐色土 Ⅱ層土主体で、Ⅲ層土を含む。
- 2 黒褐色土 Ⅲ層土主体で、焼石・Ⅱ層土ブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 Ⅲ層土で、焼石(小~18cm大)を多く含む。
- 4 灰褐色土 Ⅲ層土と灰色シルトブロックの混上。
- 5 黒褐色土 Ⅲ層土主体で、灰色シルトブロックを少量含む。



第52図 11・13号復旧痕

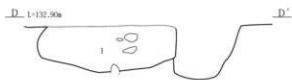
第4章 1面の調査(近世)

13号復旧痕



13号復旧痕 C-C'

I 黒褐色土 Ⅲ層土主体で、焼石を多量に含む。



13号復旧痕 D-D'

I 黒褐色土 Ⅲ層土で、焼石(径20cm大)を含む。



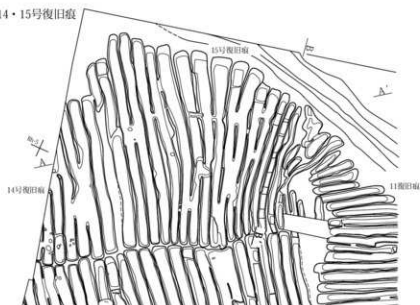
13号復旧痕 E-E'

I 黒褐色土 Ⅲ層土主体で、灰色粘質土ブロックを含む。



0 1:60 2m

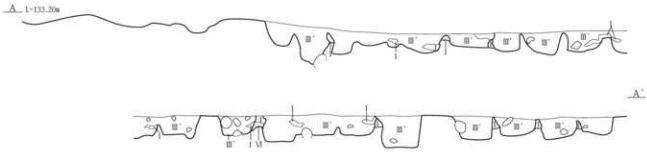
14・15号復旧痕



0 1:200 10m

第53図 13号復旧痕土層断面図・高低図・14・15号復旧痕

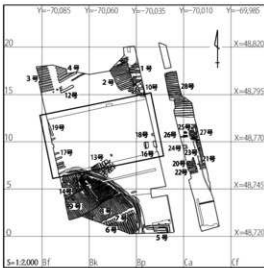
14・15号復旧痕



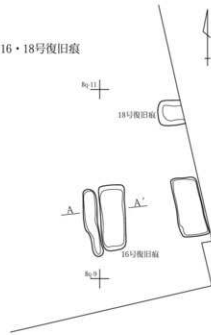
14・15号復旧痕 A-A'

I 暗褐色土 刈層土とVb・IX層土の混土。(中世の土層)

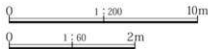
15号復旧痕



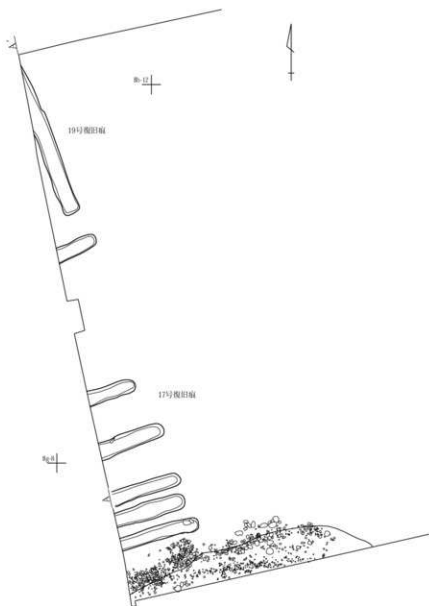
16・18号復旧痕



16号復旧痕

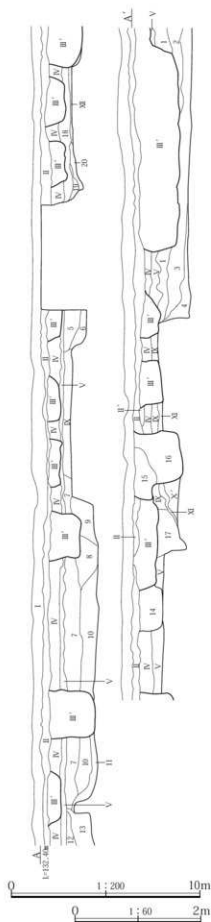


第54図 14・15号復旧痕土層断面図・高低図・16・18号復旧痕

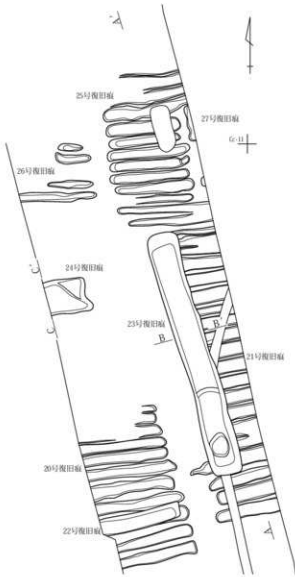
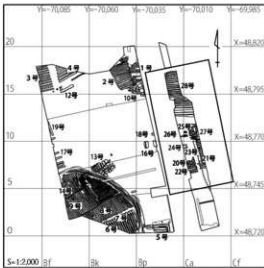


17・19号復旧痕 A-A'

- 1 暗褐色土 As-Cを多量に含む。しまりなし。
- 2 暗褐色土 XI層土主体。
- 3 暗褐色土 XI層土とXI層土の混土。
- 4 黄褐色土 XI層土主体。
- 5 暗褐色土 As-Cを多く、二ッ岳系軽石を僅かに含む。シルト質土。
- 6 暗褐色土 As-Cを少量含むXI層土とXI層土ブロックの混土。
- 7 暗褐色土 As-C細粒を多く、二ッ岳系軽石を少量含む。しまりが強い。
- 8 暗褐色土 As-Cを多く、二ッ岳系軽石を少量含む。シルト質土、しまりが弱い。
- 9 暗褐色土 XI層土主体で、As-Cを僅かに含む。
- 10 暗褐色土 As-C細粒を少量含むシルト質土で、XI層土粒を多く含む。
- 11 暗褐色土 As-Cを僅かに含むXI層土とXI層土の混土。
- 12 暗褐色土 As-C・二ッ岳系軽石を少量含む。しまりが弱い。
- 13 暗褐色土 As-Cを多く含む。砂質土、しまりが強い。
- 14 灰褐色土 As-C・白色軽石を含む灰褐色粘質土。(近世?)
- 15 灰色土 III層土主体で、礫石顕著。
- 16 灰色土 15層に近似。しまりが弱い。
- 17 灰色土 16層に同じ。
- 18 暗褐色土 XI層土で、As-Cを含み、酸化鉄が凝集する。
- 19 灰褐色砂埋層
- 20 灰褐色土 灰褐色シルト質土。



第55図 17・19号復旧痕



第56図 20～27号復旧痕

21・25・27号復旧痕

-A- 1:133.10w



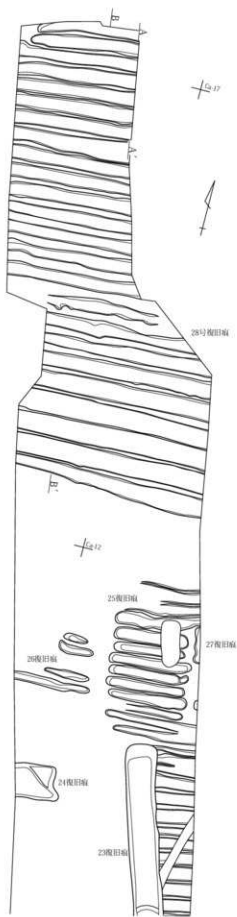
23号復旧痕

-B- 1:133.10w

24号復旧痕

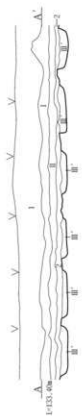
-C- 1:133.10w



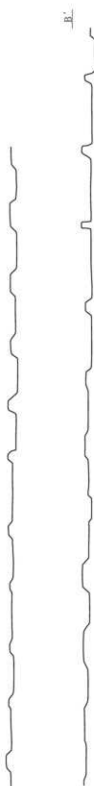


28号復旧痕 A-A'

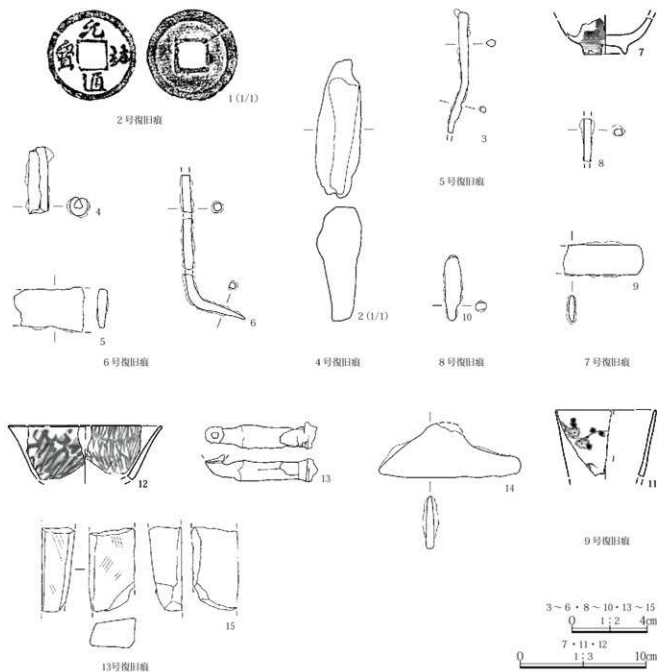
1 造成客土 大明院跡とIV層土の
2 茶褐色土 賦土。



B. 1:100.20m



第57圖 28号復旧痕



第58図 2・4～9・13号復旧痕出土遺物

(2) 溝

41号溝(第59図 P.L.15)

位置: Bh・Bi-5・6グリッド 規模: (7.61)m×0.25m 残存深度: 0.18m 走行方位: E-20°-N 遺物: なし 所見: 西側で38号溝と重複しており、38号溝を先行調査したために西端が残存していないが、本来は41号溝が新しい。埋没土は天明泥流主体で、細層土小ブロックを含むものであり、流下してきた泥流によって埋没したものは考えにくいので、掘削されたのは泥流被害を受けた後であろう。しかし、41号溝の検出された場所は

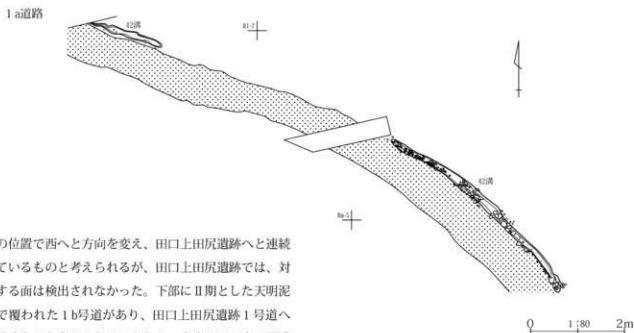
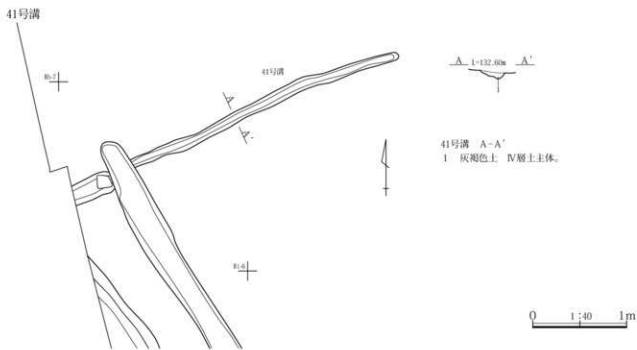
14・15号復旧痕が直行する方向で掘削されており、復旧痕の一部とも考えにくい。したがって、復旧作業が終了した後に掘削されたものと考えられるが、復旧痕の検出を行った時点で溝の存在は認識できなかった。

(3) 道

1a号道(第58図)

位置: Bg-Bp-0～7グリッド 規模: 62.30m×(3.20)m 残存深度: -1m 遺物: なし 所見: 調査区南端から北に向かい、中ほどで北西に方向を変え、さらに西寄

第4章 1面の調査（近世）



りの位置で西へと方向を変え、田口上田尻遺跡へと連続しているものと考えられるが、田口上田尻遺跡では、対応する面は検出されなかった。下部にⅡ期とした天明泥流で覆われた1b号道があり、田口上田尻遺跡1号道へと続くものと考えられることから、本来は田口上田尻遺跡においても対応する路面があったものであろう。1a号道は、天明泥流によって埋没してしまった1b号道を復旧することなく、その埋没した状態の上面をそのまま路面として使用したものと考えられ、1b号道の路面よりも0.25mほど高くなっている。流下堆積した泥流は固く締まった状態で検出されているが、路面にあたる部分は、ツルハシを使用しての掘削が必要ほどにより固く

第59図 41号溝・1a号道

締まっており、使用に伴って踏み固められたものではないかと思われる。道の両側は、被災前は畑地であったものと考えられ、路面と耕作面との比高はあまりなかったものと思われるが、畑地の復旧後路面は大畔状の高まりとなったものと考えられる。



第60図 1面II期全体図

第2節 第Ⅱ期(天明泥流直下)

第1項 田口上田尻遺跡

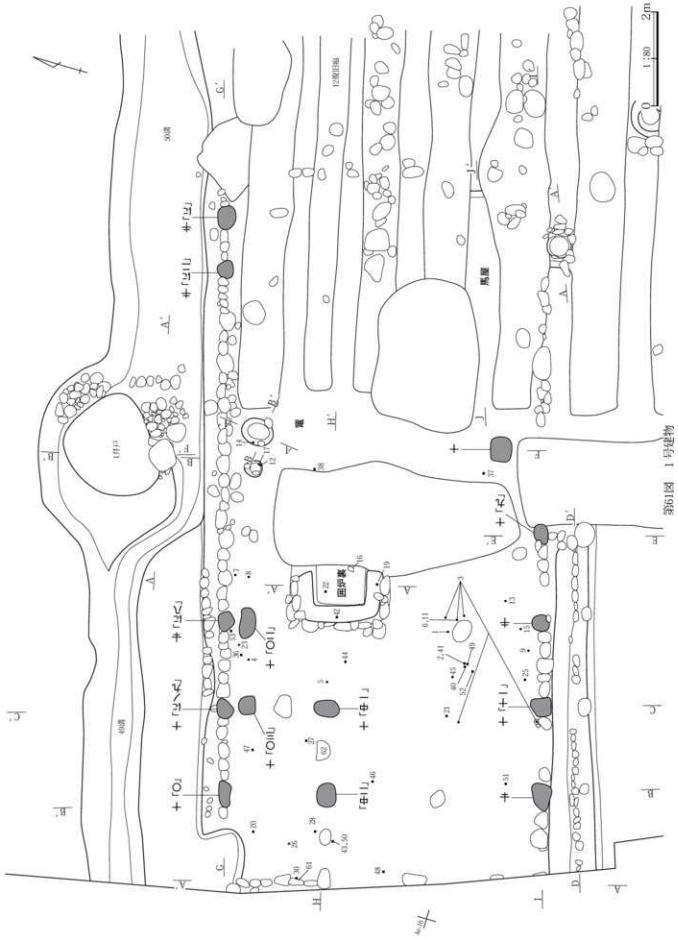
田口上田尻遺跡では広範囲に復旧痕が掘削されていたが、田口下田尻遺跡で検出された復旧痕と異なり条間隔が比較的広かったために、天明三年当時の地面が断片的に残されており、畑や水田などを検出することができた。また、桃ノ木川寄りには泥流で埋もれたまま復旧されなかった部分があり、そうした地点においては泥流被災前の状況を良好に残していた。検出された遺構は、建物跡3棟、井戸跡1基、土塁1カ所、道3条、畑、水田、溝、土坑などである。これらの遺構の中で、2棟の建物、井戸、土塁、溝の一部は1軒の屋敷を構成するものであるが、詳細は後述する。

(1) 建物

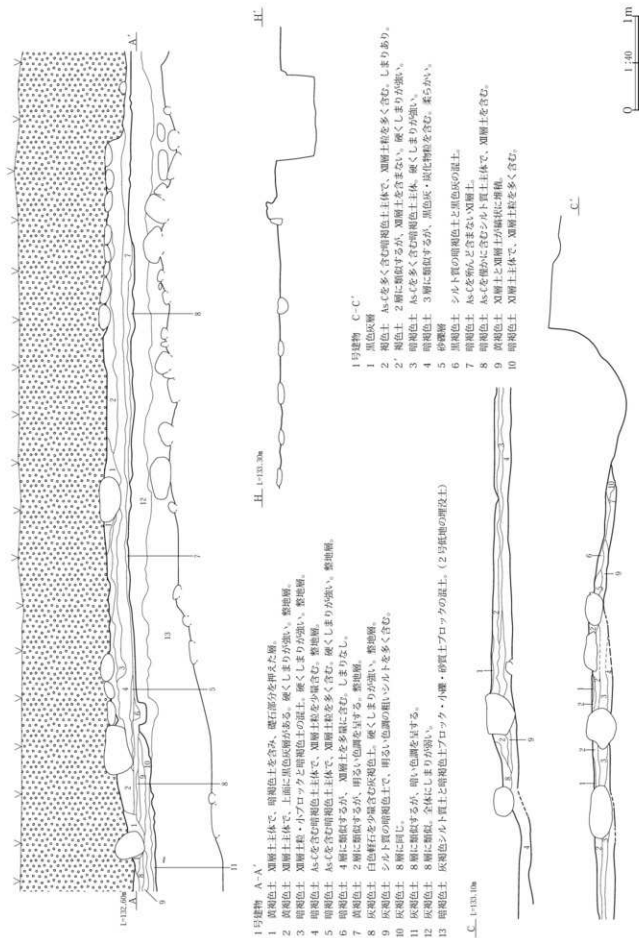
1号建物(第61～67図 P.L.16～21・230)

位置: Ad～Ah-15～17グリッド 規模: 間口15.00m、奥行き6.68m 棟方位: E-15°-N 埋設上: 天明泥流 遺物: 建物基礎を覆っていた天明泥流から出土したもので、陶器では、美濃陶器小碗(5)、丸碗(1)の他、筒形香炉(11)、皿(9)、肥前陶器碗(2)・皿(12)、仏飯器(4)、瓦の破片2点(17・18)、かわらけ2点などが出土した。金属製品では、煙管が14点、「寛永通宝」など銭貨15枚(40～54)、刀装具と思われる銅製品(30)、柄の木質の残る鉈1点(37)、鉄製紡錘車が1点(36)、火打金2点(38・39)、鉄釘4点(32～35)などが出土した。石製品では砥石5点、石臼が3点出土しており、62の下臼は建物の礎石に転用されていたものである。重複: 建物の東側1/3ほどが12号復旧痕によって壊されている。所見: 1号建物は、12号復旧痕と現代のゴミ穴で擾乱されているが、ほぼ全体像を捉えることができた。長方形に礎石が配置され、南面の西側約7.27mの範囲に間口に平行する礎石列がある。0.90m間隔に扁平で大振りな川原石を据えて礎石としており、間にやや小さな石が配置されている。礎石は一つおきにより大きな石が配置されており、その礎石には「+」または長短2本の横線間隔が約6cmの「半」状の当たりが付けられたものが見られ、

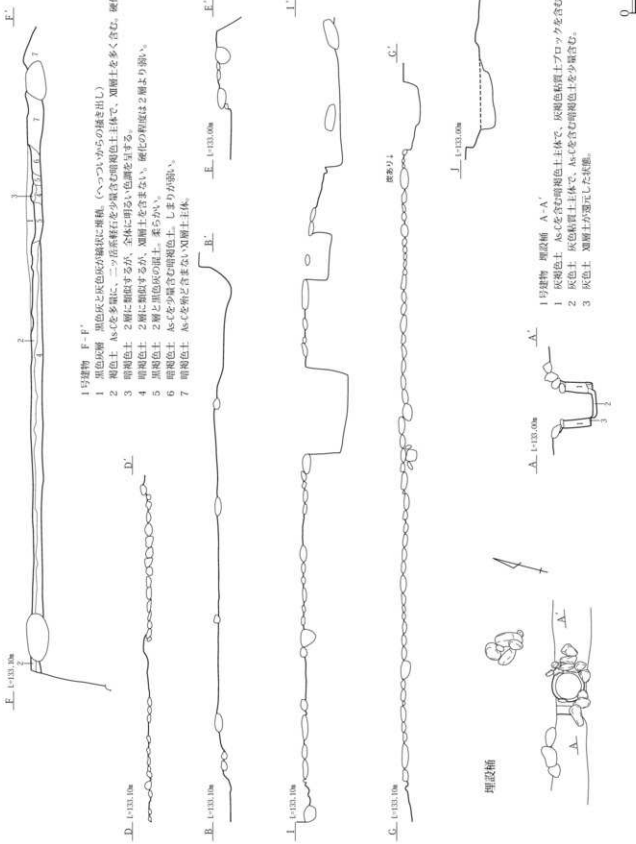
当たりの脇に「八」「中二」「〇三」などのような番付が書かれたものがあつた。復旧痕内から出土した礎石の中に「+」だけでなく、一辺約12cm(4寸)の正方形を組み合わせた当たりの付けられたものがあつたことから、「+」は柱の中心を示すものであり、「半」状の場合は長い横線が柱の中心、短線が角柱の側線の位置をそれぞれ示していることがわかつた。「半」状の当たりは、北、南、西の礎石列で確認されていることから、建物の側柱には4寸角の角材が使用されていたものと考えられる。建物内部は、南面する入口を入り左手の東西約7.30m、南北約6.70mが床張りされた間で、右手の東西約7.70m、南北6.70mが土間であったものと思われる。土間側は、入口正面の最奥部が台所、右手奥が馬屋となっている。台所には楕円形の窪みに石を据えた竈の痕跡が大小2カ所確認されているが、底面にわずかに灰と焼土が検出されただけで上部構造は残存していなかったが、竈の構築材と思われる焼けた粘土塊が50溝から検出されており、ここに取り壊して廃棄したのと考えられる。馬屋は南北に長い長方形の窪みで復旧痕による擾乱で規模などが判然としないが、周囲がやや高く中央部へ向かって緩い傾斜が付けられている。この馬屋の南側の建物外に、径0.4mほどの桶を埋設し上部を石で囲った施設が検出された。桶の埋設位置は、地表部分よりも深い位置にあり、ちょうど馬屋の窪みと一致しているが、村田敬一氏の御教示によれば小便所の可能性がある。入口部から台所周辺の土間は、非常に固く締まった状態で表面に灰の薄層が見られた。この薄層は、断面で観察すると1～2cmほどの間層を挟んで複数枚確認できることから、数度にわたる土間の改修があつたものと思われる。床張り部分の間取りは、北西部の東西約3.60m、南北約2.10mの範囲が「寝間」、その南側東西約3.60m、南北約4.60mの範囲が「座敷」、この2間の東側東西約3.65mの範囲が「広間」と考えられ、広間と座敷の南側には0.90mほどの幅の縁側があつたことが礎石から判明した。広間の北寄りには石で囲った「囲好裏」が設けられており、東半分が擾乱されているため東西規模は不明であるが、南北約1.15mの規模で内部には灰白色の灰が残存していた。こうした間取りは、村田敬一氏によれば、「三



第61圖 1号建物



第62図 1号建物土層断面図・高低図(1)



第63図 1号建物土層断面図・高低図(2)

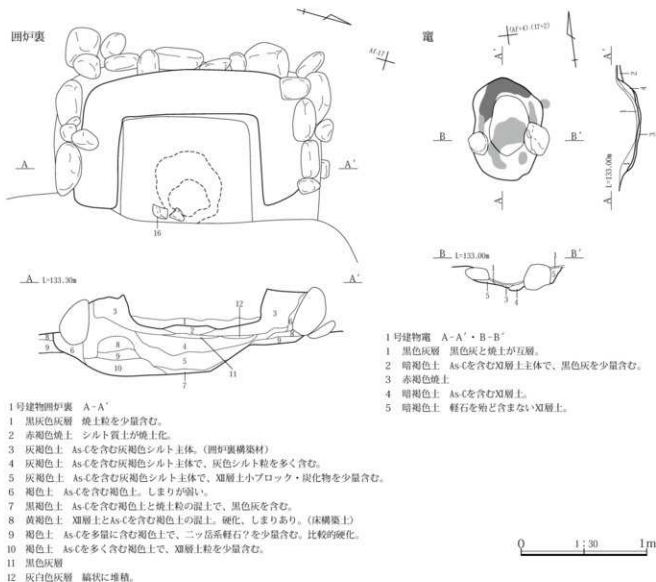
間取り・広間型」に分類されるもので、1750年代の典型的な間取りと位置づけられているものである。床張り部分の床下は、土間ほどではないが固く締まった状態で、表面に灰の薄層が見られた。陶磁器や煙管などの遺物は、床下に当たる部分の灰層上から出土しており、竈周辺などからの遺物出土はほとんど見られなかった。床張り部分と土間との区別なく灰層の直上を天明泥流が覆っていたが、建築部材等はまったく出土しておらず、竈の残存状況や遺物出土の少なさなどと考え合わせると、被災した時点で建物は上屋の無い廃屋の状態であったことは明らかである。また、本来田畑の復旧を目的とした復旧痕の掘削が建物東半にまで及んでいることも、この状況を示唆するものである。

土間や床張り部分の調査が終了した時点で、黄褐色シ

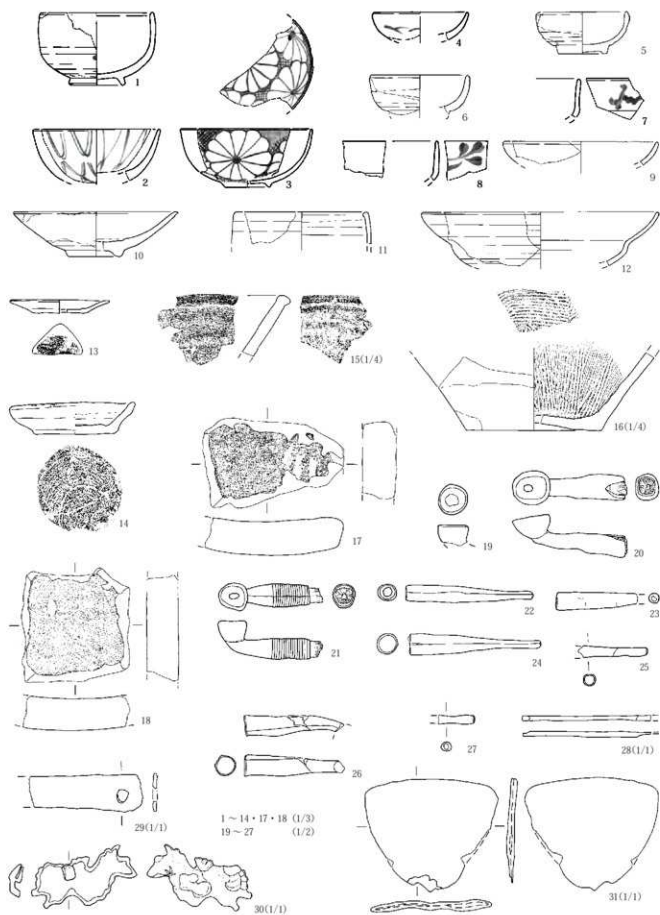
ルトの地山を確認断として下層調査を行ったところ、不整形形のピットが多数検出された。規則性を持って並ぶものは多くなかったが、中に底面に扁平な川原石を置いた例が3基あり、また、東西距離が約3.60mの間隔を持つ3列のピット列があることが判明した。残存状況が悪いため建物として組むことはできなかったが、礎石の建物の前に柱を埋め込んだ建物が同じ場所に構築されていた可能性がある。

出土した陶器は、在地系のすり鉢が15世紀中頃まで遡り得る以外、17世紀末～18世紀後半までの幅があるが概ね18世紀中頃のものが主体となっており、間取りから想定された年代と大きな齟齬は見られない。

1号建物と2号建物との間には庭と見られる平坦な空間があり、東側の一部は建物同様に復旧痕が掘削され、

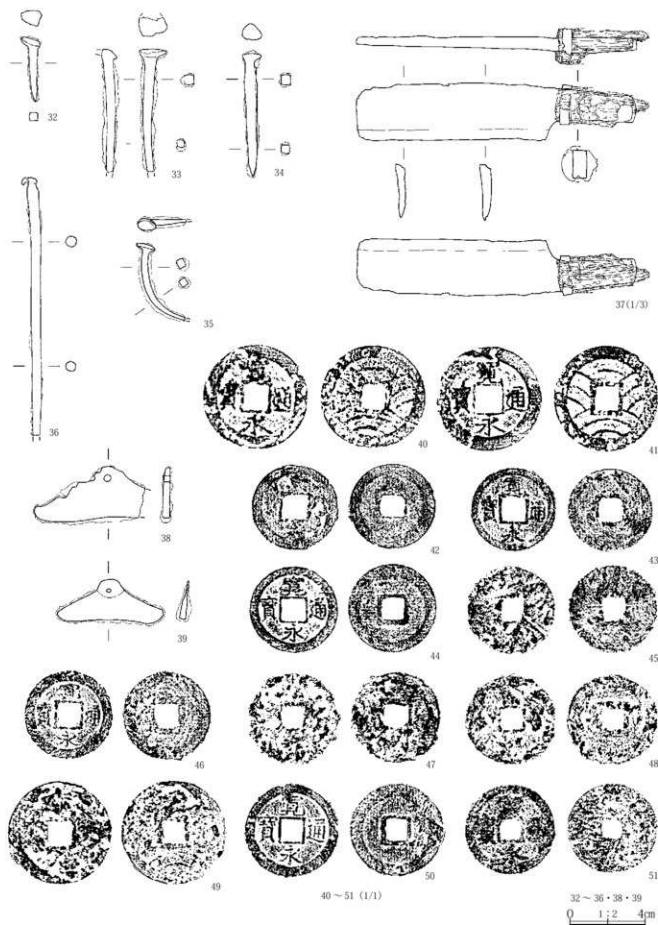


第64図 1号建物間取り裏・竈

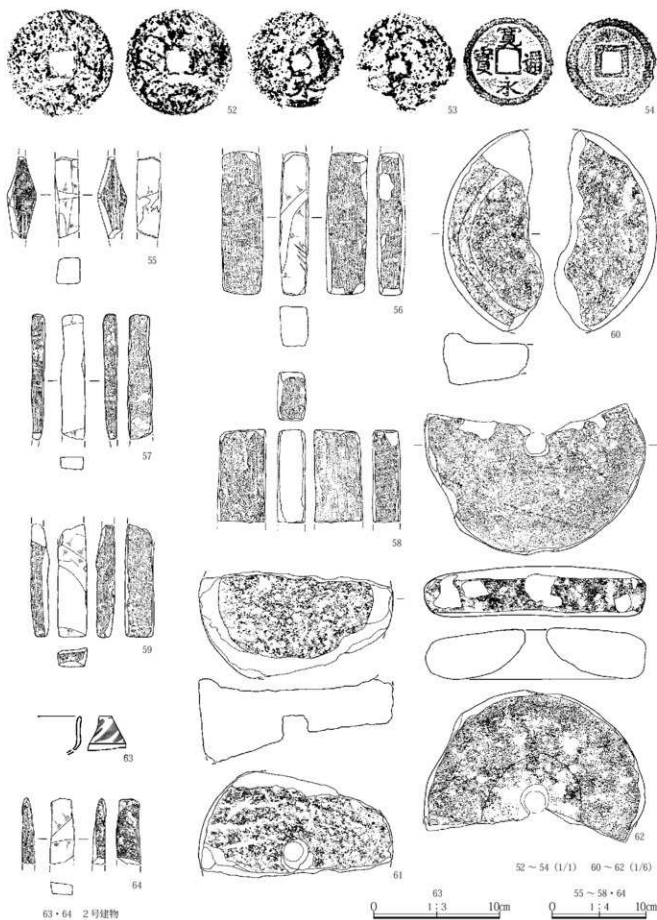


第65圖 1号建物出土遺物(1)

第4章 1面の調査(近世)



第66図 1号建物出土遺物(2)



63・64 2号建物

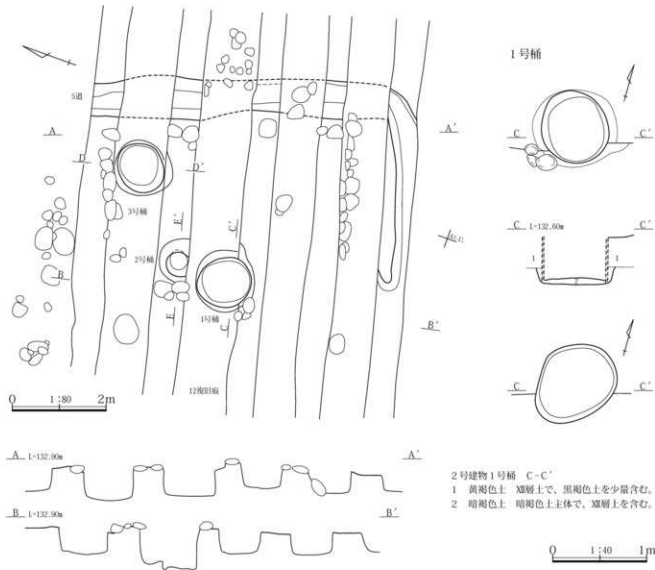
第67図 1号建物出土遺物(3)・2号建物出土遺物

南側には畑が畝立てされていた。1号建物への通路は後述する4号道と考えられ、28号溝の南側に沿った道から南側に折れ、3・4号水田の北側を西に向かい、3号水田の西端から北に向かい1号建物の庭へと入るルートが想定できる。また、1号建物と2号建物の間と4号配石とした部分の東側にも硬化した部分が発出されており、こうした部分が通路となっていたものと思われる。

2号建物(第68・69図 P.L.21・22)

位置: Ah・A1-15・16グリッド 規模: 間口(5.40m) 奥行き(3.60m) 残存深度:-1m 棟方位: N-20°-W
埋設土: 天明泥流 遺物: 18世紀後半の美濃陶器上絵碗が1点(63)と2号便槽から砥石が1点(64)出土している。重複: 12号復旧痕によって大半が壊されている。所見: 1号建物と一連の建物として同時に存在したものと考えられる。両建物の間には7号道が通過して1号建

物の南側の庭に抜けていたものと考えられ、建物の東側から南側へとは5号道が巡って、7号道と同様に庭へと向かっていたものと思われる。建物の大部分は12号復旧痕によって掘乱されているが、建物の基礎部分には川原石が並べられていたことが残存した石や復旧痕内から出土した川原石から確実である。しかし、1号建物のように一定間隔で際立って大きな石を配置した痕跡はなく、また、当りや番付を墨書した礎石も認められなかった。建物内部は土間と考えられるが、1号建物のように硬化面は確認されていない。建物の北寄りに偏在して3カ所に桶が埋設されていた。1号桶は、建物西際に埋設されたもので、径1.00m、深さ0.70mほどの規模である。底面は青灰色に固く締まった状態で、15~20cm幅の板を組み合わせた桶底の痕跡が残されていた。また、桶が設置されていた場所は、桶本体が腐朽することで空洞化し、

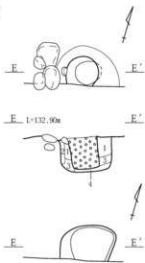


第68図 2号建物・1号桶

- 2号建物1号桶 C-C'
1 黄褐色土 畑層土で、黒褐色土を少量含む。
2 暗褐色土 暗褐色土主体で、畑層土を含む。

0 1:40 1m

2号桶

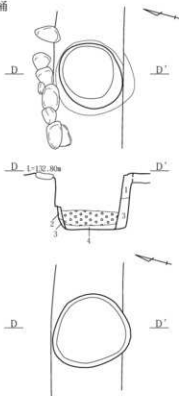


2号建物2号桶 E-E'

- 1 暗褐色土: 黒褐色土を含み、As-C・酸化鉄を少量含む。しまりややあり。
- 2 黄褐色土: 雑屑土。
- 3 暗褐色土: As-C・酸化鉄を僅かに含む。
- 4 暗褐色土: As-Cをごく僅かに含む。
- 5 黒褐色土: 雜屑土。

2cmほどの幅の環状の窪みとなっていた。2号桶は、1号桶の北側に埋設されたもので、径0.43m、深さは0.50mほどであり、桶本体の木質がわずかに残存していた。3号桶は、建物の北東隅に埋設されたもので、径0.95m、深さは0.85mほどと1号桶とほぼ同規模である。底面は暗灰色に固く締まっており、底面から7cmほどの厚さで黒褐色粘質土と砂礫が堆積していた。桶は3カ所ともに天明泥流が充填しており、被災時点で空の状態であったものと思われる。桶は便槽として埋設されたものと見られるが、埋設された位置が北寄りに偏っていることから便所と納屋と兼ねた建物であったと考えた。2号建物の南側から東側に沿ってわずかに窪んだ硬化面が検出されており、通路として使用されていたものと考えられる。また、前述のように1号建物との間の狭い部分にも通路があったらしく、2号建物の東側を巻く通路とともに50号溝に沿って通路が北から東へと延びていたものと考えられる。村田敬一氏の分析によれば2号建物は、1棟の建物ではなく大小便所2棟の建物として復元された。

3号桶



2号建物3号桶 D-D'

- 1 褐色土: As-C・二ッ尾系軽石を少量含む。
- 2 褐色土: As-Cを僅かに含む。
- 3 黄褐色土: 雑屑土。
- 4 黒褐色土: 黒色泥・褐色土を僅かに含む。

0 1:40 1m

第69図 2号建物2・3号桶

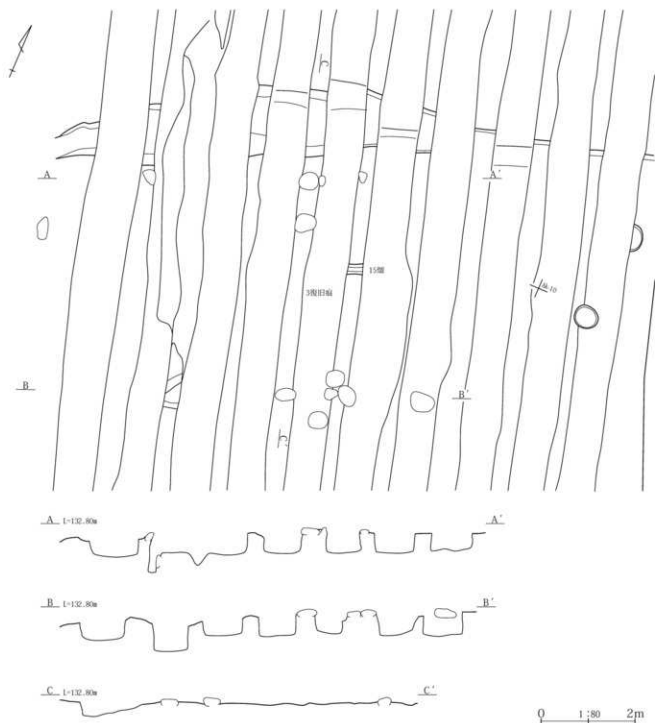
3号建物(第70図 P.L.22)

位置: Ai・Aj-9・10グリッド 規模: 間口1m 奥行き4.50m 残存深度: 1m 棟方位: E-22°-N 埋設土: 天明泥流 遺物: なし 重複: 13号復旧痕によって複乱されている。所見: 礎石らしい東西方向の扁平な川原石の列を検出したことから建物として扱った。原位置を保った石がわずかであるため、間口の規模はわからなかった。複数の石が検出された場所があるので、2号建物と同様に建物の外形に沿って川原石を連続して設置していたものと考えられる。建物内部に桶の埋設などはなく、建物の性格は特定できなかった。

(2) 井戸

1号井戸(第61・71・72図 P.L.22・230)

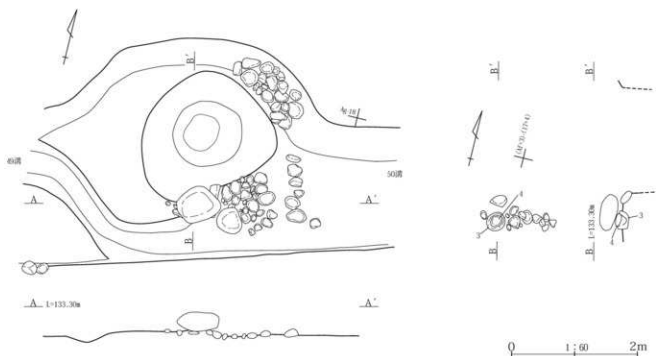
位置: Af-17・18グリッド 規模: 長軸2.15m、短軸1.30m 深度: 3.64m 埋設土: 天明泥流 遺物: 底面から製作地不詳の磁器碗(1)と瀬戸・美濃磁器の急須(2)が出土したほか、井戸際に石鉢(3)と窪み石(4)が割えられていた。重複: なし 所見: 1号井戸は、1号建物のカマド北側の土手との間に検出したものであり、この建物に付属する井戸である。締まりのない天明泥流が上層に充填して検出されており、1mほど泥流を掘削した



第70図 3号建物

段階で周辺に亀裂が生じたために、掘り抜くことは諦め、調査の最終段階で掘削機械を使用して底面を検出した。掘削開始時点から底部付近に至るまで、井戸枠に当たるものはまったく検出されておらず、使用時点での構造は不明である。井戸の南側には約1m四方の礎敷および直線的な配石があり、この部分から東西に49号溝・50号溝が掘削されている。49号溝は傾斜しながら西側に向かい、50号溝は49号溝と比較すると浅く明瞭な掘り方を

有していないが、北側の土手に沿って東に向かい、土手の切れる位置から北に方向を変えて48号溝へとつながっている。井戸際の礎敷き部分は流しと考えられ、この部分の排水が49・50号溝を介して行われたものと考えられる。また、礎敷き部分の一角に長軸70cmほどの大礫が据えられており、直下から中央に窪みのある扁平な川原石で蓋がされた石鉢が検出された。大礫は流しの一部として使用された可能性はあるが、石鉢については使用でき



第71図 1号井戸

る状況にはないことから、呪術の意味で埋設されたものと考えられる。前述のように上層は締まりのない天明泥流によって埋没していたわけであるが、出土した陶磁器は近現代のものとみられることから、井戸を埋め戻したのは極めて新しい時期であった可能性ができた。しかし、上層を埋めていたものが天明泥流であることは確実であり遺物の位置づけが理解できない。

(3) 溝

1号溝(第73・74図)

位置：Ba～Bc-10～20グリッド 規模：55.30m×0.60m 残存深度：0.45m 遺物：Ⅱ区において馬歯が1点出土した。 所見：1号溝は、田口下田尻遺跡から連続すると考えている1号道西側に掘削された溝であり、天明泥流で埋没している。1号溝の西側からは上幅0.70～1.20m、高さ0.10mほどの畔を挟んで天明泥流で埋没した水田が検出されており、北から南へと若干の傾斜を有し部分的に水的作用を受けた痕跡が認められることから、用水路及び道側溝として機能していた可能性がある。また、Ⅱ区において当溝下部から近世耕作土に類似する土層で埋没したより古い時期の9号溝が検出されている。

19号溝(第74図 P L.23)

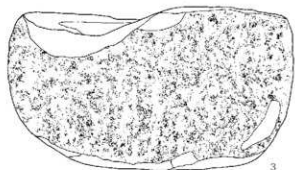
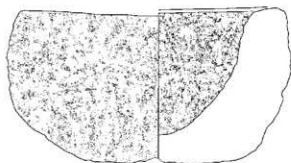
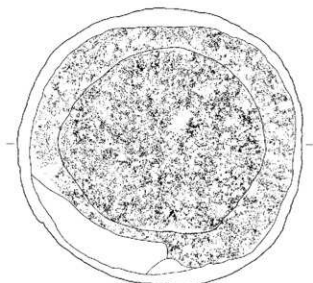
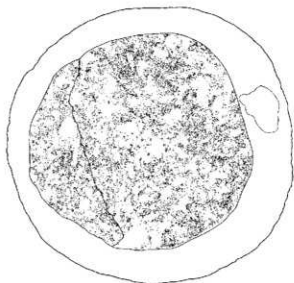
位置：Am～Ap-19～21グリッド 規模：20.50m×0.96m 残存深度：0.35m 走行方位：E-21°-N 遺物：なし 所見：Ⅰ区西寄りで検出したもので、北東から南西に向かってクランク状に屈曲している。当溝の南側にはわずかな窪みとして検出した2号道が並行している。固化した天明泥流が充填していたことから、流下堆積したまま復旧されなかったことが判明した。調査区の西側は現道によって判然としないが、方向から判断すると48号溝とした1号建物北側に掘削された溝に連続するものと考えており、排水路であった可能性が高い。

48a号溝(第75～78図 P L.23・230・231)

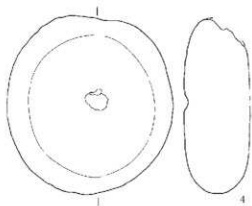
位置：Ad～Al-18・19グリッド 規模：40.20m×0.50～1.70m 残存深度：0.55m 遺物：底面付近及び側壁となっていた礫の間に喰い込む形で陶磁器・在地系土器・砥石が出土したほか、側面の石積みにも五輪塔などの石造物が部材として使用されていた。ここで当溝の遺物として取り上げたのは、天明泥流直下で出土したものに限り、基本的に埋没土となっている天明泥流中の遺物出土は皆無であった。陶磁器は、13～14世紀代の磁器から、18世紀後半から19世紀前半に位置付けられる陶器まで時間幅のある遺物が出土しているが、17世紀後半代と18世紀代の遺物が主体を占めており、18世紀代以降の遺物が48a号溝に伴い、17世紀代以前のものは後



0 1:3 10cm



3



4

0 1:4 10cm

第72図 1号井戸出土遺物

述する古い段階の48b号溝の遺物の可能性が高い。出土遺物の概要は、砥石、「寛永通宝」1枚、石臼(28～32)、五輪塔の水輪1点(33)などである。他にIV区の調査において馬骨が1点出土した。 **所見**：1号井戸の排水溝である50号溝が1号土塁の東側で合流しており、東西方向の排水路として掘削されたものであろう。東西の底面標高は、西側が0.60mほど低いことから、西側の桃ノ木川への排水を意図していたものと考えられる。溝の両側には部分的に3段ほどの石積みが行われ、天明泥流によって埋没後復旧された痕跡はない。溝の南側に沿って溝状の6号道が検出されているが、この溝と道が併走し天明泥流で埋没している状況は、19号溝と2号道と共通するものであり、当溝と19号溝が一連の溝である可能性が高い。19号溝に先行する溝があったのと同様に当溝下部にやや規模の大きな溝が検出されているが、別遺構として番号を付していないため、48b号溝として1面Ⅲ期で扱った。

49号溝(第79・80図 P.L.24・231)

位置: Ad～Af-17グリッド **規模**: 10.05m×0.48～1.20m **残存深度**: 0.70m **遺物**: 50号溝との境部分から在地系土器の風埴が1点(1)出土した。 **所見**：1号井戸の流しと見られる礫敷きから発して西に向かい、旧桃ノ木川に達すると考えられる溝である。東西の標高差はほとんど見られないが、状況から判断して井戸の排水および1号建物の雨落ちの処理を担ったものと考えられる。1号建物と同様に廃棄された状況であったことを反映して、天明泥流で埋没したまま復旧されていない。北側の1号土塁側は土塁を削り込むように垂直の壁を形成しているが、底は鍋底状で建物側は緩やかに立ち上がっている。こうした状況は廃棄時点のもので、当初は、幅1.20mほどの断面が逆台形状を呈する溝として掘削されたものと思われる。

50号溝(第79～81図 P.L.24・231・241)

位置: Ag・Ah-17・18グリッド **規模**: 14.80m×0.85～2.05m **残存深度**: 0.37m **遺物**: 東寄りの底面から小片であるが、17世紀後半～18世紀前半の美濃陶器丸碗、肥前陶器陶胎染付碗(3)、肥前磁器小碗(5)などの他、瓦や在地系土器の焙烙や不明の金属製品などが出土した。 **所見**：1号井戸の流しと見られる礫敷きから発して東に向かい、1号土塁の東端で北に直角に折れて48

号溝に合流している。49号溝と連続しており、一連の溝として井戸の排水及び1号建物の雨落ち処理のために掘削されたものと考えられる。断面の形状は、井戸付近では極めて浅い窪み状であり、48a号溝に合流する付近では、幅の狭い「U」字状となっていた。しかし、本来は泥流直下の面よりも35cmほど深い溝として掘削されていたようであり、使用に伴い黒色土(汚泥状?)によって埋まり、最終的には天明泥流で埋没した後に復旧されないまま放棄されたものと考えられる。また、汚泥状黒色土の上には、厚さ10cmほどの黒色の灰層が形成されていたが、この灰層は1号建物で確認された灰層と同一のものであり、両遺構が同時存在したことを裏付けている。北側の壁際から被熱した不定形の粘土塊が散乱して検出されたが、これは1号建物の礎を取り壊し、この場所に廃棄したものと考えている。

51号溝(第82図 P.L.24)

位置: Ag・Ah-10～12グリッド **規模**: 11.40m×0.95m **残存深度**: 0.40m **走行方位**: N-41°-E **遺物**: なし **所見**: 天明泥流で埋没した後復旧されることなく、放棄された溝である。北端部で北に方位を変えた部分から始まっており、この部分が8号溝の埋没後に作られ、天明泥流によって埋没した水田の末端に位置していることから、この水田の排水路と考えられる。天明泥流の復旧痕によって攪乱されているため判然としないが、北端部に礫が集中する部分があることから、この部分が水口になるものと考えている。また、当溝の西側には畑が敏立てされた状況で検出されているので、水田と畑との区画の役割も果たしていたものと考えられる。断面は緩い「V」字状を呈しており、南側の低地部に接する部分では、南側に土手状の高まりを設けており、底面付近にはわずかではあるが粗めの砂の堆積も観察されたことから、水の流れがあったことは確実である。

52号溝(第83図)

位置: Am-12・13グリッド **規模**: 6.87m×0.28～0.50m **残存深度**: 0.43m **走行方位**: N-12°-E **遺物**: 時期は合わないが、緑釉陶器の破片が1点出土した。 **所見**: 水田部分から南に向かって掘削された溝であるが、13号復旧痕によって攪乱されているため、検出できた部分以外は不明である。断面形状は袋状を呈し、流下堆積したと見られる天明泥流で埋もれたまま復旧されていない

いなど、76号溝に類似するあり方をしている。

73号溝(第83図 P.L.24)

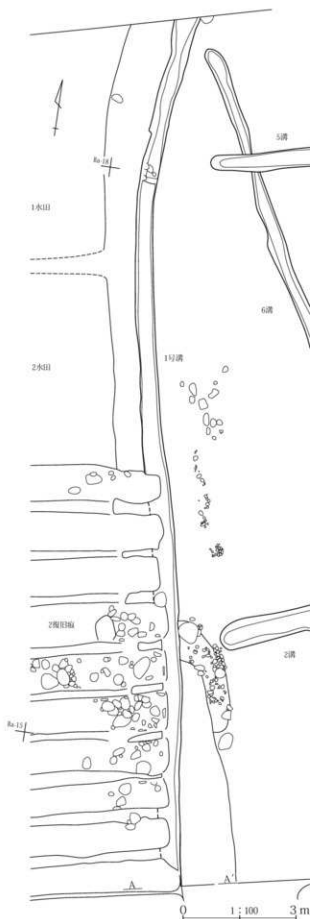
位置: Ar・As- 5〜7グリッド 規模: 11.12m×0.58m 残存深度: 0.19m 走行方位: N-18°-W 遺物: なし 所見: 15号復旧痕と29号復旧痕の間に位置している。北側で東に曲がっているが、その先は建物による擾乱で不明である。天明泥流で埋没した状態で検出されており、復旧された痕跡はない。73号溝の西側に3条ほどのごく短いサク状遺構のような痕跡が検出されたことから、畑の一部とも考えたが、北側で曲がる点や掘削規模が異なっていることなどから、畑のサクの可能性は除いた。15号復旧痕は、73号溝の位置を基準線として掘削されているような状況が看取できることから、地境に設けられた溝である可能性がある。

76号溝(第83図 P.L.24)

位置: An〜Ao-11〜13グリッド 規模: 45.00m×0.59〜1.50m 残存深度: 0.64m 遺物: なし 所見: 5号水田の際から南に向かい、11m程の位置から走行方向を南西に変えて小さく蛇行しながら西端の低地部へと達する溝として捉えた。13号復旧痕によって大半が擾乱されているが、南北に走行する部分では断面が袋状になるような掘り方で、天明泥流で埋没していた。溝部分に堆積していた天明泥流は、復旧痕に埋め戻された泥流より暗色で固く締まっていることから、流下堆積したものと見られる。低地部まで達しているので排水路の可能性もあるが、底面に粗粒砂などの堆積は認められず、南北に走行する部分が最も深く掘削されている点など、否定的な条件もある。

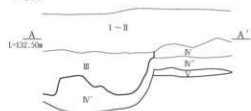
77号溝(第83図)

位置: Ao・Ap-14グリッド 規模: 5.98m×0.43m 残存深度: 0.24m 走行方位: E-19°-N 遺物: なし 所見: 5号水田の南側に検出した溝で、天明泥流で埋没した状態で検出されており、復旧の痕跡は見られない。東側は1号復旧痕によって擾乱されて判然とせず、西側は土坑との重複で失われているが、土坑西側から南に向かって76号溝が検出されており、この溝につながっていた可能性がある。掘り方は断面「U」字状のしっかりとしたものであるが、底面に砂粒などの堆積はまったく認められていない。

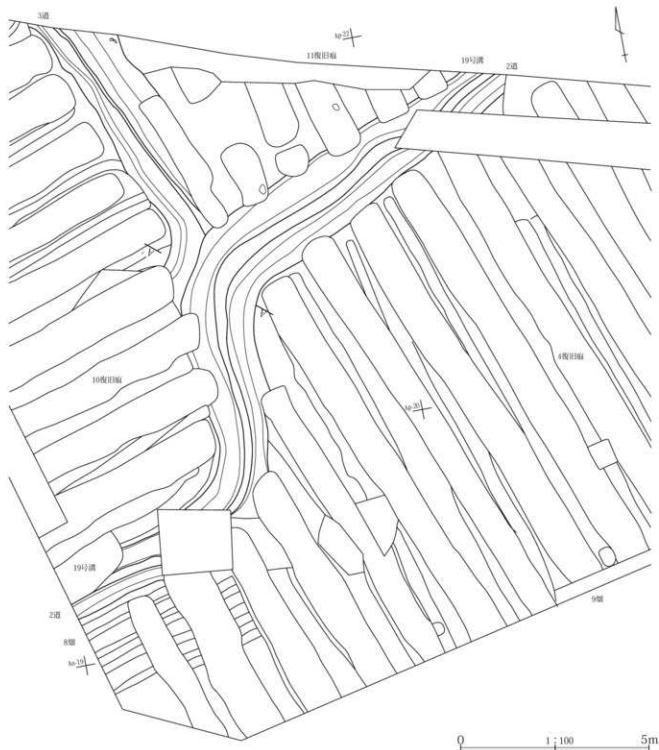


第73図 1号溝

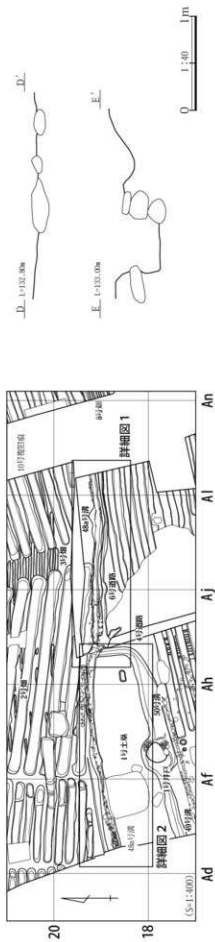
1号溝



19号溝



第74图 1号溝土層断面図・19号溝



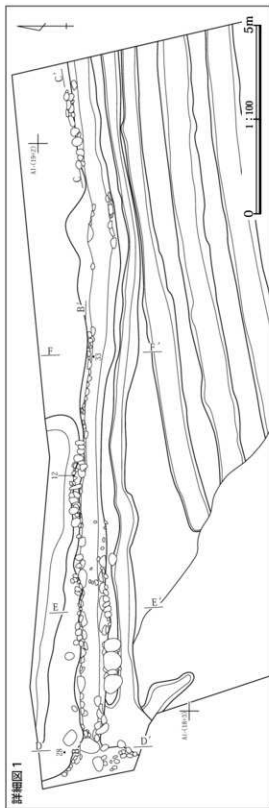
D. I-132.08

D'

E. I-133.08

E'

0 1:40 1m



B. I-133.08

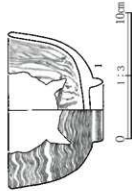
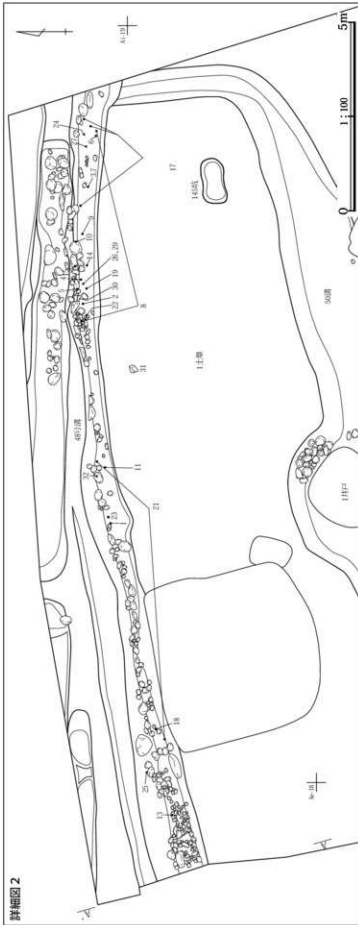
C. I-132.58

C'

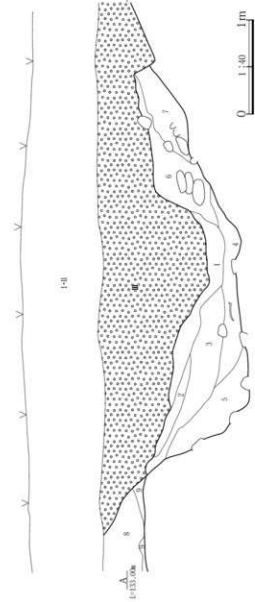
B. I-133.08

E'

第75図 48a号溝(1)

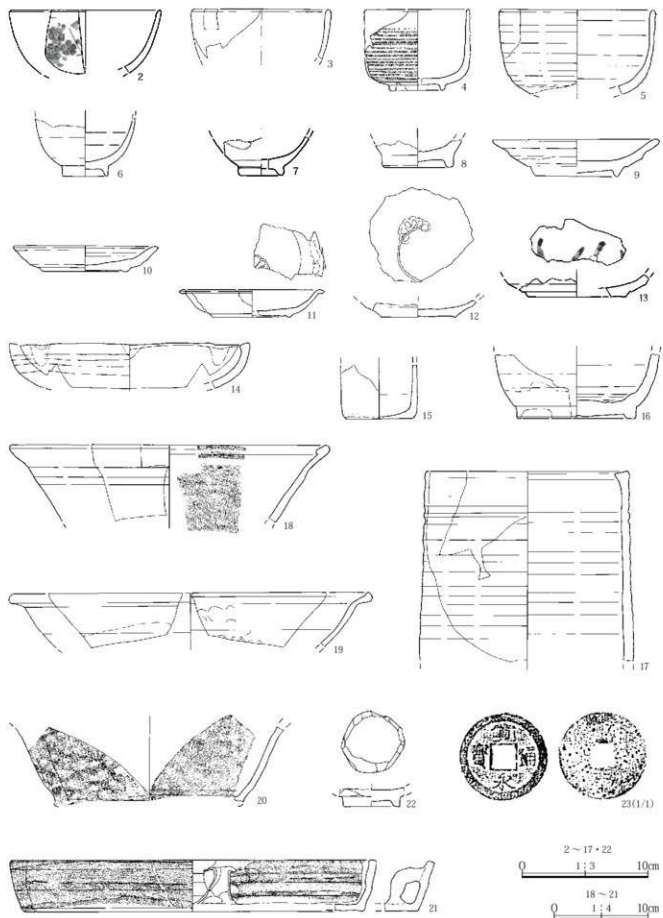


- 48a号溝 A-A'
- 1 黒褐色土 厚層土と砂の混土。
 - 2 灰褐色土 黄褐色シルトと灰色シルトの混土。
 - 3 灰色シルト 一部底部に礫層に覆われる灰色シルト主体。(洪水堆積層)
 - 4 黄褐色土 明褐色土とX層土とX層土プロックの混土。
 - 5 暗灰色シルト 3層と向直であるが、団体に色調が暗く粘性がある。
 - 6 灰褐色土 シルト質で、白色軽石と砂を多く含む。上面硬化(腐植?)
 - 7 暗褐色土 礫を多く含む。しまりが強い。
 - 8 灰褐色土 X層土と砂礫を含み、しまり・粘性が強い。(土盛り層)
 - 9 灰褐色土 X層土を含む灰褐色土。

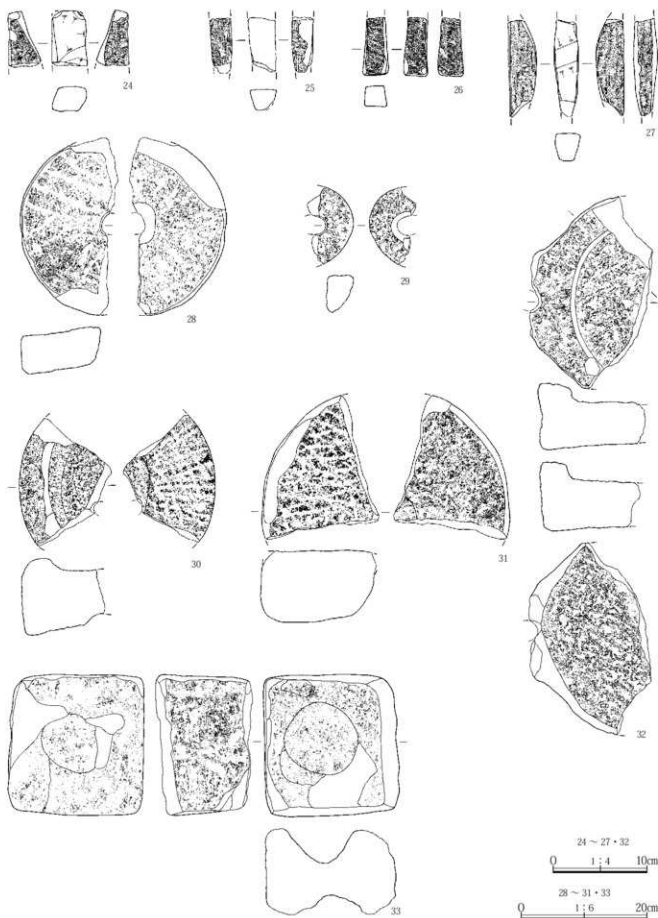


第76図 48a号溝(2)・出土遺物(1)

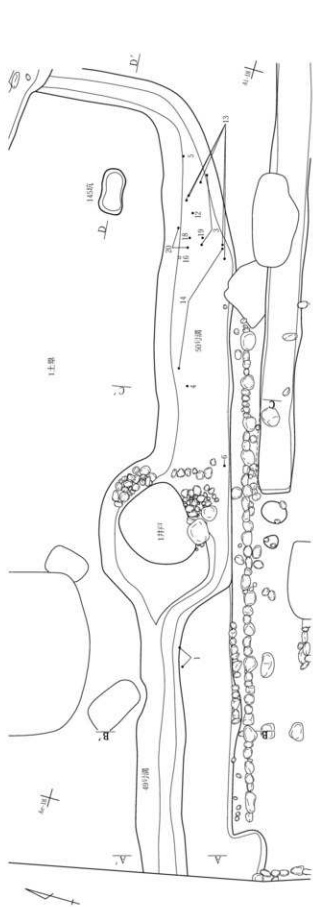
第4章 1面の調査(近世)



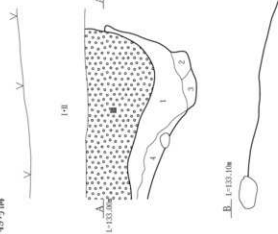
第77図 48a号溝出土遺物(2)



第78図 48a号溝出土遺物(3)



49号溝



49号溝 A-A'

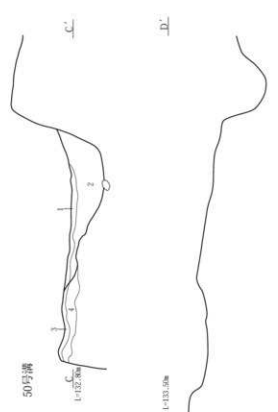
- 1 灰褐色土 灰色シルト主体で、酸化鉄粒を多く含む。
- 2 灰褐色土 1層に類似するが、粘性がやや強い。
- 3 砂層 均一な粒径の砂層。
- 4 灰褐色土 燧層土粒を含む灰褐色土主体。

50号溝 C-C'

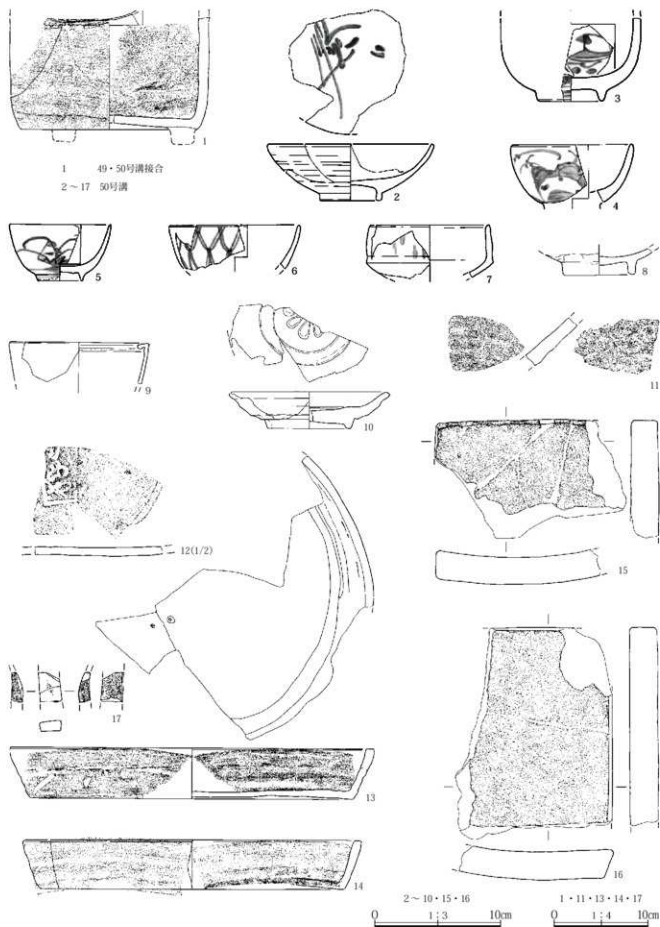
- 1 黒色灰層
- 2 黒色土 黒色灰主体で、シルト質の燧層土の混土。
- 3 暗褐色土 燧層土主体で、燧層土粒を比較的多く含む。
- 4 暗褐色土 燧層土と燧層土の混土。

D. I-133.0m

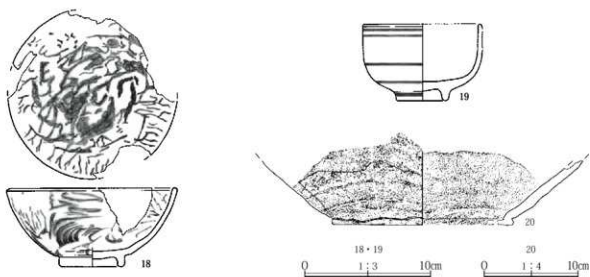
50号溝



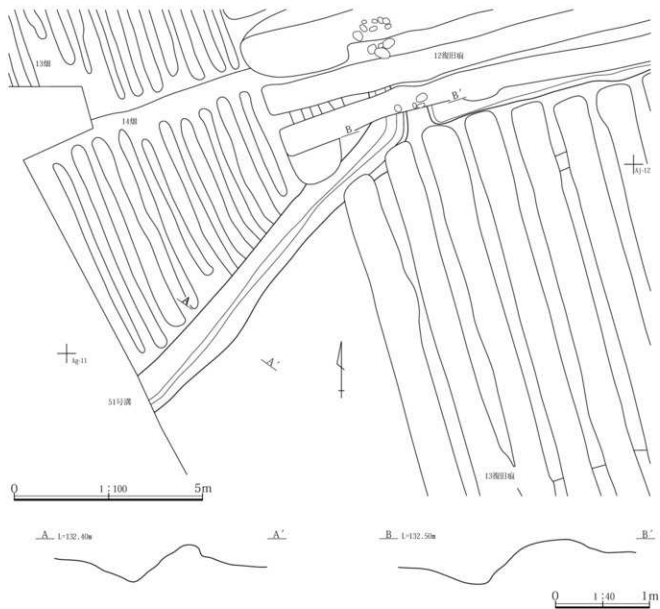
第79図 49・50号溝



第80図 49・50号溝出土遺物

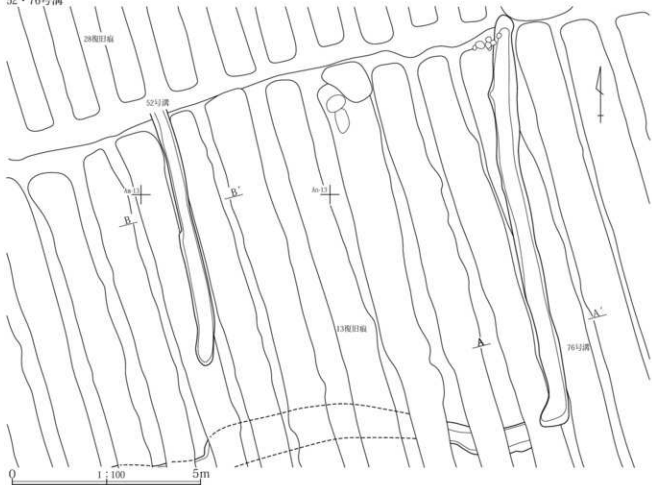


第81図 50・57号溝出土接合遺物



第82図 51号溝

52・76号溝



73号溝



73号溝 A-A'
I 黒褐色土 DC層上主体

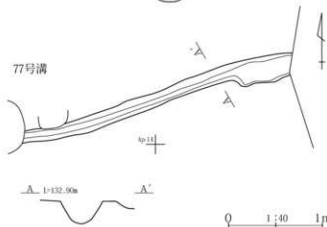
76号溝



52号溝



77号溝



0 1:40 1m

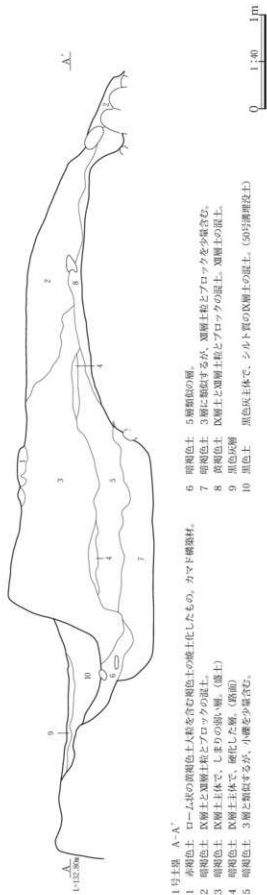
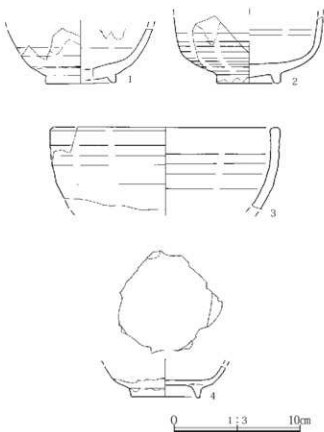
第83図 52・73・76・77号溝

(4) 土塁

1号土塁(第84～87図 P.L.24・25・231・232)

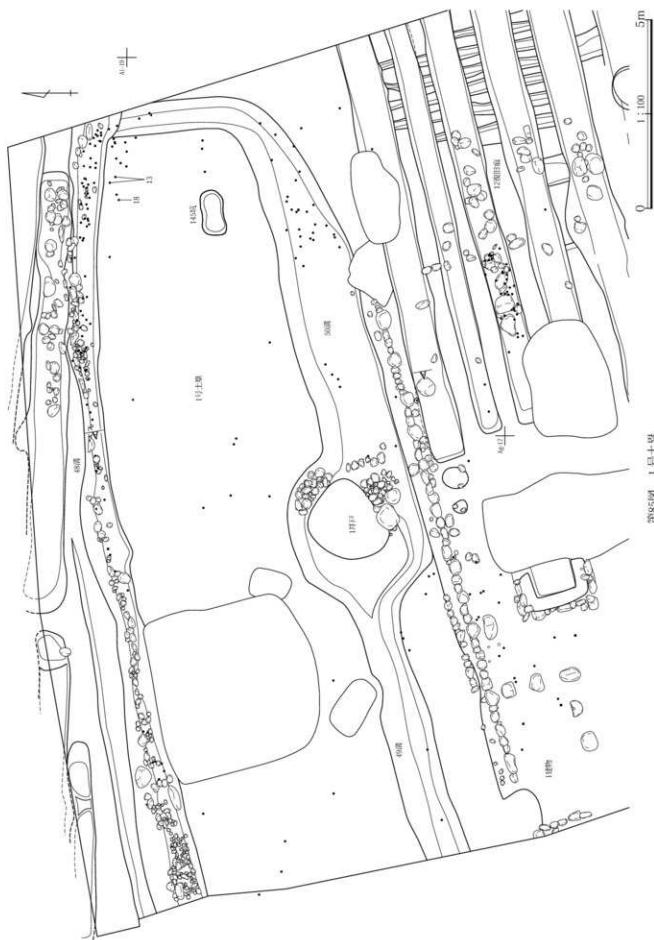
位置: Ad～Ah-17～19グリッド 規模: 20.20m×5.65

m 遺物: 土塁の精査時点と掘り下げに伴って出土したもので、17世紀代の瀬戸・美濃陶器志野盤(8)、黄瀬戸鉢(7)、在地系土器の焙烙(11)、鍋(14)、竈(17)の他、茶臼の下臼1点(21)、砥石、「寛永通宝」1枚などが出土した。 所見: 1号建物の北側に位置する土塁であり、当初は自然に形成されたものと捉えていたが、下部で検出した58号溝が埋没後に盛り上げたような堆積状況が観察されたことから、人為的な盛土と結論づけた。1・2号建物、1号井戸、49・50号溝などで構成された屋敷地の整備の一環として盛土されたものであろう。盛土は、地山の黄褐色シルトを主体として砂礫を含む土で行われているが、全体に灰褐色を呈し、粘性・締まりの弱い層を形成している。土塁上面は後世の削平によって失われているため、本来はどの程度の高さがあったのかなどは不明である。また、土塁中層に複数枚の硬化面を検出した。最も条件良く検出した面では2条の並行する硬化面が東西方向に走行していることがわかった。

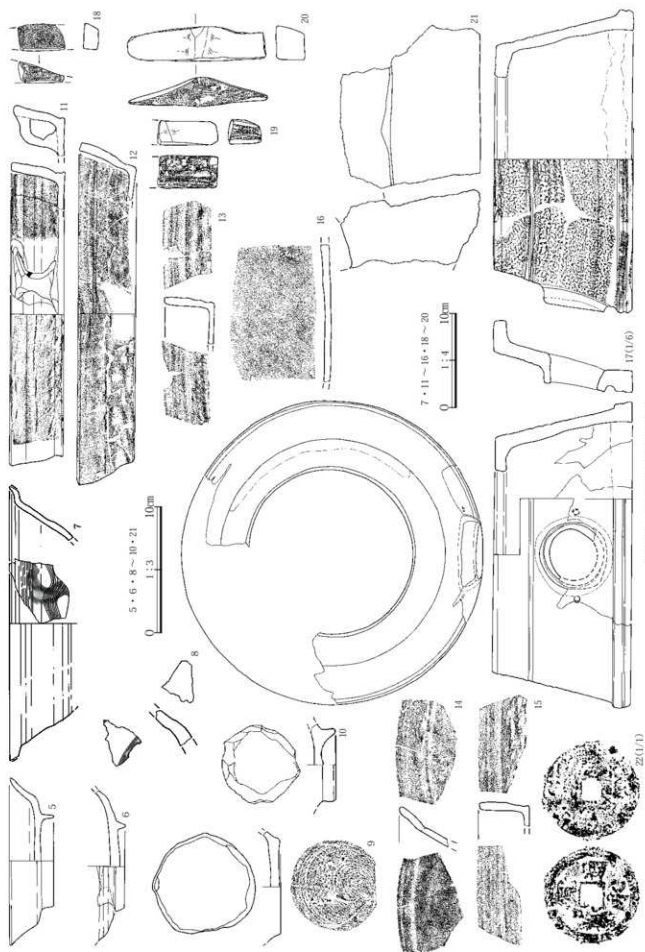


- 1号土塁 A-A'
- 1 赤褐色土 ローム状の黄褐色土人形を含む褐色土の堆土化したもの、カマド構築材。
 - 2 暗褐色土 灰層土と灰層土粒とブロックの混土。
 - 3 暗褐色土 灰層土と灰層土粒とブロックの混土。
 - 4 暗褐色土 灰層土主体で、しまりの弱い層。(盛土)
 - 5 暗褐色土 灰層土主体で、硬化した層。(原面)
 - 6 暗褐色土 3層と類似するが、小礫を少量含む。
 - 7 暗褐色土 3層と類似するが、灰層土とブロックを少量含む。
 - 8 黄褐色土 灰層土と灰層土粒とブロックの混土。瀝土の混土。
 - 9 黒色灰層 黒色灰主体で、シルト質の灰層土の混土。(50号溝埋没土)
 - 10 黒色土

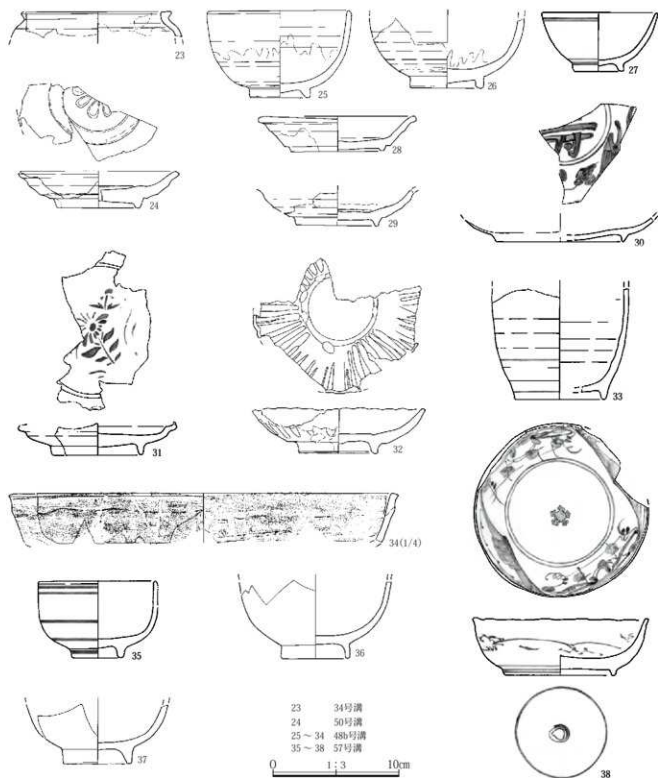
第84図 1号土塁土層断面図・出土遺物(1)



第85図 1 埴土塚



第86図 1号土器出土遺物(2)



第87図 1号土塁・34・48b・50・57号溝出土接合遺物

(5) 道

2号道(第88図 P.L.25)

位置: Am ~ Ap-19 ~ 21グリッド 規模: 20.50m × 0.90m
 残存深度: 0.26m 走行方位: E-27°-N 遺物: なし
 所見: 19号溝に並行して北東から南西に向かいウランク状に屈曲している。断面形状は浅い溝状を呈して

おり、幹線道ではなく水路に沿った枝道である。固化した天明泥流で埋没していたことから流下堆積したまま復旧されていない。19号溝の場合と同様に48号溝の南側に部分的に検出された道に連続するものと考えられる。

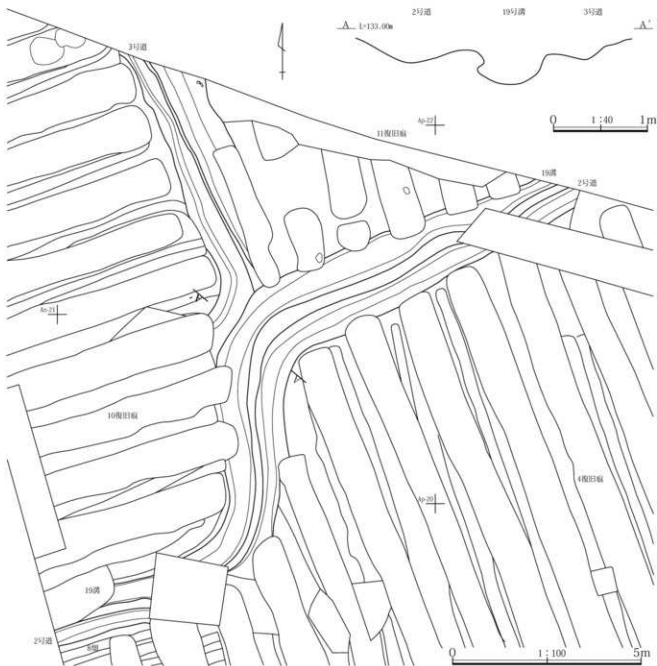
3号道(第88図 P.L.25)

位置: An・Ao-20～22グリッド 規模: 7.60m×0.78m
 残存深度: 0.15m 走行方位: N-25°-W 遺物: なし
 所見: 南北方向に走行しており、19号溝に連結した地点で溝北側に沿っていたものと考えられるが、泥流復旧痕によって壊されており判然としない。断面形状は2号道と同様で枝道である。

4号道(第89図)

位置: Ag～An-14～16グリッド 規模: 40.00m×1.30m
 残存深度: 0.16m 走行方位: N-0°-W～E-14°-N 遺物: なし 所見: 現代まで続いた墓地の西側

を南北に通過し、南の水田北側の台地縁辺に沿って西に方向を変え、1号建物・2号建物で構成された屋敷の庭に向かい北上すると考えられる道であり、基幹道路から分かれて屋敷地へと向かう出入りのための主要通路であった可能性が高い。4号道の先はL字形に走行する私道に沿って北上し6号道へと通じる道と、私道下を東に向かい1号道に合流する2経路が想定できる。天明泥流で埋没した後で復旧された形跡はないことから、1号建物が放棄された段階ですでに道としての機能が失われており、復旧対象とはならなかったものと考えられる。道



第88図 2・3号道

の断面形状は逆台形状を呈し、路面幅は1.10mほどの平坦な面となっている。こうした道幅などが確認できたのは、VI区の南北方向に走行する場所だけで、他の部分は復旧痕によって攪乱されて判然としない。

5号道(第90図)

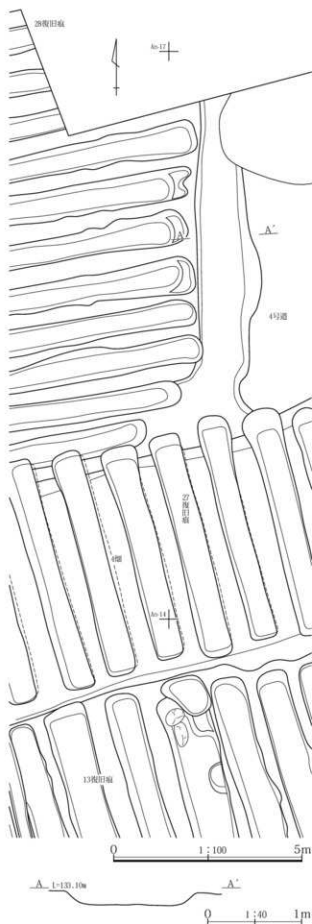
位置：Ah・A1-15・16グリッド 規模：10.40m×0.88m
残存深度：0.15m 走行方位：N-21°-W-E-20°
-N 遺物：なし 所見：2号建物の東側軒先から南側軒先を巡り庭へと通じる道であり、連続するわずかな窪みとして確認した。4号道と比較して小規模であることから、屋敷内の通路的な性格の道と考えられる。北側は建物が放棄された後に耕作された畑によって判然としないが、7号道と合流し、さらに48号溝に沿って設けられた6号道へと通じていた可能性がある。また、南を巡る部分は、建物際あたりから先は道として認識することができなかった。

6号道(第90図 P.L.25)

位置：Ah～A1-18・19グリッド 規模：18.80m×0.35～0.50m 残存深度：0.15m 遺物：なし 所見：48号溝に併走して溝の南側に検出した。溝状に窪んだ踏み分け道のような構造で、弱い硬化面が認められた。溝と併走する構造から1区で検出されている2号道と一連の遺構と考えている。西側は判然とないが、1号土塁の北側を西に向かう道と土塁東側で南側に折れ、1号建物と2号建物との間を通過して南側に抜ける7号道、及び2号建物に沿って東側から南側に折れて屋敷の庭に通じ、さらに南から屋敷に入る4号道に通じていたと考えている。

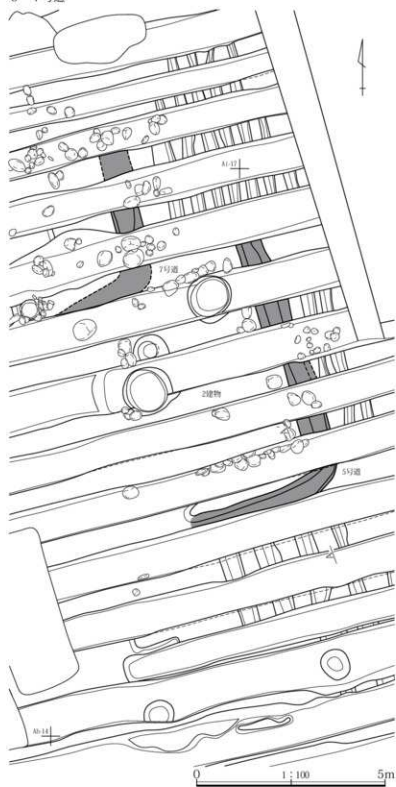
7号道(第90図)

位置：Ah-16グリッド 規模：3.20m×0.76m 残存深度：0.06m 走行方位：N-17°-W 遺物：なし 所見：1号建物の東側に沿い、2号建物との間を通過して屋敷の庭へと通ずる道である。規模などは5号道に類似しており、屋敷内の通路であったものと思われる。北側は1号建物が放棄された後に耕作された畑によって攪乱を受け判然としないが、48号溝に沿って設けられた6号道が土塁に沿って南に向かう可能性があり、この道に通じていた可能性が高い。

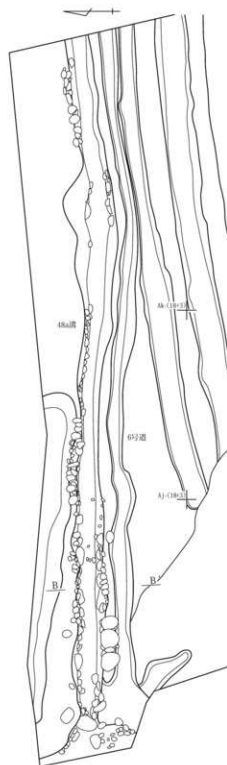


第89図 4号道

5・7号道



6号道



5号道

A_ 1-133.00m

A'



6号道

B_ 1-133.00m

B'



第90図 5・6・7号道

（6）水田

水田土壌と見られる灰色粘質土の範囲は、8号溝とした大規模な溝の部分だけに検出されており、基本的に8号溝が洪水などによって埋没して形成された低地部に営まれたものと考えられる。したがってほぼ8号溝の上幅に重なるような位置に6枚の水田を検出した。水田の遺構番号については、本来であれば上から付すべきであるが、水田範囲が当初から予測されたわけではないために調査順で任意に付している。1・2号水田はⅡ区、3号水田はⅣ・Ⅵ区、4号水田はⅥ区、5号水田はⅡ・Ⅵ区、6号水田はⅠ区で、それぞれ検出したものである。畦による区画として1枚の水田として捉えられたものばかりではないが、水田面の標高を比較すると北側から南西に向かって0.10～0.20mほどの比高で下がっていることから、給水は北側からの掛け流しによった可能性がある。各水田については後述するが、全体が検出されていないものや、範囲が判然としないものが大半であるため、面積の計測はしていない。

1号水田（第91・92図 P.L.25・26）

位置：Aq・Ba-17・18グリッド 水田面標高：132.91～132.93m 畦との比高：0.13m 埋没土：天明泥流
遺物：なし 所見：Ⅱ区の調査で検出したもので、2号水田との間に東西方向の残存長4.20mほど畦を1条検出した。また、東側に1号道の西側溝及び水路と位置付けた1号溝との間に高さ0.10mほどの畦が構築されていた。西側の水田端部は正確に捉えることができなかったが、8号溝の上端とした位置よりは西側に広がっていた可能性が高い。水田面には泥流によると思われる北東から南西に向かう細い溝状の擦痕が残されており、泥流が水田のあった低地部に沿って流下したのと考えられる。畦の北面には、泥流によって押しつぶされたように稲株と思われる茶色に変色した植物痕跡が見られた。2号水田との間の畦は、残存部分では東西に直線的に設けられており、そのまま西端まであったものと考えられるが、復旧痕の攪乱により失われ、水口の位置も捉えられない。水田の耕土は、灰色を呈する粘質土で、0.05～0.13mの厚さで確認された。1号水田の東側の4mほどの範囲は、復旧痕による攪乱を免れているが、これは復旧痕の掘削に際して南側であつた石積み部分を避けるために、一定範囲離れた位置から掘削開始したことによると

思われる。北側に位置する6号水田との比高は0.20m、南側の2号水田との比高は0.07mほどである。

2号水田（第91・92図 P.L.25・26）

位置：Ap～Ba-14～17グリッド 水田面標高：132.84～132.86m 畦との比高：0.20m 埋没土：天明泥流
遺物：なし 所見：1号水田の南側に位置しており、西端は復旧痕による削平で判然としない。1号水田と同様に東側の4mほどの範囲に水田面が残存しているが、残された理由は1号水田で述べた通りである。西側に位置する5号水田とは0.07mほどの比高があることから、間に畦が設けられていたはずであるが、復旧痕による攪乱で位置の特定ができなかった。残存した水田面は、1号水田のような細い擦痕はあまり顕著ではなく、全体に細かな凹凸が見られた。東側の縁にある1号溝を道の側溝及び水路として位置付けたが、1号水田との境にある畦の東端部分に1号溝からの取水口は認められていないことから、水田への給水は個々に1号溝からなされたものではなく、基本的には北側の水田から順送りに給水する掛け流しであった可能性が高い。

3号水田（第91・93図 P.L.26）

位置：Ah～Al-12～14グリッド 規模：17.30m×6.10m 面積：105.5㎡ 水田面標高：132.35～132.42m 畦との比高：0.16m 埋没土：天明泥流 遺物：なし 所見：最も西側に位置する水田であり、唯一水田の規模が捉えられた。東西に畦が設けられており、特に西端の畦は下幅0.80m、比高0.16mほどで、復旧痕による攪乱で北半が失われているが、一角に設けられた水口から排水路と考えられる51号溝へと水が導かれていたものと考えられる。東側に位置する4号水田とは比高が最大で0.13mあるが、間に設けられた南北方向の畦の両側ではほぼ同じ高さである。4号水田との間の畦は、下幅0.40m、水田面との比高0.09mであり、西端に設けられた畦より小規模である。畦の南端は南側の台地に接しており、畦中央に水口らしい窪みが確認されていないことから、必然的に水口は北端の復旧痕で削平されている場所に設けられていたものと考えられる。わずかに確認された水田面は、硬く締まった灰色粘質土であり、泥流による擦痕は顕著ではなく細かな凹凸が認められた。

4号水田（第91・93図 P.L.26）

位置：Al～Ap-13～15グリッド 規模：—m×5.70m



第91圖 1～6号水田全体図

水田面標高：132.42～132.48m 畦との比高：0.44m
埋没土：天明泥流 遺物：水田面に食い込むように煙管と思われる銅製品が2点と「寛永通宝」1枚が出土した。
所見：3号水田の上流側に位置する水田であり、南北幅はほぼ8号溝の上幅と一致している。水田面の状況及び標高は3号水田に類似している。5号水田との境となる畦は北東方向に延びており、確認できた長さは5.30m、下幅0.80m、4号水田との比高0.37mである。北東端は現代の墓の改葬による攪乱を受けているため確認できなかったもので、本来はさらに北東または北側に延びていたものと考えられる。水口は検出されていないが、畦の位置から推して北側にあったとは考えにくく、5号水田の南西側の狭まった先に設けられたものと思われる。西に位置する3号水田との比高は0.06m、東側の5号水田との比高は0.28mほどになる。

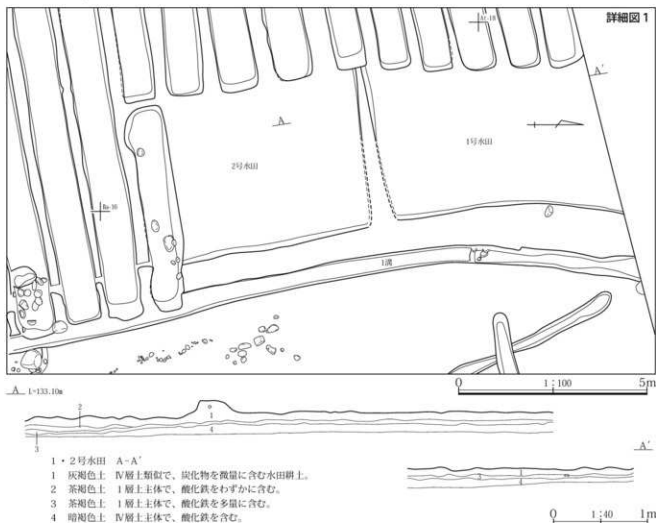
5号水田(第91・93図 P.L.26)

位置：Ao～Ap-14・15グリッド 水田面標高：132.73

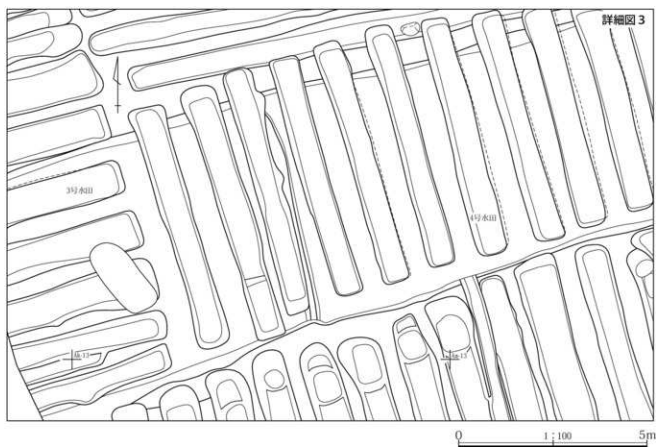
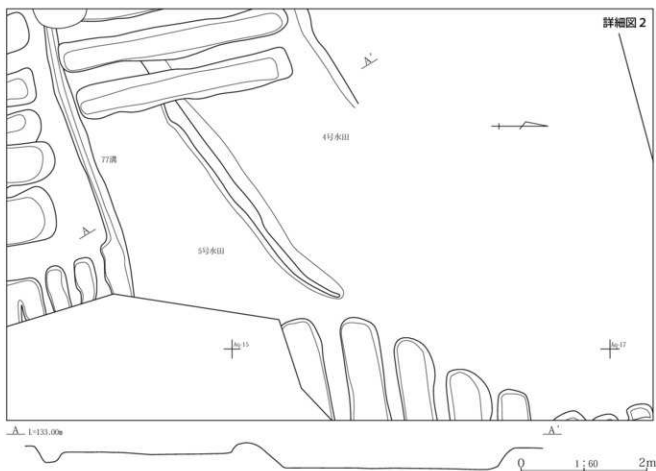
～132.76m 畦との比高：0.13m 埋没土：天明泥流
遺物：なし 所見：後世の耕作等によって水田土壌が判然としない場所であり、灰色粘質土の範囲としては捉えることができなかった。したがって、東側の2号水田との間にあつたであろう畦の検出もなく、水田範囲が判然としない。しかし、他の水田のあり方からして8号溝の範囲として捉えて大過ないであろう。

6号水田(第91図)

位置：Ar～Ba-19～21グリッド 水田面標高：133.13m 畑面との比高：0.10m 埋没土：天明泥流 遺物：なし 所見：市道を挟んで1号水田の北側に位置しており、南北方向に掘削された復旧痕によって水田面の大半が失われている。したがって、確認は面的なものではなく北側断面の土層観察によって水田範囲を捉えたもので、南側断面ではあまり明瞭には捉えることはできなかった。西側の畑が検出されている面との比高は0.10mほどである。



第92図 1・2号水田



第93図 3・4・5号水田

(7) 畑

1号畑(第94・103図 P L.26)

位置: Af ~ Ag-21 ~ 23グリッド 検出サク数: 11条
 規模: (7.70)m × (0.30)m 残存深度: 0.05m サク間幅: 0.40m サク方位: N-12°-W 埋没土: 天明泥流 遺物: 耕作土中から在地系土器焙烙(1)と銅(2)が出土した。重複: 9号復旧痕と重複し、検出状況から1号畑→9号復旧痕である。所見: 天明泥流直下の近世面をやや削りこんで遺構確認をしたため、畝部分を削平してしまい畝の高さなどは不明である。サクを埋めていた天明泥流は、復旧痕内に充填されたものと違って、色調が暗く硬く締まった状態であることから、流下堆積したままと考えられる。

2号畑(第95図 P L.26)

位置: Af ~ Ai-19 ~ 21グリッド 検出サク数: 12条
 規模: (16.50)m × (0.30)m 残存深度: 0.08m サク間幅: 0.50m サク方位: E-5°-N 埋没土: 天明泥流 遺物: なし 重複: 9号復旧痕と重複し、検出状況から2号畑→9号復旧痕である。所見: 北側の1号畑と直行するような畝立てがされ、東に隣接する3号畑とは畝立て方向がほぼ一致している。1号畑と同様に流下堆積した天明泥流で埋没した状態で検出されている。

3号畑(第96図 P L.26)

位置: Ah ~ Ak-19 ~ 22グリッド 検出サク数: 22条
 規模: (7.90)m × m 残存深度: 0.10m サク間幅: 0.30m サク方位: E-3°-N 埋没土: 天明泥流 遺物: なし 重複: 9・10号復旧痕と重複し、検出状況から3号畑→9・10号復旧痕である。所見: 流下堆積した天明泥流で埋没していた。9号復旧痕と10号復旧痕との間隔があったため、比較的残存状況の良い畑であった。

8号畑(第97図)

位置: Am ~ An-18-19グリッド 検出サク数: 5条 規模: (4.20)m × m 畝高さ: 0.10m 畝幅: 0.50m 畝方位: W-16°-N 埋没土: 天明泥流 遺物: なし 重複: 4号復旧痕と重複し、検出状況から8号畑→4号復旧痕である。所見: 厚さ0.80mほどの天明泥流によって埋没した状態で検出された。確認面を若干下げたために平面的には畝を確認することはできなかったが、調査区際の断面では明瞭に確認することができた。計測値は上記のとおりであるが、畝の断面は南側が高く北側の傾斜が

緩い傾向があることから、南側から北側に畝立ての作業が行われたものと考えられる。

9号畑(第98図)

位置: Ao ~ Aq-18 ~ 20グリッド 検出サク数: 9条
 規模: (11.10)m × 0.24 ~ 0.40m 残存深度: 0.14m サク方位: N-18°-W 埋没土: 天明泥流 遺物: なし 重複: 4号復旧痕と重複し、検出状況から9号畑→4号復旧痕である。所見: 4号復旧痕と畝立て方向が近いために残存状況が悪く、南側断面ではサクの一部は確認できるものの、畝部分が残存していないので、復旧に際して削平された可能性がある。

10号畑(第99図)

位置: Al ~ Am-22グリッド 検出サク数: 4条 規模: (1.75)m × (0.45)m 残存深度: -m サク方位: N-18°-W 埋没土: 天明泥流 遺物: なし 重複: 10号復旧痕と重複し、検出状況から10号畑→10号復旧痕である。所見: 畝立ての方向が9号畑と一致しているが、間に地境と見られる19号溝があることから一連の畑とは考えられない。

11号畑(第99・103図 P L.26)

位置: Ah ~ Ai-15 ~ 17グリッド 検出サク数: 9条 規模: (4.20)m × (0.20 ~ 0.30)m 残存深度: 0.15m サク間幅: 0.40m サク方位: N-12°-W 埋没土: 天明泥流 遺物: 美濃陶器せんじ碗が出土した。重複: 2号建物、12号復旧痕と重複しており、検出及び残存状況から2号建物→11号畑→12号復旧痕である。所見: 2号建物の東側の一部にまで畝立てがされていることから、建物が無くなった後に耕地化されたものと考えられる。サクの幅も畝の間隔も他の畑と比較して狭い。

12号畑(第99図 P L.27)

位置: Ah ~ Ai-14・15グリッド 検出サク数: 6条 規模: (4.40)m × (0.30 ~ 0.55)m 残存深度: 0.15m サク間幅: 0.40 ~ 0.55m サク方位: N-18°-W 埋没土: 天明泥流 遺物: なし 重複: 12号復旧痕と重複し、検出状況から12号畑→12号復旧痕である。所見: 11号畑と比較するとサク間隔が広く、畝立てが2号建物部分にまでは及んでいないので、11号畑とは別の畑と考えられる。また、南側は東西方向に設けられた道路遺構までは達していないので、道路を南限として耕作されていた可能性がある。

13号畑(第100・103図 P.L.27・231・232)

位置: Af・Ag-12～14グリッド **検出サク数:** 15条 **規模:** 9.50～13.00m×0.20m **畝高さ:** 0.07m **畝幅:** 0.30m **畝方位:** N-18°-W **埋没土:** 天明泥流 **遺物:** 耕作土中から18世紀中頃に後半の肥前磁器碗(4・6)、煙管、銭名不詳の銭貨1枚(14)、砥石(15～19)などが出土した。 **重複:** 29号復旧痕と重複し、検出状況から13号畑→29号復旧痕である。 **所見:** 畝の断面は東側が高く西側が緩やかな傾斜をしていることから、東側から畝立てされたものと考えられる。畝とサクの残存状況は比較的良好であり、天明泥流によって埋没する時点で畑として機能していた可能性がある。したがって、1号建物の庭先とも言える場所に検出されているが、1号建物は前述のように天明泥流被害を受けた時点で廃屋であった可能性があるため、この建物に付随した畑とは考えられない。また、断ち割り調査を行った結果、断面に白色シルトブロックを踏みこんだような耕作層が検出された。さらに下層調査では、当畑とほぼ同じ範囲から色調の明るい部分がサク状に連なった痕跡を検出し18号畑として調査を行ったが、当畑の古い段階の耕作痕跡であろう。

14号畑(第100・103図 P.L.27)

位置: Af・Ah-11・12グリッド **検出サク数:** 13条 **規模:** 3.00～5.80m×0.20～0.25m **畝高さ:** 0.07m **畝幅:** 0.35～0.45m **畝方位:** N-24°-W **埋没土:** 天明泥流 **遺物:** 不明の銅製品が1点出土した。 **重複:** 29号復旧痕と重複し、検出状況から14号畑→29号復旧痕である。 **所見:** 13号畑の面から0.20mほど下がった面にあり、南側を水田の排水路と考えられる51号溝に区画されている。畝は西側がわずかに高く東に緩やかな傾斜が認められることから西側から畝立てされたものと考えられる。残存の状況は13号畑と近似しており、13号畑と同時存在していた可能性が高い。下層調査で当畑とほぼ同じ範囲から色調の明るい層の連なりを検出し19号畑として調査を行った。これも13号畑の事例と同様に古い時期の耕作痕跡と考えられる。

15号畑(第101図 P.L.27)

位置: Ak-9・10グリッド **検出サク数:** 1条 **規模:** (0.30)m×(0.20)m **残存深度:** 0.08m **サク方位:** E-20°-N **埋没土:** 天明泥流 **遺物:** なし **重複:** 13

号復旧痕と重複し、検出状況から15号畑→13号復旧痕である。 **所見:** サクと考えられる1条の痕跡を検出したに過ぎないが、サク状遺構の東側に隣接して径0.60m、残存深度0.38mと径0.50m、残存深度0.42mの2カ所の桶の埋設痕跡を検出した。これは畑の際などに設置された肥溜めではないかと考えられる。

16号畑(第101・103図 P.L.239)

位置: Aj・Ak-6・7グリッド **検出サク数:** 11条 **規模:** (7.60)m×(0.40)m **残存深度:** 0.08m **サク方位:** E-28°-N **埋没土:** 天明泥流 **遺物:** 在地系土器鍋(21)が出土した。 **重複:** 13号復旧痕と重複し、検出状況から16号畑→13号復旧痕である。 **所見:** 25号畑に隣接して断片的に検出したもので、残存状況が悪いため判然としないが、東側には25号畑があるので、北側に展開しているものと考えられる。

25号畑(第102図 P.L.27)

位置: Ak・Ao-6～8グリッド **検出サク数:** 17条 **規模:** (0.34～11.65)m×0.18～0.64m **残存深度:** 0.06～0.15m **サク間幅:** 0.41～0.68m **サク方位:** N-16°-W **埋没土:** 天明泥流 **遺物:** なし **重複:** 13～15号復旧痕に削平されている。 **所見:** 調査区南西端に検出したもので、13～15号復旧痕の条間に天明泥流が筋状に確認されたことで畑を認識した。埋没していた天明泥流は、復旧痕に埋め込まれたものと比較して、明らかに硬くしまっており、流下堆積したまま残存したのと考えられる。サクの北側はほぼ一線揃っているため、この位置が畑の北端と考えられ、西側には走行方向の異なる16号畑があることから、これより西に広がることはない。しかし、東側はごく一部でしかサクが検出されていないためその広がりが特定できず、また、南側は調査区外に広がっているため不明である。

26号畑(P.L.27)

位置: Ak・A1-8～10グリッド付近 **検出サク数:** 15条 **規模:** -m **残存深度:** 0.05m **サク間幅:** 0.06～0.86m **サク方位:** - **埋没土:** 天明泥流 **遺物:** なし **重複:** 13号復旧痕によって削平されている。 **所見:** 13号復旧痕の調査時に条間の一方所に天明泥流がごくわずかに筋状に検出されたことから畑と判断した。後世の耕作によって削平が進み、平面図を作成するにも至らなかった。25号畑のサクに直行するような走行方位で、北側に

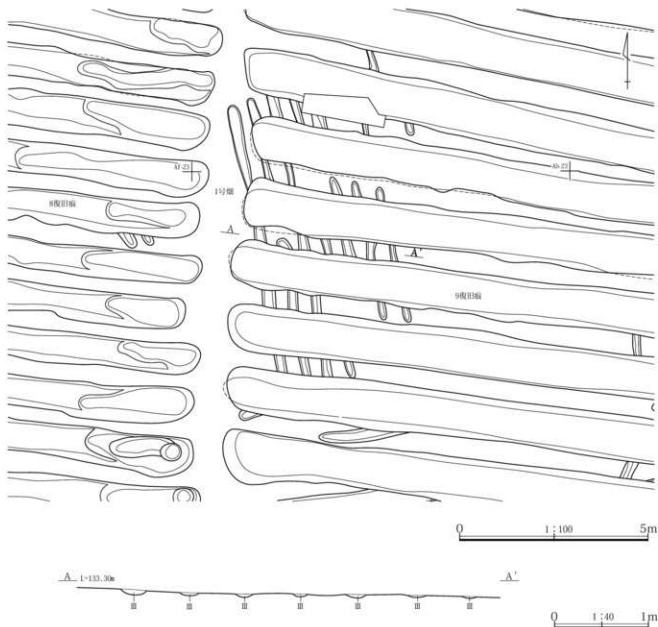
展開していたものと推定される。わずかに残存したサク痕跡からサク間幅を計測すると上記のような数値となるが、比較的安定的に得られた数値は0.30mを前後するものである。

28号畑 (P L.27)

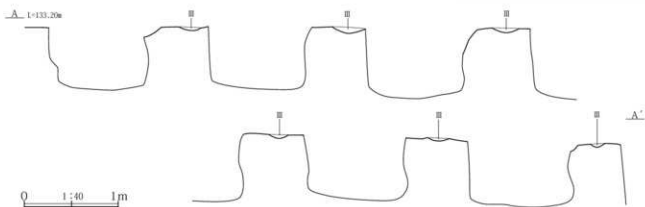
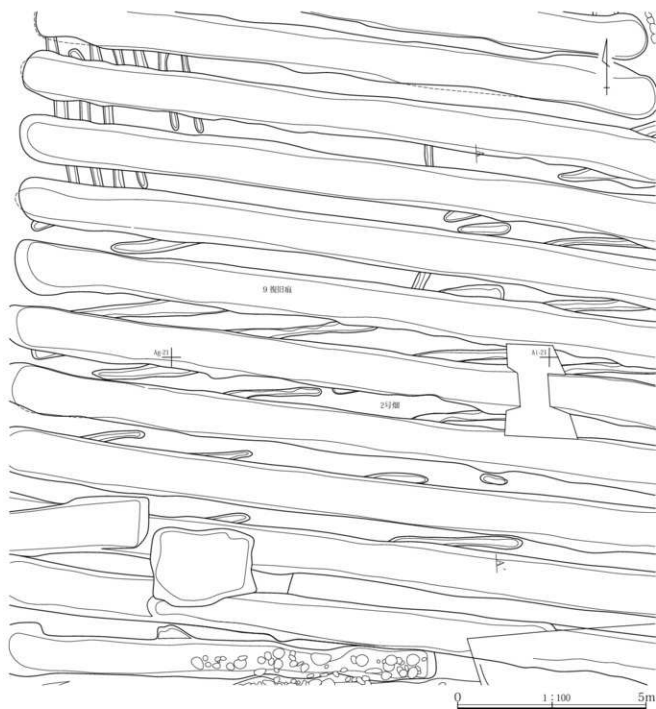
位置：Aq-9グリッド付近 検出サク数：一条 規模：-m 残存深度：-m サク間幅：-m サク方位：-埋没土：天明泥流 遺物：なし 重複：13号復旧痕によって削平されている。 所見：13・15・20号復旧痕で囲まれたわずかな空間に、わずかに筋状の凹凸が東西方向に検出されたものであり、図化することはできなかった。

30号畑(第103図 P L.232)

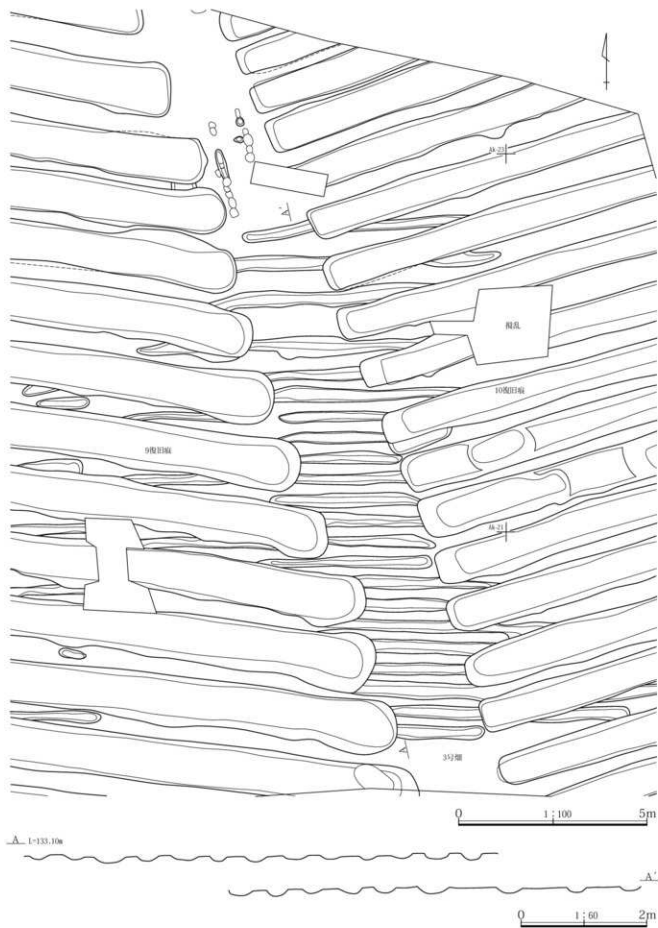
位置：Aj ~ An-14 ~ 18グリッド付近 検出サク数：11条 規模：-×0.20 ~ 0.30m 残存深度：0.05m サク間幅：0.90m サク方位：- 埋没土：天明泥流 遺物：鎌と見られる鉄製品が1点出土した。 重複：28号復旧痕により削平されている。 所見：復旧痕の確認面がやや下位であったためにサクと思われるわずかな筋状の窪みが残存せず、さらに28号復旧痕が畑のサク方向に掘削されているため、畑の存在がやっと認識できるほどの残存であった。したがって、範囲や規模等の把握はできず、平面図の作成も行わなかった。



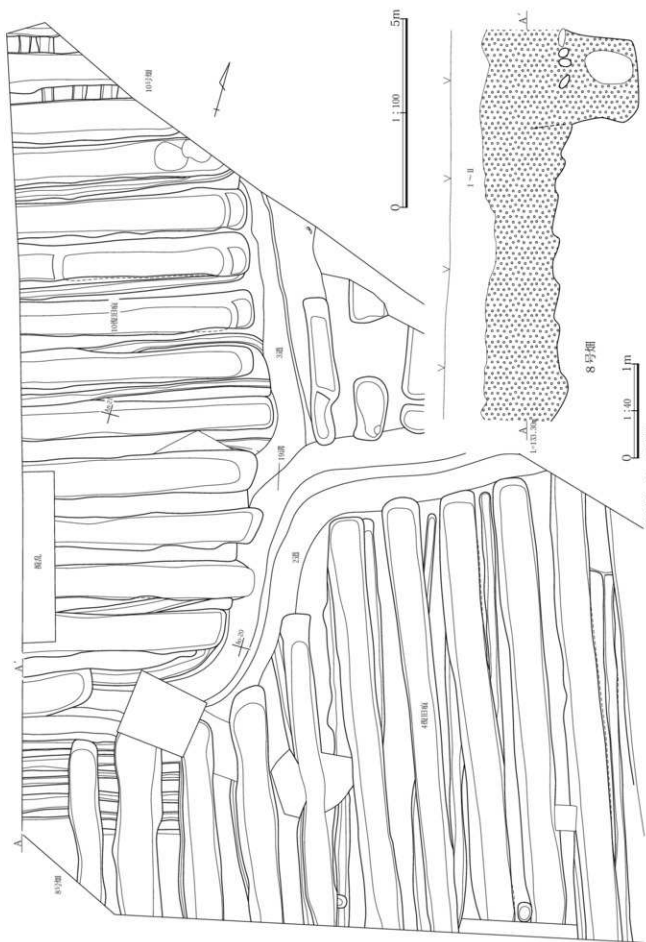
第94図 1号畑



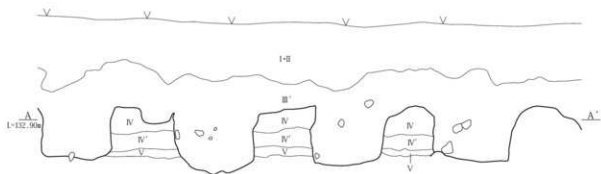
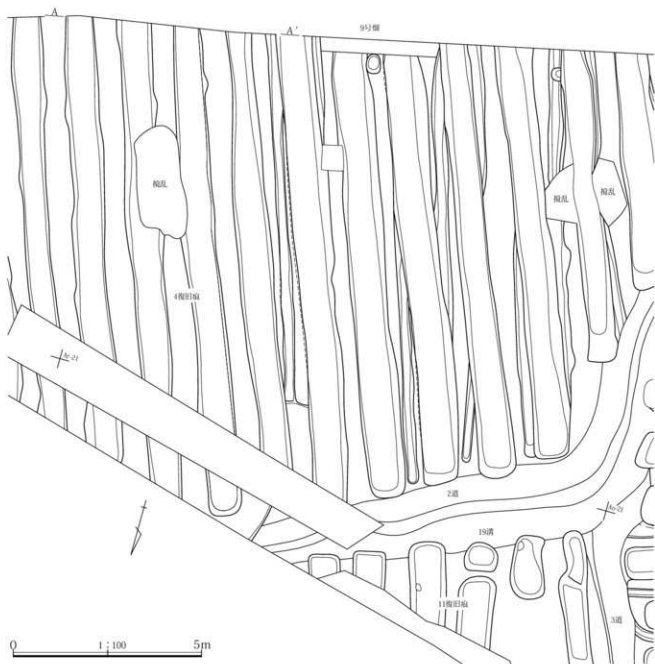
第95図 2号畑



第96図 3号畑

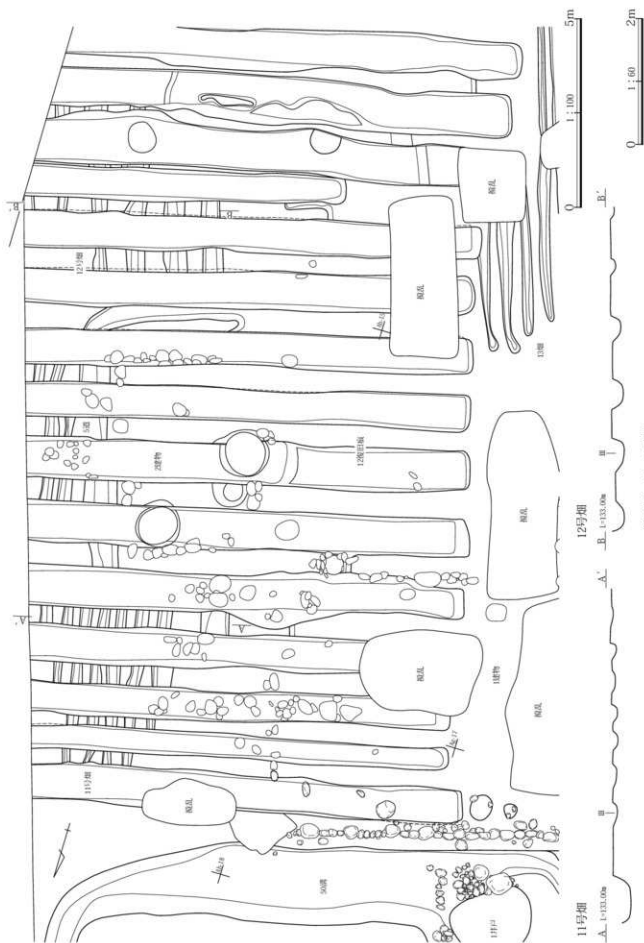


第97図 8・10号欄

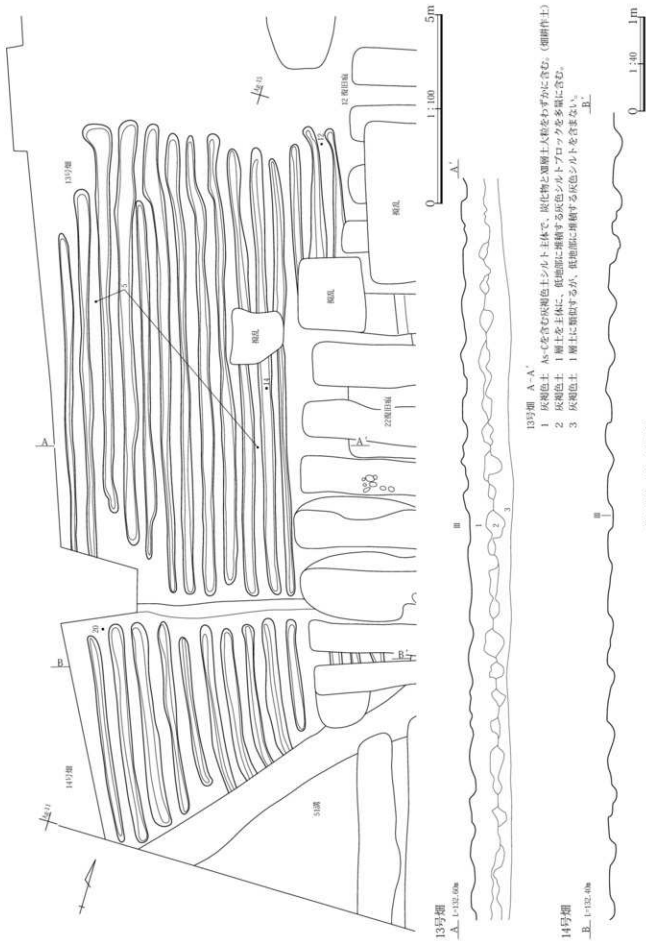


9号畑 A-A'
IV' IV層に類似するが、色調が明るい。

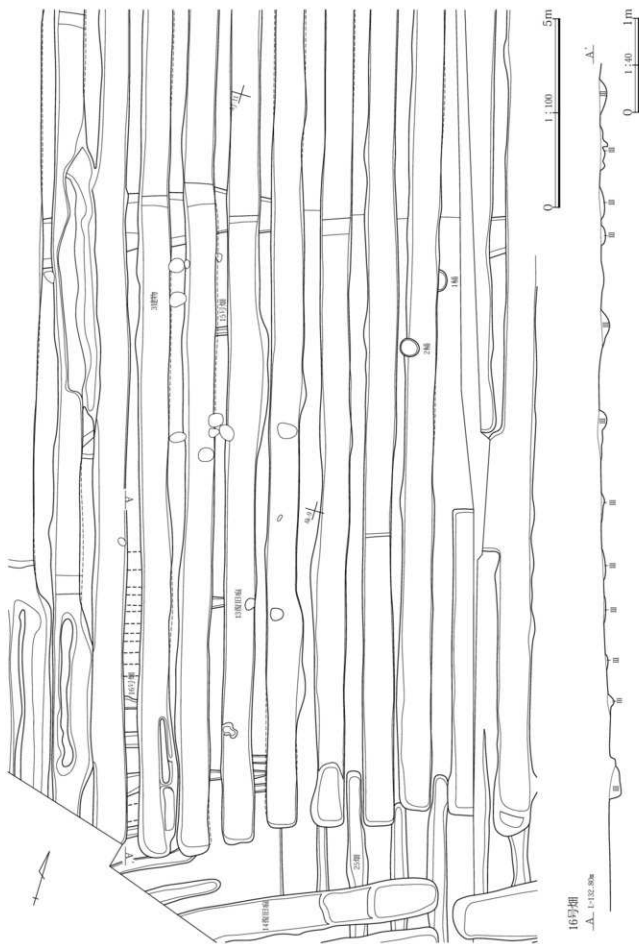
第98図 9号畑



第998図 11・12号畑



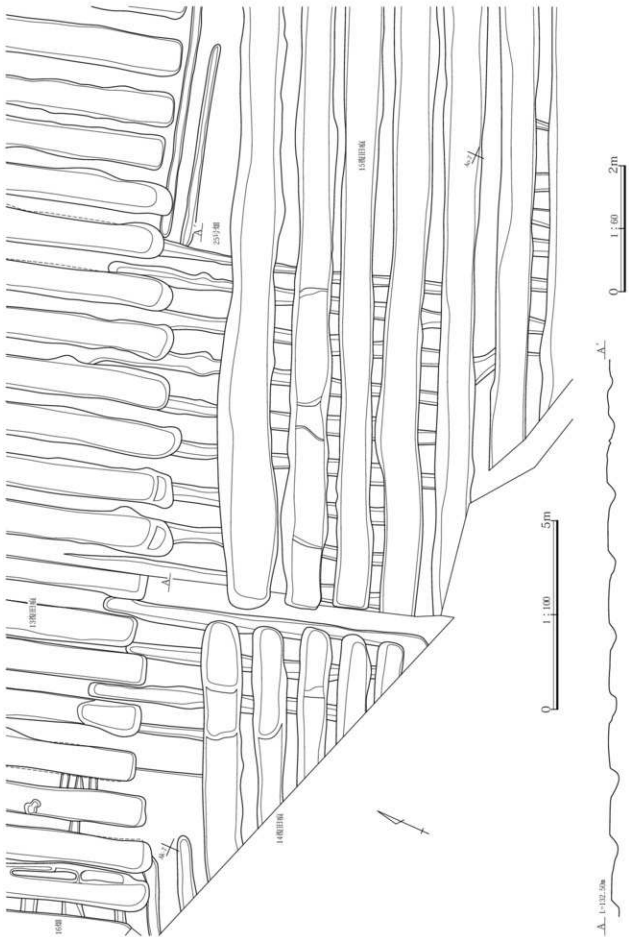
第100図 13・14号地



16号畑

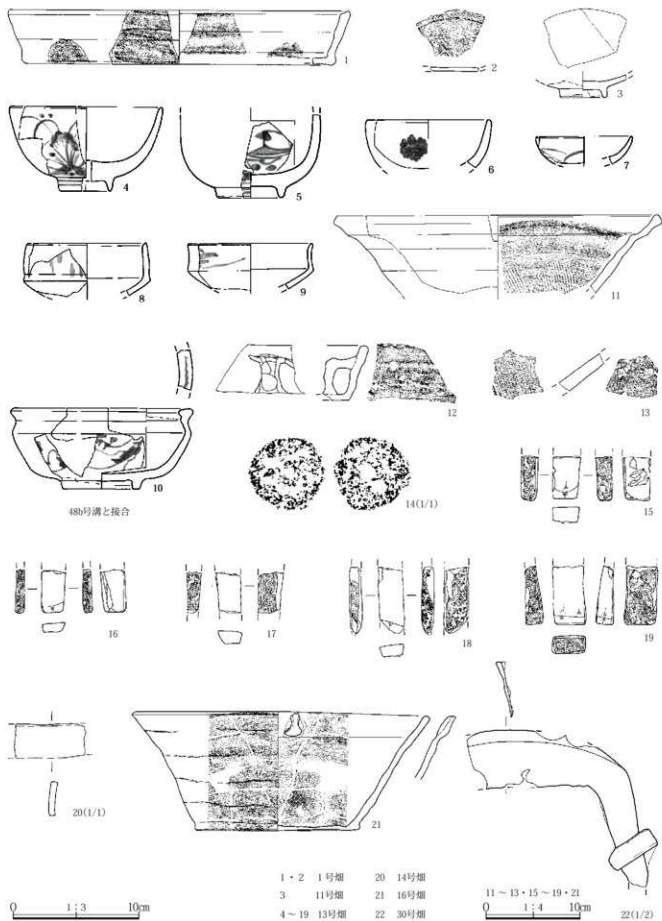
A. 1-132.90m

第101図 15・16号畑



第102圖 25号畑

第4章 1面の調査(近世)



第103図 1・11・13・14・16・30号畑出土遺物

(8) 埋設桶

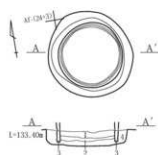
34号土坑(第104図 P.L.28)

位置：Ae・Af-24グリッド 規模：径1.34m 残存深度：0.23m 遺物：なし 所見：Ⅲ区北端に検出したもので、円形の掘り方内に径1.02m、厚さ0.03mほどの桶を埋設していた。桶の木質は残存していなかったが、底面に桶の輪郭が明瞭に残存していた。底面は黄褐色を呈し、明るい茶褐色土を主体に白色粒と砂を混ぜた土が硬化しており、底板の痕跡は認められない。掘り方内に桶を据えて周囲は、一見するとローム層のような茶褐色を呈する粘質土ブロックを主体とする土が充填されていた。桶の内部はⅠ・Ⅱ層土に類似する土によって埋没しており、復旧痕調査の時点では認識できなかったことからⅡ期として扱ったが、近世のものではなく近・現代の可能性もある。1基しか検出されていないが、畑地脇に設けられた「肥溜め」であったものと考えられる。

15号畑1号桶(第104図 P.L.28)

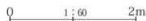
位置：Ak-10グリッド 規模：径0.59m 残存深度：0.27m 遺物：なし 所見：15号畑の一角から検出されたためにこの名称を付した。内部は天明泥流で埋没しており、15号畑が天明泥流で埋没した時点で開口していたことは

34号土坑



34号土坑 A-A'

- 1 灰褐色土 Ⅰ層土・Ⅱ層土主体で下面に砂が多い。
- 2 黄褐色土 明るい茶褐色土を主体に白色軽石と砂を混ぜて固めた層。
- 3 灰褐色土 表土と類似する。
- 4 茶褐色土 ローム状の明るい茶褐色土ブロックと表土類似小ブロックの混土。



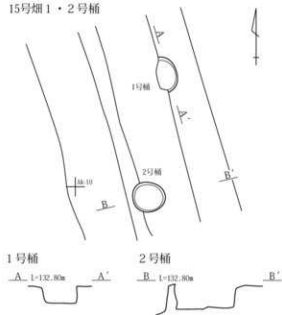
第104図 34号土坑・15号畑1・2号桶

明らかであり、同時期に存在していたはずである。底面は平坦であるが34号土坑の底面のような硬化した層は検出されなかった。桶の木質はまったく残存していなかったが、1号建物の馬屋南側に検出した埋設桶の掘り方に類似することから、同様に桶が埋設されていたものと判断した。南に1.40mほどの位置に同様の2号桶が位置しており、西側には3号建物の痕跡がある。2号桶も天明泥流で埋没しており、おそらく畑の一角に設けられた2基対で機能したものと考えられる。

15号畑2号桶(第104図 PL.28)

位置：Ak-9グリッド 規模：径0.48m 残存深度：0.40m 遺物：なし 所見：1号桶と南北に並んで15号畑とした一角から検出した。天明泥流で埋没しており、畑が埋没した時点で開口していたことは1号桶と同様であり、同時に存在していたことは確実である。埋設されていたと考えられる桶の木質は残存していなかったが、掘り方壁面の状況などから1号建物の馬屋南側に埋設されていた桶と同規模の桶が埋設されていたものと判断した。底面は平坦であるが、硬化面や桶の底板の痕跡は確認されなかった。

15号畑1・2号桶

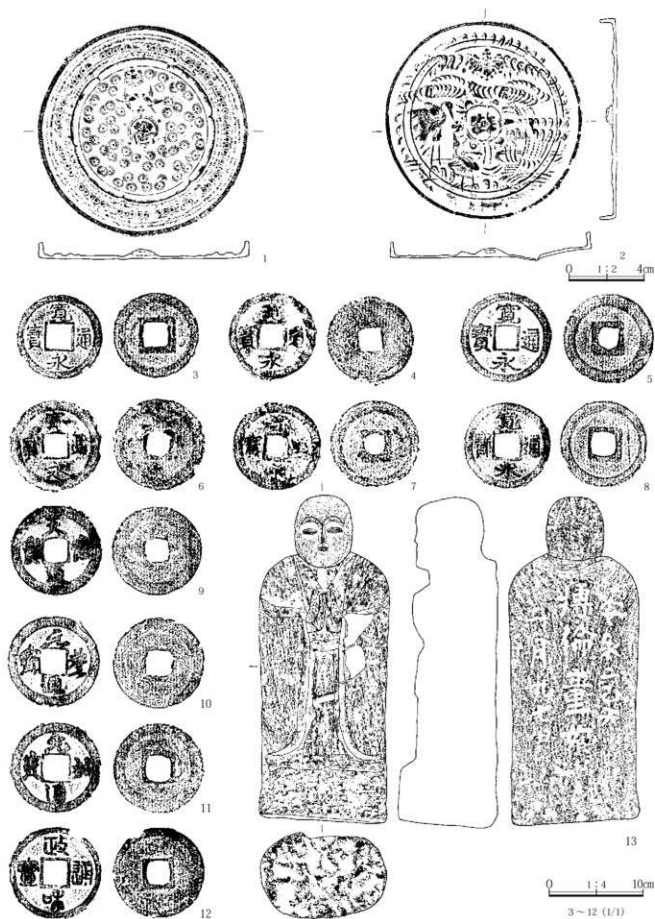


(9) 墓

墓地(第105図 P.L.232)

位置：An～Ag-15～17グリッド 重複：— 所見：調査着手時点で墓地であった地点について改葬後に精査し

たところ、現地表から2m近く深い位置から円形プランの墓坑を検出した。また、改葬による視乱で調査はできなかったが、排土中から円形の銅製鏡が2点(1・2)や「寛永通宝」6枚(3～8)、「天禧通宝」「元豊通宝」など



第105図 墓地出土遺物

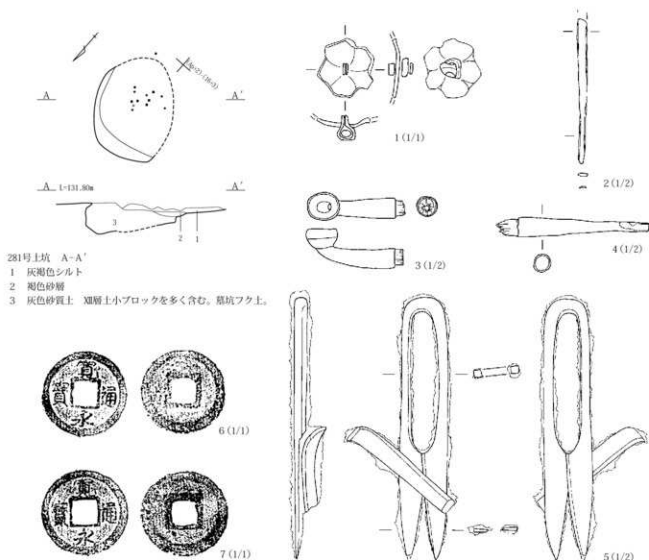
4枚(9~12)が出土していることから、他にも墓坑が数基残存していた可能性がある。また、改葬に伴い埋め戻された土中から、五輪塔の水輪が1点、裏面に「安永六年二月廿七日博倫童女」と刻まれた地藏像(13)が出土しており、少なくとも安永六年(1777)当時にこの場所が墓地であったことが確認できる。墓地となっていた場所には復旧痕は掘削されておらず、天明三年当時においてもこの場所が引き続き墓地であったために、復旧痕の掘削がなされなかったものと考えられる。また、改葬前の墓地には、天明八年と刻まれた墓石も存在しているので、被災後も墓地として存続し、現在に至ったものであろう。

281号土坑(第106・107図 P.L.27・233)

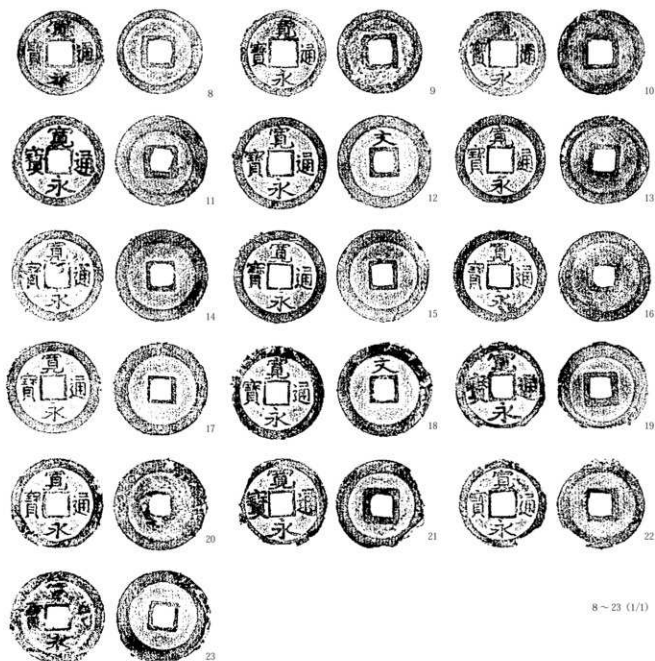
位置：Ap-16グリッド 形状：円形 規模：径0.95m

残存深度：0.32m 遺物：鉄製鉄(5)、毛抜き(5)、煙

管(3)の他に、「寛永通宝」が18枚(6~23)、金銅製と見られる花形の飾り金具(1)、笄の可能性のある細い管状のものが1点(2)出土した。重複：なし 所見：現代の墓地の下部から検出したもので、改葬によって攪乱された土層を取り去り、Ⅻ層土中にまで下げた時点で色調のやや異なる略円形の掘り込みとして確認した。褐灰色を呈する締まりのない埋没土中の最下層に頭蓋骨の輪郭と下肢骨と見られる骨がわずかに確認できるような状態で、骨を取り上げることはできなかった。頭骨と下肢骨の位置関係から西向きに埋葬されたものと思われ、頭骨が下肢骨付近に出土していることから座棺の可能性が高い。副葬されたものが比較的多く、鉄や笄状のものが出土していることが、被葬者が女性であったことを示唆している。



第106図 281号土坑・出土遺物(1)



8~23 (1/1)

第107図 281号土坑出土遺物(2)

(10) 配石

1号配石(第108図)

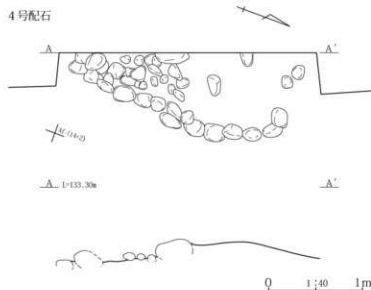
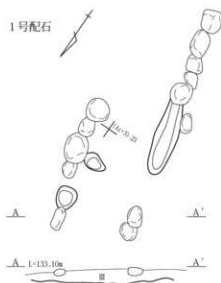
位置:A1-22・23グリッド 規模:2.74m×1.20m 遺物:
なし 所見:9号復旧痕と10号復旧痕の間に設けられた
空間部分で検出したものであり、0.50mほどの間隔を置
いて礎を2列並行させている。掘り方は検出することが
できなかったが、人為的に埋め込まれた可能性が高い。
検出当初は道の両側を区画するものとも考えたが、南側
には畝立てされた状況の6号畑があり、北側に続く様子
も認められないことから道とはしなかった。

4号配石(第108・109図)

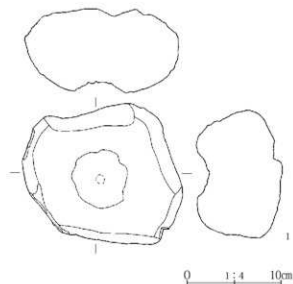
位置:Ae-14グリッド 規模:2.48m×(0.96)m 遺物:
窪み石が1点(1)出土。 所見:1号建物の南側の庭と
見られる場所の一角に検出した。天明泥流によって直接
埋没しており、廃屋となっていた1号建物と同時埋没し
ており、関連する遺構と見て良いであろう。西半は調査
区外にあるため全体像は不明であるが、検出部分で判断
するとヒョウタン形の配石の可能性が高い。検出場所は
やや黄色味を帯びた灰色シルト質土であるが、配石され
た部分には茶褐色を呈する粘質土ブロックを主体とする

混土で円形の低い盛土がされており、この盛土を囲むように礫が並べられており、南側には礫だけが敷かれていた。盛土に使用されていた粘質土は、調査範囲内では得ることのできないもので、肥溜めと考えている34号土坑

の底面に検出されたものと同じものと見られ、台地部から搬入された可能性が高いものである。1号建物の庭の一部を構成していたものと考えられるが、いかなる目的で構築されたものであるかは不明である。



第108図 1・4号配石



第109図 4号配石出土遺物

時点で天明三年当時の地面の多くは失われたものと考えられる。土地利用の状況を窺うことができる遺構がわずかながら残されていたのは、1a号道の下部に検出した1b号道とその南西側の復旧痕が集中した部分に残存した畑、及び道に接するように検出された火葬骨の入った墓の可能性のある土坑1基だけであった。

(1) 道

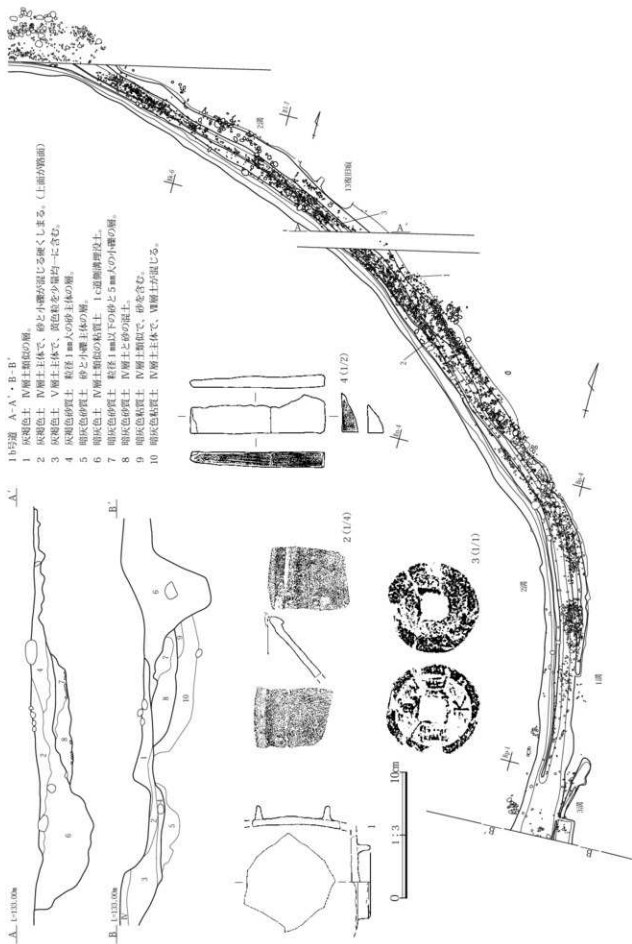
1b号道(第110図 P.L.28・29・233)

位置:Bg～Bp-0～7グリッド 規模:62.30m×(1.95)m 残存深度:-m 遺物:在地系土器のすり鉢が1点出土した。 所見:1期で扱った1a号道の下部からトレースして検出されたもので、天明泥流被災前の道である。西端で南北方向の市道で田口上田尻遺跡1号道へと連続していたものと考えられる。中央に0.60mほどの平坦部があり、両側が溝状に窪んでいたために、調査時点では1・2号溝として遺構番号を付していた。平坦部は硬化し、南寄りの部分では小礫が敷かれたような状況で検出されており、現在でも見られる畦道のような状況を呈していた。両側の窪みの芯々間距離は1m前後であり、

第2項 田口下田尻遺跡

田口下田尻遺跡は第1節でも述べた通り、天明泥流処理のための復旧痕がほぼ全域に掘削されていた可能性があるにもかかわらず、一部の場所を除いてほとんど平面的に確認することができない。これは後世の削平や耕作によって大半が失われていることを意味しており、その

第4章 1面の調査(近世)



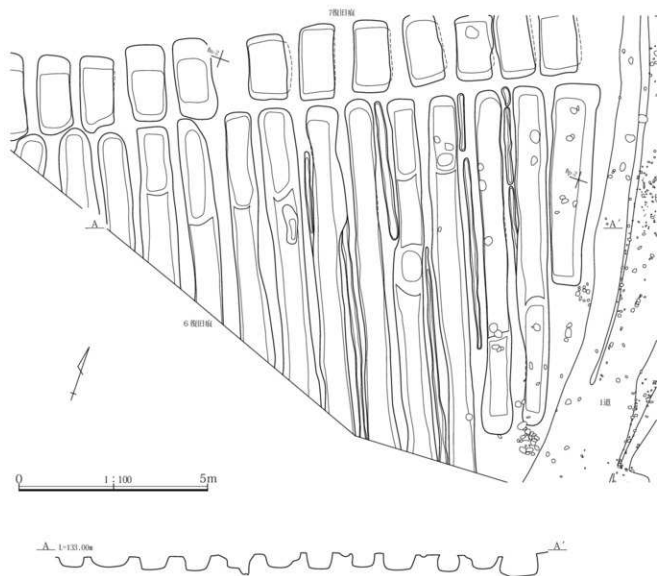
意識して掘り込まれたものとは考えられず、西に曲がっていく部分では内側の窪みややや深くなる傾向が見られることなどから、側溝として掘削されたものとは考えにくく、荷車などによる轍の可能性が高い。この道の下部には同一経路で1c号道が検出されている。

(2) 畑

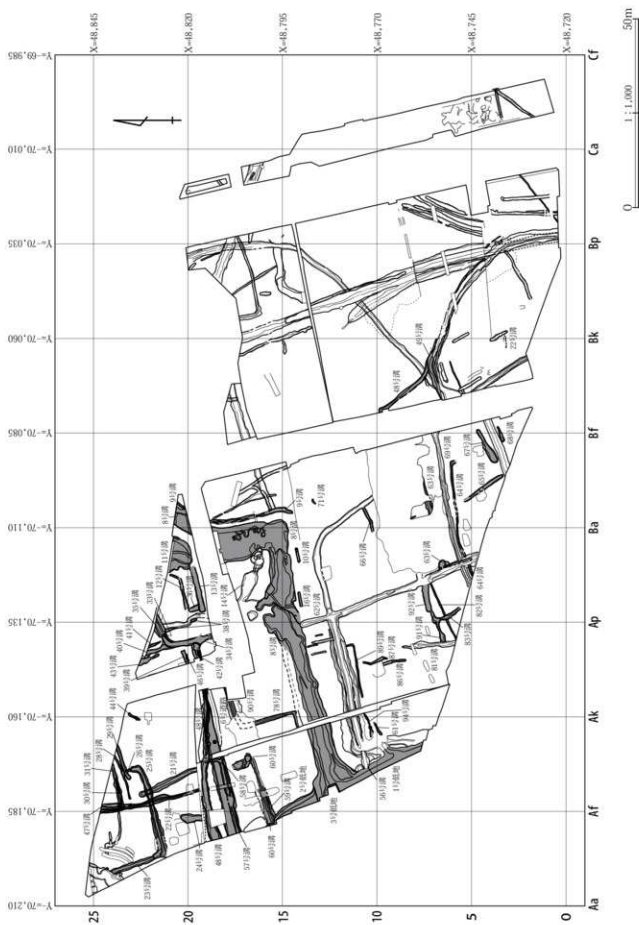
10号畑(第111図 P L.29)

位置: Bn・Bo-0~2グリッド 検出サク数: 6条 規模: (2.80~5.90)m×(0.12~0.24)m 残存深度: 0.05~0.08m サク方位: N-23°-W 埋没土: 天明泥流

遺物: なし 重複: 6号復旧痕と重複し、検出状況から10号畑→6号復旧痕である。 所見: 調査区南端の1a号道の西側に検出したもので、検出面がやや低かったために畝はまったく残存せずサクの底面付近だけを調査した。本来であれば1号畑となるはずの遺構であるが、調査当初は6号復旧痕の一部と認識していたために、遺構番号が付与されていないだったので、3面で検出された畑の遺構番号に続く番号を整理段階で付した。堆積していた天明泥流は復旧痕内に充填されていたものと比較すると明らかに固く締まっており、流下堆積したものである。



第111図 10号畑



第112図 1面階全体図

第3節 第Ⅲ期

第1項 田口上田尻遺跡

(1) 溝

8号溝(第113～131図 P.L.29～31・233～237)

位置: Af～Bb-11～20グリッド **規模**: 110.00m×4.80～9.35m **残存深度**: 0.80～1.70m **遺物**: 東側の石積み及び底面付近から陶器片、石造物及び銭貨が出土した。陶器や土器では、15世紀～16世紀代の在地系土器片口鉢(15)、内耳鍋(12・13・16)や、17世紀後半の瀬戸・美濃陶器反鉢(9)、かわらけ3点(1～3)などが出土した。溝の埋没土中から出土した石造物は、石白5点(25～29)、茶白3点(22～24)、石鉢3点(30・31・36)、窪み石5点(32～35・51)、五輪塔の空風輪5点(40～44)、火輪2点(46・48)、水輪3点(49・50・53)、地輪4点(52・54～56)、磨り石1点(57)、宝篋印塔の笠1点(45)の他、不明の石製品が4点であり、石積み部分からは、石白3点(69～71)、茶白1点(72)、石殿の屋根1点(78)、五輪塔の空風輪1点(76)、火輪3点(75・77・80)、水輪1点(73)、地輪4点(74・79・81・82)などと非常に豊富である。また、石積み部分と溝底部付近から、「開元通宝」「天聖元宝」「景祐元宝」など10枚の銭貨が出土した。さらにⅡ区の調査時に7点、Ⅵ区で1点、Ⅰ・Ⅱ区の石積みの調査において2点、馬歯が出土している。**所見**: 溝の走行は、北から南に向かい、Ⅱ区で西へと直角に方向を変え、その後ほぼ直線的に旧桃ノ木川河川敷と考えられる低地へと達していた。溝底部の状況や埋土から北から西へと水の流があったものと考えられる。自然河川であれば蛇行する流路を形成するものと考えられるが、前述のように当溝は不自然な流路を形成しており、人為的に流路が改変された可能性がある。Ⅰ区とⅡ区における調査で、溝の東側には扁平な礫や五輪塔などの石造物を部材とした石積みが検出された。これらの石積みは護岸と考えられるが、北東方向からの流れに対して特に護岸が必要なのは西側部分と、直角に曲がった先の南側であるにもかかわらず、南側、西側共に護岸の痕跡は見られない。これは、石積みの第一義的な目的が水流によって岸が削られることを防ぐことではなかったことを

示唆している。西側の低地部への接続部分は、溝の両岸が「八」状に広がっており、この部分が旧桃ノ木川への流れ込みであったものと思われる。後述する14号溝としたものは、8号溝の屈曲部に隣接して検出されており、8号溝の突発的な水流の作用によって、罅穴のように自然形成されたものである可能性が高い。

また、8号溝の南側に並行するように検出された53号溝は、8号溝と同様に旧桃ノ木川低地部に流れ込みを形成しているが、東側に明確な取水場が確認されていない。53号溝と連続する62号溝は、ちょうど8号溝が不自然に屈曲する部分に隣接しており、ここに堰のような施設が設けられていたと仮定すると、8号溝から導水した水を53号溝や62号溝によって南や東に送水することが可能である。また、ここで取り込んで不要になった水、または必要以上に8号溝に流れ込んだ水の捌け口として53号溝の西側部分が機能したのではないかと考えられる。この想定が成り立つとすると、8号溝の流路変更が53号溝などに想定した中世の時期まで遡る可能性がでてくる。このことは、8号溝の底面付近及び石積み部分から出土した銭貨に、初鑄が1626年の「寛永通宝」が一枚も含まれていないことが示唆している。

8号溝は、少なくとも天明三年の時点で石積みの検出された地点で0.75mほど埋没し、周辺平坦部との比高0.50～0.60m程度の低地となっていたらしく、水田化されていた。田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡を通して、調査区内で水田が検出されたのは基本的にこの8号溝の上面だけである。

9号溝(第132図)

位置: Ba・Bb-14～18グリッド **規模**: 23.00m×1.35m **残存深度**: 0.42m **遺物**: 14世紀後半の在地系土器すり鉢が1点出土した。 **所見**: Ⅱ期とした1号溝とほぼ同位置に掘削されている溝であるが、Ⅰ区とⅤ区においては判然としなかった。出土したすり鉢は14世紀と古い様相を示しているものの、上層に堆積していた土は近世耕作土類似の土層であり、近世の所産であることは確実である。下層は、砂礫を主体とするものであり通水されていたものと思われ、1号溝との走行の共通性から水田の用水路または道路側溝の可能性がある。4号土坑と

の重複が認められるが、検出状況から4号土坑→9号溝である。

10号溝(第132図 P.L.31)

位置:As-14グリッド 規模:3.90m×0.68m 残存深度:0.28m 走行方位:E-13°-N 遺物:なし 所見:埋没していた土層はⅦ・Ⅷ層土を主体とするものであり、締まりがなく掘削されてから比較的早い段階に埋め戻された可能性が高い。溝として扱ったが、現代でも見られる畑の際に掘削された芋穴的なものである可能性が高い。

11号溝(第133・134図 P.L.31)

位置:Ar~At-19・20グリッド 規模:10.00m×5.90m 残存深度:0.90m 遺物:15世紀後半の在来系土器内耳鍋が1点(1)出土した。所見:1区の狭い範囲で確認したもので、調査区南側で立ち上がる窪み状を呈しており、北側に展開する溝状の遺構として認識したが自然地形の一部を捉えた可能性もある。泥流で埋没した水田耕土が当溝確認面から50cmほど上位に確認されており、天明三年当時にはすでに平坦な地形となっていた。充填土層にはAs-B混土が混入することから近世との確証はなく、2面として扱うべきものである可能性もある。

12号溝(第133・134図 P.L.31・238)

位置:Ap~Ar-20グリッド 規模:12.00m×0.95m 残存深度:0.28m 走行方位:E-14°-N 遺物:「治平元宝」が1枚(3)と銭名不詳の銭貨が1枚(2)出土した。所見:13号溝と一部並行し、東端で北に屈曲する。As-BやAs-Cの粒子をまったく含まないⅧ層土に類似するシルト質土であるが、やや暗色であることから平面形を捉えることができた。土層にはわずかに炭化物を含んでおり、東端部には小礫の集中が見られるが、通水された痕跡ではなく用途不明の溝である。土層や遺物などに時期の特定に結びつくような要素はないが、周辺で検出されている溝との類似性から1面Ⅲ期の遺構として報告した。

13号溝(第133・134図 P.L.31)

位置:Ap~As-19グリッド 規模:13.10m×1.50m 残存深度:0.15m 走行方位:E-13°-N 遺物:茶臼の破片(4)が出土。所見:12号溝と並行し、東側は11号溝と重複しているが新旧関係は捉えられなかった。Ⅷ層土上面まで確認面を下げた段階で平面を検出したも

ので、時期の特定ができない暗色のシルト質土で埋没していた。底面は平坦で、中央付近に小礫の集中する部分があり、遺物はこの小礫に混じて出土した。

16号溝(第135図)

位置:Ap・Aq-13・14グリッド 規模:3.90m×0.72m 残存深度:0.28m 走行方位:E-11°-N 遺物:なし 所見:Ⅶ・Ⅷ層土を主体にした埋没土であり、堆積状態から埋め戻されたものと考えられる。西側はⅥ区として調査を実施したが検出することができなかったことから、西側の立ち上がりは調査区の境までと思われる。したがって、当溝も10号溝と同様に長方形の土坑として扱うべき遺構である可能性がある。

21号溝(第135・136図 P.L.31・32・238)

位置:Af~Ah-19~22グリッド 規模:16.85m×1.12~1.96m 残存深度:0.58~0.77m 走行方位:N-27°-W 遺物:16世紀代の瀬戸・美濃陶器折縁皿(1)や中国磁器皿(2)などの他、18世紀後半~19世紀前半の瀬戸陶器片口鉢が1点(3)出土した。また、「咸平元宝」1枚(9)と銭名不詳の銭貨1枚(8)、煙管1点(7)、砥石1点(11)などが出土した他、馬歯が1点出土した。

所見:Ⅲ区の調査で検出したもので、Ⅳ区においては復旧痕による攪乱のためか検出することはできなかった。走行方向を延長すると1号建物北側の土塁に向かっており、南に延びるものであればこの部分で検出されるはずであるが、土塁の掘り下げ時点でも検出されなかったことから、48a号溝より南側には延びていないものと考えられる。48a号溝と重複していること、当溝→48a号溝であることは明らかであるが、下部遺構である48b号溝に接続している可能性もある。北側はⅢ区半ばで止まっており、北側に関連する溝は見当たらない。断面形は鍋底状を呈し、西側に隣接する22号溝の断面形と大きな違いを見せている。堆積していた土層は締まりが弱く、自然堆積の状況が窺われる。25号溝と重複しているが、土層の観察から25号溝→21号溝という新旧関係である。当溝の上には天明三年以前に耕作されていた層が20cm厚で覆っていたことから、これ以前の遺構であることは確実である。また、底面付近に砂の堆積は全く確認されていないことから、通水目的で掘削された溝ではなく、区画溝と考えられる。

22号溝(第135~137・144図 P.L.32・238)

位置：Af・Ag-19～24グリッド 規模：26.80m×1.38m 残存深度：0.70m 走行方位：N-14°-W 遺物：18世紀中頃の瀬戸陶器乗燭(2)、製作地不詳陶器天目碗(1)が出土した他、砥石(5・6)などの石製品がわずかに出土した。 所見：Ⅲ区で検出した溝で、延長線上にあるⅣ区の1号建物北側の土塁下では検出されていないので、21号溝と同様に48号溝より南には達していないものと考えられる。断面形は葉研状を呈しており、堆積していた土層は21号溝と同様に締まりのない暗褐色土が主体であった。底部付近の土層には通水を示すような痕跡はなく、基本的には区画のための溝と考えている。前述のように土塁部分までは達していないが、隣接する場所に葉研状の断面を持つ溝が検出されていないことから、48号溝の掘削方向に折れていたものか、またはこの位置で終わっている可能性もある。当溝の検出面は、21号溝の場合と同様に、天明三年以前の畑の耕作層に覆われていることから、天明三年よりかなり以前の時点で区画溝としての機能が失われ、その後土地利用に大きな変化があったことが想定される。

23・25号溝(第138～140図 P.L.33)

位置：Ab～Ah-21～24グリッド 規模：42.50m×1.24m 残存深度：0.95m 走行方位：N-18°-W～E-14°-N 遺物：25号溝として調査した部分で、中世の常滑陶器甕(2)と近世となる在地系土器焙烙(1)がそれぞれ1点出土した他、「永楽通宝」1枚(5)が出土した。 所見：調査当初には走行方向の異なる溝の重複と認識していたが、25号溝が東側で北に折れることから方形区画の一部を検出したものと判断した。北側は調査区外まで延びているため南北方向の規模はわからないが、東西方向は25.30mほどの規模である。南側を区画する溝は、東側で北に折れた直後で止まっており、調査区内に対向する位置の溝は検出されていない。堆積していた土層は、締まりの弱い暗褐色土を主体としたもので、自然堆積の状況が窺われる。当溝の検出面は21・22号溝と同様に天明三年以前の畑の耕作層に覆われていることから、これ以前に区画としての機能は停止され、土地区画としての痕跡も残さない状況になっていたようである。21・22号溝と重複しているが、土層の観察から当溝→21・22号溝と考えられ、走行方向の類似性から8号溝や58号溝と関連する区画である可能性が高い。区画内に柱穴様のピツ

トは多数あるが、後世の掘乱が多いために断片的な検出であり建物構成することはできない。

24号溝(第138図)

位置：Ae-19・20グリッド 規模：5.60m×1.60m 残存深度：0.23m 走行方位：N-0°-W 遺物：なし 所見：Ⅲ区で検出した溝であり、南側のⅣ区では検出することができなかった。上層に天明三年以前の畑の耕作層は確認できなかったが、堆積していた層は締まりがなく、25号溝などに充填していた土層に近い様相が窺えたことからⅢ期として扱った。底面はほぼ平らであり通水の痕跡は無い。

26号溝(第141図)

位置：Ah-23グリッド 規模：1.46m×0.65m 残存深度：0.39m 走行方位：N-15°-W 遺物：なし 所見：25号溝と29号溝との間にわずかに確認された溝である。すぐ北側で28号溝と重なるように西側に折れている可能性もある。遺構確認時点では判然としなかったが、25号溝の調査終了段階で壁面に土層の違いとして確認したものであり、25号溝よりも古い段階と見られる。

28号溝(第141・142図 P.L.33)

位置：Af～Ah-23グリッド 規模：13.42m×0.46m 残存深度：0.17m 遺物：近世となる在地系土器鍋(1)が1点出土した。 所見：湾曲気味に掘削された溝で、北東側は調査区外となり、西側は22号溝との重複によって失われているため先の状況はわからない。掘りあがった状況から、当溝の中央付近で26号溝が南から合流して西側に折れて重複しているようにも見えるが、いずれも残存状況が悪く判然としない。埋没土中にAs-B混土がまったく観察されず、暗褐色土と基盤の黄褐色シルトブロックの混土で埋没していたことから1面Ⅲ期とした。

29号溝(第141・142図 P.L.238)

位置：Ag～Ai-23グリッド 規模：9.94m×0.98m 残存深度：0.18m 走行方位：E-17°-N 遺物：中世～近世と見られる在地系土器焙烙(3・4)の他、茶白1点(5)が出土した。 所見：26号溝と重複するすぐ西側から始まり、調査区外に延びている。溝の断面は蒲鉾状を呈しており、覆土はⅣ層とⅧ層ブロックを主体とするものであり、自然堆積とは考えにくい埋没状況である。通水された痕跡はないことから区画溝とみられるが、周辺の溝と組み合わせになるものか判然としない。

30号溝(第143・144図)

位置: Af・Ag-23グリッド 規模: 8.12m×0.32～0.68m 残存深度: 0.23m 走行方位: E-13°-N 遺物: なし 所見: 東西方向から南北方向へとほぼ直角に走行を変えている区画溝と思われる。31号溝・47号溝と重複しており、断面観察から47号溝→30号溝→31号溝という新旧関係が想定される。31号溝とほぼ並行することから断片的な検出となり、全体像は不明である。

31号溝(143・144図 P.L.33・34・238)

位置: Ae～Ah-23・24グリッド 規模: 18.00m×1.30m 残存深度: 0.41m 走行方位: N-2°-W～E-12°-N 遺物: 18世紀中頃～後半の美濃陶器せんじ碗(1・2)、腰折碗(3)、筒形香炉(5・6)などが出土した他、石臼の破片が1点出土した。所見: 30号溝と並行し、東西方向から南北方向へと走行方向を変えている。通水された痕跡が見られないことから区画のための溝と考えられるが、規模については確認することができない。22号溝・30号溝・47号溝と重複しており、47号溝→22号溝・30号溝→31号溝という新旧関係が想定される。

33号溝(第145・146図 P.L.238)

位置: An・Ao-20・21グリッド 規模: 3.80m×0.30m 残存深度: 0.17m 走行方位: 不明 遺物: 石鉢の破片が1点(1)出土した。所見: 2号道の下部に位置する遺構で、19号溝の下部遺構である34号溝との重複で湾曲する部分だけを検出した。本来は34号溝と並行するような走行をしていたものと考えられる。充填していた土層は、IV層土を主体とする近世耕作土に類似するものである。底部付近にも砂層の確認はできなかったが、鍋底状の断面形状であり、通水されていた可能性がある。

34号溝(第145～147図 P.L.34・238)

位置: An・Ao-18～21グリッド 規模: 15.50m×1.42m 残存深度: 0.20m 走行方位: E-27°-N～N-12°-W 遺物: 17世紀前半の瀬戸陶器反皿(4)から18世紀後半～19世紀中頃に位置付けられる瀬戸陶器壺(5)まで、出土遺物に比較的時間幅がある。他に石臼1点(9)、石鉢1点(11)、くぼみ石1点(10)が出土した他、I区の調査で細片化した馬歯及び骨片がそれぞれ1点出土した。所見: II期とした19号溝とほぼ上下の関係で重複しているが、19号溝がクランク状に方向を変えているのに対して当溝は、西側に折れずに南に向かっている。

また、北端部は35号溝に連なり、19号溝で西側に折れる部分には42号溝が掘削されている。したがって上部遺構の19号溝と2号道は、35号溝・34号溝・42号溝のラインをトレースするように構築されていることになる。充填していた土層の上部は近世耕作土に類似するIV層土主体の層であるが、下部には砂の含有量が多く、通水されていた可能性が高い。底面は平らであり、基盤の砂礫層が一部顔を出しているような状況であった。底面付近の2カ所で赤漆の塗膜がわずかに出土しており、漆器の存在が示唆される。また、調査区南端付近から馬歯の一部が出土した。

35号溝(第145～147図)

位置: Ao・Ap-21グリッド 規模: 6.00m×2.80m 残存深度: 0.93m 走行方位: E-25°-N 遺物: 埋没土中から砥石が1点(12)出土した。所見: 19号溝の下部に位置する。34号溝と重複しているような位置関係であるが、充填していた土層は両者ともにIV層土を主体とするものであり、土層観察から両者の新旧関係を確定することはできなかった。34号溝とは規模が異なり、35号溝は通水するには向きな構造であることを考慮すると35号溝→34号溝である可能性もある。また、規模や形状から区画を目的として掘削されたものと考えられる。

36号溝(第145・147図)

位置: Ap-19グリッド 規模: 2.85m×1.55m 残存深度: 1m 走行方位: N-11°-W 遺物: 16世紀代の在地球系土器内耳鍋が1点(13)出土した。所見: 南側で13号溝と重複し北側は土坑との重複で失われている。13号溝と12号溝を連結するような位置関係にある。充填していたのはやや暗色を呈するV層土主体の土層であり、正確な時期の特定はできないが、12・13号溝に類似することから、当期として報告した。

38号溝(第145図)

位置: Ao・Ap-19～21グリッド 規模: 8.90m×m 残存深度: 0.08m 走行方位: N-20°-W 遺物: なし 所見: 南側は112号土坑の際までであり、北側は35号溝との重複で失われている。通水の痕跡は確認されず、埋没していた土層は12号溝・13号溝などの共通性がある。

39号溝(第145・146図 P.L.34)

位置: Am・An-19・20グリッド 規模: 3.70m×1.00m

残存深度：0.08m 走行方位：E-20°-N 遺物：なし
 所見：西側は現道下にかかるため不明であるが、東側は34号溝まで達することなく立ち上がっている。通水の痕跡は全く何らかの区画の一部と見られ、走行方向から13号溝や直行する38号溝、41号溝などの関連が窺われる。

40号溝(第145～147図 P.L.34・238)

位置：An-20～22グリッド 規模：8.40m×1.08m 残存深度：0.24m 走行方位：N-19°-W 遺物：石白の上白が1点(16)出土した。所見：3号道の下部遺構である。掘り込みの明瞭でない溝状を呈している。北側では一定の幅であるが、34号溝との交わる部分で広がっていることから、34号溝と一連の遺構である可能性がある。埋没土は鉄分の凝集したAs-混土(Ⅳ層)を主体とするもので、中世まで遡る可能性があるが、前述のように34号溝などとの関連から当期の中で扱った。

41号溝(第145・146図 P.L.34)

位置：An-21・22グリッド 規模：3.80m×0.66m 残存深度：0.14m 走行方位：N-24°-W 遺物：なし
 所見：南側は確認面においては34号溝まで達していないが、本来は重複または合流していた可能性がある。埋没土はⅣ層土を主体とするものであり、Ⅱ期とした19溝などに近いものである。

42号溝(第145～147図 P.L.35・238)

位置：An-19グリッド 規模：4.14m×2.10m 残存深度：0.65m 走行方位：E-14°-N 遺物：石鉢が1点(18)出土した。所見：34号溝から枝分かれするように掘削された溝で、19号溝の下部遺構である。埋没土はⅣ層土主体であり、34号溝の埋没土に類似している。前述のように、35号溝、34号溝、42号溝という溝をトレースするようにⅡ期の19号溝が掘削されており、これら3条の溝は19号溝と同じように通水のための溝として一連の遺構と考えられる。

43号溝(第145～147図 P.L.34)

位置：Am・An-21・22グリッド 規模：6.12m×0.45～1.41m 残存深度：0.20m 走行方位：N-25°-W 遺物：美濃陶器筒型香炉(19)が出土。所見：南側は細い溝状を呈しているが、北側は不整形に広がり掘り方は一定しない。2遺構の重複の可能性もあるが、平面的にも断面観察においても明確にすることはできなかった。

埋没土はⅣ層土主体であり、近世の所産であることは確実である。

44号溝

位置：Aj・Ak-22・23グリッド 規模：3.52m×0.57m 残存深度：0.31m 遺物：なし 所見：ここでは溝として扱ったが、大半が復旧痕によって攪乱されており、複数の土坑の集合である可能性がある。充填していた土層は、暗褐色土と黄褐色シルトの混土で締まりが弱い。用途不明の溝である。

46号溝(第145～147図)

位置：Am・An-20グリッド 規模：1.89m×0.24m 残存深度：0.10m 走行方位：E-16°-N 遺物：17世紀末～18世紀前半の美濃陶器餐水入が1点(20)出土した。所見：39号溝と並行するように検出されたものであり、Ⅳ層土主体の埋没土から当該期とした。東側は411号ピットとの重複で失われているが、最大でも6.20mほどしかないことになる。掘り方もあまり明確なものではなく、畑のサクの残存の可能性もある。

47号溝(第143図)

位置：Af-23・24グリッド 規模：4.85m 残存深度：0.39m 遺物：17世紀代の美濃陶器折縁鉄絵皿(10)と肥前磁器中皿(9)が出土した。所見：30号溝・31号溝によって攪乱されているため、規模・性格等詳細は不明であるが、前記溝の屈曲部より南では検出されていないことから、ほぼ検出部分から始まり北側に延びる溝である。

48b号溝(第148～166図 P.L.35・36・232・238～240)

位置：Ad～Ah-18・19グリッド 規模：21.10m×1.32～3.20m 残存深度：1.54m 遺物：遺物については、48a号溝で述べたように48号溝として取り上げた遺物の中で17世紀代以前のものが48b号溝に伴う可能性が高い。所見：48a号溝と上下の関係で重複する溝である。東側(VI区)の調査では、58号溝と重複するため判然としなかったが、西側調査区際の土層断面の観察から、58号溝が先行する溝であることが確実であるため、58号溝の東側は48b号溝として扱うべきであるかもしれない。とりあえずここでは西側の確実な部分について事実を記載する。底面は平坦で、砂礫層に達する深さまで掘削されている。当溝は灰色のシルト質土で埋没しているが、これは旧桃ノ木川の流路と見られる低地部分を埋めていた土層に類似するものであり、洪水起源の堆積層の可能性が高い。

48a号溝とⅠ区で検出した19号溝が一連の遺構と考えられるのと同様に、当溝は規模などの共通性から19号溝に先行する34号溝、42号溝と一連の遺構と考えられる。埋没土の状況から通水されていたことは確実であり、掘削経路が48a号溝と共通する点からも排水路として掘削されたものと思われる。

57号溝(第168～173図 P L.36・231・232・240・241)

位置: Ae～Ah-17・18グリッド **規模:** 20.01m×0.72～4.20m **残存深度:** 0.65m **走行方位:** E-14°-N **遺物:** 17世紀後半の肥前陶器器手碗(24)、下限が19世紀中頃となる美濃陶器有耳壺(10・11)などの他、近世であることは確実な在地系土器銅(14)などが出土した。また、石鉢(20)、五輪塔の火輪(21)が出土した。 **所見:** 8号道の南側に並行して検出した溝で、8・9号道と一体となって機能したものと考えられる。東側で南北二段に分かれており、北に折れた溝が道を横切ることになるが、この部分が暗渠のような構造になっていたものかどうか明らかにすることはできなかった。また、北に折れた先は、48a号溝との重複で失われているが、下部遺構の48b号溝に接続する可能性がある。しかし、南に分岐した溝の先については、復旧痕による掘乱によるものか判然とし難い。

58号溝(第148～150・167図 P L.36)

位置: Ad～Al-17～19グリッド **規模:** 39.10m×2.74～4.20m **残存深度:** 0.44m **走行方位:** E-12°-N **遺物:** 掘乱されたものか近現代と見られる在地系土器甕の破片が出土した。 **所見:** 1号土塁の下部から検出した溝であり、1号井戸、49・50号溝などの1号建物関連遺構に先行する遺構である。掘り方は断面逆台形状で、両側の壁は中位で傾斜角が変わる特徴がある。底面は平坦で広く、掘削は砂礫層上面に達している。東西方向に直線的に掘削されているが、延長線にあるⅠ区では当溝に連続するような掘り方をもつ同規模の溝は検出されおらず、また、隣接するⅢ・Ⅵ区などの調査区においても該当する遺構が見当たらない。埋没土の状況などから通水された可能性は低いことから、区画を目的としたものと考えられる。東側の調査区境で溝が終っていている可能性は否定できないが、Ⅰ区とⅢ区の境で直角に折れて私道下を北に向かい北西側を区画したのではないかと考えている。北西側に区画を想定すると、その内部

から検出されている23号・25号溝もほぼ同様な方位を持つ区画となり、さらに、南側で当溝に並行し、北に直角に折れている8号溝の不自然なあり方も、当溝による区画に規制されていると思われるが、区画についてその性格を決定付ける資料は得られていない。

59号溝(第174・175図)

位置: Ae・Af-15グリッド **規模:** 6.55m×0.37～0.88m **残存深度:** 0.46m **走行方位:** E-20°-N **遺物:** 15世紀中頃～後半の在地系土器すり鉢(1)が出土した。 **所見:** 1号建物の下部調査において断面観察で認識したもので、位置的には1号建物の軒下に当たる。検出状況から、60号溝よりは新しく、1号建物よりは古い遺構である。東西方向の検出が短く全体像は捉えることができないが、走行方向が60号溝と一致していることは偶然とは考えにくく、土地区画などの目的で掘削された可能性が高い。

60号溝(第174～176図 P L.37)

位置: Ae～Ah-15～17グリッド **規模:** 19.62m×2.84m **残存深度:** 0.70m **走行方位:** E-20°-N **遺物:** 近世と見られる在地系土器焙烙(3)が出土した他、Ⅳ区とⅥ区の調査で5地点で馬歯が出土した。 **所見:** 1号建物の下部に検出したもので、59号溝と重複している。調査区西側の低地部まで延びているが、低地部が埋没後に掘削されていることは確実である。東側は1号建物の東端付近で北に折れているものと認識したが、北に折れた部分の掘り方が東西方向の溝と異なっていることから、折れると認識した部分で止まっている可能性もある。走行方向は、58号溝よりはやや北に振れるが、58号溝と同様に区画として掘削されたものと考えられる。

61号溝(第183図)

位置: Aj-9・10グリッド **規模:** 3.46m×0.40m **残存深度:** 0.18m **走行方位:** E-30°-N **遺物:** なし **所見:** 55号溝の南側に検出したもので、東側は183号土坑などによって壊されており、全体を窺うことはできないが、Ⅵ区で検出した89号溝に連続する可能性がある。

63号溝(第177図 P L.37)

位置: Ar～Bc-6・7グリッド **規模:** 25.25m×1.72m **残存深度:** 0.70m **走行方位:** E-16°-N **遺物:** なし **所見:** 病院の建物によって掘乱されているため、断片的に検出されたものである。53号溝に西側にわずか

に張り出す部分があり、これが63号溝に連続すると推定したが掘り込みとしては確認できなかった。したがって一連の遺構として検出された範囲は、10.40mほどである。69号溝に並行するような走行方向であるが、断面形状が鍋底状を呈しており、69号溝が薬研状であることと大きな違いがある。覆土は薄い層厚の灰褐色シルト質土と粘質土が南北両方向から交互に堆積したような状態が観察された。最上層には粗い砂層が検出されていることから、埋没の最終段階では水の作用を受けた可能性がある。

64号溝(第178図 P L.37)

位置: Ar ~ Bd- 4 ~ 6 グリッド 規模: 31.75m × 0.42 ~ 0.75m 残存深度: 0.35m 走行方位: - 遺物: 溝の時期に合わないものであるが、土製紡錘車、緑釉陶器の破片、不明の金属製品などが出土した。 所見: 69号溝に並行するように検出されているが、69号溝が調査区を横断しているのに対して、64号溝は西側で南に折れ、267号土坑と重複部分から南側では検出されていない。しかし、この南側部分は広範囲にわたって暗灰色のシルト質土が堆積しており、後世の擾乱を受けることで遺構が失われている可能性がある。断面形状は逆台形状を呈する明確な掘り方がされており、土層断面の観察から通水されたものとは考えられない。西側で53号溝と重複しているが、遺構の確認時点で64号溝→53号溝であることが確認できた。

65号溝(第179図 P L.37)

位置: Bb ~ Bc- 3 ~ 5 グリッド 規模: 12.45m × 0.70 ~ 1.18m 残存深度: 0.23m 走行方位: N-35°-E 遺物: なし 所見: 64号溝と70号溝との間に検出したもので、233号土坑との重複で北端が失われているが、重複部分から先に延びていた痕跡はない。堆積していた土層は、As-Cを含む黒褐色土であるが、黄褐色シルト粒を含む締まりのあまりないものであるため、1面の中に入れて報告した。

66号溝(第179図 P L.37)

位置: At ~ Bb-10グリッド 規模: 6.95m × 0.82m 残存深度: 0.12m 走行方位: E-27°-N 遺物: なし 所見: 62号溝から枝分かれするように南西方向に向かう溝である。堆積していた土層は53号溝との違いが顕著であることから同時期とは考えられず、53号溝の土層が南

北に連続的に確認されたことから、66号溝→53号溝と考えられる。走行方位は直線的な部分で計測したもので、西側でやや湾曲しその先は確認ができなかった。

67号溝(第179・180図 P L.38・241)

位置: Bd ~ Bf- 3・4グリッド 規模: 10.15m × 0.82 ~ 2.08m 残存深度: 0.38m 走行方位: E-30°-N 遺物: 1の天井は48b、2の片口跡は48b・57号溝のものと接合した。 所見: 70号溝の北側に検出した溝で、堆積していた土層は65号溝に類似するものであり、一見すると古い段階のもののように感じるが、土層の締まりがあまり良好でないため1面として扱った。東西で掘削幅が著しく異なっており、それぞれ先に延びる可能性はない。

68号溝(第179図 P L.38)

位置: Be ~ Bf- 3グリッド 規模: 4.36m × 0.43 ~ 1.00m 残存深度: 0.15m 走行方位: E-23°-N 遺物: なし 所見: 70号溝の南側に検出した掘り方があまり明瞭でない溝である。灰褐色土を含む堆積土であり、全体に水の影響を受けたものか鉄分の凝集が認められた。検出された長さは極めて短いが、残存状況が悪いことを勘案すればさらに東西に続いていた可能性が高い。

78・90号溝(第181図 P L.38)

位置: Aj・Al-14 ~ 18グリッド 規模: 41.50m × 1.05 ~ 3.30m 残存深度: 0.53 ~ 0.76m 走行方位: E-17°-N ~ N-17°-W ~ E-18°-N 遺物: 在地系土器内耳鍋(1)が出土した。 所見: VI区で検出したもので、北から南に向かい8号溝に達する直前で西に走行を変えている。また、北側は工事に伴い擾乱されているため判断としないが、北側の58号溝と重複している形跡がないことから、擾乱された部分で方向を東に変え90号溝に連続していたと考えられることから、ここでは一連の遺構として報告する。78号溝の南北方向部分では逆台形状の断面形状として捉えたが、90号溝では上半が大きく開く薬研状を呈しており、78号溝とした部分は、90号溝の下半部分を検出した可能性が高い。したがって、一連の溝の断面形は薬研状と見て良いであろう。土層の堆積状態に通水された痕跡はなく、底面に傾斜が付けられた形跡が見られないことから、区画のための溝と考えられる。しかし、これまで想定した区画のどの部分に対応するものか明確にできないが、走行方位などから58号溝、

8号溝などと関連する区画である可能性が高い。

82号溝(第182図 P.L.38)

位置: Ao ~ Ar- 5 ~ 7グリッド 規模: 16.25m × 0.46m 残存深度: 0.23m 走行方位: E-24°-N 遺物: なし 所見: 69号溝に並行して直線的に掘削された溝であり、東側は53号溝との重複で失われている。53号溝の東側は病院の建物で攪乱されているため確認ができなかった。検出できた部分では掘り方が一定しており、底面標高にも東西でほとんど差が見られない。81・83号溝と重複しているが、検出状況などから81号溝→82号溝→83・53号溝という新旧関係が想定できる。

83号溝(第182図 P.L.38)

位置: Ap- 5 ~ 7グリッド 規模: 8.75m × 0.62 ~ 1.25m 残存深度: 0.29m 走行方位: 不明 遺物: なし 所見: 弧状に掘削された溝で、掘り方は一定しない。屈曲部で91号溝と連結しているが、堆積土層に明確な相違が捉えられなかったことから同一の溝の可能性が高い。東側で92号溝と重複し失われているため53号溝まで遡していたものかどうか不明である。堆積土層は褐色を呈するシルト質土が主体で、微量の軽石の含有をもとに検出したものであり、やや濁ったⅧ層土との識別は難しい。性格不明の溝である。

86号溝(第183図 P.L.38・39)

位置: Am ~ An- 8・9グリッド 規模: 6.22m × 0.67 ~ 0.82m 残存深度: 0.27m 走行方位: 不明 遺物: なし 所見: 87号溝と近接しており、規模・掘り方の異なる2条の溝が重複しているような状況が看取されるが、新旧関係等不明である。北側は攪乱されており不明瞭であるが、89号溝までは達していない。断面形状は箱型を呈しており、堆積土層はⅧ層土ブロックを塊に含む土層で分層することができないことから埋め戻された可能性がある。

87号溝(第183図 P.L.38・39)

位置: Am ~ An- 9・10グリッド 規模: 6.98m × 0.40 ~ 0.92m 残存深度: 0.22m 走行方位: — 遺物: なし 所見: クランク状に屈曲して掘削されており、86号溝に類似する様相がある。掘り方は一定せず、条件の良い部分では断面形状が箱型を呈している。堆積土層は東側から埋め戻されたような様相を呈している。土層の一部は86号溝の土層に類似しており、同一時期に埋め戻された

可能性もある。

89号溝(第182図 P.L.39)

位置: Al ~ An-10・11グリッド 規模: 16.14m × 0.55m 残存深度: 0.23m 走行方位: E-9°-N ~ N-14°-E 遺物: なし 所見: 北側は53 ~ 56号溝との重複で失われているが、方向的には8号溝との間に検出されている84号溝に連続する可能性がある。重複部から南に向かい、先で直角に方向を変えて西へとかいⅥ区の際で不明瞭になっているが、Ⅳ区で検出された61号溝が方向・規模ともに類似していることから連続する可能性が高い。

91号溝(第182図 P.L.39)

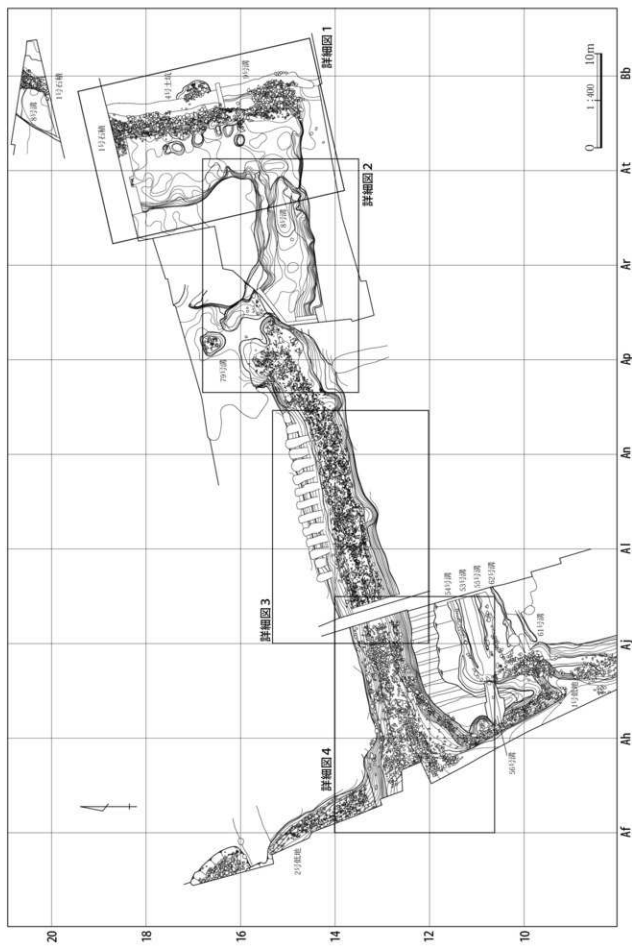
位置: An ~ Ap- 6グリッド 規模: 6.15m × 0.54 ~ 1.52m 残存深度: 0.28m 走行方位: E-17°-N 遺物: 不明の金属製品が1点出土した。 所見: 東側で83号溝に連結しているが、調査の段階では両者を別遺構とした。しかし、規模の一定しない掘り方の状況など共通する要素が多いことから、本来は一連の遺構と考えられる。

92号溝(第182図)

位置: Ap ~ Ar- 7グリッド 規模: 10.38m × 1.48m 残存深度: 0.18m 走行方位: E-9°-N 遺物: なし 所見: 83号溝の延長上に検出したもので、53号溝の東側まで及んでいるが、それより東側は攪乱によって不明である。平面形状や底面の状況などは、12・13号溝に類似している。重複している53・83号溝との新旧関係は、83号溝→92号溝→53号溝と考えられる。

94号溝(第183図)

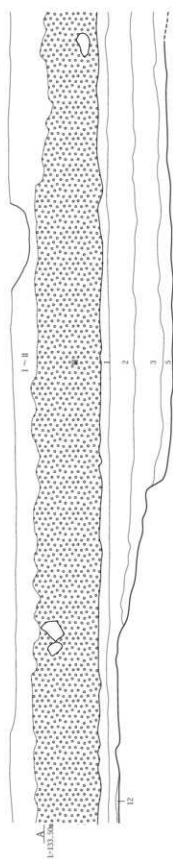
位置: Al ~ Ak-10グリッド 規模: 5.58m × 0.34 ~ 0.95m 残存深度: 0.21m 遺物: なし 所見: Ⅳ区の55号溝と61号溝との間で検出したもので、調査時点では62号溝としていたが遺構番号が重複したため、新たに94号溝と改称して報告した。掘り方はあまり明瞭でなく、Ⅵ区では該当する溝が検出されていない。



第113圖 8号溝全体図

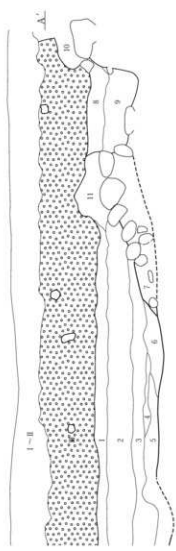


第114図 8号溝詳細図1



8号溝 A-A'

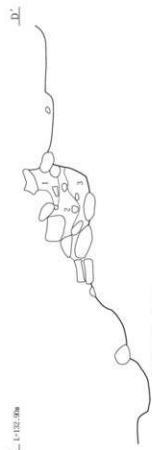
- 1 灰色粘質土 天明3年、当時の水田耕作土。
- 2 暗褐色土 As-Bを含む層で、白色質石をわずかに含む水田土。
- 3 暗褐色土 2層に類似するが、As-Bの含有量が多く、白色礫粒を多く含む。
- 4 暗灰色砂 粗粒砂の層。
- 5 暗褐色土 粗粒砂主体と4層の混土。
- 6 暗褐色土 細粒砂。
- 7 暗褐色土 3層に類似。
- 8 灰褐色土 IV層土と粗粒砂・礫の混土。
- 9 暗褐色土 2層に類似するが、砂粒を多く含む。
- 10 暗褐色土 IV層土に類似。
- 11 暗褐色土 IV層土に類似。
- 12 暗褐色土 XV層土とVa層土・Vb層土の混土。



C-C'



- 8号溝石積み C-C'
- 1 暗褐色土 IV層土主体で、粗粒砂を少量含む。
- 2 暗褐色土 IV層土主体で、粗粒砂と小礫を多量に含む。

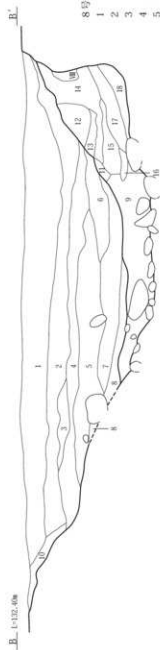


- 8号溝石積み D-D'
- 1 暗褐色土 暗褐色土主体で、粗粒砂を多く含む。
- 2 暗褐色土 黄灰色土ブロックと粗粒砂を多く含む。
- 3 暗褐色土 細粒砂と粗粒砂を多く含む。

第115図 8号溝土層断面図(1)



第116図 8号溝詳細図2



8号溝石礫み E-E'

- 1 暗褐色土 V層土主体で、灰色シルト粒・As-C・白色軽石を含み、粘性は強い。
- 2 黄灰色シルト 黄灰色シルト主体で、1層に類似のブロックを含む。
- 3 暗褐色土 1層に類似の層と砂・小礫の混土。
- 4 暗褐色砂礫 小礫・砂と暗褐色土の混土。
- 5 暗灰砂 暗灰色砂とシルトの混土で、黄色粒をわずかに含む。
- 6 黄褐色砂 粒径の揃った黄褐色砂。

8号溝 B-E'

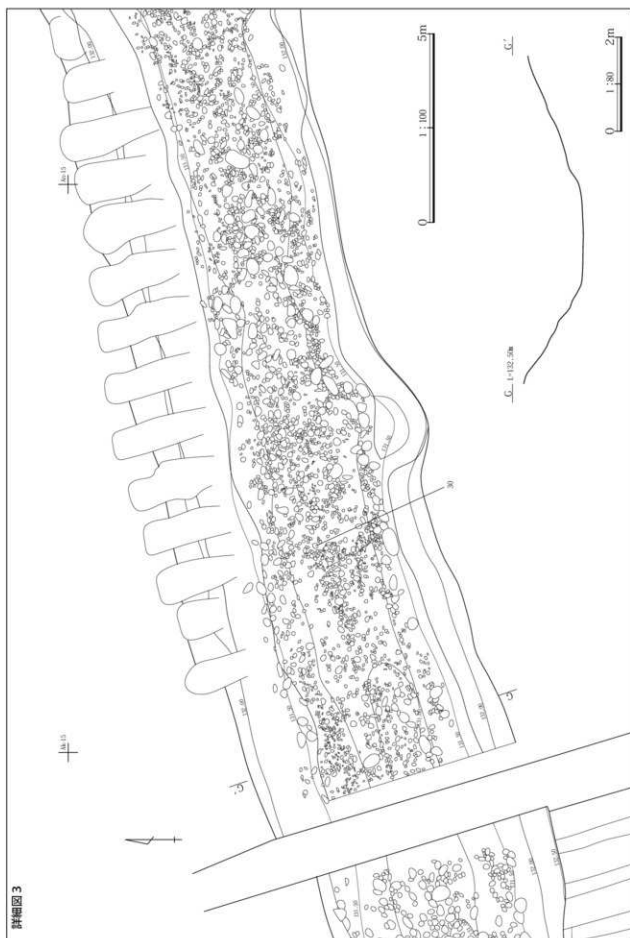
- 1 暗褐色土 V層土主体で、二ヶ岳系軽石と腐化物を少量含む。
- 2 暗褐色土 V層土主体で、腐化物が重なり、全体に臭味を帯びる。
- 3 暗褐色砂 褐色粘質土と粗粒砂が互層。
- 4 灰褐色土 シルト質の灰褐色土と砂の混土。
- 5 砂礫 礫 径5~200mm。
- 6 灰褐色土 灰褐色粘質土と砂の混土。
- 7 灰褐色砂 粒径が揃う。
- 8 黄褐色砂 粗礫土に類似。
- 9 砂礫 径10~400mm。
- 10 暗褐色土 V層土主体で、1層・2層よりしまりが強い。
- 11 黄褐色土 腐った粗礫土に類似。
- 12 暗褐色土 2層に類似するが、粗礫土粒を含む。
- 13 灰砂粘質土と砂の混土。
- 14 灰褐色土 灰褐色粘質土と黄色土が互層。
- 15 灰包砂 粗灰砂。
- 16 黄色砂 粗粒砂。
- 17 灰褐色土 灰褐色粘質土が腐状。
- 18 灰褐色土 17層に類似するが、黄褐色粘質土の割合が多い。



E-E' 1:132,000



第117図 8号溝土層断面図(2)



第118図 8号溝詳細図3



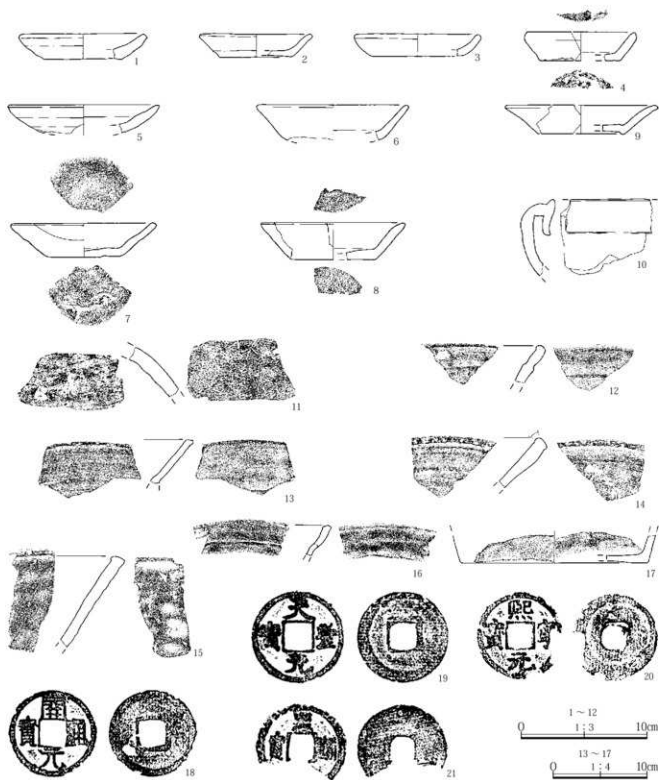
第119図 8号溝詳細図4

第4章 1面の調査(近世)

H-1(32.5m)

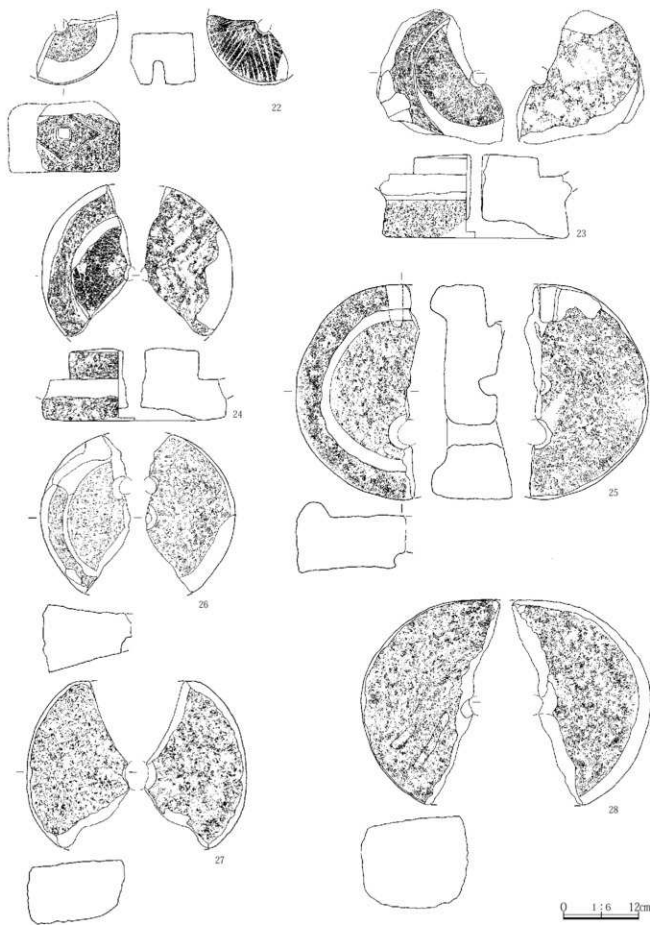
H'

0 1:80 2m

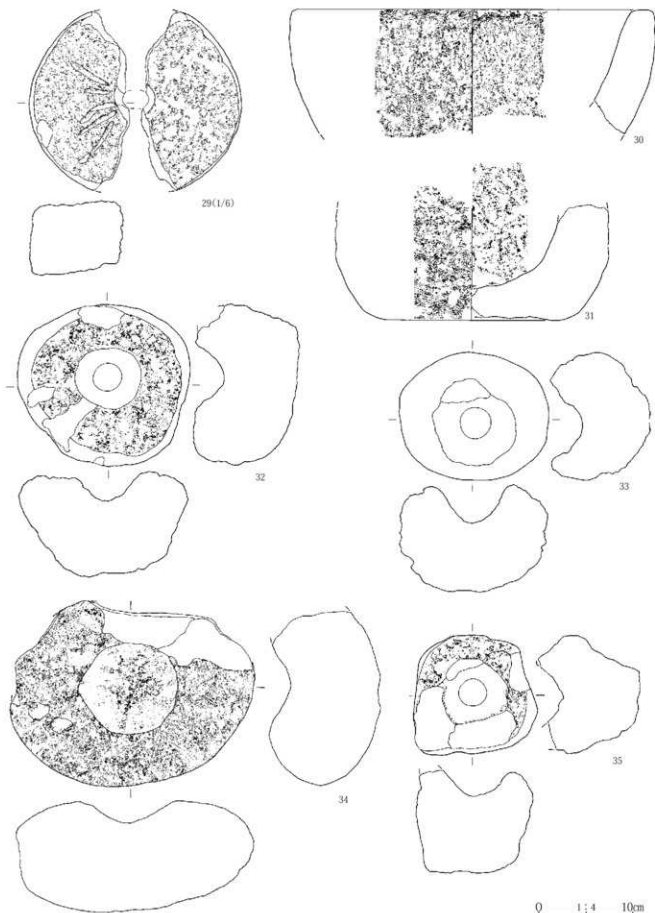


18~21 (1/1)

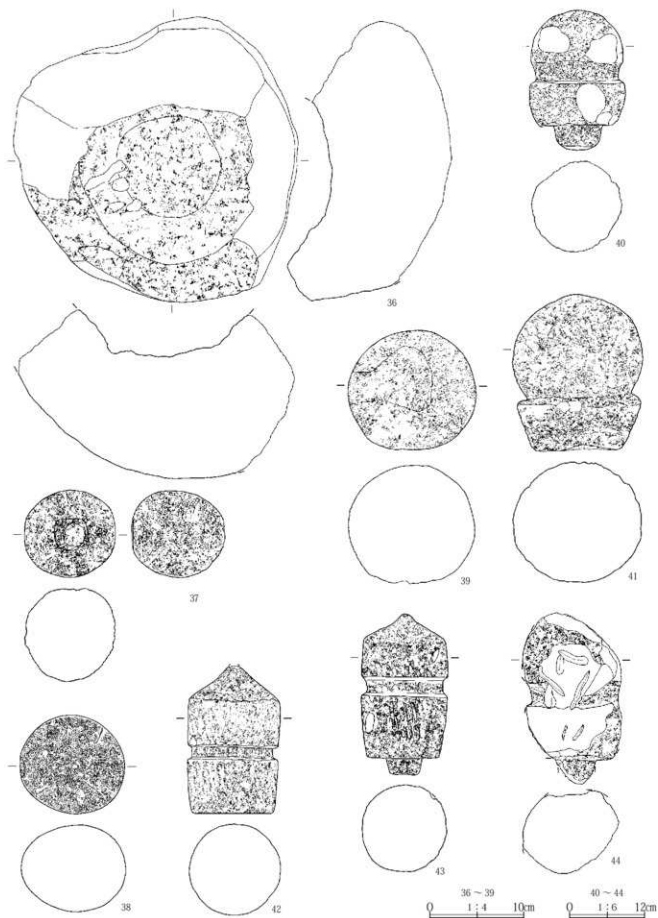
第120図 8号溝高低図・出土遺物(1)



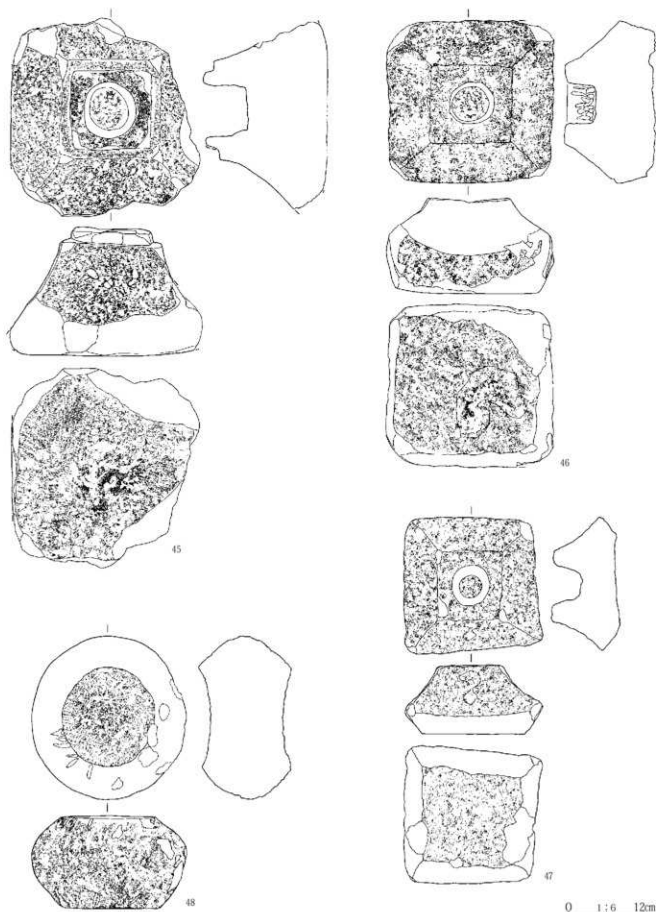
第121図 8号溝出土遺物(2)



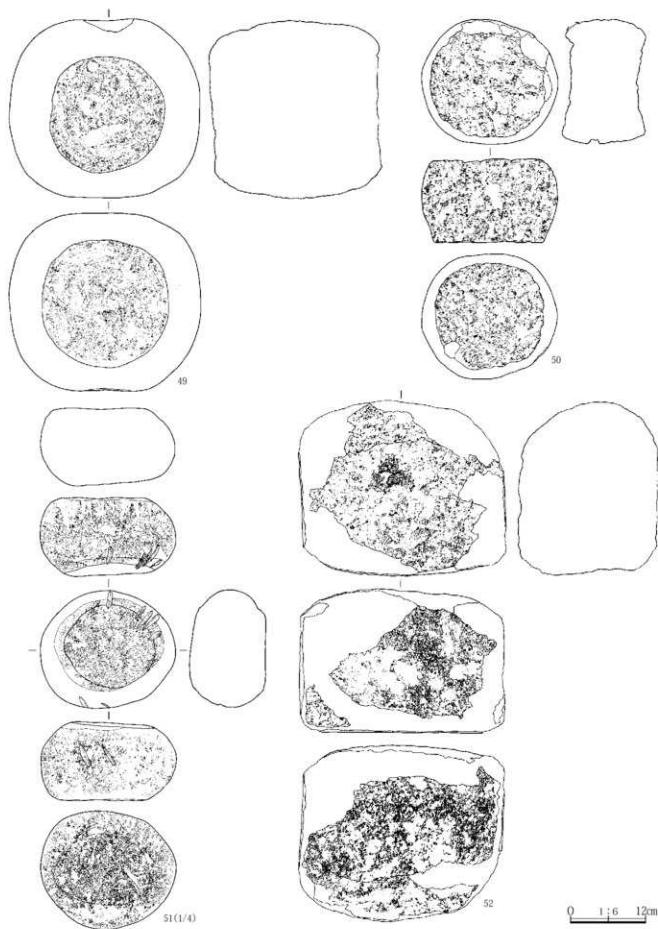
第122図 8号溝出土遺物(3)



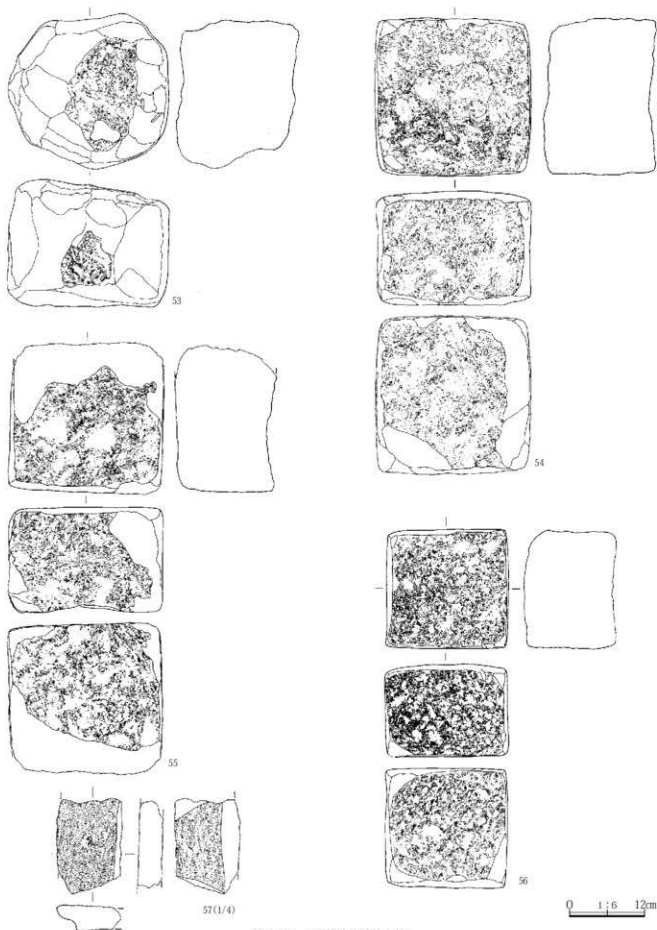
第123図 8号溝出土遺物(4)



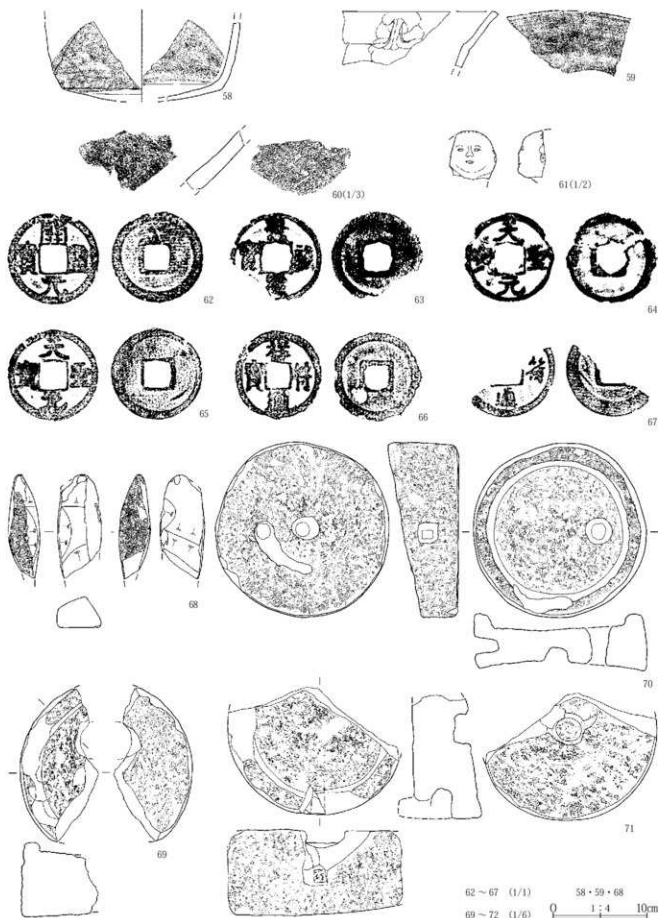
第124図 8号溝出土遺物(5)



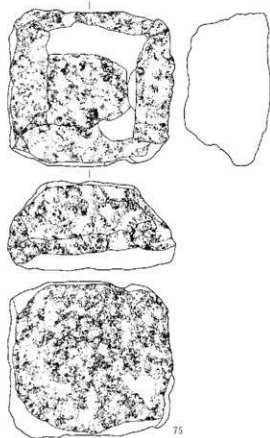
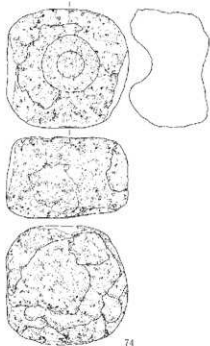
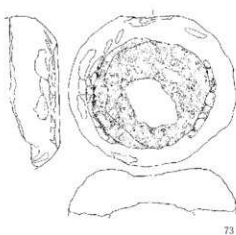
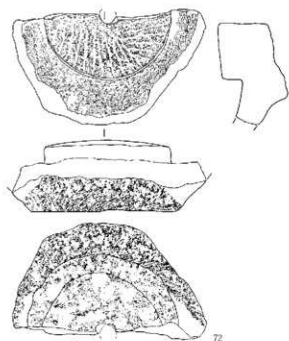
第125图 8号溝出土遺物(6)



第126図 8号溝出土遺物(7)

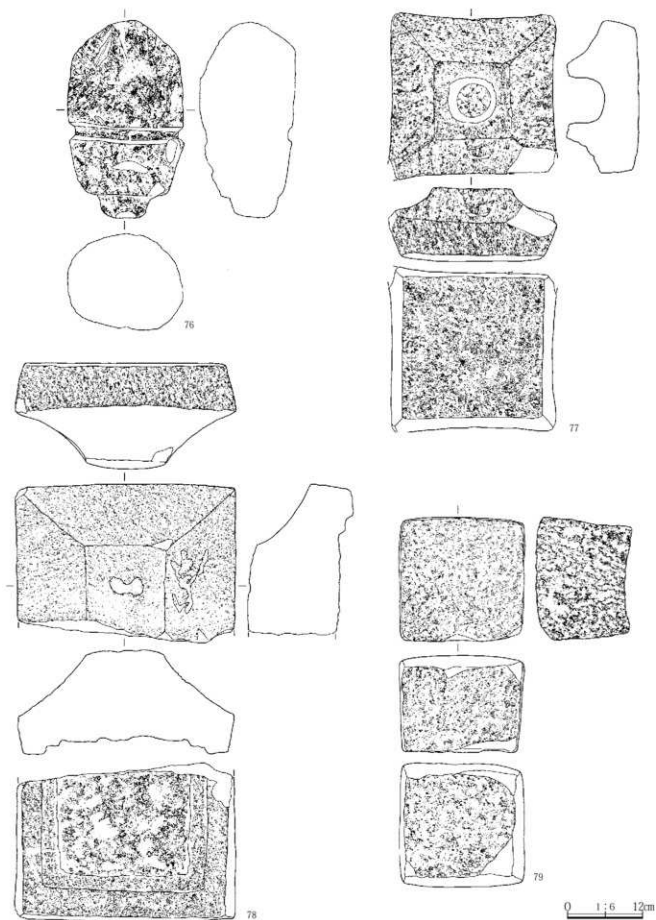


第127図 8号溝石積み出土遺物(1)

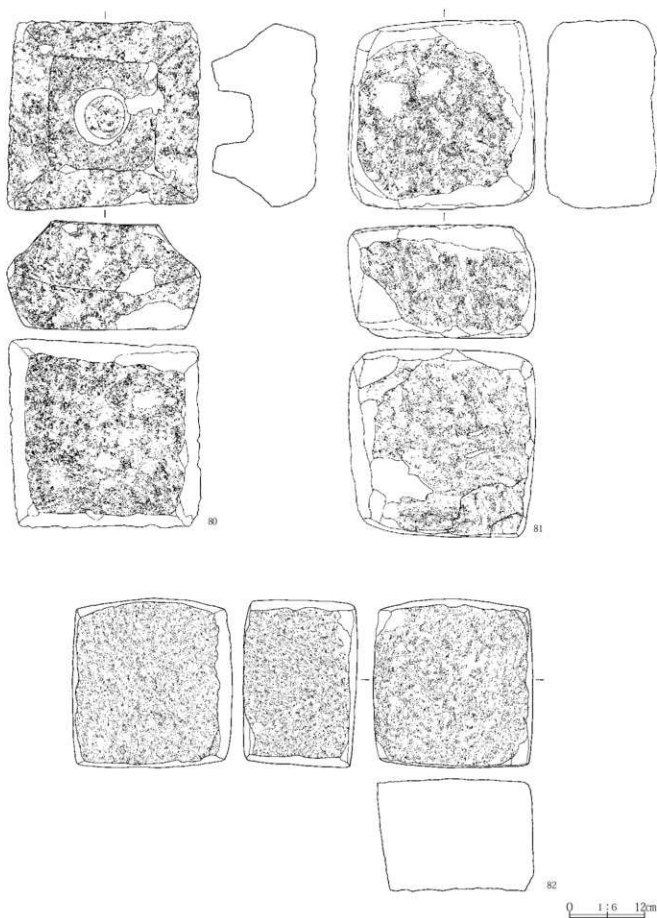


0 1:6 12m

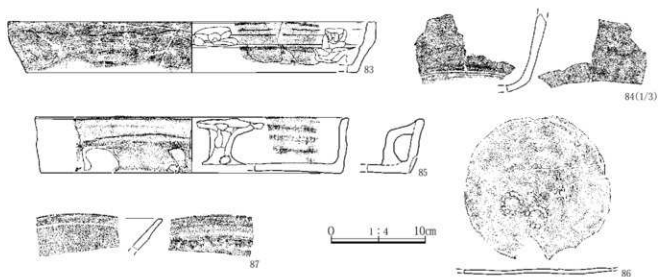
第128図 8号溝石積み出土遺物(2)



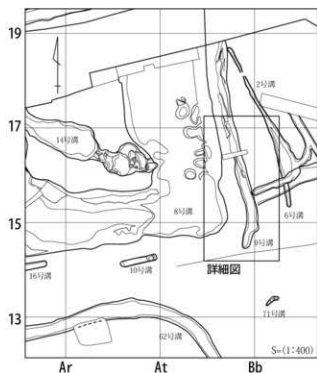
第129図 8号溝石積み出土遺物(3)



第130図 8号溝石積み出土遺物(4)

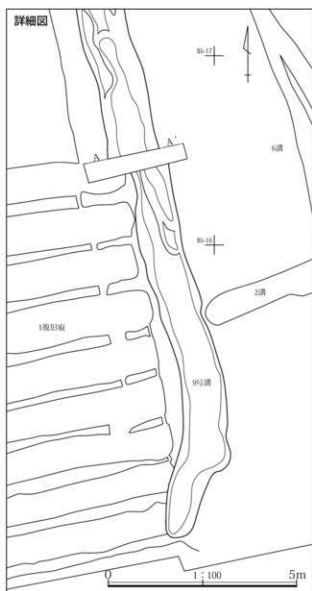


第131図 8・48号溝出土接合遺物



9号溝 A-A'

- 1 灰褐色土：Ⅳ層上主体で、As-Cをわずかに含み、粘性が強い。
- 2 灰褐色土：Ⅳ層上主体で、白色・黄色粒を含み、粘性が強い。
- 3 褐色砂
- 4 灰褐色土：Ⅳ層上主体で、灰色粘質土の含有が多く、白色・黄色粒を多く含む。
- 5 褐色砂
- 6 灰褐色土：灰色粘質土と褐色砂粘の混上。



第132図 9号溝

12号溝



12号溝 B・B'・C・C'

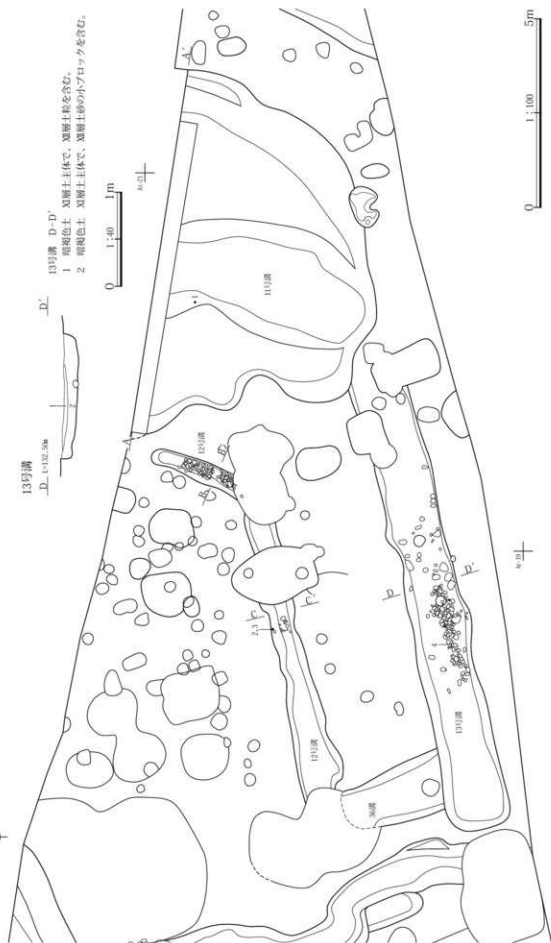
- 1 暗褐色土、X層土主体で、X層土・泥化物をわずかに含む。
- 2 暗褐色土、X層土主体で、X層土を全体に含み、上面より明るい色調を呈する。

13号溝

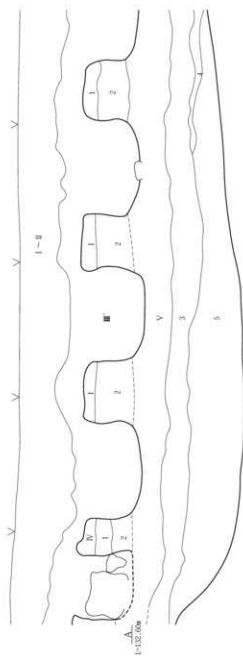


13号溝 D・D'

- 1 暗褐色土、X層土主体で、X層土粒を含む。
- 2 暗褐色土、X層土主体で、X層土粒の小ブロックを含む。

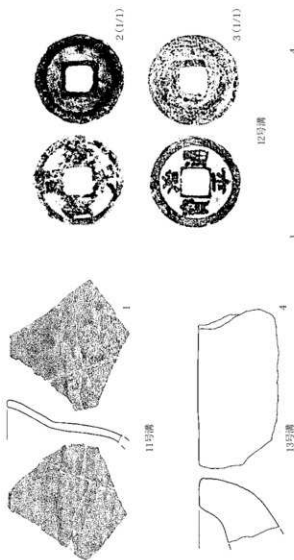
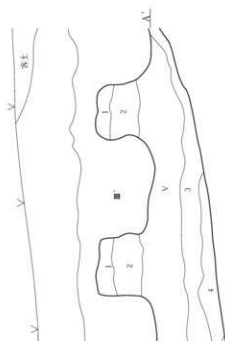


第133図 11・12・13号溝



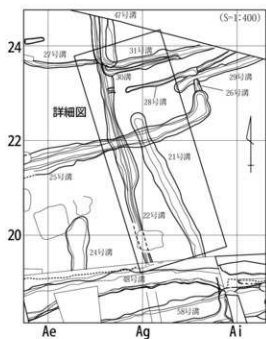
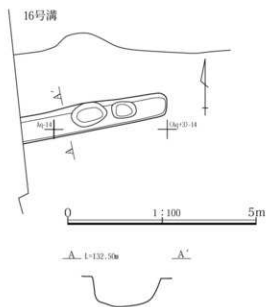
11号溝 A-A'

- 1 灰褐色粘質土 N層上に敷ける水田耕作土。
- 2 暗褐色土 白色粒を含む粘質土。(近世耕作土)。
- 3 暗褐色土 白色粒と炭化物を少量、As-Bを多量に含む。
- 4 黄褐色土 刈層土を主体とする層。
- 5 灰色砂礫 刈層土中に含まれる砂礫。

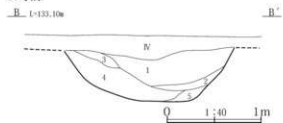


第134図 11号溝土層断面図・出土遺物

第4章 1面の調査（近世）

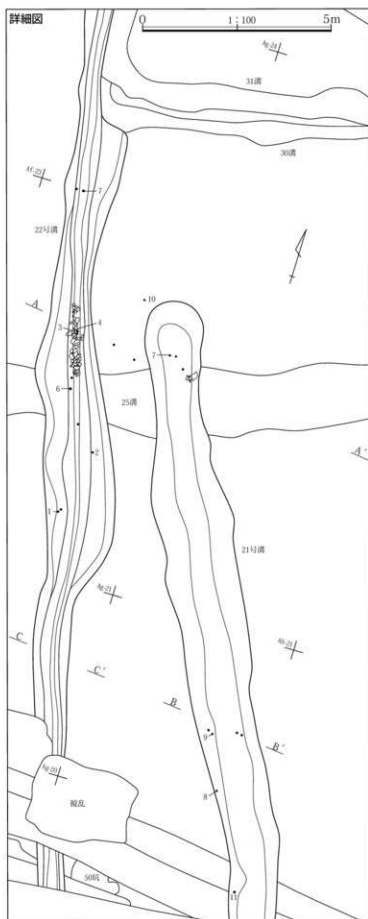


21号溝



21号溝 B-B'

- 1 暗褐色土 Ⅲ層上より粘質でしまっており、ニッ岳系軽石を含まない。
- 2 暗褐色土 Ⅰ層より明るく、やや粘性が強い。
- 3 暗褐色土 Ⅰ層に、ニッ岳系軽石軽石細粒を含む。
- 4 暗褐色土 Ⅱ層上砂粒及び小ブロック含む。
- 5 黄褐色土 Ⅱ層上砂主体で、暗褐色土を少量含む。

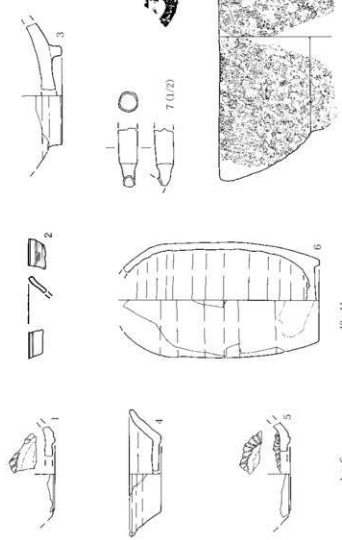


第135図 16・21・22号溝



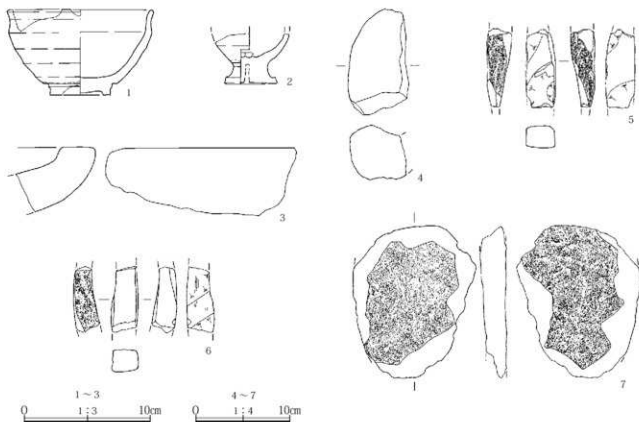
- 21・22・25号溝 A-A'
- 1 灰色土 瓦層土に近似する。
 - 2 暗褐色土 瓦層土に類似し、As⁺を含む。
 - 3 暗褐色土 2層に類似するが、全体に暗色を呈する。
 - 4 暗褐色土 2層と瓦層土小ブロック・灰色粘質土ブロックの混土。
 - 5 暗褐色土 2層と瓦層土の混土。
 - 6 暗褐色土 3層に類似するが、瓦層土粒が多い。
 - 7 暗褐色土 4層と瓦層土小ブロックを少量含む。
 - 8 暗褐色土 7層に類似するが、やや暗色を呈する。
 - 9 暗褐色土 7層・8層に類似するが、全体に灰色味が強い。
 - 10 暗褐色土 4層と瓦層土粒・小ブロックの混土。
 - 11 暗褐色土 4層と瓦層土の混土。
 - 12 暗褐色土 11層に類似するが、全体に灰色味が強い。
 - 13 暗褐色土 11層と瓦層土小ブロックを少量含む。
 - 14 暗褐色土 11層と瓦層土を均一に含む。

- 22号溝 C-C'
- 1 暗褐色土 瓦層土主体でAs⁺を含む。
 - 2 暗褐色土 1層に類似するが、全体に暗色。
 - 3 暗褐色土 1層に瓦層土小ブロックと灰色粘質土ブロックを含む。

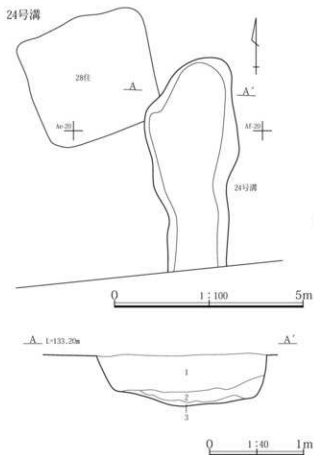


第136図 21・22号溝土層断面図・出土遺物

第4章 1面の調査(近世)



第137図 22号溝出土遺物



第138図 24号溝・25号溝土層断面図

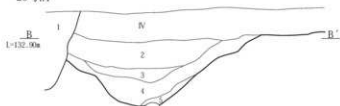
23号溝



23号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 二ヶ層系軽石細粒を全体に含む。中央の石は二ヶ層系軽石。
- 2 暗褐色土 1層に畑層土砂が混入して、色調が明るい。

25号溝

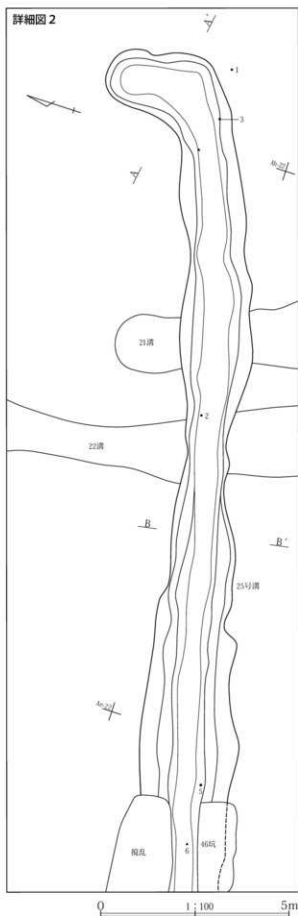
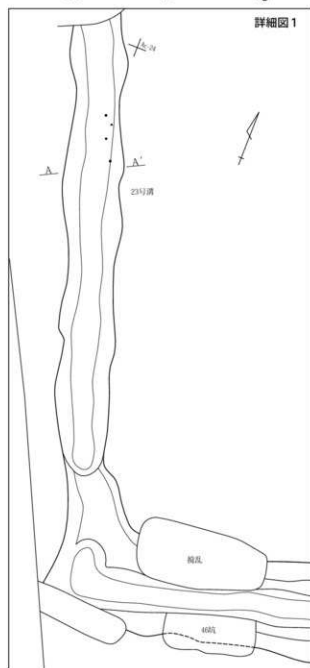
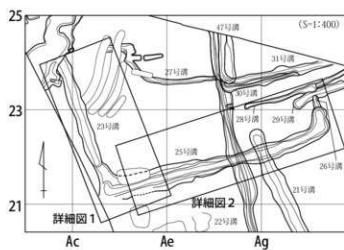


25号溝 B-B'

- 1 暗褐色土 Va層土・Vb層土と灰褐色土の混入で、粘性が強い。
- 2 暗褐色土 Va層土・Vb層土主体で、畑層土粒と小ブロック・As-Cを含む。
- 3 暗褐色土 2層に類似するが、畑層土ブロックを含まない。
- 4 暗褐色土 3層より畑層土粒が少なく、全体にしまりが強い。
- 5 暗褐色土 畑層土粒と暗褐色土の混入で、しまりが弱い。

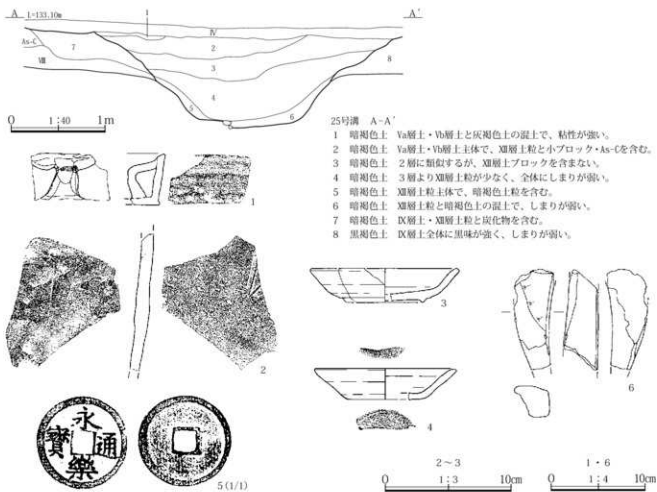
24号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 D層土主体で、畑層土小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 1層と畑層土ブロックの混入。
- 3 黄褐色土 畑層土主体で、1層のブロックを含む。



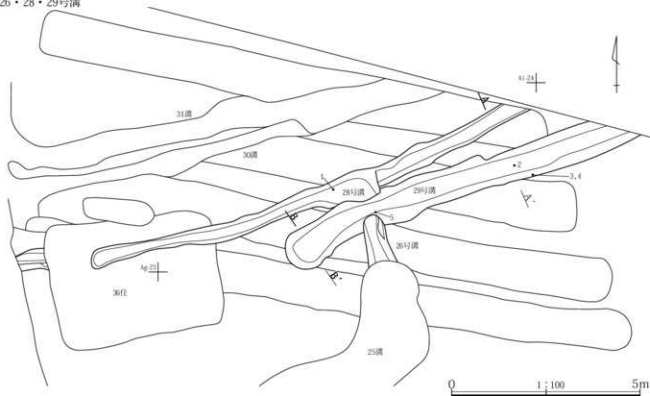
第139図 23・25号溝

第4章 1面の調査(近世)



第140図 25号溝土層断面図・出土遺物

26・28・29号溝



第141図 26・28・29号溝

28・29号溝



29号溝

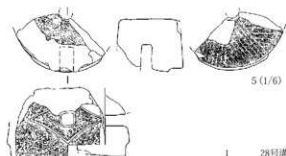
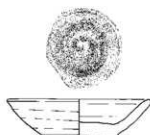
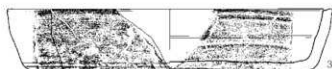


28・29号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 As-Cを多く含む暗褐色土と知層土の混土。
- 2 暗褐色土 Va層土主体で、全体にしまり・粘性が強い。
- 3 暗褐色土 Va層土と知層土の混土で、しまりが弱い。
- 4 暗褐色土 2層に類似するが、粘性がやや強い。
- 5 知層土主体で4層土を少量含む。

29号溝 B-B'

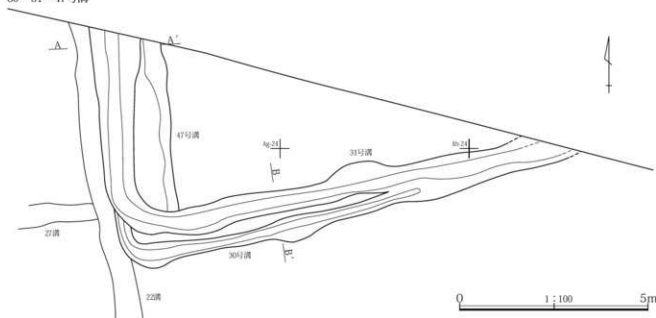
- 1 暗褐色土 Va層土と知層土・VII層土小ブロックの混土。
- 2 黄褐色土 知層土ブロック主体の層。
- 3 暗褐色土 Va層土・VII層土の混土。知層土ブロックが大きく、全体に暗色。



1 28号溝
2-5 29号溝

第142図 28・29号溝土層断面図・出土遺物

30・31・47号溝



第143図 30・31・47号溝

第4章 1面の調査(近世)

22・31・47号溝



22・31・47号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 Va層土主体で、As-Cを含む。
- 2 暗褐色土 Va層土と暗灰色粘質土の混土。
- 3 暗褐色土 Va層土とⅧ層土小ブロックの混土で、しまり・粘性が弱い。
- 4 暗褐色土 Va層土とⅩ層土ブロック、暗灰色粘質土の混土。
- 5 灰褐色土 Ⅹ層土小ブロックと暗灰色粘質土小ブロックの混土で、粘性・しまりが強い。
- 6 灰褐色土 Ⅹ層土と暗灰色土の混土で、しまりが弱い。
- 7 灰褐色土 6層中にⅩ層土粒を多く含み、しまりが弱い。

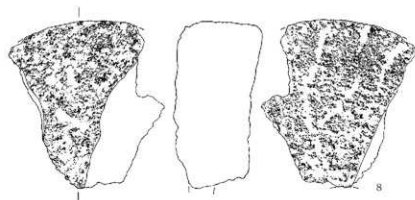
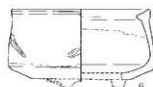
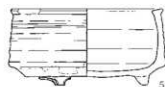
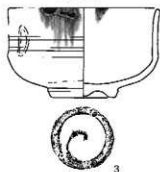


30・31号溝



30・31号溝 B-B'

- 1 暗褐色土 2層に類似。
- 2 暗褐色土 Ⅷ層土に類似するが、As-Bの含有量は不明で、粘性が強い。
- 3 黄褐色土 Ⅹ層土主体で、2層の粒を含む。



1~8 31号溝

9・10 47号溝

1~6・8~10

0 1:3 10cm

7

0 1:4 10cm

第144図 22・30・31・47号溝土層断面図・出土遺物

33・34号溝

A-A' 1-132.60m A'



33・34号溝 A-A'

- 1 灰褐色土 灰色の粘質土主体で、IV層土・As-Cを少量含む。
- 2 灰褐色土 1層と砂の混土で、硬くしまっている。
- 3 灰褐色砂
- 4 灰褐色土 2層に類似するが、砂の含有量が多い。

34号溝

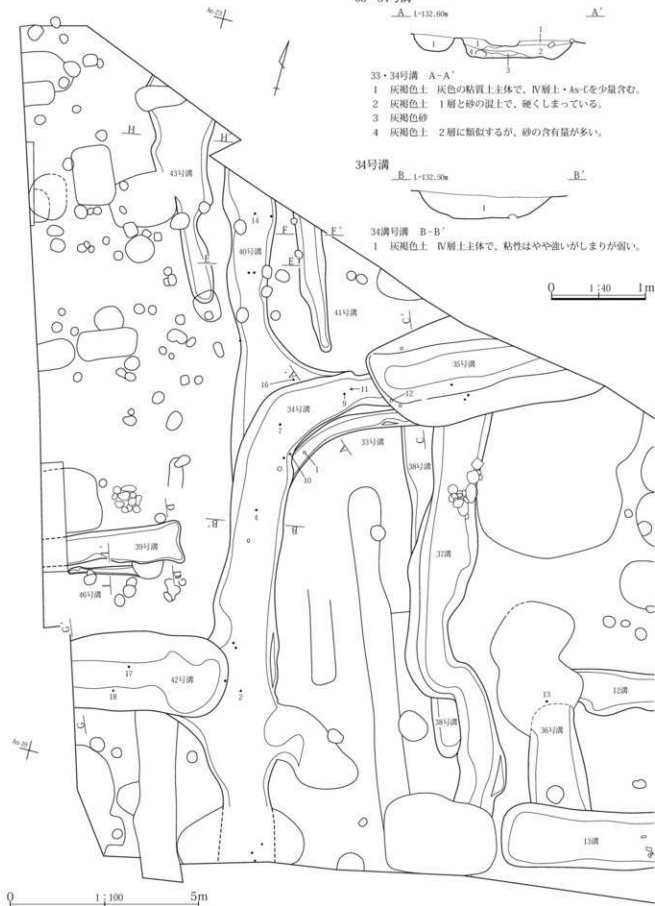
B-B' 1-132.50m B'



34号溝 B-B'

- 1 灰褐色土 IV層土主体で、粘性はやや強いがしまりが弱い。

0 1:40 1m



第145図 33～36・38～43・46号溝

第4章 1面の調査(近世)

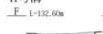
35号溝



35号溝 C-C'

- 1 灰褐色土 IV層上主体で、大礫を少量含む粘性・しまりともに強い。
2 灰褐色土 IV層上主体で、礫を多量に含むみ、しまりが弱い。

41号溝



41号溝 F-F'

- 1 暗褐色土 As-A配流中の黒褐色土とⅡ層上小ブロックの混土。(近世)

46号溝



46号溝 I-I'

- 1 暗褐色土 Va層上主体で、しまりが弱い。

43号溝



39号溝



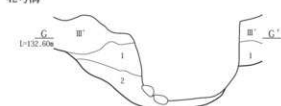
40号溝



40号溝 E-E'

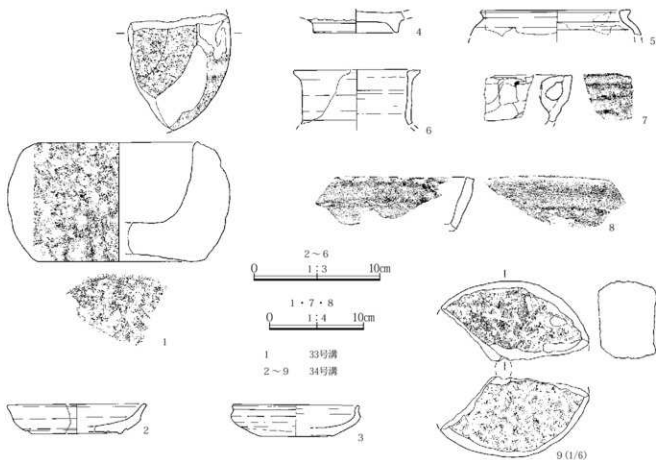
- 1 暗褐色土 Va層上主体で、Ⅱ層上粒と炭化物を少量含む。
2 黄褐色土 1層とⅡ層上の混土。

42号溝

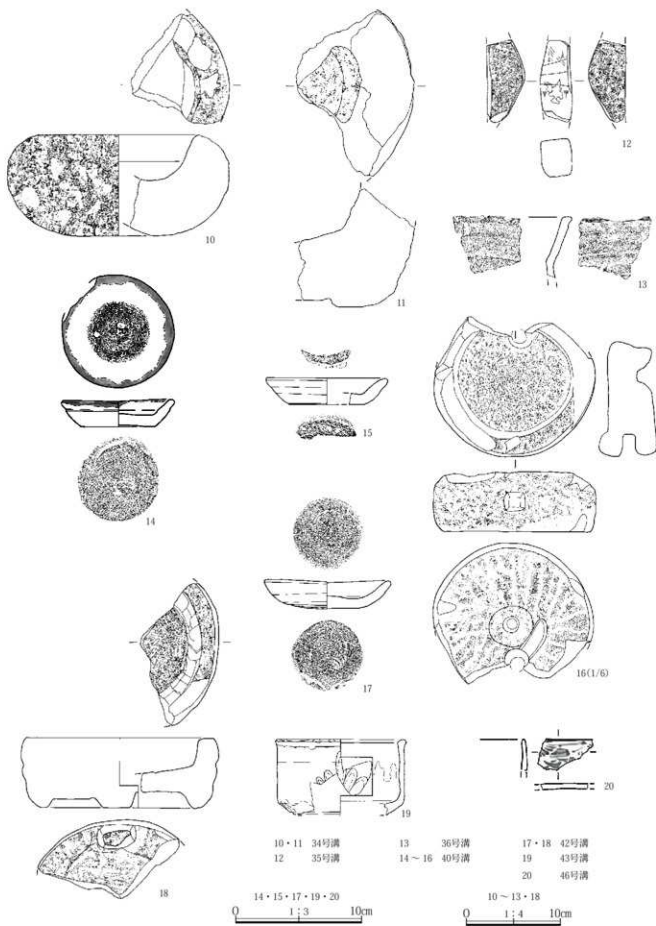


42号溝 G-G'

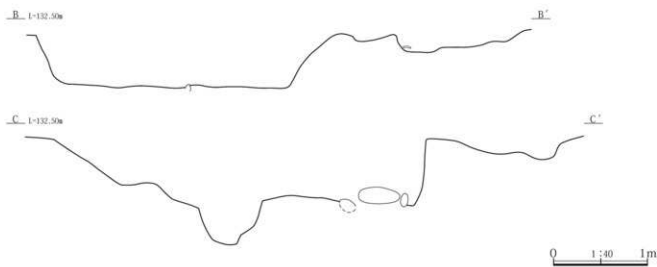
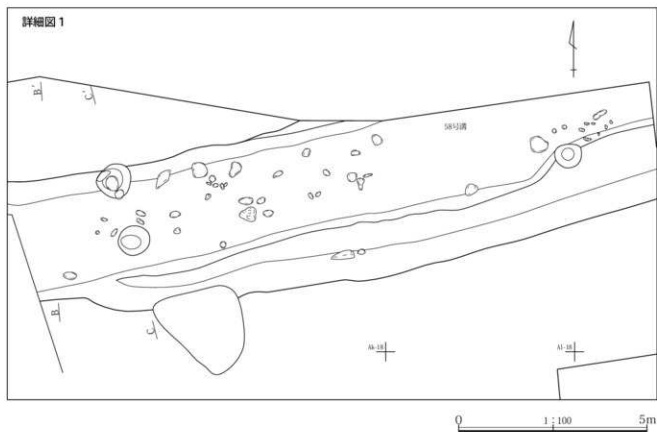
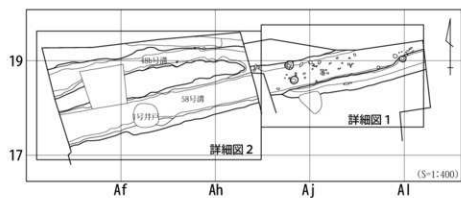
- Ⅲ' 暗褐色土 やや灰色を呈するIV層上の耕作土。
1 灰褐色土 IV層上に類似する粘質土主体で、砂質土ブロックを含む。
2 灰褐色土 IV層上に類似する粘質土主体で、砂質土を含まない。



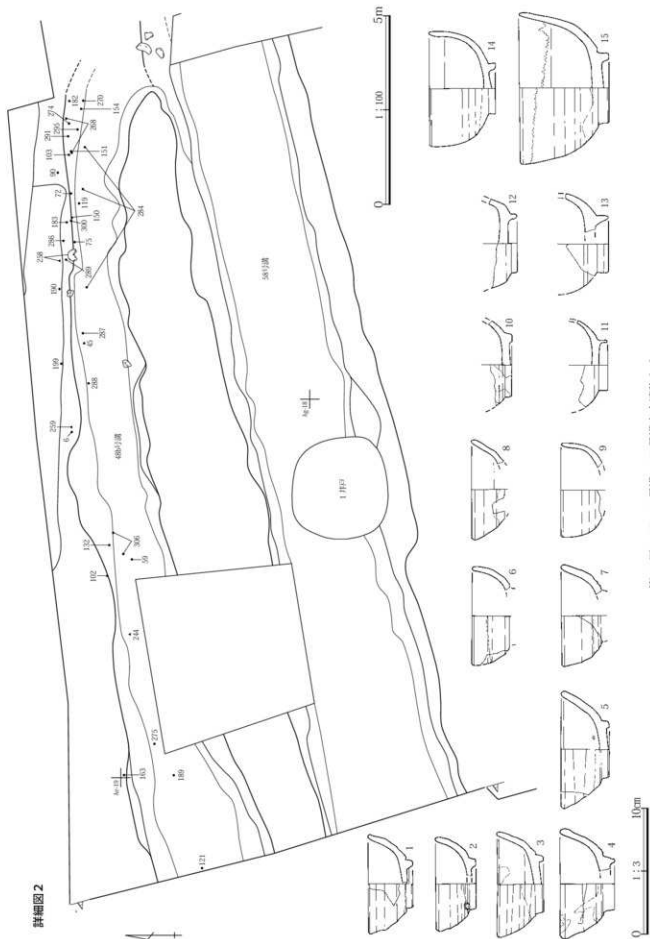
第146図 35・39～43・46号溝土層断面図・出土遺物



第147图 34・35・36・40・42・43・46号溝出土遺物



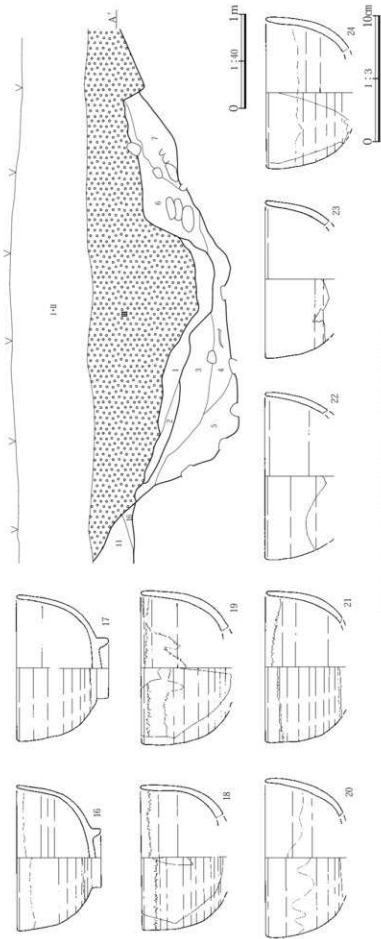
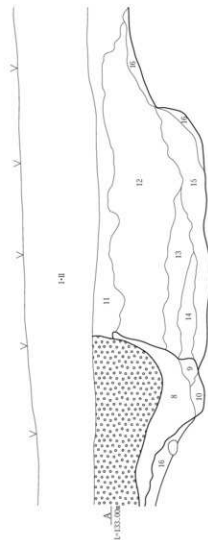
第148図 48b・58号溝



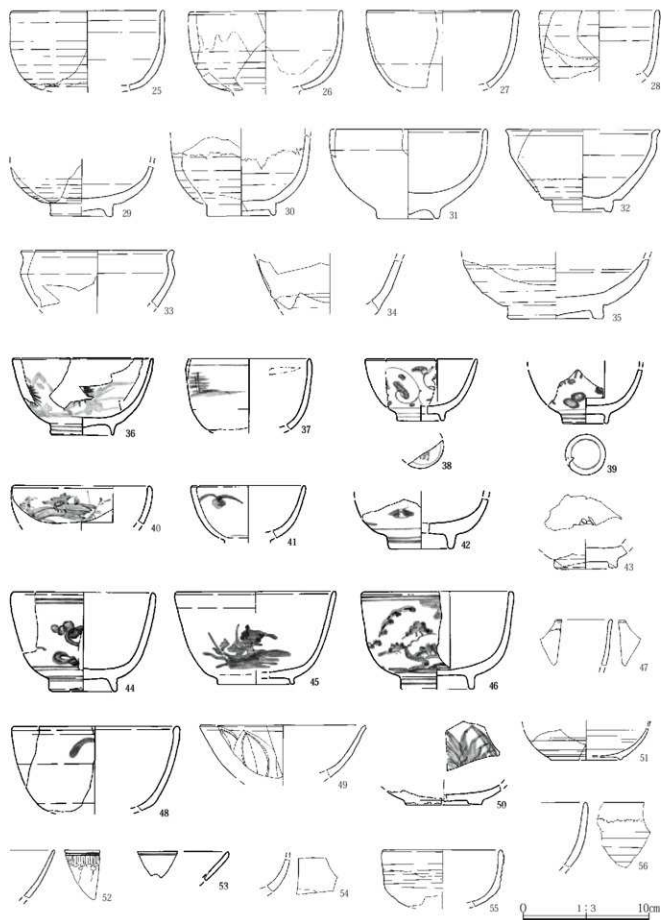
第149図 48b・58号溝・48b号溝出土遺物(1)

486・58号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 黒腐土と砂の混土。
- 2 灰褐色土 暗褐色シルトと灰色シルトの混土。
- 3 灰色シルト 軟地部に露出に現れる灰色シルト主体。(洪水堆積層)
- 4 黄褐色土 暗褐色土と黒腐土フロックの混土。
- 5 細灰色シルト 3層と同質であるが、全体に色調が暗く粘性が強まる。
- 6 灰褐色土 シルト質で、白色軽石と砂を多く含む。上面硬化(断面?)
- 7 暗褐色土 礫を多く含む。しまりが強い。
- 8 灰褐色土 礫を多く含む。しまりが強い。
- 9 灰褐色土 1層に類似するが、粘性がやや強い。
- 10 砂層 均一な粒径の砂層。
- 11 灰褐色土 黒腐土と砂礫を含み、しまり・粘性が強い。(土盛り層)
- 12 灰褐色土 黒腐土と径5mm程度の軽石を多量に含むシルト質土で、しまりが強い。
- 13 黄褐色土 黒腐土主体で、礫を多量に含む。上面が硬化している。
- 14 灰褐色土 灰褐色を呈するシルト主体の層。
- 15 暗褐色土 12層に類似するが、しまりが12層土よりも強い。
- 16 灰褐色土 黒腐土を含む灰褐色土。

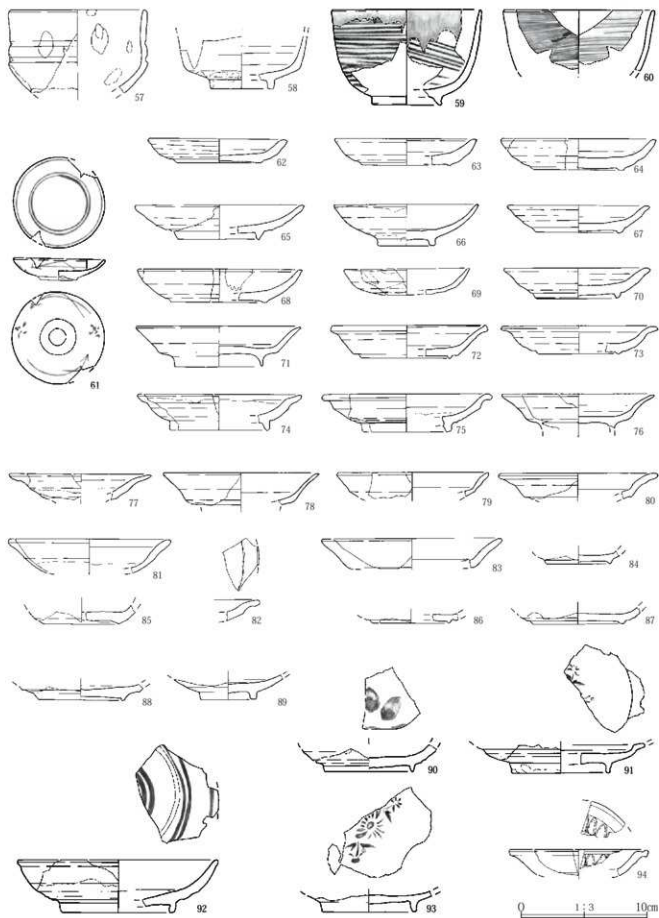


第150図 486・58号溝土層断面図・486号溝出土遺物(2)

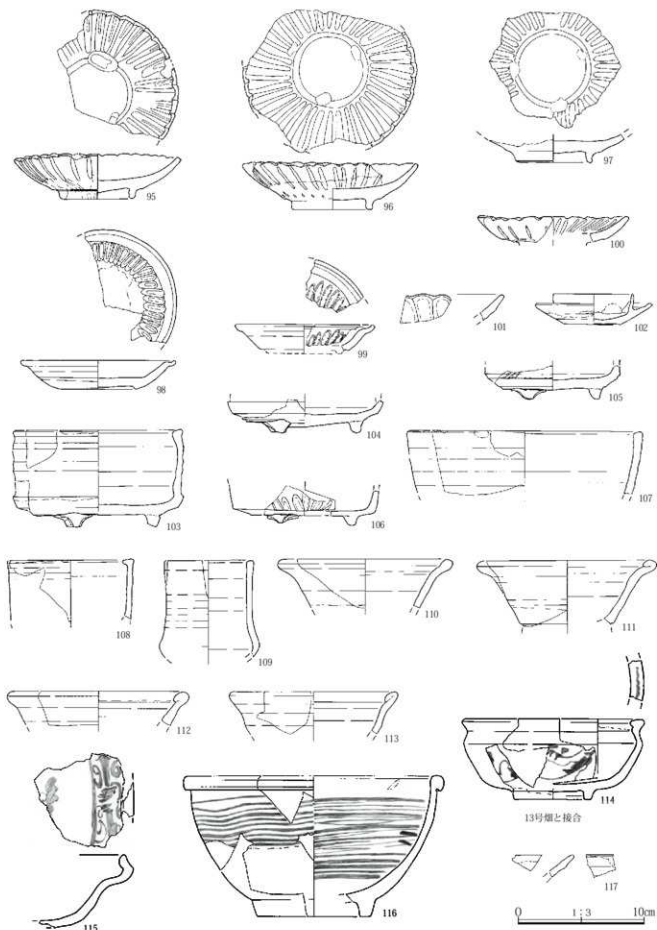


第151图 48b号溝出土遺物(3)

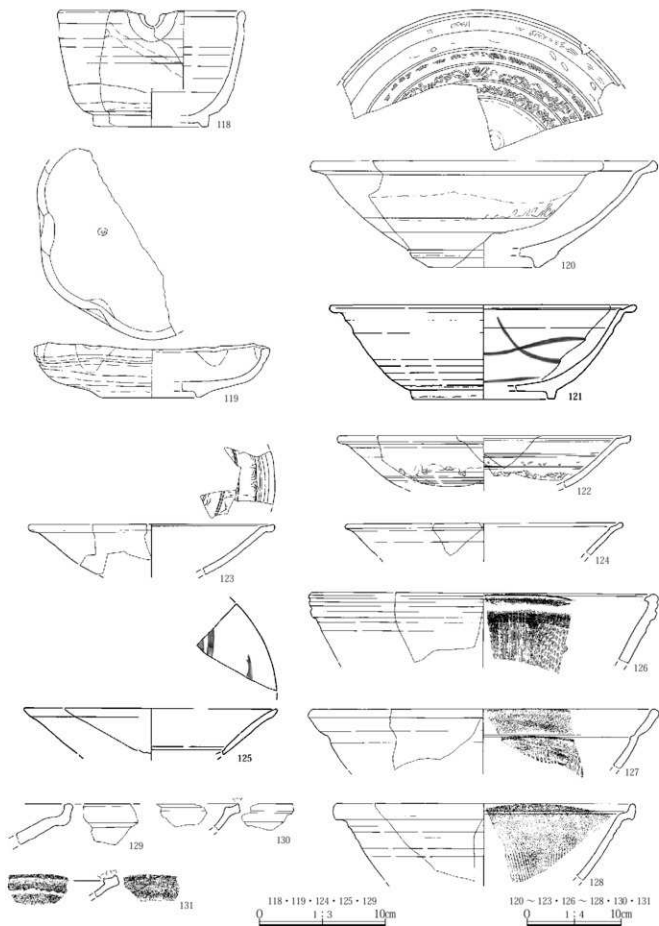
第4章 1面の調査(近世)



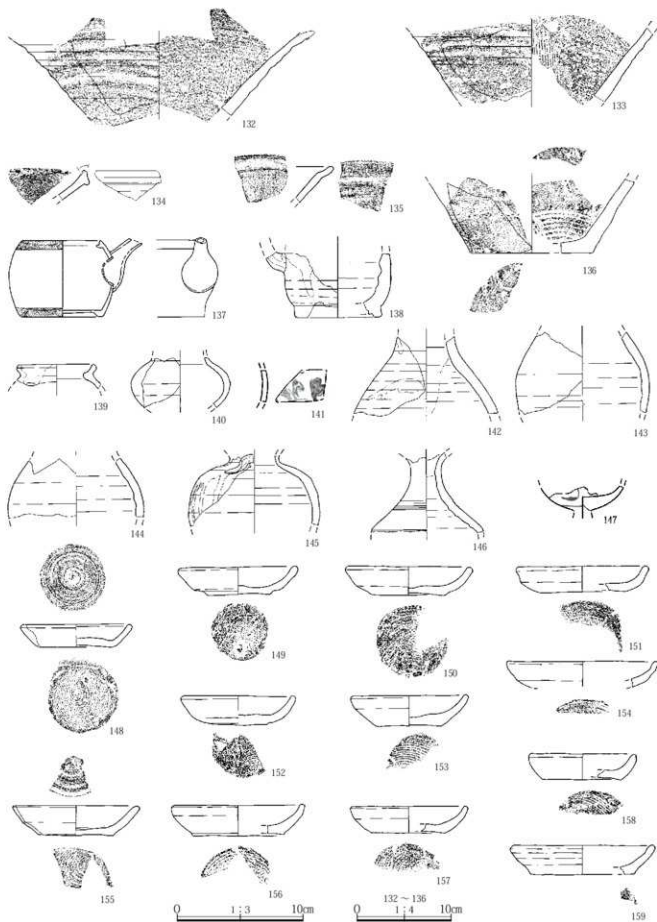
第152図 48b号溝出土遺物(4)



第153図 48号溝出土遺物(5)

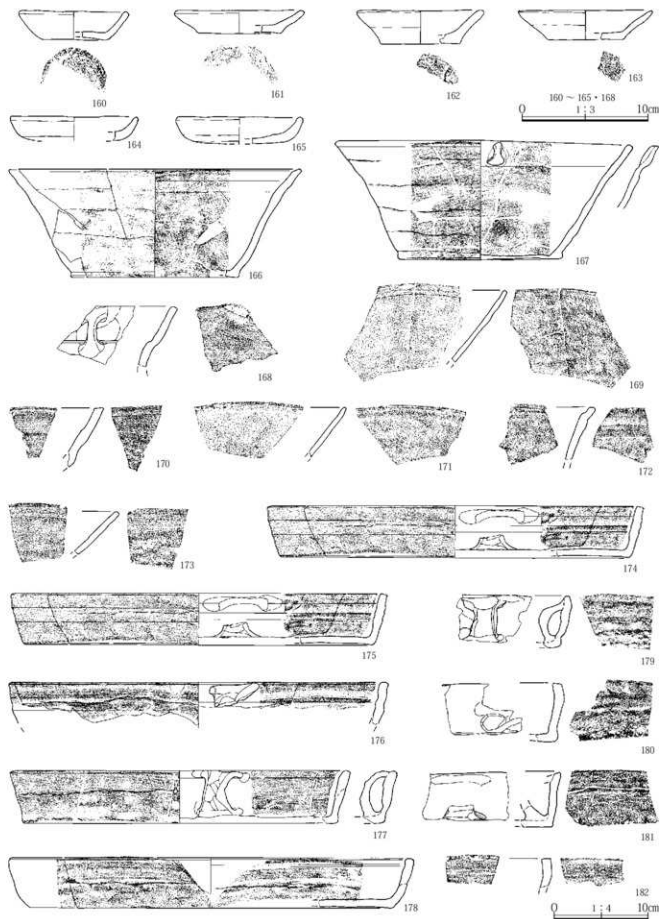


第154図 486号溝出土遺物(6)

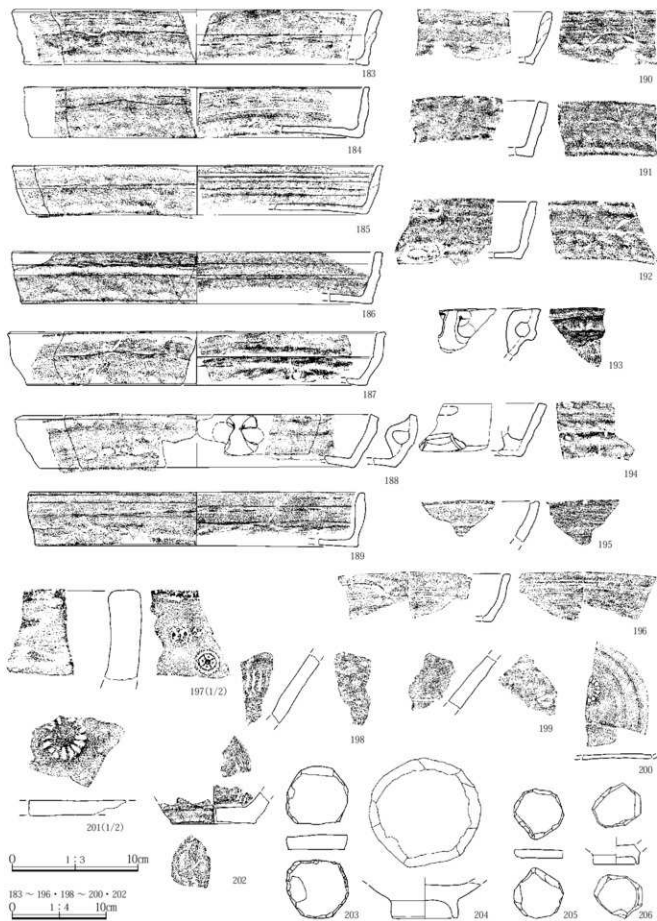


第155图 48b号溝出土物(7)

第4章 1面の調査(近世)

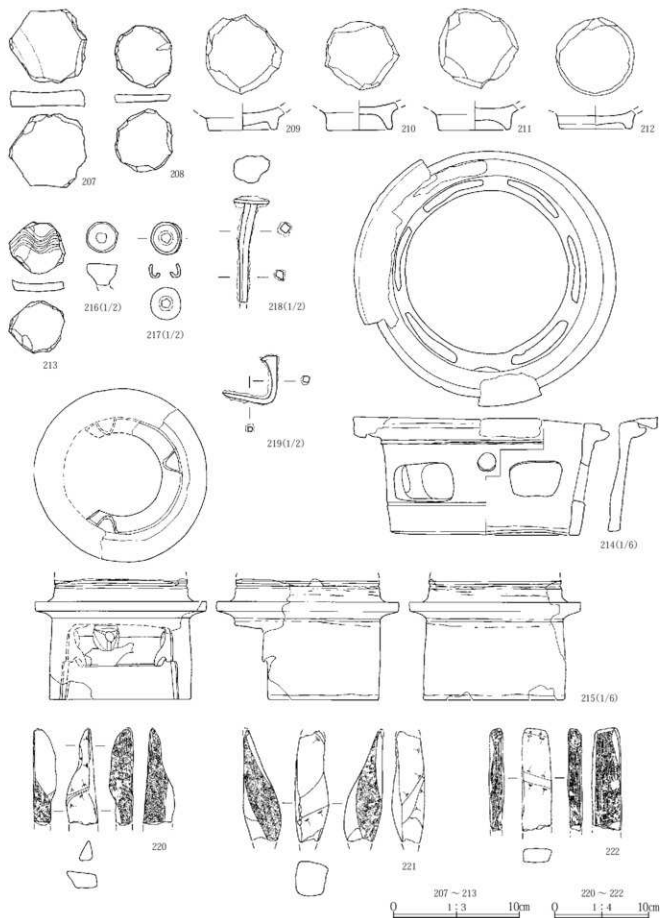


第156図 48b号溝出土遺物(8)

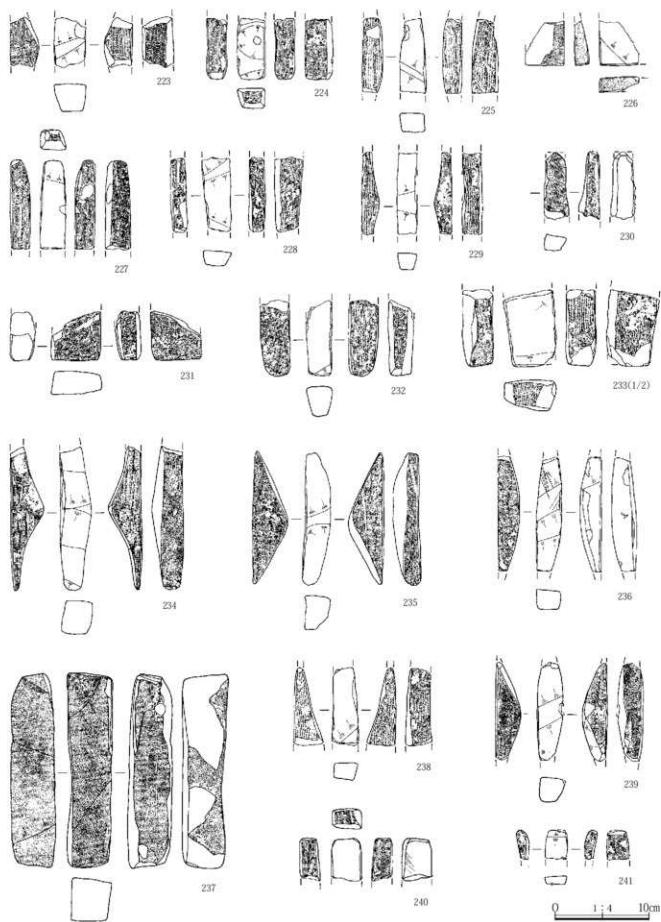


第157图 486号溝出土遺物(9)

第4章 1面の調査(近世)

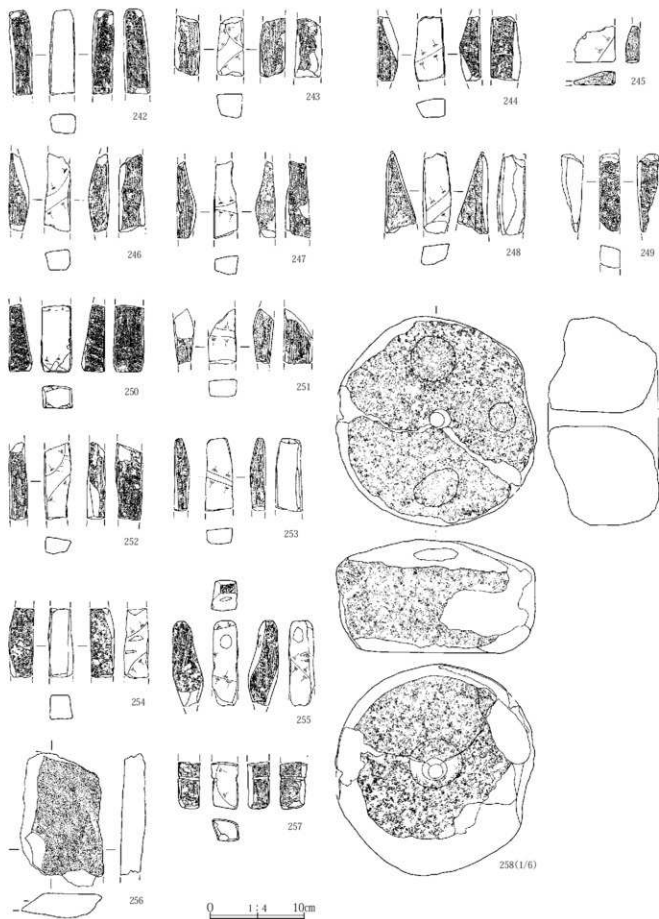


第158図 48b号溝出土遺物(10)

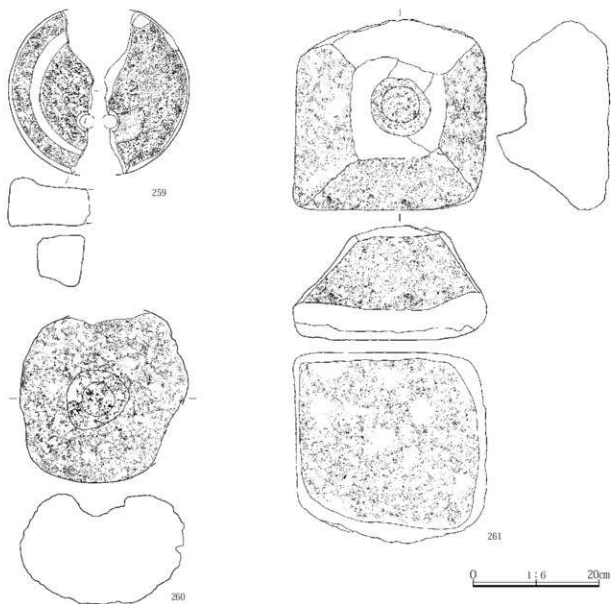


第159図 48b号溝出土遺物(11)

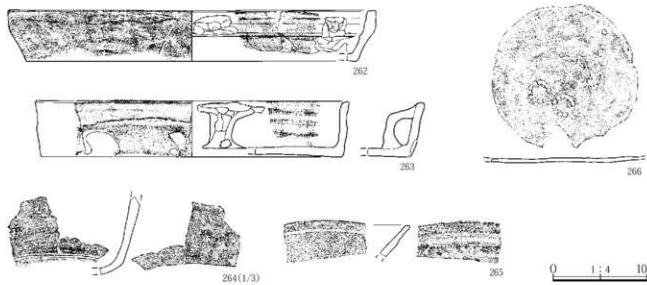
第4章 1面の調査(近世)



第160図 48b号溝出土遺物(12)

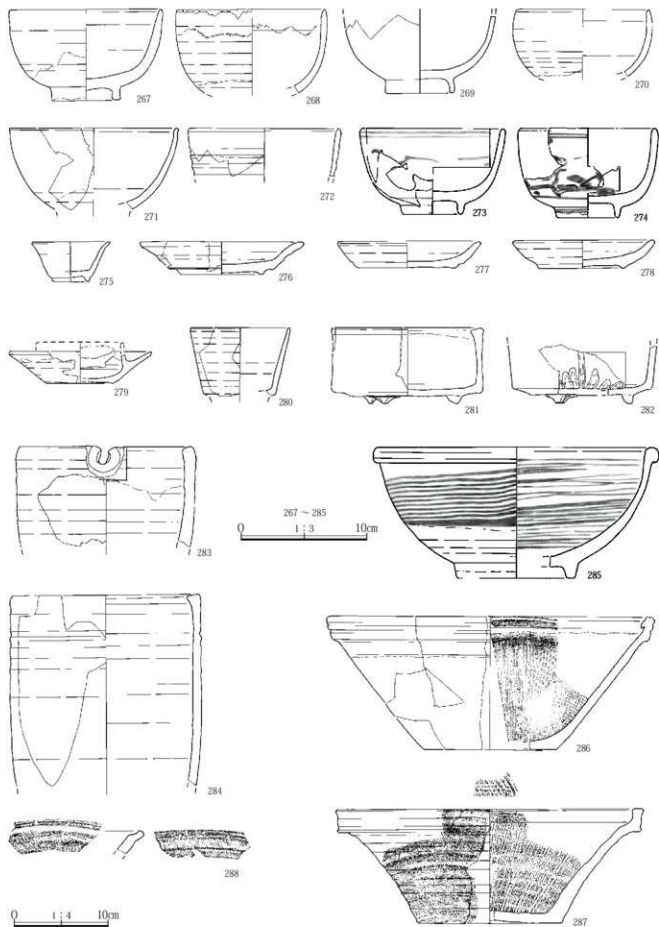


第161图 48b号溝出土遺物(13)

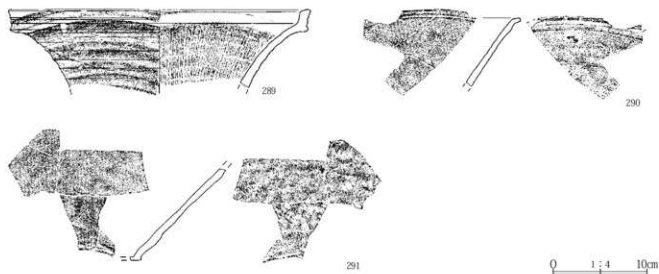


第162图 48b・8号溝出土接合遺物

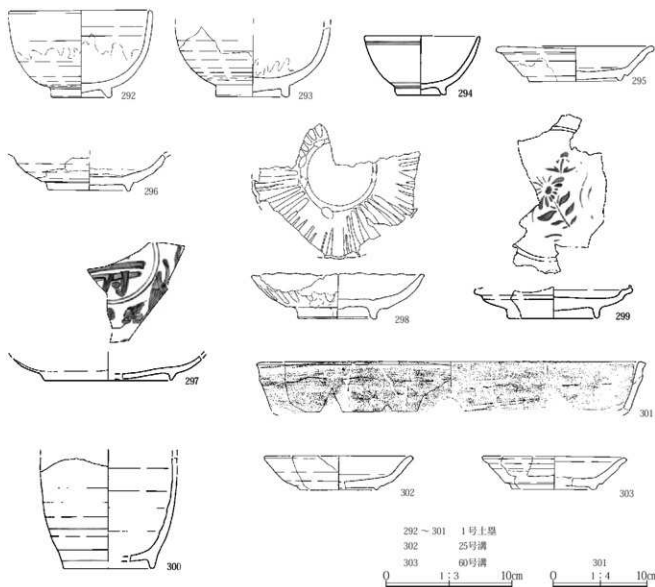
第4章 1面の調査(近世)



第163図 48b・57号溝出土接合遺物(1)

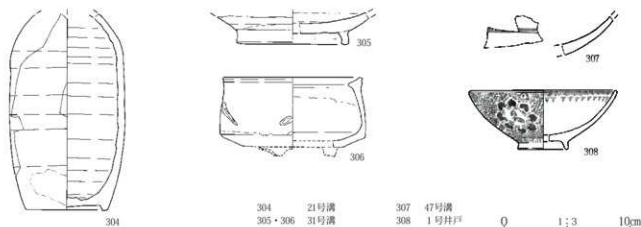


第164图 48b・57号溝出土接合遺物(2)



第165图 48b号溝・1号土壘・25・60号溝出土接合遺物

第4章 1面の調査(近世)



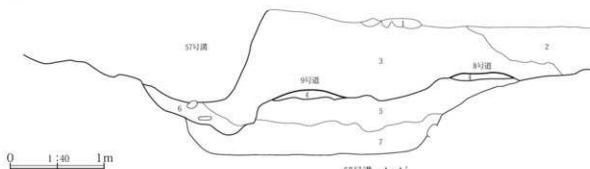
第166図 48b・21・31・47号溝・1号井戸出土接合遺物



第167図 58号溝出土遺物

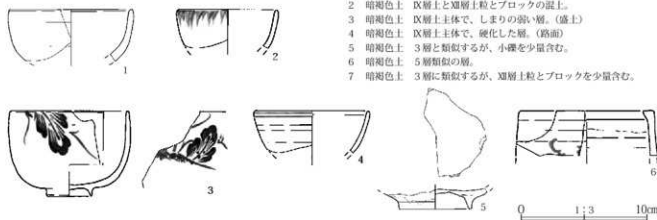
A_1-133.60w

A'

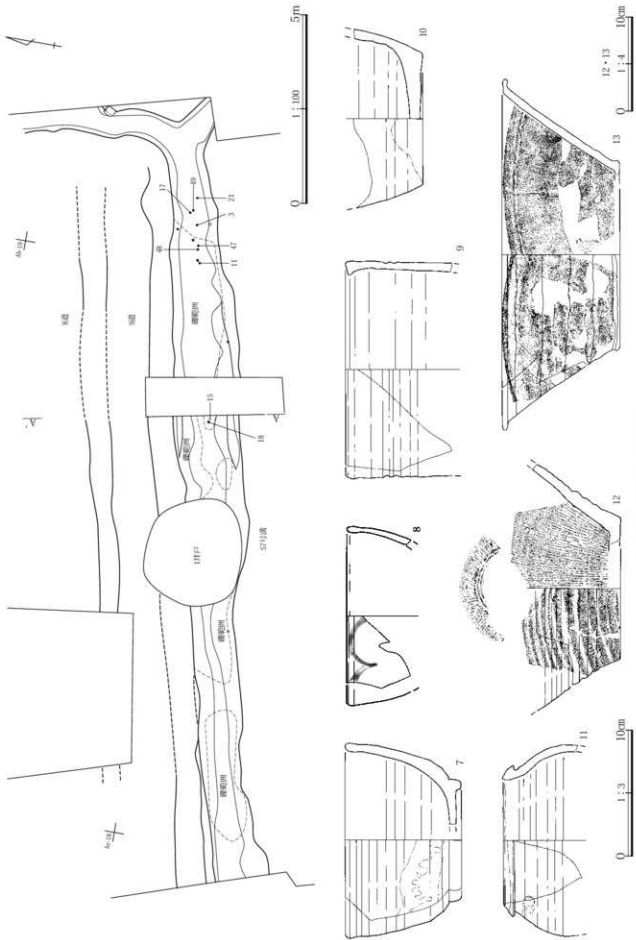


57号溝 A-A'

- 1 赤褐色土 ローム状の黄褐色土大粒を含む褐色土の焼土化したもの、カマド構築材。
- 2 暗褐色土 IX層土とXI層土粒とブロックの混土。
- 3 暗褐色土 IX層土主体で、しまりの強い層。(盛土)
- 4 暗褐色土 IX層土主体で、硬化した層。(路面)
- 5 暗褐色土 3層と類似するが、小礫を少量含む。
- 6 暗褐色土 5層類似の層。
- 7 暗褐色土 3層に類似するが、XI層土粒とブロックを少量含む。

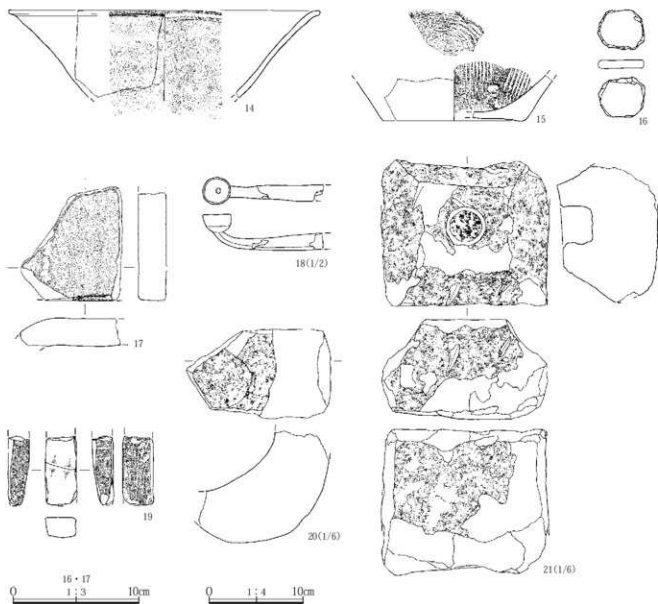


第168図 57号溝土層断面図・出土遺物(1)

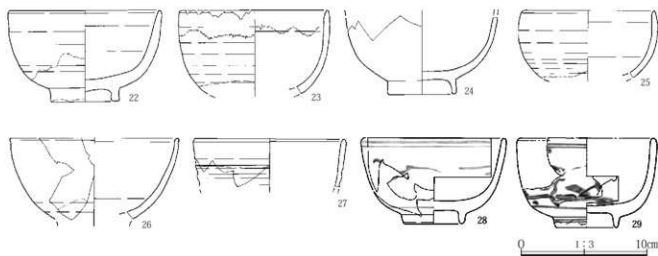


第169圖 57号溝・出土遺物(2)

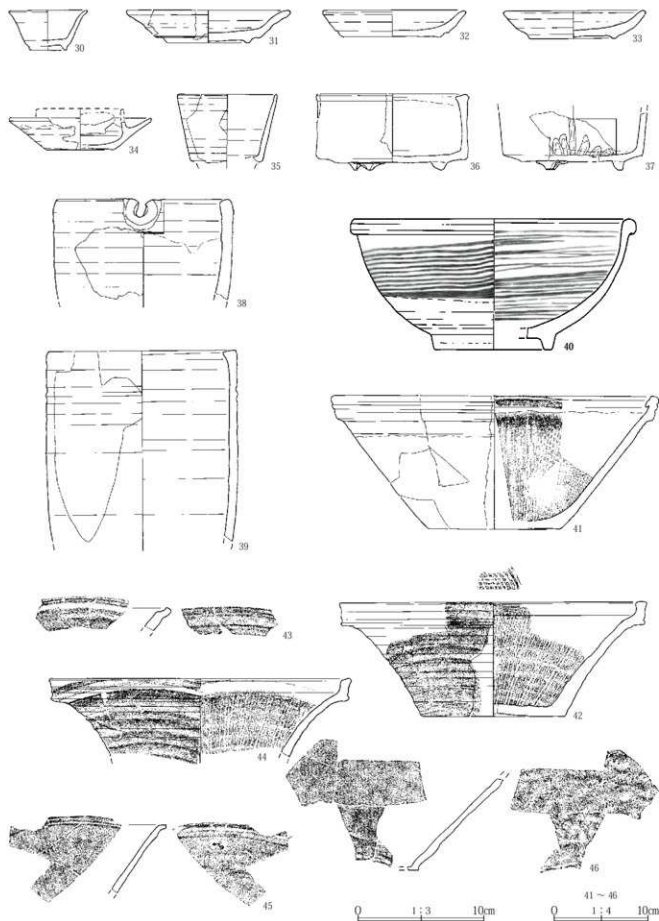
第4章 1面の調査(近世)



第170図 57号溝出土遺物(3)



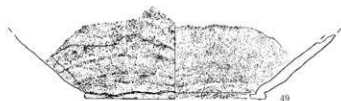
第171図 57・48b号溝出土接合遺物(1)



第172図 57・48号溝出土接合遺物(2)



47



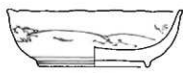
49



48



50



51

0 1:3 10cm

0 1:4 10cm

47 50号溝・1号土層

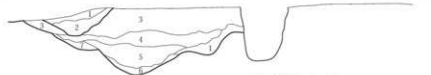
48・49 50号溝

50・51 1号土層

第173図 57・50号溝・1号土層出土接合遺物

59・60号溝

A-A' 1-132.80m



59号溝

1 (1/4)

59・60号溝 A-A'

- 1 灰褐色土 白色軽石とAs-Cを含む暗褐色土で、硬くしまりがある。
- 2 暗褐色土 白色軽石とAs-Cを多く含む暗褐色土で、1層よりも、しまりが弱い。
- 3 暗褐色土 As-C・二ツ房系軽石を多く含む暗褐色土で、ⅩI層上大粒を含む。
- 4 暗褐色土 As-Cをわずかに含むⅩI層上とⅩI層上ブロックの混土。
- 5 灰褐色土 As-Cを少量含む灰褐色粘質土主体で、ⅩI層上ブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土 ⅩI層上とAs-Cをわずかに含む暗褐色土の混土で、やや粘性が強い。
- 7 黄褐色土 ⅩI層上主体で、暗褐色土をブロック状に含み、しまりが強い。

60号溝

C-C' 1-132.70m

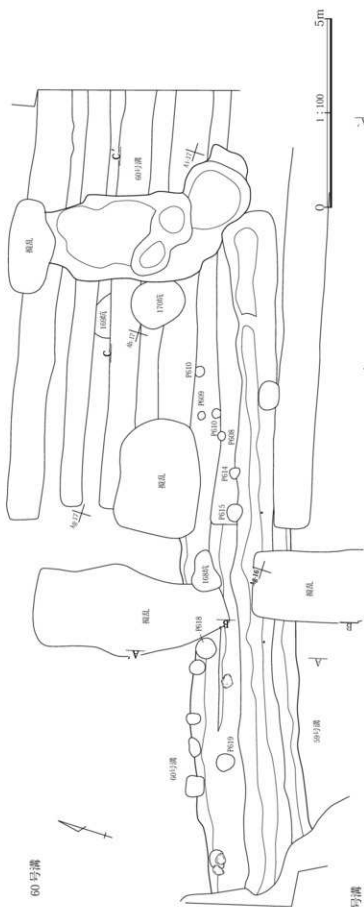


60号溝 C-C'

- 1 灰褐色土 As-Cと大粒の白色軽石をわずかに含む。
- 2 灰褐色土 As-Cを多く、白色軽石をわずかに含む暗褐色土で、ⅩI層上をわずかに含む。
- 3 灰褐色土 As-Cを含む暗褐色土とⅩI層上ブロックの混土。
- 4 暗褐色土 As-Cを含む暗褐色土がブロック状に含む。
- 5 黄褐色土 ⅩI層上主体で、As-Cを含む暗褐色土ブロックを含む。

0 1:40 1m

第174図 59・60号溝土層断面図・出土遺物



59・60号溝
B. 1:133.000

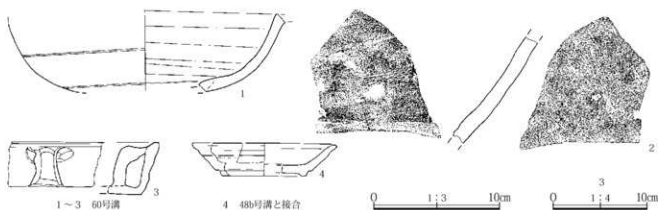


59・60号溝 B-B'

- 1 暗褐色土 As-Cを含む双層土主体で、双層土粒を含む。
- 2 灰色シルト 低地の地山の灰色シルト主体で、わずかに双層土を含み、しまりが強い。
- 3 灰褐色土 As-Cを含む灰褐色土主体で、双層土粒・ニツ岳系軽石を含む。
- 4 灰褐色土 As-C・ニツ岳系軽石を含む暗褐色土主体で、地山の灰色シルト粒を多量に含む。
- 5 灰褐色土 灰褐色シルトと双層土の混生。
- 6 暗褐色土 As-C・ニツ岳系軽石を含む暗褐色土主体で、しまり・粘りともに強い。
- 7 暗褐色土 6層に類似するが、As-Cが少なく、双層土小ワロツクを含む。
- 8 暗褐色土 6層に類似するが、As-Cが少なく、双層土小ワロツクを含む。
- 9 暗褐色土 As-Cの含有量はわずかに少なく、灰褐色シルトが主体で、ややしまりあり。
- 10 暗褐色土 As-Cの含有量はわずかに少なく、灰褐色シルトが主体で、全体に固味が強く、しまりが強い。
- 11 灰褐色土 As-Cの含有量はわずかに少なく、灰褐色シルトが主体で、粘り・しまりともに強い。

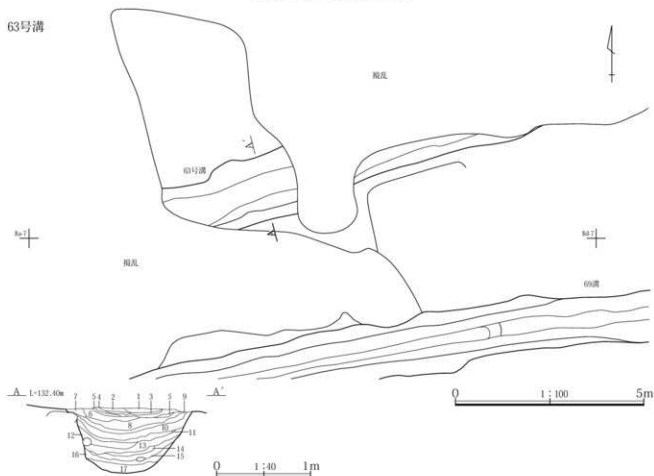
第175圖 59・60号溝

第4章 1面の調査(近世)



第176図 60・48号溝出土遺物

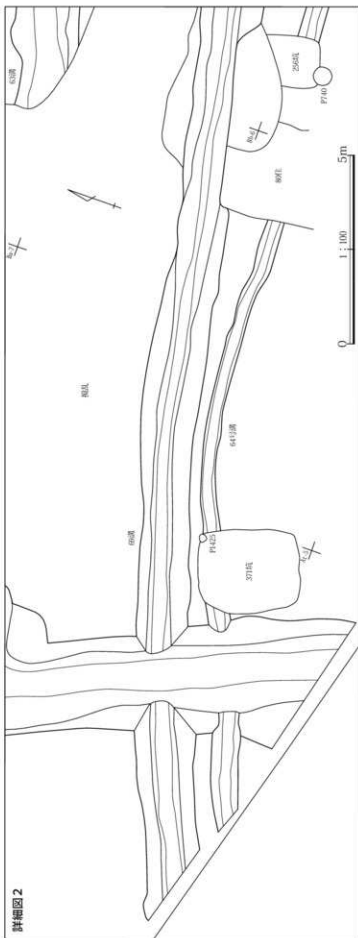
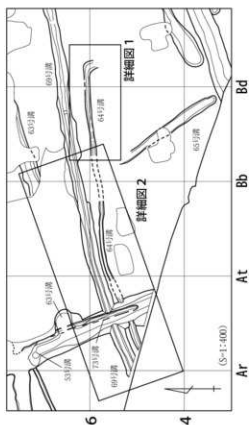
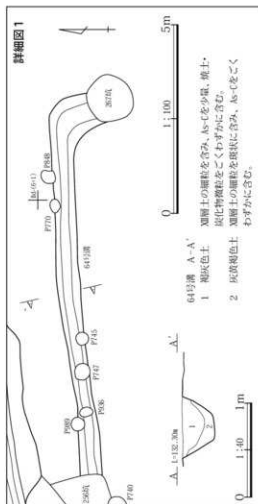
63号溝



63号溝 A-A'

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 暗灰色土 粘上化した土に少量のシルトを含み、As-Cをわずかに含み、粘性が強い。</p> <p>2 明灰色シルト 均質で、明るめの色調を呈し、含有物はほとんど含まない。</p> <p>3 明灰色土 シルトを多量に含むが、全体として粘質土に近い。</p> <p>4 灰褐色粘質土 硬質な粘土層で、炭化物粒をごくわずかに含む。</p> <p>5 明褐色粘質土 砂粒をわずかに含むが、全体に粘褐色土で、わずかに橙色粒を含む。</p> <p>6 灰白色砂 径0.1～1mm程度の砂粒で構成され、大きめのものは下面に多い。</p> <p>7 灰白色シルト 粒子は均質で、しまりが弱く含有物は含まない。</p> <p>8 明灰色シルト 径1～2mm程度の砂粒をわずかに含み、砂層に近いが7層に比べてはるかに微粒。</p> | <p>9 灰褐色粘質土 粘性が強く均質で、炭化物微粒をごくわずかに含む。</p> <p>10 明灰色シルト 粘土に近く、横方向の縞模様を上層の曲線と平行に入る。</p> <p>11 明灰色粘質土 均質な粘土層で、少量のシルトを均一に含み、軽石などを含まない。</p> <p>12 明灰色シルト 白色粒・炭化物粒をごくわずかに含む。</p> <p>13 灰色粘質土 炭化物粒・橙色粒をごくわずかに含み、縞縞状で粘性が強い。</p> <p>14 明灰色シルト 均質で炭化物粒をごくわずかに含む。</p> <p>15 灰色粘質土 粘性が強く、若干の酸化鉄を含み13層に類似するが、縞縞状を呈さない。</p> <p>16 明灰色粘質土 15層に類似するが、やや色調が明るい。</p> <p>17 灰褐色シルト 均質な堆積で、炭化物粒をわずかに含む。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

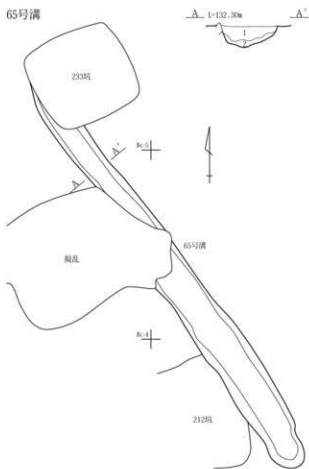
第177図 63号溝



第1788図 64号溝

第4章 1面の調査(近世)

65号溝



65号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 As-Cを全体に塊状に含み、二ッ岳系軽石を少量含む。Ⅱ層上の細粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 As-Cを少量含み、Ⅱ層上の細粒を少量含む。

66号溝



66号溝



66号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 暗褐色土のブロックを含み、粘性は強くしまりがやや弱い。

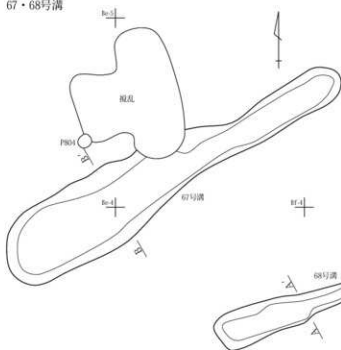
68号溝



68号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 酸化鉄をわずかに含み、灰褐色土との混土。

67・68号溝



67号溝

B-B'



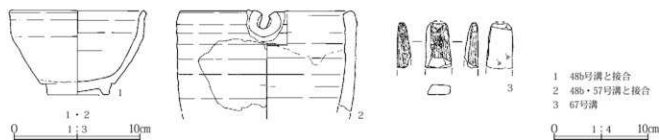
67号溝 B-B'

- 1 灰黄褐色土 Ⅱ層上の細粒を少量含み、酸化鉄をわずかに、As-C・二ッ岳系軽石・炭化物の微粒をごくわずかに含む。
- 2 暗褐色土 As-C・二ッ岳系軽石をわずかに、Ⅱ層上の細粒を少量含む。
- 3 褐色土 Ⅱ層上との混土で、As-Cをごくわずかに含む。

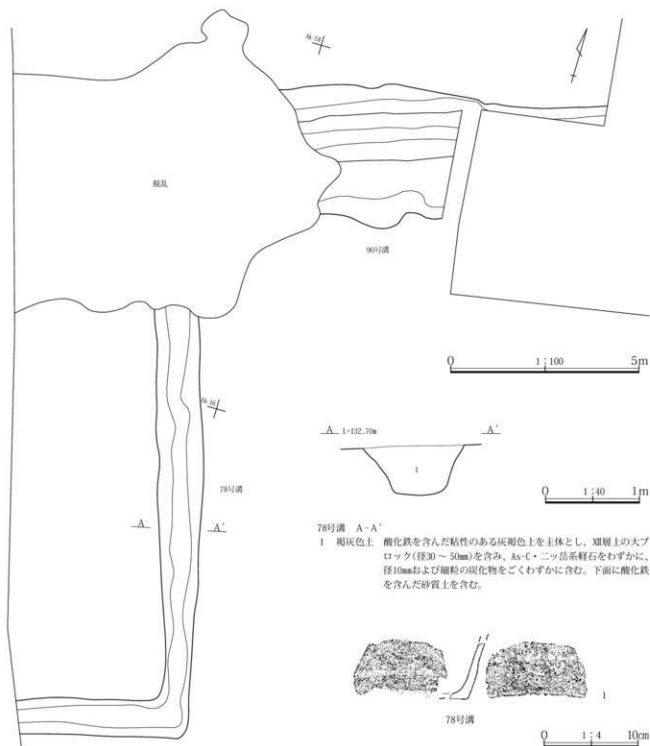
0 1:100 5m

0 1:40 1m

第179図 65～68号溝



第180図 67号溝出土遺物



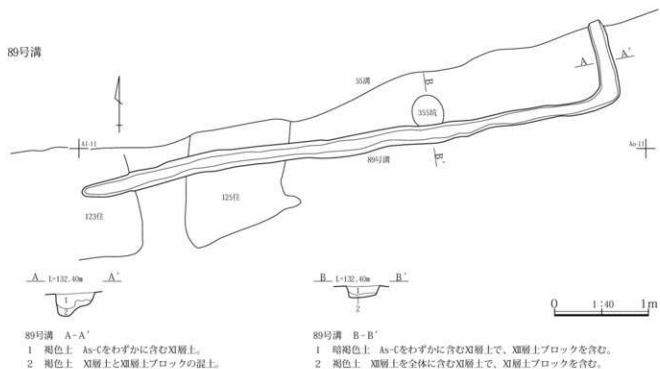
第181図 78・90号溝・出土遺物

- 1 48b号溝と接合
2 48b・57号溝と接合
3 67号溝

78号溝 A-A'

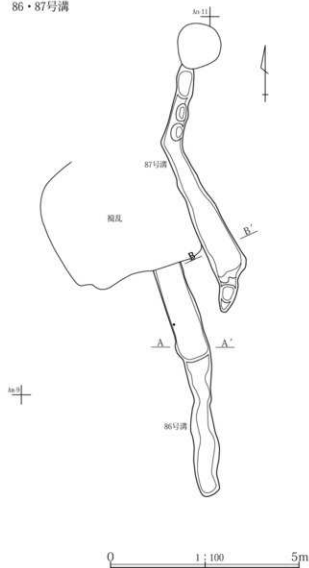
1 褐灰色土 酸化鉄を含んだ粘性のある灰褐色土を主体とし、肌層上の大ブロック(径30～50mm)を含み、As-C・ニッ岳系軽石をわずかに、径10mmおよび細粒の炭化物をごくわずかに含む。下面に酸化鉄を含んだ砂質土を含む。

第4章 1面の調査(近世)



第182図 82・83・89・91・92号溝

86・87号溝



86号溝 A-A'

1 にふい黄褐色土。Ⅹ層土ブロックを全体に斑状に含み、As-Cをわずかに含む。

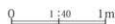


87号溝 B-B'

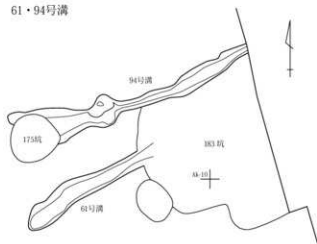
1 にふい黄褐色土。Ⅹ層土ブロックを全体に斑状に含み、As-Cをわずかに含む。

2 暗褐色土。Ⅹ層土ブロックを斑状に含み、As-C・炭化物の微粒をわずかに含み、しまりがやや弱い。

3 暗褐色土。2層に類似するが、炭化物を含まない。



61・94号溝



第183図 61・86・87・94号溝

(2) 低地

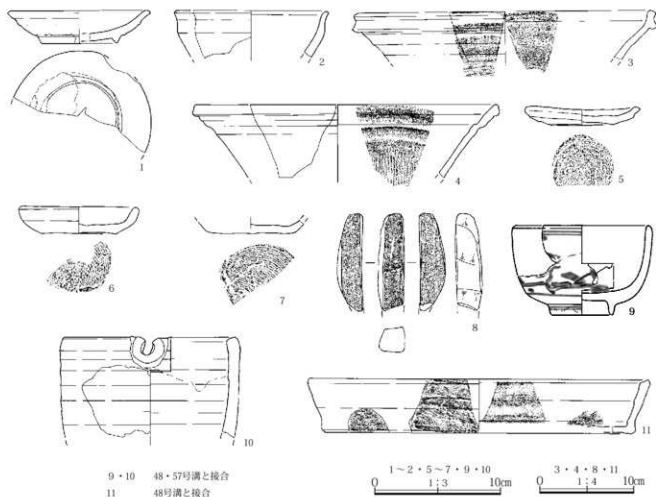
1・2号低地(第184・185図・付図2 P.L.39・241)

1・2号の番号を付して遺構として調査したが、本来一連のものであり、自然の地形を検出したと考えるであろう。つまり、旧桃ノ木川の涯線と河川敷の一部を調査したものと考えられる。これは、8号溝や55号溝などが低地の接合部分でルート状に広がっている状況は、この部分がそれぞれの流れ込みであったことを示唆している。東側の壁面は石垣のように自然石が検出されているが、これらは人為的なものではなく、砂礫層の露頭である。ただし、2号低地とした部分の北端部には大きめの礫が集中していた。この部分は1号建物の西端に当たる部分であり、建物を建てる時点で手が加わった可能性

がある。低地の大半は洪水起源と考えられる複数枚の灰色シルト層によって埋没しており、東側の台地側とあまり比高のない状態まで埋没した時点で上層を天明泥流が覆っていた。低地の北半部分は、Ⅱ期の段階では水田や畑及び宅地として利用されていたが、南半は利用された形跡が認められない。1号低地とした場所では、18世紀前半の肥前磁器小碗(1)が、2号低地の礫の間から17世紀代の瀬戸・美濃陶器すり鉢(3)、美濃陶器天目碗(2)や、18世紀後半まで下る可能性のある瀬戸陶器すり鉢(4)、かわらけ3点(5~7)などが出土した。2号低地とした場所では陶磁器片の出土は見られなかったが、代わって6地点で馬歯が、1地点で馬と思われる下顎骨の一部が出土した。



第184図 1・2号低地・出土遺物



第185図 2号低地出土遺物

(3) 道

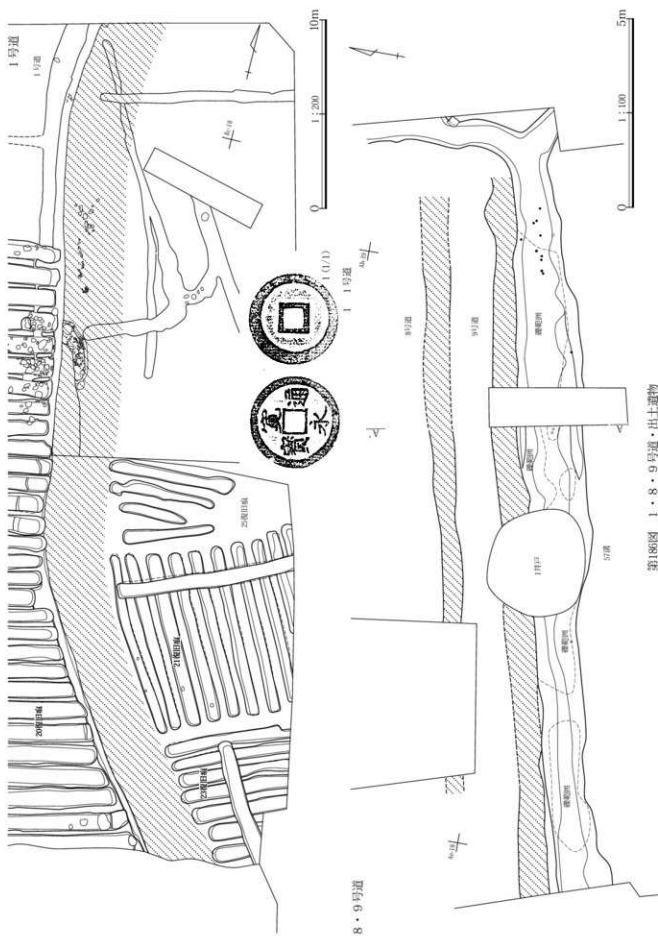
1号道(第186図 P.L.40)

位置：Ba～Bc-10～20グリッド 規模：50.5m×(－)
 m 残存深度：－m 遺物：銭貨1点、砥石1点、不明の金属製品が1点出土した。 所見：Ⅰ・Ⅱ区とⅤ区で検出したもので1号溝と並行し南東から湾曲しながら北東方向に向かっている。Ⅱ区の調査ではⅣ層上面に硬化面をわずかに確認したが、道幅等については確定することができなかった。Ⅴ区の調査では硬化面は判然としなかったが、路面と思われる位置から小礫が検出された。また、20号復旧痕の開始が1号溝を起点として東側に進められており、同様に3mほどの間隔を置いて東側に21・23号復旧痕が掘削されており、この間に路面が構築されていたことは確実であるが、道幅を明らかにできるような痕跡は検出されなかった。1号道の南側は病院建物によって攪乱されているため調査できなかったが、検出した南端は南東方向にむかっていることから、市道

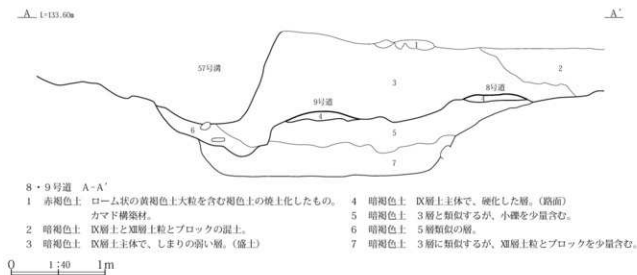
を挟んだ東側の田口下田尻遺跡で検出された1号道に連続するものと考えられるが、路面下には田口下田尻遺跡1号道の3時期に対応するような路面は検出されていない。しかし、9号溝が1号道の側溝と仮定すると田口下田尻遺跡1c号道と似た状況であり、下部に古い路面が検出されていないことも矛盾しない。おそらく本来は1a・1b号道に対応する路面が構築されていたものが、後世の削平によって失われたものであろう。1号道が前述のように田口下田尻遺跡の1号道に連続するものであると、2号道などと比較すると規模が大きいため基幹道と見てよいであろう。

8号道(第186・187図 P.L.40)

位置：Af～Ah-18グリッド 規模：9.45m×6.60m 残存深度：－m 遺物：なし 所見：1号土塁を掘り下げ、基盤となる黄褐色シルト層に近い位置で硬化面を確認した。検出は部分的であったが、芯々で1.80mほどの間隔で9号道と並行しており、東西方向にさらに延びていた



第186図 1・8・9号道・出土遺物



第187図 8・9号道土層断面図

ことは確実である。また、58号溝に並行していることも偶然とは考えられず、前段階の土地区画などが通路の位置決定に影響しているものと思われる。1号土塁の南北土層断面では、8・9号道の硬化面はそれぞれ1面であったが、西寄りの現代の井戸にかかる部分の断面を観察したところ、0.03～0.05m厚の6枚の灰色硬化層を重層的に検出した。これは、東側部分は土塁の盛上段階で削平を受けている可能性を示唆するものであろう。

当初、8号道は単独の遺構として認識したが、断面の観察では、9号道の硬化面との間に時期差を示すような間層は確認されておらず、南北2本の硬化面が一体となって道として機能したと思われる。また、9号道の南側に検出した50号溝の下部遺構である57号溝が8号道に並行しており、断面観察においても同時期と見ても齟齬がないことなどを考慮すると、南側に側溝を持つ道幅2.75mほどの道であったものと考えられる。これは、田口下田尻遺跡1面Ⅱ期で扱っている1b号道とほぼ同規模・同形態であり、前段階の基幹道の一部を検出したものと考えられる。

9号道(第186・187図 P.L.40)

位置: Ae～Ah-17・18グリッド 規模: 18.94m×0.90m 残存深度: -1m 遺物: なし 所見: 8号道と一体となって道として機能したものと考えられるが、調査時点で別遺構として認識していたため、個別で記述を行った。8号道では確認されなかったが、当道は58号溝が土塁の基盤となる黄褐色シルト層上面の位置まで埋没した

後に道となっていることは明らかであり、その後土塁構築段階では道としての機能が失われたことになる。

(4) 畑

6号畑(第188図)

位置: Ai・Aj-19・20グリッド 検出サク数: 11条 規模: (0.38)～4.43m×0.17～0.36m 残存深度: 0.04m サク間幅: 0.25～0.28m サク方位: N-16°-W 埋没土: IV層土相当の灰色土 遺物: 不明の金属製品が1点出土した。重複: 3号畑の下位に位置している。所見: 天明泥流下の3号畑などの調査終了後、近世の耕作土を掘り下げていく中で、わずかな色調の違いをもとに検出した。同一と思われるサクは途切れており、上半は後の耕作で攪乱され深く掘削された部分だけが検出されたものと考えられる。したがって、検出したサクの範囲よりも広がりがある畑であったはずである。サクの走行方位は、最も条件の良いもので計測したが、微妙に走行方位が違った部分があり、複数の畑を同一遺構として捉えた可能性がある。

18号畑(第189・190図 P.L.40・232・241)

位置: Af・Ag-12～14グリッド 検出サク数: 21条 規模: 5.60～8.87m×0.12～0.33m 残存深度: 0.04～0.13m サク間幅: 0.10～1.08m サク方位: N-20°-W 埋没土: 灰褐色シルト 遺物: 検出面から煙管1点と釘と見られる鉄製品などが出土した。重複: Ⅱ期の13号畑と上下の関係で重複。所見: Ⅱ期13号畑で記述したとおり、上下の関係でほぼ重なっている。上部は13号畑

の耕作により攪乱されているため、畝高や畝幅を捉えることはできなかったが、残存したサクの規模などからほぼ同規模の畝立てがされていたものと考えられ、サクの走行方向もほぼ一致していることから、13号畑は18号畑の畝替えの結果とみてよいであろう。下部は8号溝が旧桃ノ木川に合流する場所にあたり、溝及び桃ノ木川が洪水などの堆積物によって埋没し平坦化された面を耕作面としていたものであろう。

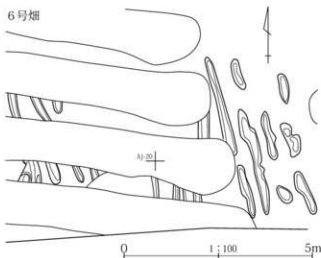
19号畑(第189・190図 P L.40・241)

位置: Af・Ah-11・12グリッド 検出サク数: 13条 規模: 1.42 ~ (3.84)m × 0.14 ~ 0.43m 残存深度: 0.04m サク間幅: 0.20 ~ 0.70m サク方位: N-25°-W 埋没土: 灰褐色シルト 遺物: 銭貨などが出土した。

重複: 14号畑の下部遺構 所見: 18号畑と同様に、上部の14号畑の古い段階の耕作痕跡と思われる。13条のサクを検出したが、比較的長く検出したものは9条で、間を埋めるように短く検出されたものが4条あり、サクが接近しすぎていることから同一時期のサクではない可能性が高い。また、東側のサク間幅は狭く、西側では倍近い幅があることから、一連と判断した9条についても、東側のサクについては、1条置きのものが同一時期のサクであることも考えられる。

20号畑(第189・190図 P L.40・241)

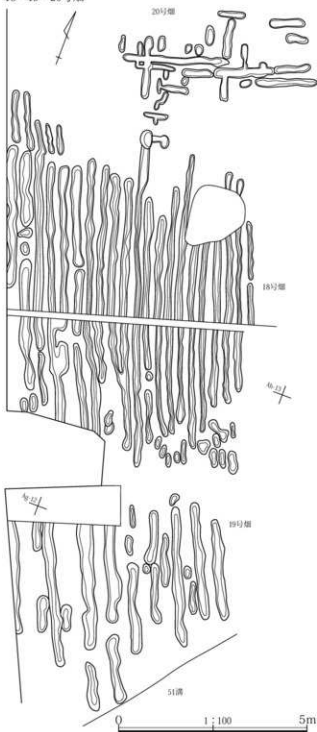
位置: Af・Ag ~ 14グリッド 検出サク数: 16条 規模: 0.58 ~ 4.64m × 0.16 ~ 0.25m 残存深度: 0.07m サク間幅: 0.13 ~ 0.60m サク方位: E-28°-N 埋没土: 灰褐色シルト 遺物: 砥石(9) 重複: なし 所見: 20号畑としたものは、N-17°-Wの走行方向と見6号畑



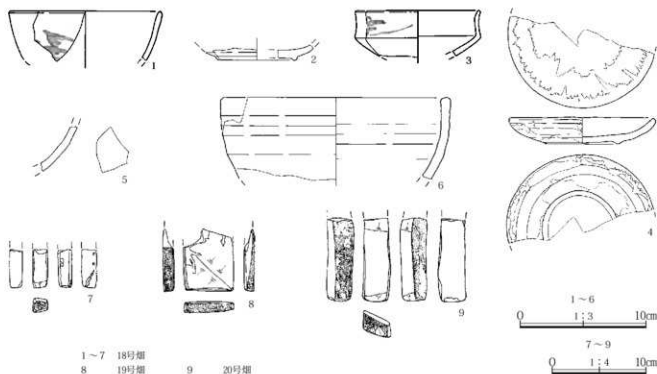
第188図 6号畑

られる断片的なサク10条と、直行するようなやや長めのサク6条とを合わせて番号を付した。南北方向に走行するものと東西方向のものでは時期を異にすると考えられるが、新旧関係は判断できなかった。20号畑の検出された場所は、II期の段階では1号建物の庭であり、屋敷化に際して削平を受けて大半の部分は失われたものと思われる。

18・19・20号畑



第189図 18・19・20号畑



第190図 18・19・20号堀出土遺物

(5) 埋設桶

66号土坑(第191図 P.L.40)

位置: A1-22グリッド 規模: 径0.33m 残存深度: 0.06m 遺物: なし 所見: 9・10号復旧痕との間の帯状に掘り残された場所で検出されたもので、埋設桶として報告したが、桶ではなく0.3cmほどの厚みの曲げ物を埋設した遺構である可能性が高い。検出時は、木質が残存しており底板も痕跡的に検出されたが形のまま取り上げることができなかった。土坑という名称を付しているが、周辺のIV層土と掘り方内の充填土の区別がつかず、掘り方を検出することはできなかった。I面II期で扱った埋設桶はいずれも大型であり「肥溜め」であった可能性が高いものであるが、66号土坑とした埋設曲げ物はあまりに小規模であり肥溜めとは考えられない。

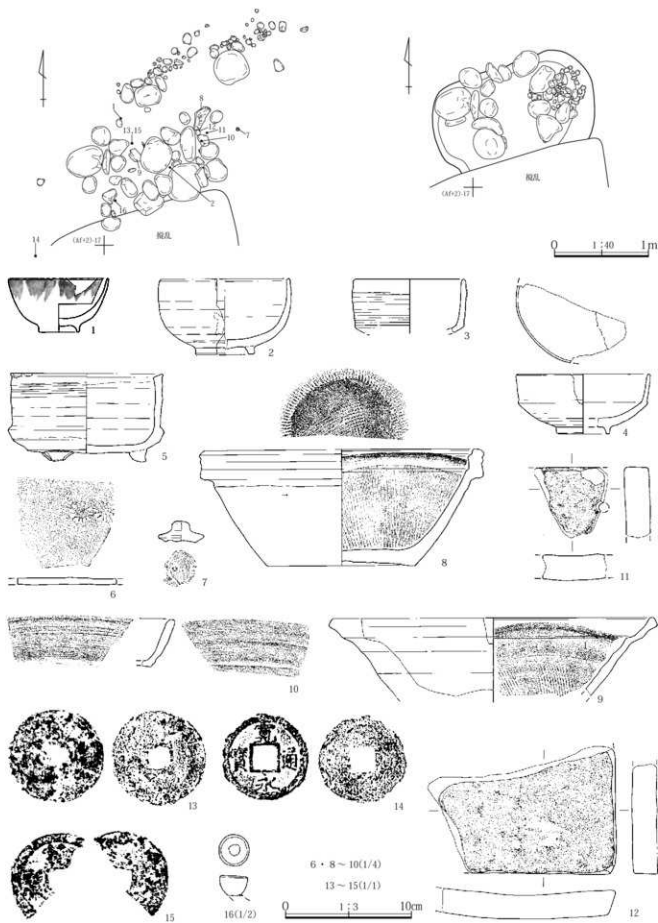


第191図 66号土坑

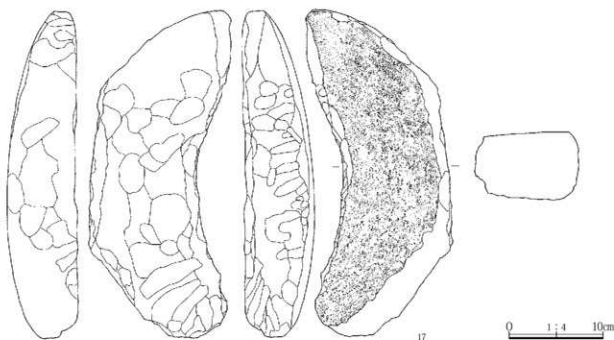
(6) 集石

6号集石(第192・193図 P.L.41・241)

位置: Af-17グリッド 遺物: 大小の礫に混じて18世紀後半の美濃陶器せんじ碗(4)、糸目碗(3)、瀬戸陶器すり鉢(9)、18世紀前半の肥前磁器小碗(1)、18世紀後半から19世紀前半の堺陶器すり鉢(8)をはじめ、在地系土器焙烙(6・10)、瓦(11・12)などが出土したが、いずれも破片である。他に再調整を加えた石臼の小白(17)、煙管の雁首(16)、寛永通宝3枚(13～15)が出土した。所見: 大小の自然礫が集積されたような状況で検出されたもので、南北2群に分離できそうである。やや大形礫の集中した南側の一群は、下部から1.74×(0.95)m、深さ0.21mの楕円形を呈すると思われる掘り込みが検出されており、この土坑状の掘り込みに集積されたものであり、配石されたような状況は認められない。大小の礫は重なるような出土状況であるが、重層的なものではなく、基本的には1面的に集積されたものである。付近に対応するような集積は見られないことから、建物の基礎などのような用途は考えにくく、耕作等の邪魔となる礫などの処理場所の可能性が高い。



第192図 6号集石・出土遺物(1)



第193図 6号集石出土遺物(2)

(7) 土坑

第4表 田口上田尻遺跡 Ⅲ期土坑一覽表

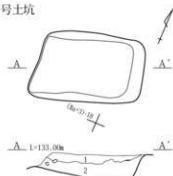
番 号	棟号	P.L.	グリッド	平面形	規模(m)	主軸方位	出土遺物	埋没土	備 考
2	土坑 194	40	Ba-18	楕丸長方形	1.71×1.10×0.36	E-22°-N	すり鉢		
4	土坑 195		Ba-16・17	不整形	3.70×2.33×0.95		石製品	Ⅳ	踏入り
8	土坑		As-14	楕丸長方形	1.10×0.49×0.12	E-11°-N			
11	土坑 194	40	Ar・As-19	楕丸長方形	1.82×0.93×0.54	N-21°-W			
14	土坑		Ar-21	楕丸長方形	0.64×(0.55)×0.20	E-13°-S			
23	土坑		At-20	楕円形	0.75×0.45×0.15	N-10°-W			
25	土坑 194	40	Aq-20・21	不整形楕円形	1.30×1.15×0.13	N-2°-W			
26	土坑 194	40	Aq-20	円形	0.55××0.30				
35	土坑		Ba-14	不整形	(1.56)×1.42×0.53				
51	土坑 195	40・241	Ag・Ah-21・21	不明	(2.33)×1.88×0.25		石臼・窪み石		土坑範囲不明確
52	土坑		Af-20・21	楕丸長方形	1.10×(0.38)×0.06	E-4°-N	金属製品		
53	土坑 196	40	Ae・Af-21・22	楕丸長方形	2.05×0.65×0.50	N-6°-W		Ⅳ	
54	土坑 196	40	Ae・Af-22	楕丸長方形	2.58×1.00×0.30	N-11°-W		Ⅷ	
55	土坑 196	40	Ae・Af-22	楕丸長方形?	(0.70)×0.56×0.25	E-10°-N		Ⅷ・Ⅷ	
56	土坑 196	40	Ae・Af-21・22	楕丸長方形?	(1.42)×1.20×0.25	N-10°-W			
62	土坑 196		Al-21	円形	0.90××0.25				
67	土坑 196		Ah-22	楕丸長方形	1.27×0.80×0.07	E-17°-N			
71	土坑 196	40	Al-22	長方形	2.36×0.65×0.56	N-20°-W	金属製品	Ⅳ・Ⅷ	
74	土坑 196	40	Al・Aj-22	楕丸長方形	2.75×1.16×0.78	E-11°-N	棒管・火打石	Ⅳ・Ⅷ	
75	土坑 196		Ah-21	楕丸長方形	2.10×1.70×0.55	E-30°-N		Ⅷ・Ⅷ	
77	土坑 196		Al-22・23	楕丸長方形	2.72×1.78×0.17	N-26°-W		V・Ⅷ	
78	土坑 196		Al・Aj-23	楕丸長方形	(1.83)×1.29×0.22	N-20°-W			
79	土坑 196	40	Ak-22・23	楕丸長方形	1.33×0.62×0.34	E-19°-N			
80	土坑 196	40	Aj-22・23	楕丸長方形	1.66×0.60×0.65	E-15°-N			
81	土坑 197	41	Aj・Ak-19・20	楕丸長方形	2.37×1.13×0.18	N-30°-W			
84	土坑 197		Aj-22・23	楕丸長方形	1.68×0.56×0.46	N-31°-W		V	
86	土坑 197	41・241	Ak-21	楕丸長方形	3.00×0.93×0.56	E-13°-N	美濃小碗	V	
88	土坑 196		Ak-22・23	楕丸長方形	1.14×0.71×0.15	E-18°-N		V	
89	土坑 197	41	Ak・Al-21	楕丸長方形	1.54×0.69×0.56	E-18°-N		Ⅳ・Ⅷ	
90	土坑 197		Ah-20	楕丸長方形	1.48×1.01×0.60	E-0°-N		V・Ⅷ	
91	土坑 197		Al-19	不明	1.75×(0.58)×0.30			Ⅳ・Ⅷ	
92	土坑 197		Aj・Ak-21	楕丸長方形	(0.95)×0.85×0.85	N-22°-W	鉄製品	Ⅳ・Ⅷ	
95	土坑 197		Ao-21	楕円形	1.32×(0.46)×0.60			Ⅳ・V・Ⅷ	
96	土坑 197		An-21	楕丸長方形	0.81×0.65×0.08	N-32°-W		Ⅳ	
97	土坑 197		Aa-21	楕丸長方形	1.61×0.75×0.18	E-20°-N		Ⅷ	
98	土坑 197		Aa-21	円形	0.78××0.13			Ⅷ	

第4章 1面の調査(近世)

番号	棟号	P.L.	グリッド	平面形	規模(m)	主軸方位	出土遺物	埋没土	備考
99	土坑	197	Am-22	不整形楕円形	(1.35)×1.05×0.33	E-10°-N			
100	土坑	197	40	Am-22	(0.83)×0.61×0.22	N-70°-E			
102	土坑		Am-21	楕円形	1.23×1.00×0.45	N-22°-W		V・XI	
103	土坑	197	Am-21・22	楕丸長方形	1.58×1.06×0.28	N-26°-W		XII	
107	土坑		Am-21	円形	0.74×-×0.35				
110	土坑		Am・An-20	楕丸長方形	1.71×(1.50)×0.17	N-18°-W		V・XII	
111	土坑		Am-19	不整形	2.63×1.33×0.34				
113	土坑		An-18・19	不整形	(3.00)×(0.97)×0.19			IV・V	
114	土坑		An-18	楕円形	(0.60)×(0.92)×0.20			V・XII	
117	土坑		An・Am-18・19	不整形	3.36×1.50×0.22				
118	土坑	198	Am-21・22	楕丸長方形	1.75×1.41×0.24	E-26°-N		V・XII	
119	土坑		Aq-19・20	不整形	-×(0.48)×0.30				
123	土坑	198	Af・Ag-20	円形	1.30×-×0.13			XII	
124	土坑	198	Af-21	楕円形	1.09×0.96×0.15	N-3°-E		XII	
129	土坑	198	41	Ag-20	楕丸長方形	1.56×1.29×0.45	N-20°-W		
130	土坑	198	41	Ac-24	楕丸長方形	1.56×1.28×0.57	E-11°-N		
131	土坑	198	41	Af-24	楕丸長方形	1.01×0.55×0.23	E-5°-N		
137	土坑		Ab-23	不整形	(2.37)×1.60×0.42		銭貨		
139	土坑		Am-21	不整形	(0.87)×(0.40)×0.33				
147	土坑	198	41	Ak-6・7	長方形	3.19×0.66×0.80	N-23°-W		XI・黒褐色土
148	土坑	198	41	Aj・Ak-7・8	楕丸長方形	2.34×0.63×0.69	N-22°-W		XI・黒褐色土
150	土坑	200	Am-21	楕丸長方形	3.63×1.29×0.32	E-18°-N	銭貨		XI・暗褐色土
152	土坑	198	42	Al・Aj-14・15	楕丸長方形	2.75×0.85×0.65	N-24°-W		XI・暗褐色土
153	土坑	199	42	Af・Al-14・15	楕丸長方形	(-)×1.09×0.63	E-23°-N		灰褐色土
154	土坑	199	42	Al-15	楕丸長方形	(2.22)×(0.29)×0.80	E-19°-N		XI・暗褐色土
155	土坑	199	42	Ah・Al-14・15	楕丸長方形	(-)×1.11×0.65	E-23°-N	金属製品・肥前染付	XI・褐色土
156	土坑	199	42	Ah・Al-14	楕丸長方形	(2.08)×0.85×0.65	N-19°-W	肥前磁器筒形碗	
157	土坑	199	42	Ah・Al-14	楕丸長方形	(2.90)×0.55×0.85	N-20°-W		
159	土坑	199	42・43	Ab-14・15	楕丸長方形	3.86×0.60×0.57	N-20°-W		
160	土坑	199・200	42・43	Al-14	楕丸長方形	(2.26)×0.84×0.75	N-27°-W		
161	土坑	199	42	Ab・Al-14	長方形	3.24×0.53×0.60	E-19°-S		灰褐色土
164	土坑	201	42	Ag-15	不整形	1.42×(1.05)×0.44			
165	土坑	199・200	42・43	Ag・Ah-14・15	楕丸長方形	6.80×0.98×0.70	N-21°-W	美濃尾呂茶碗	
166	土坑	199・200	42	Ah-15	楕丸長方形	(1.98)×0.52×0.60	E-29°-N		
167	土坑	199・200	42	Ah-14・15	不明	(0.83)×(0.62)×0.17			
168	土坑	200・201	42・43	Af・Ag-16	不整形楕円形	1.10×0.60×0.40	E-11°-N	金属製品	
169	土坑		Ag・Ah-16・17	不明	11.8×(0.40)×0.26				
170	土坑		43	Ab-16・17	楕円形	1.45×1.20×0.53	N-37°-W		桶埋設?
171	土坑	199・200		Ah-14	楕丸長方形	1.50×0.37×0.40	N-10°-W		
176	土坑			Al・Aj-9・10	楕丸長方形	(1.81)×0.64×0.35	E-23°-N		
178	土坑	199・200		Ah-14	不明	3.22×(1.08)×0.72			
179	土坑	199・200		Ah-14	不整形	0.80×(0.68)×0.27			
180	土坑	199・200		Al-14	楕丸長方形	(0.60)×(0.41)×0.09	N-24°-W		
182	土坑	198		Ak-6・7	楕丸長方形	2.42×0.68×0.25	N-24°-W		XII
183	土坑			Aj・Ak-9・10	楕丸長方形	2.63×(1.56)×0.23			
184	土坑			Aj・Ak-9・10	楕丸長方形	3.42×(1.57)×0.48			
185	土坑			Aj・Ak-9・10	楕丸長方形	(1.76)×0.43×0.54	E-12°-N		
186	土坑	199・200		Al-14	楕円形	0.93×0.50×0.13	E-40°-N		
200	土坑		43	Ah・Al-16・17	不整形	(25.0)×(1.44)×0.93			
202	土坑	199		Al-15	楕円形	1.30×(0.56)×0.14		金属製品	
212	土坑			Bb・Bc-3	楕丸長方形	3.01×2.49×0.08	N-7°-W		
214	土坑			Be・Bf-2	不整形	(1.46)×1.10×0.62			
215	土坑	201		Be・Bf-2	楕丸長方形	2.97×1.11	E-16°-N		
216	土坑	201	43	Bf-2	楕丸長方形	1.88×0.74×0.32	E-17°-N		
221	土坑	201		Ba-10	楕円形	1.00×0.83×0.13	E-19°-N		
227	土坑			At-10・11	楕丸長方形	1.19×0.47×0.34	N-20°-W		
238	土坑			At-10・11	楕丸長方形	(1.35)×0.65×0.12	N-20°-W		
246	土坑		43	As-12	楕丸長方形	1.67×1.20×0.25	E-31°-N		
280	土坑	201	43-241	-	円形	0.36×-×0.27		在地面	
284	土坑	204		Ar・As-12・13	楕円形	2.78×1.10×0.70	N-12°-W		
285	土坑	201		Am・An-10	円形	1.18×-×0.17			
286	土坑	201		An-10・11	円形	1.25×-×0.47			
287	土坑	202		An-10	不整形円形	0.65×-×0.16			
288	土坑	202	43-241	Am-8	楕丸長方形	4.15×0.62×0.47	E-15°-N	銭貨「咸平元宝」	
289	土坑	202	43-241	Am-8	楕丸長方形	1.57×1.07×0.50	N-21°-W	銭貨「咸平元宝」	
290	土坑	202	43	Am-8	楕円形	(0.78)×0.94×0.35	N-32°-W		
291	土坑	202	43	Am・An-8	不整形	(1.56)×1.05×0.16			
292	土坑	202	43	Am-8	不整形	(1.04)×(0.77)×0.25			

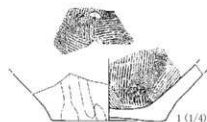
番号	種別	P.L.	グリッド	平面形	規模(m)	主軸方位	出土遺物	埋没土	備考
293	土坑	202		Am-7・8	楕丸長方形	1.36×1.17×0.44	N-30°-W		
295	土坑	203		An-6	楕円形	0.88×0.68×0.12	N-0°-E		
296	土坑	202	44	An-8・9	楕丸長方形	3.16×0.60×0.52			金属製品
297	土坑	202	44	An-8・9	楕丸長方形	2.95×0.60×0.50	N-18°-W		瀬戸美濃
298	土坑	202	44	An-8・9	楕丸長方形	2.40×(0.20)×0.36	N-18°-W		
299	土坑	202		Ao-Ao-8	不整形円形	1.34×××0.26			
308	土坑	203	44	Ao-9	楕丸長方形	2.43×0.59×0.36	N-18°-W		
309	土坑	203	44	Ao-9	楕丸長方形	2.01×0.60×0.45	N-18°-W		
310	土坑	203	44	Ao-9	楕丸長方形	1.33×0.82×0.17	N-18°-W		
313	土坑	203	44	An-16	楕丸長方形	1.25×0.66×0.16	E-0°-N		
314	土坑	203	44	Ao-Ap-7	楕丸長方形	1.66×0.62×0.25	E-22°-N		
315	土坑	203	44	Aq-Ar-6	楕円形	1.10×0.80×0.09	N-14°-W		
316	土坑	203		Aq-5	楕丸長方形	2.54×1.51×0.47	E-24°-N		
321	土坑	203	44	Ap-7	楕丸長方形	(0.76)×0.84×0.15	E-30°-N		
322	土坑	203	44・241	Ap-Aq-7・8	楕丸長方形	4.47×0.74×0.28	E-22°-N	銭貨「寛永通宝」	
323	土坑	203	44	Ap-Aq-7・8	楕丸長方形	2.50×1.44×0.30	E-22°-N		
324	土坑	203	44	Aq-7	楕丸長方形	2.67×(0.78)×0.48	E-23°-N		
339	土坑	203		Ar-As-9	楕丸長方形	(2.08)×0.70×0.11	N-25°-W		金属製品・瀬戸美濃
343	土坑	204		Aq-Ar-8・9	楕丸長方形	4.56×0.57×0.09	N-20°-W		
344	土坑	204		Aq-12	楕円形	(1.68)×0.50×0.05	N-14°-W		
353	土坑	204		Am-An-12	楕丸長方形	(2.02)×0.82×0.16	N-16°-W		
354	土坑	204		Ap-Aq-5	楕丸長方形	2.12×1.86×0.56	E-24°-N		
356	土坑	204		Aq-5	楕丸長方形	(1.12)×0.73×0.47	E-25°-N		
372	土坑	204		Ap-5	不明	1.18×(0.47)×0.37			
373	土坑	204		Ak-A1-9・10	不整形	(1.83)×(1.33)×0.43			
379	土坑	204		Aq-Ar-12	楕丸長方形	(26.9)×0.63×0.16	E-14°-N		
381	土坑	204		Aq-5	楕丸長方形	(0.75)×0.55×0.14	N-23°-W		
394	土坑	204	44	Ag-5	楕円形	(0.87)×0.48×0.16	N-17°-W		
395	土坑	204	44	Ag-5・6	楕丸長方形	1.69×0.75×0.61	E-25°-N		
421	土坑			Ap-13・14	楕円形	(1.56)×0.70×0.08	E-26°-N		
422	土坑		44	Aq-6	円形	1.25×××0.08			
423	土坑		44	Aq-Ar-6	円形	0.84×××0.14			

2号土坑

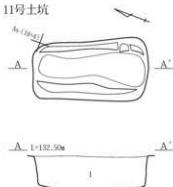


2号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土: XI層上主体とし、XII層上をわずかに含む。
- 2 暗褐色土: XI層上とXII層上の混土。



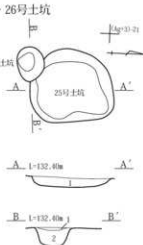
11号土坑



11号土坑 A-A'

- 1 灰褐色土: IV層上主体で、炭化物をわずかに含み、粘性が強い。

25・26号土坑



25号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土: Va層上～Vb層上主体で、XII層上小ブロックを多く、白色粒をわずかに含む。

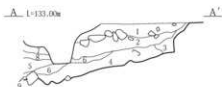
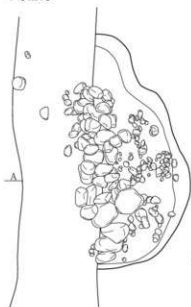
26号土坑 B-B'

- 1 灰褐色土: IV層上に類似。
- 2 暗褐色土: Va層上～Vb層上とXII層上ブロックの混土。



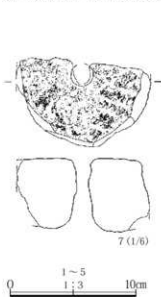
第194図 2・11・25・26号土坑・出土遺物

4号土坑



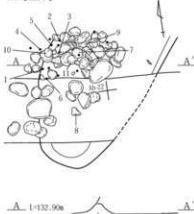
4号土坑 A-A'

- 1 灰褐色土 IV層土がブロック状に入る。
- 2 灰褐色土 IV層土主体で、1層よりもブロックが小さい。
- 3 黄褐色土 Ⅲ層土主体で、暗褐色土粒を含む。
- 4 灰褐色土 2層に類似するが、さらにブロックが小さい。
- 5 暗褐色砂質土 茶褐色粗粒砂主体。
- 6 暗褐色砂質土 暗褐色土と砂の混土。
- 7 黄灰色シルト質土 黄灰色シルト質主体で、暗褐色土ブロックを含む。
- 8 暗灰色砂質土 IV層土主体で、砂を多量に含む。
- 9 暗灰色砂質土 IV層土主体で、粘性がある。



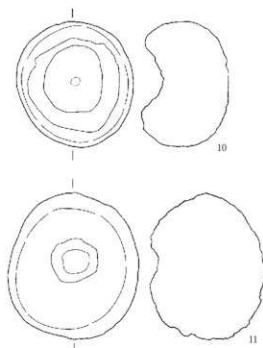
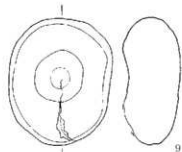
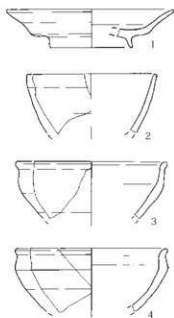
7 (1/6)
1~5
1:3 10cm

51号土坑



51号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Va層土主体で、Ⅲ層土大粒と炭化物を含む。

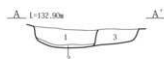
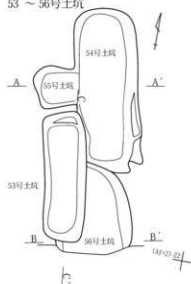


0 1:60 2m

6・8~11
1:4 10cm 51号土坑

第195図 4・51号土坑・出土遺物

53～56号土坑



77号土坑



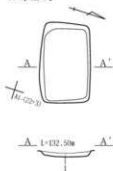
75号土坑 A-A'

- 1 褐色土 X層土とXII層土黄色砂の混土で、色調が明るい。
- 2 暗褐色土 XII層土に小ブロックが斑状に混じる。

77号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Va層土主体で、灰色シルトを多く含む。

67号土坑



75号土坑



53号土坑 C-C'

- 1 暗褐色土 IV層土主体で、しまりが弱い。

54・55号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 XII層土黄色砂・小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 XII層土黄色砂ブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 As-C軽石を多く含む、XII層土黄色砂・黄色砂ブロックを少量含む。

67号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Va層土主体で、XII層土小ブロックを少量含む、しまりが弱い。

71号土坑 B-B'

- 1 暗褐色土 IV層土中にXII層土小ブロックと大粒を均一に含む。
- 2 暗褐色土 IV層土中にXII層土大粒を均一に含む。

74号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 IV層土とXII層土小ブロックの混土。
- 2 暗褐色土 IV層土主体で、XII層土ブロックを少量、白色軽石をわずかに含む、やや粘性が強い。

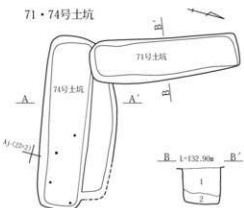
78号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Va層土主体で、XII層土小ブロックを少量含む、しまりが弱い。

88号土坑 B-B'

- 1 灰褐色土 Va層土主体の層で、しまり・粘性ともに弱い。

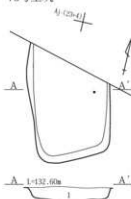
71・74号土坑



71号土坑

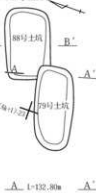


78号土坑



74号土坑 1(1/2)

79・88号土坑



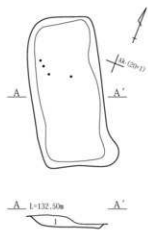
79号土坑



第196図 53～56・67・71・74・75・77・78・79・88号土坑・出土遺物

第4章 1面の調査(近世)

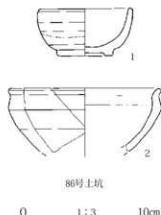
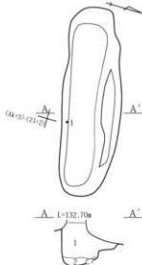
81号土坑



84号土坑



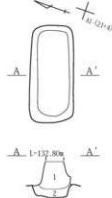
86号土坑



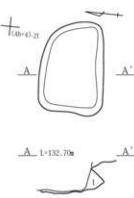
86号土坑

0 1:3 10cm

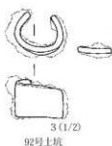
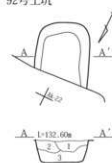
89号土坑



90号土坑

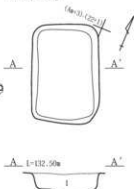


92号土坑

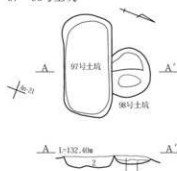


92号土坑

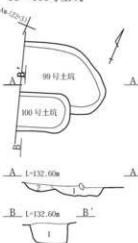
103号土坑



97・98号土坑



99・100号土坑



81号土坑 A-A'

1 暗褐色土 XI層土を主体とし、As-Cをやや多く含む、二ヶ居系軽石・畑層土ブロックを少量含む。

84号土坑 A-A'

1 暗褐色土 Va・VII層土の混上で、白色軽石を含み、粘性が弱い。
2 暗褐色土 Va層土主体の層で、軽石の含有がない。

0 1:60 2m

86号土坑 A-A'

1 暗褐色土 Va層土主体で、畑層土大粒をわずかに含み、しまりが強い。
2 暗褐色土 Va層土と畑層土の混上。

89号土坑 A-A'

1 黄褐色土 IV層土小ブロックと畑層土小ブロックの混上。
2 黄褐色土 畑層土ブロック主体で、IV層土粒を含む。

90号土坑 A-A'

1 黄褐色土 Va層土ブロックと畑層土ブロックの混上。

92号土坑 A-A'

1 灰褐色土 IV層土主体で、粘性・しまりとともに弱い。
2 暗褐色土 IV層土小ブロックと畑層土小ブロックの混上。
3 暗褐色土 2層に近似的するが畑層土小ブロックの量が少ない。しまりが弱い。

97・98号土坑 A-A'

1 暗褐色土 畑層土(砂質)主体で、灰褐色粘質土小ブロックを含み、全体に暗色。
2 黄褐色土 畑層土(砂質)主体。

99号土坑 A-A'

1 暗褐色土 Va層土と畑層土の混上。
2 暗褐色土 Va層土ブロックと畑層土ブロックの混上。

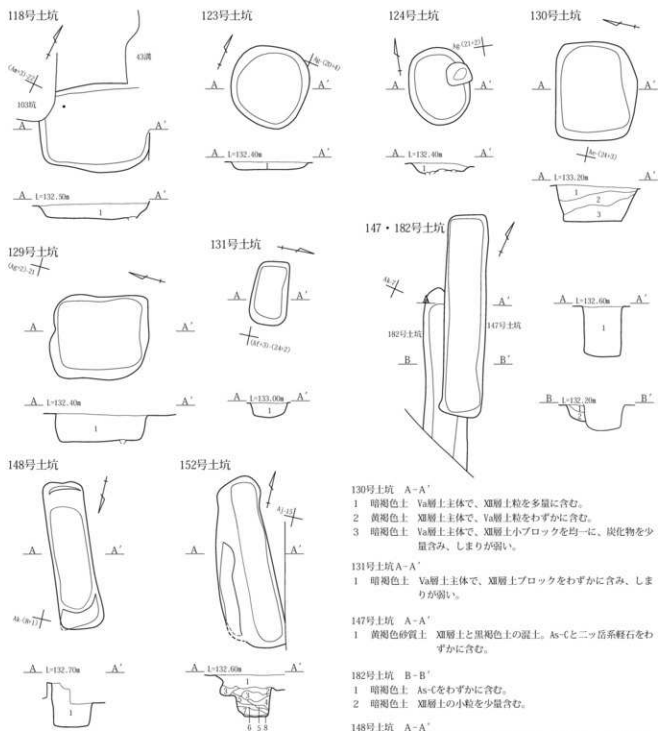
100号土坑 B-B'

1 暗褐色土 Va層土主体で、暗褐色粘質土ブロックを含む。

103号土坑 A-A'

1 暗褐色土 暗褐色土ブロックと畑層土の混上で、炭化物をわずかに含み、しまりが弱い。

第197図 81・84・86・89・90・92・97~100・103号土坑・出土遺物



130号土坑 A-A'
 1 暗褐色土 Va層上主体で、Ⅱ層土粒を多量に含む。
 2 黄褐色土 Ⅱ層上主体で、Va層土粒をわずかに含む。
 3 暗褐色土 Va層上主体で、Ⅱ層土小ブロックを均一に、炭化物を少量含み、しまりが弱い。

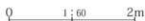
131号土坑 A-A'
 1 暗褐色土 Va層上主体で、Ⅱ層土ブロックをわずかに含み、しまりが弱い。

147号土坑 A-A'
 1 黄褐色砂質土 Ⅱ層土と黒褐色土の混土。As-Cと二ッ岳系軽石をわずかに含む。

182号土坑 B-B'
 1 暗褐色土 As-Cをわずかに含む。
 2 暗褐色土 Ⅱ層土の小粒を少量含む。

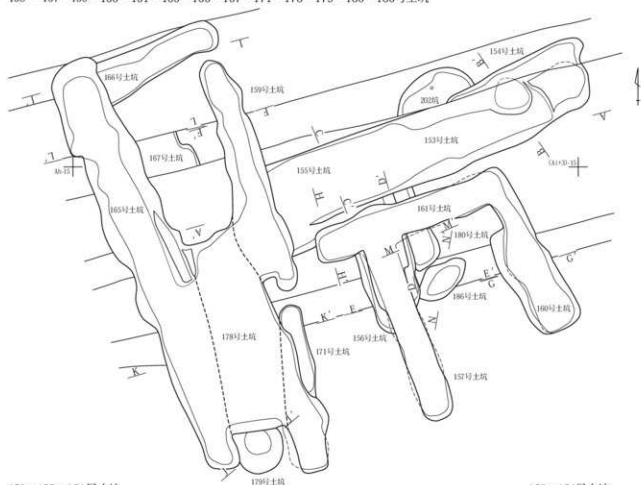
148号土坑 A-A'
 1 黄褐色砂質土 Ⅱ層土と黒褐色土の混土。As-Cと二ッ岳系軽石をわずかに含む。

152号土坑 A-A'
 1 暗褐色土 As-Cと二ッ岳系軽石を少量含み、褐色土を塊状に少量含む。
 2 黄褐色砂質土 Ⅱ層土と暗褐色土の混土で、しまりが弱い。
 3 暗褐色土 褐色土を塊状に少量、As-Cをこくわずかに含む。
 4 暗褐色土 3層に類似するが、Ⅱ層土を少量含み、しまりがやや弱い。
 5 黄褐色砂質土 2層に類似する。
 6 暗褐色土 Ⅱ層土との混土。
 7 黄褐色砂質土 2層に類似する。
 8 暗褐色土 6層に類似し、粘性がやや強い。

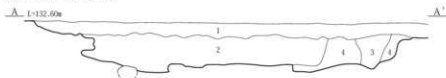


第198図 118・123・124・129・130・131・147・148・152・182号土坑

153・157・159・160・161・165・166・167・171・178・179・180・186号土坑



153・155・161号土坑



153・154号土坑



155号土坑



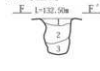
156号土坑



157号土坑



159号土坑



153・155・161号土坑 A-A'

- 1 灰褐色土 As-Cと白色軽石を含む灰褐色シルト質土主体で、Ⅹ層土小ブロックと大粒を均一に含みしまりが弱い。
- 2 灰褐色土 1層に類似するが、Ⅹ層土の含有量が多く、柔らかい。
- 3 灰褐色土 軽石と地山の粒含有量が少なく、2層よりも明るい。
- 4 灰褐色土 2層に類似するが、Ⅹ層土の粒含有量がさらに多い。

153・154号土坑 B-B'

- 1 暗褐色土 褐色土ブロックを少量含、As-Cと二ツ岳系軽石を微量含む。
- 2 暗褐色土 Ⅹ層土との混土で、As-Cを少量含む。
- 3 黄褐色砂質土 暗褐色土との混土。
- 4 暗褐色土 褐色土ブロックをわずかに含む。

155号土坑 C-C'

- 1 暗褐色土 褐色土小ブロック・As-Cをわずかに、Ⅹ層土を少量含む。
- 2 暗褐色土 Ⅹ層土との混土で、しまりが弱い。

156号土坑 D-D'

- 1 暗褐色土 Ⅹ層土との混土で、As-Cをごくわずかに含む。
- 2 黄褐色砂質土 暗褐色土小ブロックを少量含み、しまりがやや弱い。

157号土坑 E-E'

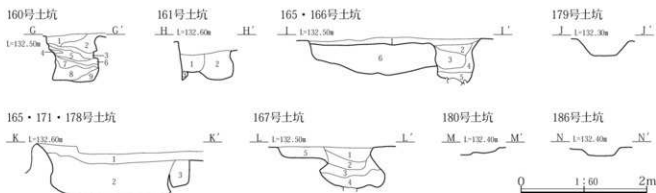
- 1 暗褐色土 As-Cと二ツ岳系軽石をわずかに、褐色土小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 Ⅹ層土との混土。
- 3 黄褐色砂質土 暗褐色土小ブロックを少量含み、しまりが弱い。

159号土坑 F-F'

- 1 黄褐色土 暗褐色土との混土で、As-Cと二ツ岳系軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 褐色土ブロック、Ⅹ層土をブロック状に含み、As-Cをごくわずかに含む。
- 3 暗褐色土 Ⅹ層土との混土。

0 1:60 2m

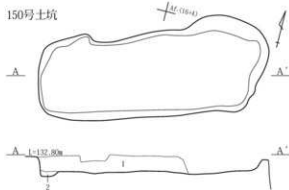
第199図 153・157・159・160・161・165・166・167・171・178・179・180・186号土坑



- 160号土坑 G-G'
- 1 暗褐色土 As-Cをわずかに含む、Ⅹ層土を全体に均一に含む。
 - 2 暗褐色土 As-Cを少量含む、Ⅹ層土を塊状に少量含む。
 - 3 黄褐色砂質土 暗褐色土との混土で、しまりがやや強い。
 - 4 黄褐色砂質土 3層に類似しているが、暗褐色土の割合が少ない。
 - 5 暗褐色土 As-Cをごくわずかに含む。
 - 6 黄褐色砂質土 4層に類似。
 - 7 暗褐色土 Ⅹ層土を塊状に少量含む。
 - 8 黄褐色砂質土 暗褐色土を少量含む、しまりが弱い。
 - 9 黄褐色砂質土 暗褐色土をごくわずかに含む、しまりが弱い。

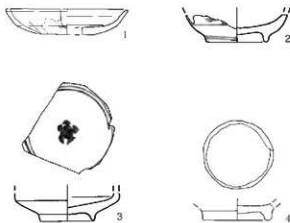
- 161号土坑 H-H'
- 1 暗褐色土 Ⅹ層土主体で、Ⅹ層土大粒を均一に含む。
 - 2 暗褐色土 Ⅹ層土ブロックとⅩ層土小ブロックの混土で、1層よりも明るい。
 - 3 暗褐色土 1層に類似するが、Ⅹ層土の含有量が少ない。

- 165・166号土坑 I-I'
- 1 灰褐色土 As-Cと白色軽石を含む灰褐色土。
 - 2 灰褐色土 1層に類似するが、白色軽石を含まない。
 - 3 暗褐色土 As-C・白色軽石・砂礫を少量含む、Ⅹ層土の大粒も若干含む。
 - 4 褐色土 Ⅹ層土主体で、As-Cをわずかに含む。
 - 5 褐色土 Ⅹ層土主体。
 - 6 明褐色土 Ⅹ層土主体で、暗褐色土粒を均一に含む。



- 167号土坑 L-L'
- 1 灰褐色土 白色軽石を少量含む灰褐色土で、しまりが弱い。
 - 2 灰褐色土 As-Cを含む灰褐色土主体で、Ⅹ層土粒と小ブロックを含む。
 - 3 灰褐色土 As-Cを含む灰褐色土主体で、Ⅹ層土が塊状に入り、しまりが弱い。
 - 4 黄褐色土 Ⅹ層土主体で、灰褐色土ブロックを含みしまりが弱い。
 - 5 灰褐色土 As-Cを含む灰褐色土で、硬くしまっている。

- 165・171・178号土坑 K-K'
- 1 灰褐色土 灰褐色土主体で、Ⅹ層土粒を多く、白色軽石をわずかに含む、硬くしまっている。
 - 2 灰褐色土 灰褐色土主体で、Ⅹ層土小ブロック、白色軽石をわずかに含む、しまりが弱い。
 - 3 灰褐色土 灰褐色シルト質土とⅩ層土ブロックの混土。



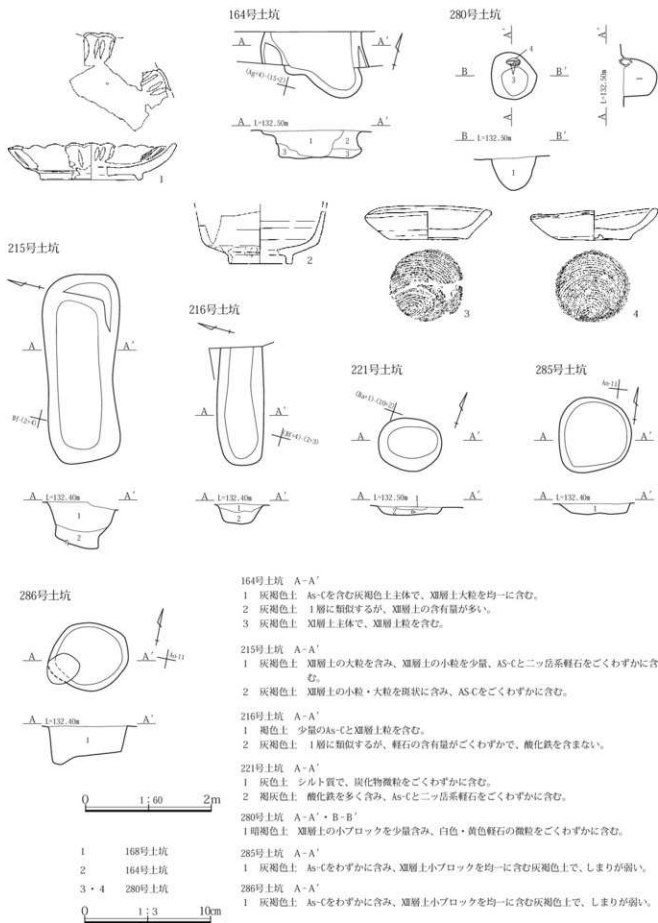
1・2 155号土坑
 3 156号土坑 4 165号土坑

0 1:3 10cm

- 150号土坑 A-A'
- 1 暗褐色土 As-Cを含む暗褐色土とⅩ層土小ブロックの混土で、しまり・粘性ともに強い。
 - 2 暗褐色土 暗褐色土とⅩ層土ブロックの混土。

- 168号土坑 A-A'
- 1 暗褐色土 Ⅹ層土主体で、Ⅹ層土大粒を均一に含む。

第200図 150・160・161・165～168・171・178・179・180・186号土坑・出土遺物



164号土坑 A-A'

- 1 灰褐色土 As-Cを含む灰褐色土主体で、畑層土大粒を均一に含む。
- 2 灰褐色土 1層に類似するが、畑層土の含有量が多い。
- 3 灰褐色土 畑層土主体で、畑層土粒を含む。

215号土坑 A-A'

- 1 灰褐色土 畑層土の大粒を含み、畑層土の小粒を少量、As-Cと二ッ岳系軽石をごくわずかに含む。
- 2 灰褐色土 畑層土の小粒・大粒を混状に含み、As-Cをごくわずかに含む。

216号土坑 A-A'

- 1 褐色土 少量のAs-Cと畑層土粒を含む。
- 2 灰褐色土 1層に類似するが、軽石の含有量がごくわずかで、酸化鉄を含まない。

221号土坑 A-A'

- 1 灰色土 シルト質で、炭化物微粒をごくわずかに含む。
- 2 褐色土 酸化鉄を多く含み、As-Cと二ッ岳系軽石をごくわずかに含む。

280号土坑 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 畑層土の小ブロックを少量含み、白色・黄色軽石の微粒をごくわずかに含む。

285号土坑 A-A'

- 1 灰褐色土 As-Cをわずかに含み、畑層土小ブロックを均一に含む灰褐色土で、しまりが弱い。

286号土坑 A-A'

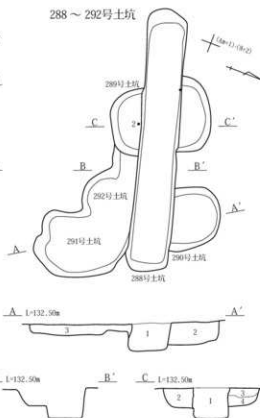
- 1 灰褐色土 As-Cをわずかに含み、畑層土小ブロックを均一に含む灰褐色土で、しまりが強い。

第201図 164・168・215・216・221・280・285・286号土坑・出土遺物

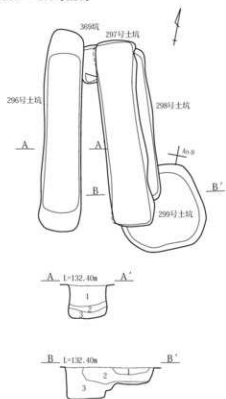
287号土坑



288～292号土坑



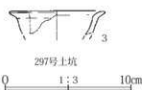
296～299号土坑



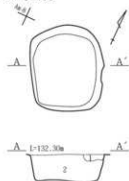
288号土坑



289号土坑



293号土坑



293号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 As-Cと二ヶ岳系軽石・炭化物・畑層土ブロックをわずかに含み、しまり・粘性ともに強い。
- 2 黒褐色土 二ヶ岳系軽石、径10mmほどの炭化物を少量、畑層土ブロックを塊状に、As-Cをわずかに含み、粗粒で、しまり・粘性ともに強い。

287号土坑 A-A'

- 1 灰褐色土 As-Cをわずかに含み、畑層土小ブロックを均一に含む灰褐色土で、しまりが弱い。

288・290・291号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 As-Cを少量含む暗褐色土と畑層土小ブロックの混土で、しまりが弱い。
- 2 暗褐色土 1層に類似するが、畑層土ブロックが大きく全体に砂質で、しまりが弱い。
- 3 暗褐色土 1層に類似するが、畑層土小ブロックと粒が多い。

288・289号土坑 C-C'

- 1 暗褐色土 As-Cを少量含む暗褐色土と畑層土小ブロックの混土で、しまりが弱い。
- 2 暗褐色土 1層よりも畑層土の含有量が少ない。
- 3 暗褐色土 2層よりも畑層土の含有量がやや多い。
- 4 暗褐色土 3層よりも畑層土の含有量がやや多い。

296号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 297号土坑3層に類似。
- 2 黒褐色土 As-Cをわずかに含む黒褐色土主体で、畑層土大粒をわずかに含み、しまりが強い。
- 3 黒褐色土 黒褐色土と畑層土小ブロックの混土で、しまりが強い。

297・299号土坑 B-B'

- 1 黒褐色土 As-Cを少量含む暗褐色土と畑層土小ブロックの混土で、暗褐色土の含有量が多い。
- 2 暗褐色土 畑層土小ブロックが主体で、暗褐色土小ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 2層土と類似するが、畑層土粒とブロックの含有量が多い。

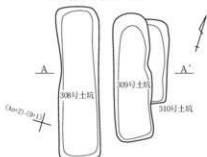
第202図 287～293・296～299号土坑・出土遺物

第4章 1面の調査(近世)

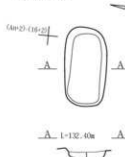
295号土坑



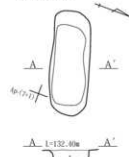
308・309・310号土坑



313号土坑



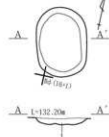
314号土坑



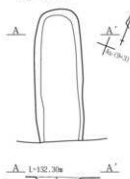
316号土坑



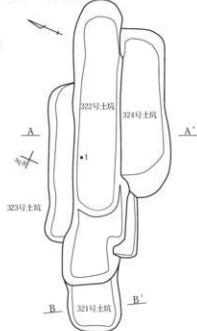
315号土坑



339号土坑



321～324号土坑



295号土坑 A-A'

1 暗褐色土 As-Cを含む暗褐色土とⅡ層上ブロックの混土で、しまりが弱い。

308～310号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Ⅱ層上ブロックを全体に斑状に含み、As-Cをごくわずかに含む。
- 2 暗褐色土 Ⅰ層上に類似するが、炭化物の微粒をごくわずかに含む。
- 3 暗褐色土 Ⅱ層上ブロックを全体に斑状に、As-Cをごくわずかに含む。
- 4 暗褐色土 Ⅱ層上ブロックを全体に斑状に含み、As-C・炭化物の微量をごくわずかに含む。
- 5 灰褐色土 Ⅱ層上ブロックを斑状に、As-Cをごくわずかに含む。

313号土坑 A-A'

1 暗褐色土 As-Cを少量含む暗褐色土で、Ⅱ層上ブロックを含む。

314号土坑 A-A'

1 暗褐色土 Ⅱ層上ブロックを斑状に含むシルト質土で、As-Cをごくわずかに含む。

315号土坑 A-A'

1 灰褐色土 Ⅱ層上ブロックを含み、As-C・炭化物の微粒をわずかに含む。

316号土坑 A-A'

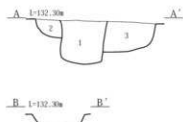
- 1 暗褐色土 Ⅱ層上ブロックを斑状に含み、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 Ⅱ層上ブロックを斑状に含み、As-Cの含有量は多く、炭化物の微粒をわずかに含む。
- 3 暗褐色土 Ⅰ層に類似するが、二ッ岳系軽石を含まない。

322～324号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Ⅱ層上ブロックを含み、As-Cを少量、炭化物の微粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 Ⅱ層上ブロックを含み、As-Cの含有量は多く、炭化物の微粒をわずかに含む。
- 3 暗褐色土 Ⅱ層上ブロックを含み、As-C・炭化物の微粒をわずかに含む。

339号土坑 A-A'

1 灰黄褐色土 Ⅱ層上の微粒・小ブロックを斑状に含み、As-Cと二ッ岳系軽石を少量含む。



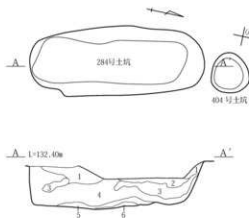
0 1:60 2m



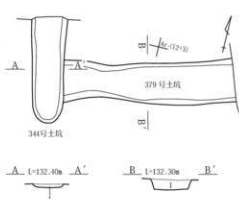
322号土坑

1 (1/1)

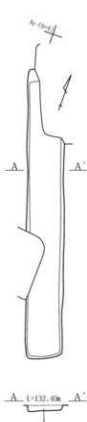
284号土坑



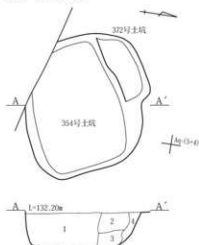
344・379号土坑



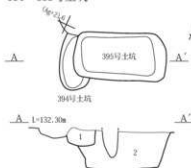
343号土坑



354・372号土坑



394・395号土坑



284号土坑 A-A'

- 1 暗灰色土 As-Cと二ツ岳系軽石を含む暗褐色土が変質した層。
- 2 灰色土 灰色シルトブロック主体で、礫層上ブロックを多く含む。
- 3 礫層上
- 4 灰色土 As-Cを含む灰色シルト主体で、黄灰色シルトブロックを含む。
- 5 黄灰色土 黄灰色シルト。
- 6 暗灰色土 礫層上小ブロックを含む。

344号土坑 A-A'

- 1 灰黄褐色土 As-Cをわずかに含む灰黄褐色シルト質上で礫層上ブロックを斑状に含む。

379号土坑 B-B'

- 1 暗褐色土 As-Cを少量、二ツ岳系軽石・炭化物の微粒をわずかに含み、礫層上ブロックを斑状に含む砂質土。

343号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 As-Cを少量、二ツ岳系軽石をわずかに、炭化物の微粒をごくわずかに含む暗褐色土で、礫層上の微粒・小ブロックを斑状に含む。

354号土坑 A-A'

- 1 灰黄褐色土 As-Cと二ツ岳系軽石をわずかに含み、炭化物の微粒をごくわずかに含む灰黄褐色シルト質上で、礫層上を全体に斑状に含み、酸化鉄を含む。
- 2 灰黄褐色土 1層に類似するが、軽石の含有量はごくわずかである。
- 3 灰黄褐色土 2層に類似するが、礫層上をブロック状に斑状に含む。
- 4 黄褐色土 礫層上を主体とし、灰黄褐色シルトブロックを含む。

394・395号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 礫層上ブロックを全体に斑状に含み、As-C・炭化物粒をわずかに含む。
- 2 赤い黄褐色土 含有物は、1層と類似。

0 1:60 2m

第204図 284・343・344・354・372・379・394・395号土坑

第2項 田口下田尻遺跡

(1) 溝

22号溝(第206図)

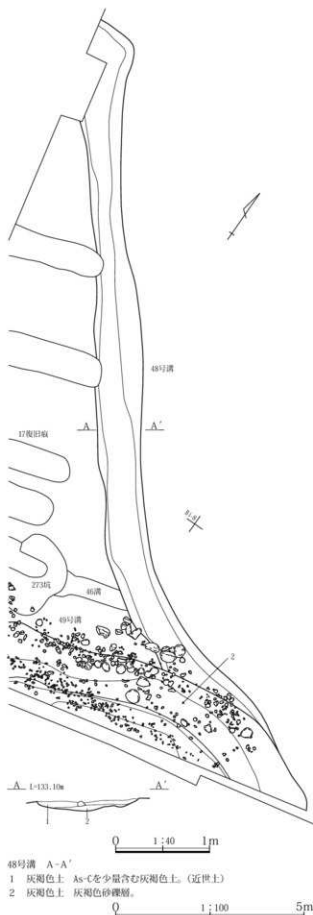
位置: Bj・Bk-3グリッド 規模: (2.62)m×-m 残存深度: 0.25m 走行方位: 不明 遺物: なし 所見: 68・69号土坑と重複しており、土層断面から68・69号土坑→21号溝と考えられる。土坑等が密集していた場所に検出されたことから、当初から溝として認識したのではなく、土坑の土層断面に溝の断面が検出されたために精査を行ったところ南側の壁が捉えられた。西側は69号土坑との重複部分で立ち上がりそうであるが、東側については判然としない。埋没土はⅡ層土を主体とするものであるが、68・69号土坑は2面1期の遺構であることは確実であるので、少なくともこれより新しい時期に掘削されたものである。

48号溝(第205・206図 P.L.46)

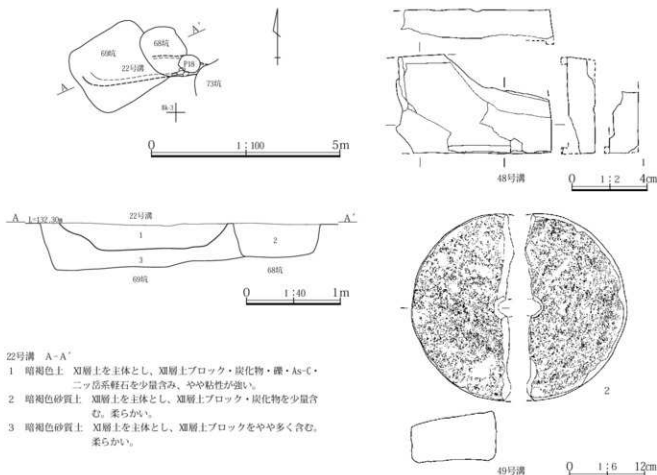
位置: Bg~Bi-7~9グリッド 規模: (19.80)m×0.80m 残存深度: 0.08m 走行方位: N-37°-W 遺物: 埋没土中から硯が1点(1)出土した。 所見: 1c号道・4号溝と重複しており、1区とⅢ区の境部分から北西に枝分かれするようにして南北の市道下に入り、その先は不明となる。掘り込みは浅く本来の断面形状は不明であるが、2層に分層した上層が近世土に特徴的な灰褐色土であったことから、近世の遺構と判断してⅢ期で報告した。下層は褐色の砂礫層であり、流水によって堆積したものである。水路として掘削されたものと考えられるが、1c号道の側溝とした4号溝内には砂礫層の堆積はなかったことから、4号溝に続くものとは考えられない。重複関係から道が造られる以前の水路と思われる。

49号溝(第205・206図 P.L.46)

位置: Bg~Bj-6・7グリッド 規模: (13.20)m×(2.10)m 残存深度: 0.61m 走行方位: - 遺物: 石臼が1点(2)出土した。 所見: 調査区域の南西端で部分的に検出したため、全体像が分からず49号溝の番号を付したが、位置関係や形状から4号溝に続く溝である可能性が高い。したがって1c号道の側溝であったものと思われる。



第205図 48・49号溝



第206図 22号溝・48・49号溝出土遺物

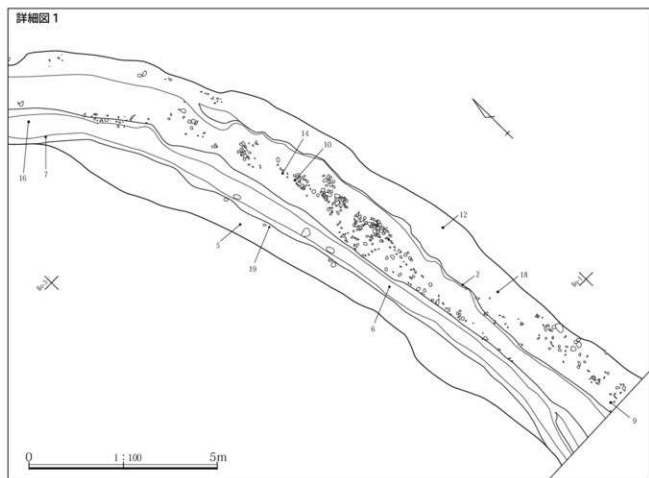
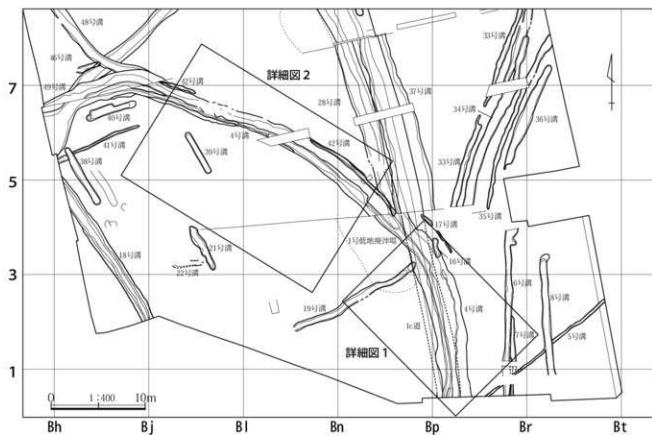
(2) 道

1c号道・4号溝(第207～210図 P.L.46・47・242)

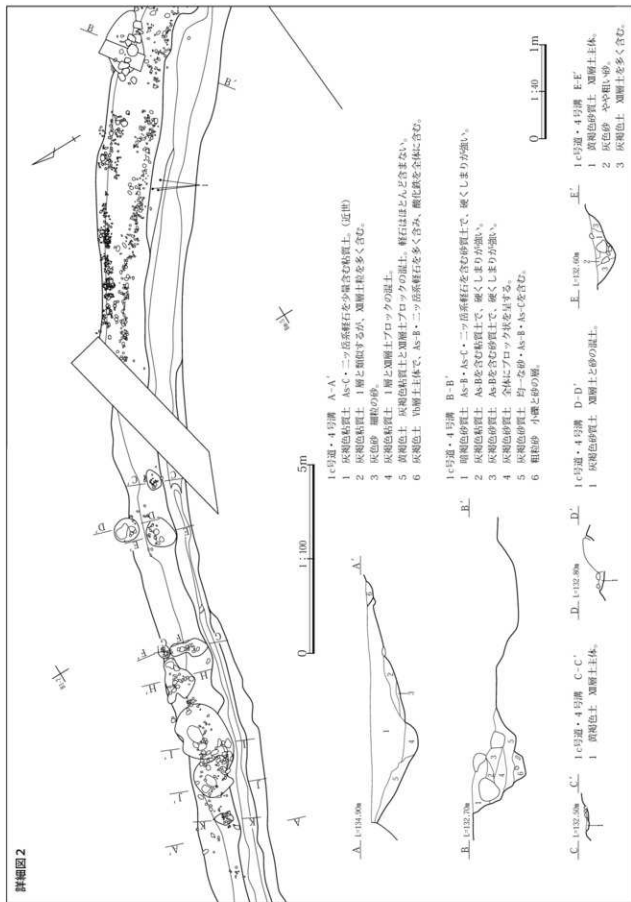
位置:Bg～Bp-0～7グリッド 規模:62.30m×(1.95)m 残存深度:一m 遺物:中世の龍泉窯系青磁皿(3)、在地系土器片口鉢、17世紀代の瀬戸陶器すり鉢が出土した他、金銅製の鈴(15)、五輪塔の地輪(21)が出土した。また、側溝と位置付けた4号溝からは、17世紀代の美濃陶器鉄絵皿(4)、肥前陶器碗(1)などの他に、中世まで遡る龍泉窯系青磁皿(5)、古瀬戸梅瓶(8)などの他、「寛永通宝」などの銭貨3枚(16～18)が出土した。 所見:1b・1a号道と経路を共通する下部遺構であり、道の造り替えと考えられる。田口上田尻遺跡1号道とした遺構と同一面として扱ふべきは、遺構の状況から1c号道であることは明らかで、1a・1b号道に対応する面は削平されたものであろう。1c号道は1b号道と異なり、西側に4号溝とした側溝を伴い、路面幅は1.20mほどで、西側にわずかに傾斜している。側溝の規模は、上幅1.65m、下幅0.80m、深さ0.40mほどであり、幅の増減は見られ

るものの、ほぼ全域で検出された。路面と側溝は、小礫などを含まない均質な灰褐色土で埋まり、この上面に1b号道の路面が構築されている。この灰褐色土は、人為的に埋め戻されたものではなく、洪水などによって埋没したと見られるものであり、1c号道と1b号道との関係は、路面の造り替えではなく、同一経路で道そのものを新設したものであり、1b号道と1a号道との関係と同様である。1c号道の路面下0.20mほどにも小礫が敷かれた路面が検出されているが、この路面を埋めている土層は、均質なものではなく大がかりな道普請などによって路面そのものを造り替えたものと考えられる。北西寄りの部分では路面の精査によって大小の不整形円形を呈する掘り込みが検出されており、内部から小礫が多く検出された。これも道普請などの痕跡であり、前述の路面の造り替えに対応するものである可能性が高い。また、Ⅲ区の南西部にわずかながら礫敷きの路面の一部が残存しており、この礫中から鈴(15)が出土した。

第4章 1面の調査(近世)



第207図 1c号道・4号溝全体図・詳細図1



第4章 1面の調査(近世)



1c号道・4号溝 F-F'

1 暗褐色土 X層上主体で、酸化鉄の形成が顕著。



1c号道・4号溝 H-H'

1 暗褐色土 C混土が主体で、X層土粒を含む。



1c号道・4号溝I-I'

1 暗褐色土 X層土とX層上ブロックの混土。酸化鉄の形成が顕著。

2 黄褐色砂 X層上主体で、全体に暗色。

3 黒灰色砂 粗粒砂主体で、細粒砂がブロック状に入る。



1c号道・4号溝 G-G'

1 黄褐色土 X層土とB混土を含む。



1c号道・4号溝 I'-I''

1 灰褐色土 表上に類似する灰褐色粘質土。

2 灰色砂礫層 粗粒と細粒の互層。

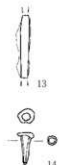
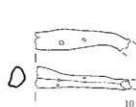
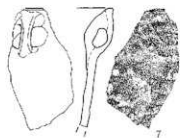
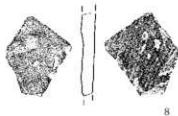
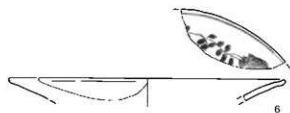
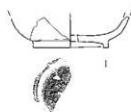
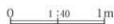
3 黄褐色砂質土 X層上主体で、粗粒砂ブロックを含む。



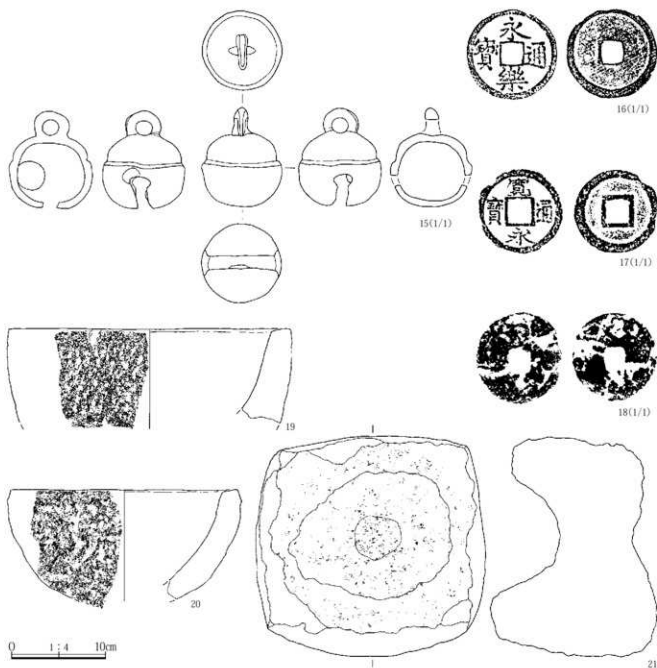
1c号道・4号溝K-K'

1 黄褐色砂 X層上主体で、暗褐色土ブロックを含む。

2 暗褐色土 X層上主体で、全体に暗色。



第209図 1c号道・4号溝土層断面図(2)・出土遺物(1)



第210図 1c号遺・4号溝出土遺物(2)

(3) 墓坑

93号土坑(第211図)

位置: B1・Bm-3グリッド 形状: 円形 規模: 径0.90m 残存深度: 0.87m 主軸方位: 一 埋没土: XI層土とXII層土の混土で柔らかい。遺物: なし 重複: 94号土坑と重複しており、土層断面の観察から94号土坑→93号土坑と考えられる。所見: 当初は認識できず、94号土坑と一連の調査を行った。その結果、94号土坑を掘り抜くように93号土坑を検出し、その底面付近から人骨と見られる骨が5ヵ所から出土した。墓坑が円形であり、埋

没土中にAs-Bは確認できず、埋没土の締まりも悪いことなどから近世の墓と判断したが、周辺に近世となる墓は検出されておらず異質な存在である。

204号土坑(第211・212図 P.L.47・242)

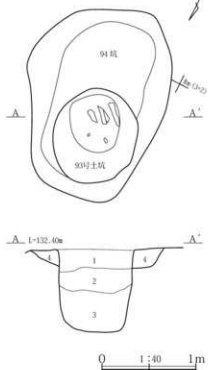
位置: Bg・Bh-5グリッド 形状: 不明 規模: 一m 残存深度: 一m 遺物: 焼骨に混じて17世紀後半の瀬戸陶器鉄絵皿(3)、美濃陶器小碗(1・2)、常滑の破片が出土した他、「寛永通宝」が4枚(9~12)、砥石が1点(8)出土した。重複: なし 所見: 焼骨片と炭化物

及び灰色の灰が認められたことから、火葬施設または火葬した燃え残りの廃棄場所の可能性をも想定したが、完形の小碗や鉄絵皿、銭貨などが出土していることから墓坑として報告した。小碗が多い場所に掘削されたもので、炭化物を含む暗褐色土を掘り上げた結果、平面形を楕円形として捉えたが、骨や炭化物の範囲からは直径1.30mほどの円形とも考えられ判然としない。焼骨は人骨と見て良いが、火葬骨を埋葬するにはは出土量が少ないことが奇異である。北側に隣接する204号土坑を含めた範囲に復旧痕が掘削されていないことは、この部分が墓として認識されていたことを裏付けるものであろう。

212号土坑(第211・212図 P.L.47・242)

位置: Bg・Bh・5・6グリッド 形状: 不明 規模: 1m 残存深度: 1m 遺物: 17世紀中頃の瀬戸・美濃陶器鉄絵皿(13)、砥石が2点(14・15)出土した他、時期的に遺構に伴うものではないが、緑釉陶器の破片1点と猫の羽口が出土した。重複: なし 所見: 灰と炭化物が検出されていることから204号土坑と同種の遺構としたが、焼骨はほとんど出土しておらず、遺物も欠損した鉄絵皿1点と砥石だけである。204号土坑と同様に平面形を楕円形として捉えたが、現道側が判然とせず直径1mほどの円形とも考えられる。

93号土坑

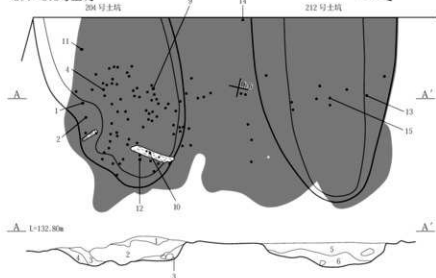


93・94号土坑 A-A'

- 1 暗褐色砂質土 X層土を主体とし、X層土ブロックを多量に含み、炭化物を少量含む。柔らかい。
- 2 にふい黄褐色砂質土 X層土を主体とし、X層土ブロックを多く含む。柔らかい。
- 3 暗褐色砂質土 X層土を主体とし、X層土ブロックをやや多く含み、炭化物を少量含む。柔らかい。
- 4 暗褐色砂質土 X層土を主体とし、X層土ブロックを多量に含む。柔らかい。



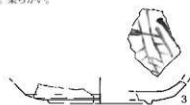
204・212号土坑



204・212号土坑 A-A'

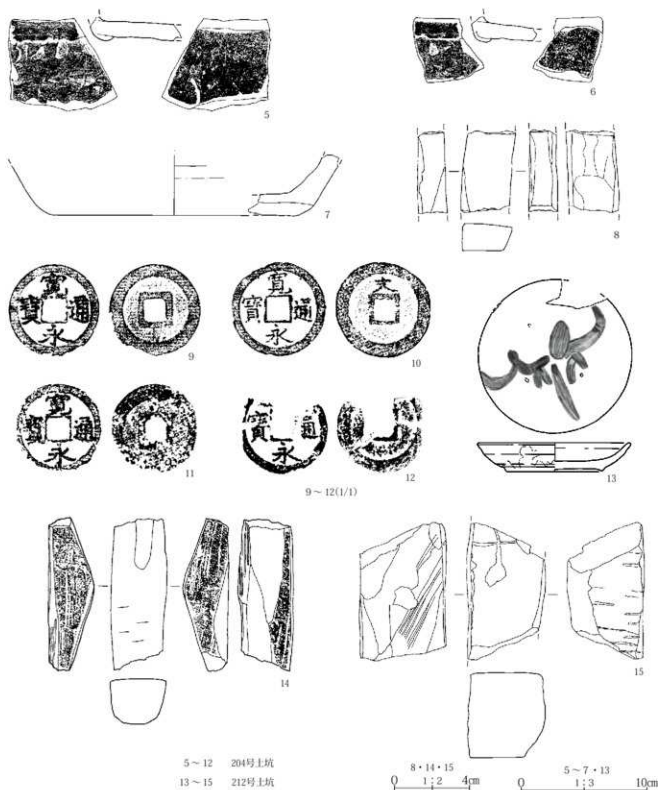
- 1 暗褐色土 灰褐色粘質土主体で、X層土ブロック・炭化物を少量含む。
- 2 灰色灰層 灰白の灰と黒灰色の灰が互層で、焼土大粒と炭化物を少量含む。(焼骨含有層)
- 3 暗褐色土 灰褐色粘質土とX層土の混土で、炭化物を多量に含む。
- 4 茶褐色土 X層土(粘質)主体で、炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色土 灰褐色粘質土主体で、炭化物を多量に、X層土粒を少量含む。
- 6 暗褐色土 灰褐色粘質土主体で、炭化物と黒色灰を多量に、焼土粒を少量含む。

204号土坑



0 1:3 10cm

第211図 93・204・212号土坑・出土遺物



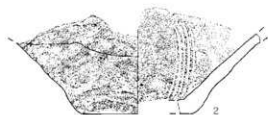
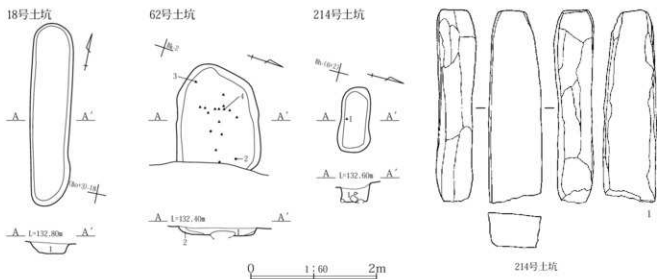
第212図 204・212号土坑出土遺物

(4) 土坑

第5表 田口下田尻遺跡 Ⅲ期土坑一覧表

番号	棟図	P.L.	グリッド	平面形	規模(m)	主軸方位	出土遺物	埋没土	備考
18	土坑	213	B0-7・8	楕丸長方形	2.89×0.64×0.17	E-45°-S			
62	土坑	213	Bk-2	楕円形	(1.56)×1.28×0.11	E-20°-N	すり鉢・石臼		
214	土坑	213	B0-6	楕丸長方形	1.05×0.45×0.29	E-10°-N			
271	土坑		B0-6・7	楕円形	1.17×0.39×0.17	E-33°-N			

第4章 1面の調査(近世)



18号土坑 A-A'

1 暗褐色土 XI層土主体で、XI層土粒を含む。

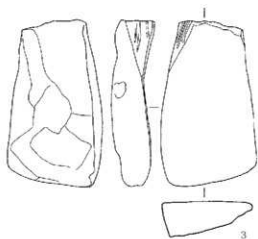
62号土坑 A-A'

1 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、XI層土ブロック・炭化物を少量含む。柔らかい。

2 褐色砂質土 XI層土を主体とし、XI層土ブロック・炭化物を少量含む。柔らかい。

214号土坑 A-A'

1 暗褐色土 XI層土主体で、粘性のある暗褐色土ブロックを多く含み、焼土粒・炭化物を少量含む。



2~4 62号土坑

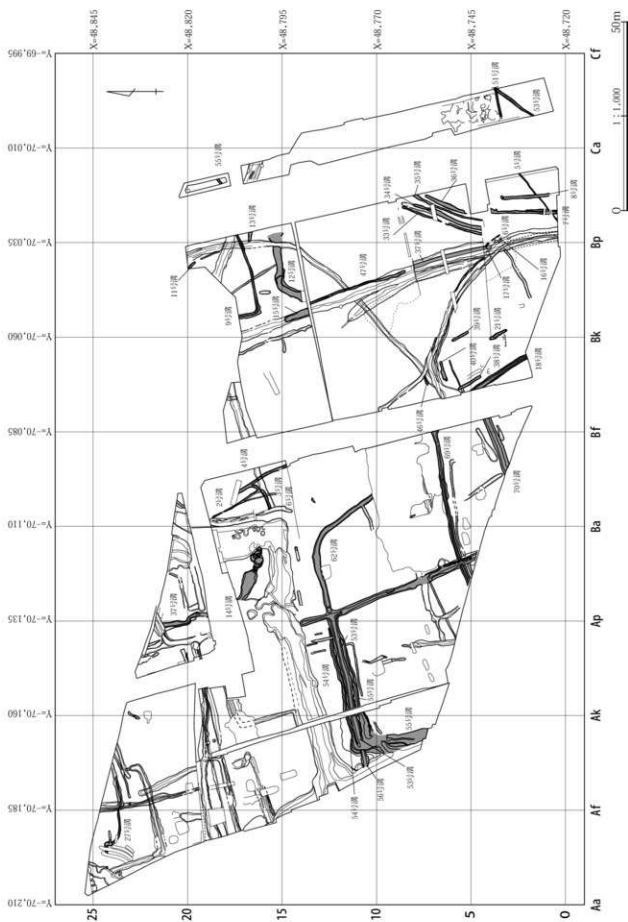
1・3
1:2 4m

2・4
1:4 10cm

第213図 18・62・214号土坑・出土遺物

第5章 2面の調査
(中世～古墳時代後期)





第214図 2面I原全体図



第215号 墓坑全体图

第5章 2面の調査(中世～古墳時代後期)

2面の調査は、泥流復旧痕や灰褐色を呈する近世土を覆土とする遺構の調査終了後、下部に一定の層厚で形成されたVa・Vb層を除去し、As-C及びニッ岳系軽石を含む暗褐色土を遺構確認面とした。しかし、この確認面とした暗褐色土と遺構覆土との区別ができない部分があったため、そうした地点ではAs-Cを含む黄褐色シルト層まで確認面を下げた遺構を検出した。したがって、この段階で検出された遺構は、古墳時代前期の遺構を除いて中世までの遺構が検出されたことから、調査段階ではすべて2面として扱った。しかし、確認時点で中世遺構は覆土にAs-B混土を含むことから肉眼観察でも区別することができるものが多いので、2面の第1期として古墳時代後期から古代の遺構を分離した。できる限り遺構の個別記載に努めたが、土坑・ピットについては、検出数が多いため一覧で必要事項について提示した。しかし、詳細を記述する必要があると判断した土坑・ピットについては個別記載をした。

第1節 第I期 中世

第1項 田口上田尻遺跡

田口上田尻遺跡で検出された中世と考えられる遺構には、溝・墓坑・集石・土坑の他に多数のピットが検出されている。

(1) 溝

2号溝(第216図)

位置:Ba・Bb-15～18グリッド 規模:20.80m×0.23～1.02m 残存深度:0.14m 走行方位:N-30°-W
遺物:なし 所見:Ⅱ区東側の1面1号道の下部から検出したもので、南寄りの位置で南西に向かって直角に折れ、1号溝に達する前に立ち上がっている。砂礫で埋没しており、最上層にはⅦ層土類似の土があり、一見すると古代の遺構とも思えるが、Ⅶ層土によって埋没していた6号溝を壊していることから当期の遺構として扱った。両端が途切れているが、本来は延びていたものと考えられ、砂礫の堆積が認められることから水の流れが作

用しているものと思われる。

3号溝(第216図 P.L.47)

位置:Bb・Bc-16グリッド 規模:2.25m×0.82m 残存深度:0.07m 走行方位:— 遺物:青磁(1)が出土した。所見:4号溝から分岐して2号溝と連結するように弧状に検出されたもので、埋没土はⅦ層土であることから古代の遺構である可能性もある。部分的な検出でもあり、詳細は不明である。

4号溝(第216図 P.L.47)

位置:Bb～Bd-14～17グリッド 規模:14.75m×0.90m 残存深度:0.12m 走行方位:N-30°-W 遺物:常滑(3)1点が出土した。所見:2号溝と走行方向が同じで、砂礫によって埋没している点も類似している。北側で途切れてしまうが、本来は浅くなりつつも北に延びていたものであろう。2号溝は南側で西へと折れるが、4号溝はそのまま南で市道下に入るため先の状況は不明である。

6号溝(第216図 P.L.47)

位置:Bb-15・16グリッド 規模:9.80m×0.55m 残存深度:0.18m 走行方位:N-12°-W 遺物:なし 所見:2号溝から分岐するように検出されたもので、北側は2号溝と同じ走行となるものと考えられる。Ⅶ層土相当の土層で埋没しており、中世遺構になることは確実なものである。重複関係は6号溝→2号溝であり、砂礫の堆積がまったく見られないことから用途も異なる溝である。

14号溝(第217・218図 P.L.48・242)

位置:Aq～As-15～17グリッド 規模:14.90m×1.20～3.80m 残存深度:0.88m 走行方位:— 遺物:底面付近の砂礫中から土師器壺、鉢、未穿孔瓦玉(7)の他、12世紀～14世紀代の常滑陶器製の破片(1)などが出土した。所見:遺物の出土があったために遺構として捉えたが、不整形円形の土坑が連続することによって溝のような形状を呈した状況が窺える。Ⅱ区の調査時には北西方向に伸びていくものと考えていたが、Ⅵ区の調査によって8号溝の屈曲部で合流していることが判明し

た。埋没土は粗粒砂や基盤となる黄褐色シルト質土が互層を成しており、流水の影響を強く受けた痕跡がある。当溝は人為的なものではなく、8号溝に流れがあった時点で、陥穴の形成要因に近い環境の中で形成されたものと考えられる。出土遺物は古墳時代前期のものであるが、当遺構が当該時期に形成されたものとは考えられず、周辺に展開する住居などから崩落したものと考えられる。

27号溝(第219図 P L.48)

位置: Ac ~ Af-23・24グリッド 規模: 13.10m×0.45~1.15m 残存深度: 0.17~0.61m 走行方位: -
遺物: なし 所見: 6号復旧痕と重複する部分より西側は、やや低くなることから掘り方が判然としなかった。また、東側は22号溝との重複部分までは確認できるものの、これより東側には30・31号溝が東西方向に掘削されているため削平されたものと思われる。6号復旧痕近くで大きく屈曲し、湾曲ぎみに東へと向かっており、深さは東に向かうほど浅くなっている。断面形状は逆台形状を呈し、埋没土の堆積に透水されていたような状況を窺うことはできない。

37号溝(第220~222図 P L.48・242・243)

位置: Ao・Ap-19~21グリッド 規模: 10.70m×1.70m 残存深度: 0.28m 走行方位: - 遺物: 北側の一角に川原石に混じって五輪塔の地輪(8~11)と火輪(6)が出土した他、底面付近から中世に位置付けられる在地系土器内耳鍋(2・3・5)や片口鉢(4)が出土した他、I区の調査で馬歯が2点出土した。所見: 北側は35号溝、南側は112号土坑との重複で不明瞭であるが、埋没土の下層に粗い砂層を挟んでいることから透水されていたものと考えられ、さらに南北に延びていたものと思われる。

53号溝(第223~227図 P L.49・243)

位置: Ah~As-4~13グリッド 規模: 87.80m×1.75m 残存深度: 0.58~1.18m 走行方位: E-14°-N~N-24°-W 遺物: 14世紀中頃~15世紀後半の古瀬戸おろし皿(9)、在地系土器すり鉢(4~6・8)などの他、石臼の上臼が1点(12)、「景徳元宝」1枚(13)が出土した他、周辺の住居から入ったと思われる灰釉陶器・緑釉陶器の破片などが出土した。所見: 8号溝と並行する位置関係にあり、西側で8号溝と同様に低地に合流している。62号溝との交差部から南に向かう溝は、南東

方向に直進して調査区外へと続いているが、20mほど南に東西方向に走行する70号溝が検出されており、この溝と関連することが想定される。低地への合流部は、8号溝のように直進せずに南に90°近く屈曲し、低地部と0.5mほどの段差を形成しており、この部分は礫が水流によって洗い出されたごとくに集中していた。62号溝と交差する地点から西側は、南に向かう部分と比較すると0.3mほど深く掘削されており、この地点に段差を生じている。また、この段差の下位部分と低地部への合流部(段差の上位)の標高を比較すると、合流部が0.4mほど低くなっており、西に向かって傾斜していることがわかる。これは、62号溝でも記述しておいたが、62号溝と53号溝は一体となって機能した可能性があり、8号溝から堰などによって取水されたか、もしくはオーバーフローした水が53号溝を通して低地へと排水されたのではないかと考えている。しかし、南に向かう溝は、検出部中央付近がやや標高が高く、南側は逆台形状の断面形を持つ深い溝となっており、通水に適した構造とは考えられず、区画のために掘削されたものと考えられる。このことは西に向かう溝と南に向かう溝が別遺構であると解釈することも可能であるが、本来は区画として掘削された溝の一部を排水にも併用したと理解しても矛盾することはない。土層断面の観察によれば、53号溝と55号溝の掘削された場所は、溝が埋没した後も窪地となっていたらしく、締まりの弱い耕作土様の土層がある程度堆積した後54号溝が掘削されたと思われる。したがって並行する溝の新旧関係は、56号溝→55号溝→53号溝→54号溝と考えられる。

54号溝(第223~228図 P L.49・243)

位置: Ai~Ao-9~12グリッド 規模: 33.50m×0.64~1.60m 残存深度: 0.62m 走行方位: E-16°-N 遺物: 在地系土器すり鉢(16)、内耳鍋(15)、常滑陶器甕(17)、中国白磁皿(14)、「永楽通宝」1枚(18)が出土しており、陶磁器はいずれも14世紀後半~16世紀後半の中に収まるものである。所見: 53号溝と並行して構築された溝で、53号溝と62号溝の交差部分のすぐ西側から始まっている。西側は低地に接する直前で53号溝と同様に南に折れている。底面の標高は東端よりも西端が0.45mほど低く、この点においても53号溝と共通している。前述のように53号溝との間にはある程度の時間的経過が想

定されるが、掘削の稼働など53号溝の機能の一部を踏襲している可能性が高いものである。この想定が成り立つとすれば、東端の部分は検出した場所が開始部分ではなく、先で北に折れて8号溝に連結していた可能性がある。

55号溝(第223～226・228図 P.L.49・243)

位置: Ai～Ao-9～11グリッド 規模: 28.00m×0.95～1.25m 残存深度: 0.38m 走行方位: E-11°-N
遺物: 石臼が1点(19)出土した。 所見: 53号溝と並行するように検出した溝で、東側は53号溝との重複によって失われている。断面形は逆台形状で底面は平坦で0.25mほどの幅がある。西端も53号溝との重複で判然としなが、低地に向かって直線的に抜けていた痕跡はないことから、53号溝と同様に南に折れて低地へと合流したものと考えられる。つまり、53～55号溝の3条の溝は、ほぼ同ルートで55号溝→53号溝→54号溝の順序で掘削されたと考えられ、その掘削目的も53号溝に想定したものと共通していたと考えてよいであろう。

56号溝(第229図 P.L.49)

位置: Ah・Ai-10グリッド 規模: 4.50m×2.08m 残存深度: 0.65m 走行方位: E-12°-N 遺物: なし
所見: 鍋底状の断面形を持つ直線的な溝である。底面は平坦で、0.85mほどの幅がある。走行方向の延長上に53号溝の直線部分が一致しており、当初56号溝が構築された位置を踏襲して53号溝が掘削されたものと考えられる。土層断面の観察では通水されたような痕跡はなく、区画を目的とした溝と考えられる。

62号溝(第230～232図 P.L.50)

位置: Ao～Bb-10～14グリッド 規模: 48.60m×1.18～2.08m 残存深度: 0.16～0.38m 遺物: 白磁(1)が出土した。 所見: 堆積土層の状況から、8号溝の屈曲部からわずかに離れた位置から始まり、直角に東に折れて弧状に南東方向に向かう溝と考えたが、53号溝との交差部分でそれぞれが直角に走行方向を変えるのは不自然であることを考慮すると、並存した一連の溝である可能性がある。8号溝に隣接する北端部分の堆積土層中には粗い砂層が見られることから通水の可能性があるが、8号溝とは連結されておらず取水の場所が判然としない。また、53号溝は西側で低地に合流する通水されていた可能性の高い溝であるが、53号溝についても取水口が見当たらない。こうした状況から、8号溝に隣接する62

号溝の北端部が53号溝・62号溝の共通の取水口であった可能性がある。この場合8号溝の屈曲部分に堰のような構造物を想定しなければならないが、調査時点では認識されていない。

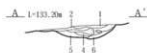
69号溝(第233図 P.L.50)

位置: Aq～Bf-5～7グリッド 規模: 41.90m×1.60m 残存深度: 1.04m 走行方位: E-9°-N 遺物: 灰釉陶器・緑釉陶器の破片が出土しているが、周囲の住居からの流れ込みであろう。長さ7.8cmほどの釘と思われる鉄製品が1点出土した。 所見: 調査区を東西に横断して検出された。断面形状は、Bc-6グリッド付近から西側は葉研状を呈しているが、これより東側は西側と比較すると浅く、63号溝と同様に鍋底状の掘り方となっている。V層とした黄褐色シルト質の土層中に掘削されているが、壁などの崩落もほとんど観察されず、葉研状の断面形を良好に残している。また、底面も平坦で通水によって削られたような痕跡も見られない。堆積していた土層は、わずかに含有物や色調の異なる多数枚の暗褐色シルト質土であり、北側から埋没土が流れ込んでいる状況が窺える。西側で53号溝と重複しているが、検出状況から69号溝→53号溝という新旧関係であることは明らかである。69号溝の走行方向は直線的であり、田口下田尻遺跡側へと続くと考えられるが、延長上には葉研状の断面を持つ溝は検出されておらず、代わって1期に位置付けた14号溝が位置している。前述のように69号溝東半の断面形状は鍋底状を呈しており、14号溝に類似していることから、本来はⅡ期の田口下田尻遺跡14号溝の延長がこの位置に掘削されており、これを後世に掘り直したものと考えられる。ただし、69号溝は田口下田尻遺跡側では、位置が踏襲されることなく、市道下で走行方向を南に90°変えて、断面形状・規模ともに類似する田口下田尻遺跡18号溝へと繋がり、区画を構成するのではないだろう。

70号溝(第234図 P.L.50)

位置: Bc～Bf-2～4グリッド 規模: 15.20m×2.21m 残存深度: 0.79m 走行方位: E-23°-N 遺物: 中世と考えられる在地系土器内耳鋸(1・2)と片口鉢(3)が出土した。 所見: 70号溝は砂礫層中に掘削されていたために、平面の確認が難しかった溝である。基盤層との微妙な色調の違いを元に掘削を進めた結果、東西

2号溝



2号溝 A-A'

- 1 暗褐色土: VII層上に類似。
- 2 灰色砂質土: 径10~20mmほどの小礫を含む。
- 3 灰色砂 粗粒砂層。
- 4 黒色砂 粒径が揃った砂層。
- 5 褐色砂 粗粒砂層。
- 6 暗褐色土: IX層上に類似。

3・4号溝



3・4号溝 C-C'

- 1 暗褐色土: IX層上主体で砂質上。
- 2 にふい黄褐色土: 砂質で、明黄褐色粒を少量含む。
- 3 黒褐色土: 砂層で、小礫も多く含む。
- 4 暗褐色土: IX層上に類似するが、小礫を含む。

6号溝



6号溝 B-B'

- 1 暗褐色土: VI層上主体で、酸化鉄を含んだブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土: VII層上主体で、酸化鉄をわずかに含み、粘性が弱い。



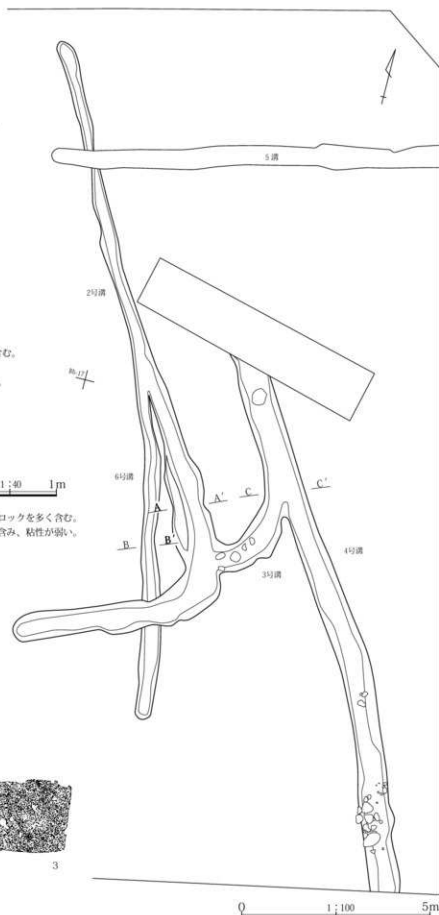
3号溝

2 (1/2)

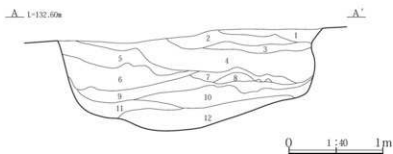
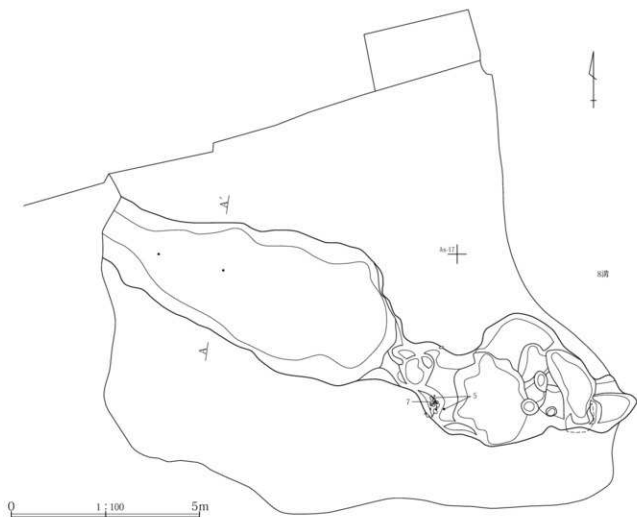


4号溝

3

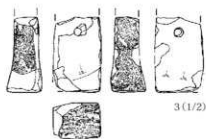
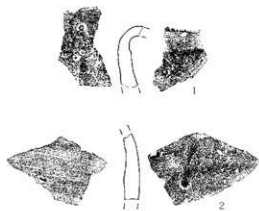


第216図 2・3・4・6号溝・出土遺物



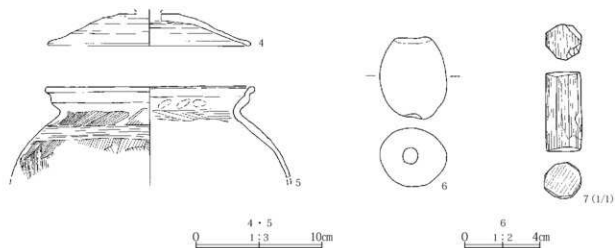
14号溝 A-A'

- 1 灰褐色土 灰色粘質土と黄褐色砂の混土。
- 2 灰褐色土 灰色粘質土がブロック状。
- 3 黄褐色砂 粗粒と細粒の混土。
- 4 灰色シルト 縮状。
- 5 灰色シルト 4層よりも暗色で縮状。
- 6 褐色シルト 小ブロックの混土で、縮状。
- 7 灰色砂 径0.5mmの砂。
- 8 灰色砂 粗粒砂。
- 9 黄灰色砂 縮状。
- 10 暗灰色砂 縮状。
- 11 黄色土 礫層上。
- 12 黄褐色砂 黄褐色砂と礫層土の混土。

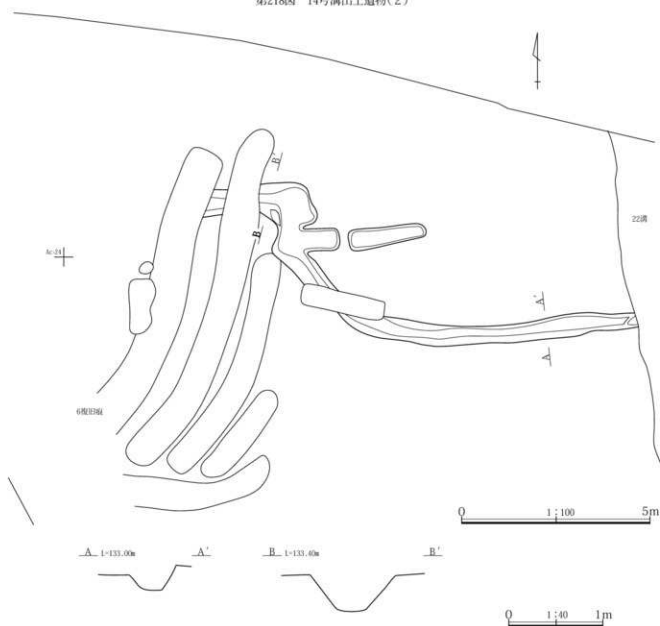


0 1:3 10cm

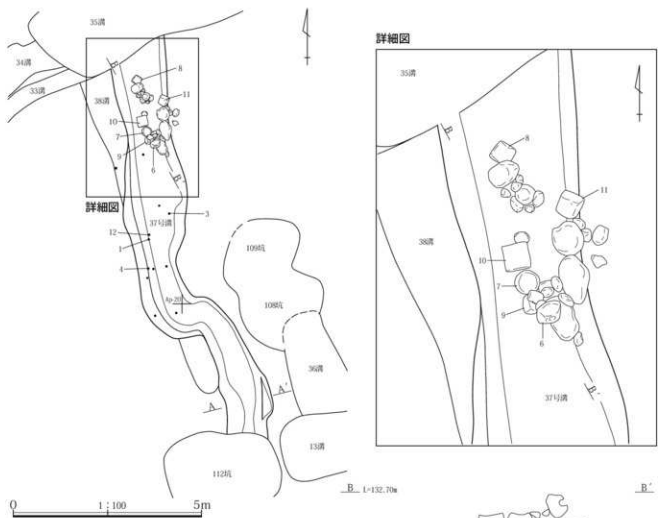
第217図 14号溝・出土遺物(1)



第218図 14号溝出土遺物(2)



第219図 27号溝



37号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 Va層土とⅡ層土ブロックの混土。
- 2 暗褐色土 Va層土主体で、粗粒砂の層を挟む。
- 3 黄褐色土 Ⅱ層土(粘質土)で、ややしまりが強い。



1 (1/3)



5



1, 2



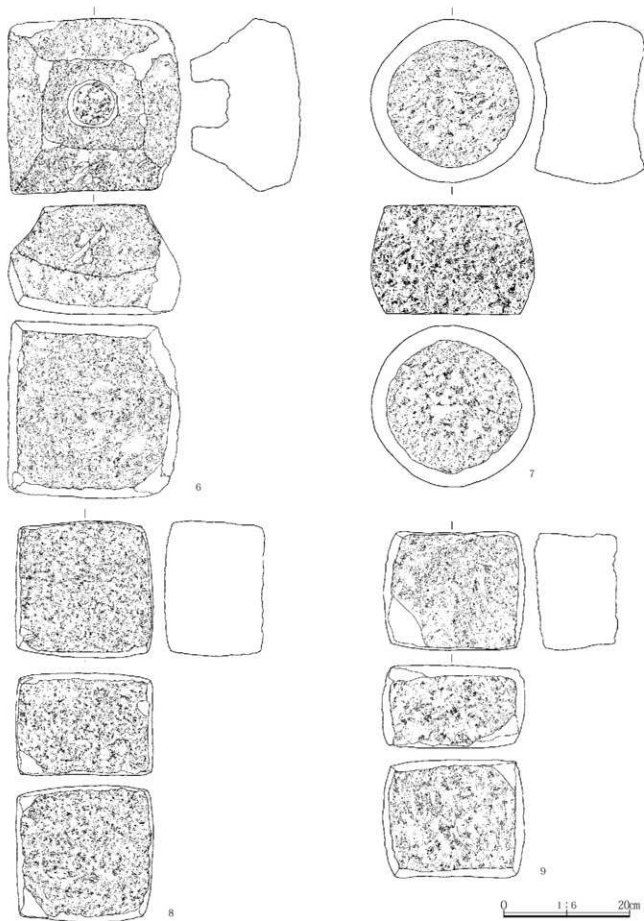
3



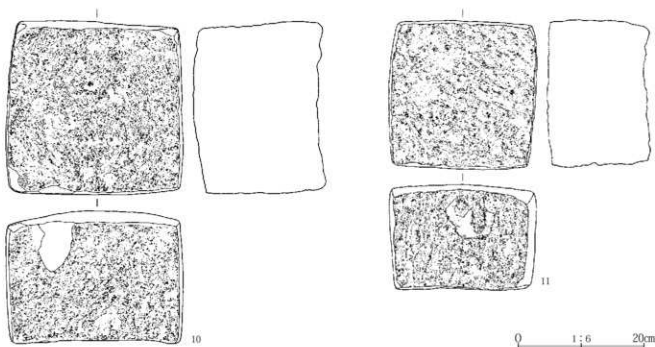
4

0 1:4 10cm

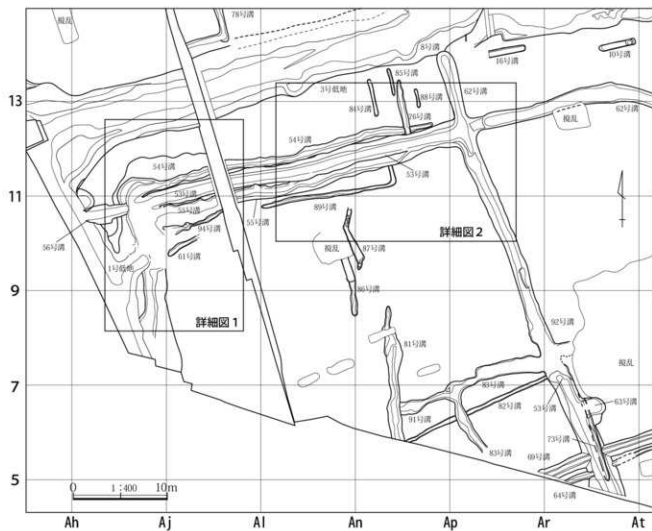
第220図 37号溝・出土遺物(1)



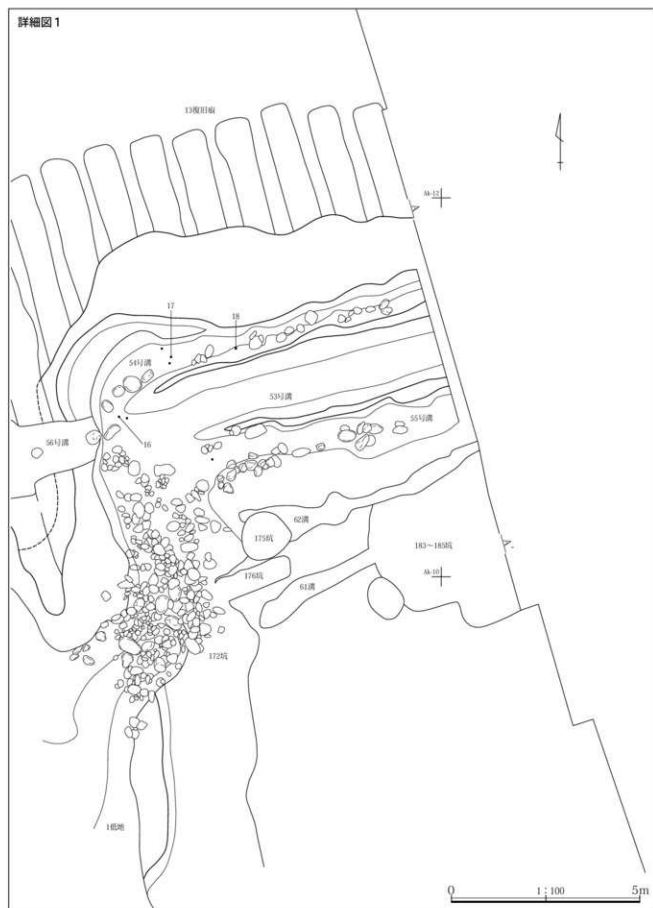
第221図 37号溝出土遺物(2)



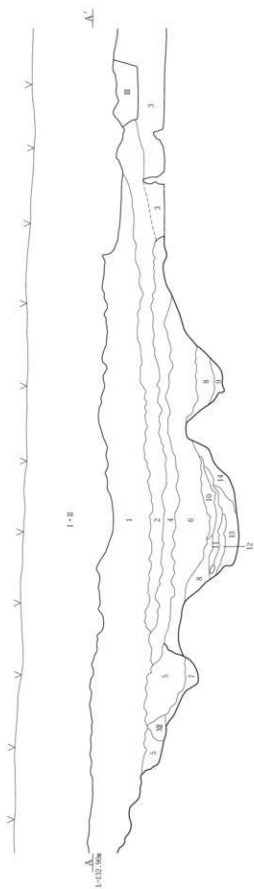
第222図 37号溝出土遺物(3)



第223図 53・54・55号溝全体図



第224図 53・54・55号溝詳細図1



53・55号溝 A-A'

- 1 明褐色土 ニッ岳系輝石・As-Cを少量含む。
- 2 明褐色土 1層に類似するが、ニッ岳系輝石・As-Cの含有量が少なく、酸化鉄をごくわずかに含む。
- 3 明褐色土 As-C・酸化鉄・燧層土をわずかに含む。
- 4 明褐色土 ニッ岳系輝石・As-Cをわずかに含む、燧層土をブロック状にごくわずかに含む。
- 5 黒褐色土 ニッ岳系輝石・As-Cを少量含む。
- 6 明褐色土 燧層土をブロック状に少量、ニッ岳系輝石・As-C・灰色シルト質土をわずかに含む、酸化鉄をごくわずかに含む。
- 7 明褐色土 燧層土の混土。
- 8 明褐色土 燧層土を含み、全体に砂質。
- 9 明褐色土 燧層土・黒色砂質土・礫の混土で、酸化鉄を含む。
- 10 灰色シルト 酸化鉄をわずかに含む。
- 11 明褐色土 9層に類似するが、燧層土が少なく、黒色砂質土が多い。
- 12 明褐色土 燧層土を含み、灰色シルトをブロック状にわずかに含む、全体に砂質。
- 13 灰色シルト 酸化鉄をわずかに含む、明褐色土が層状に入る。
- 14 灰色シルト 酸化鉄を少量含む、燧層土をブロック状にわずかに含む。

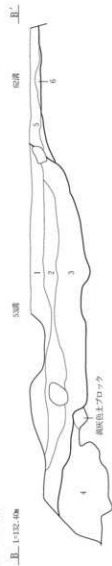
53号溝



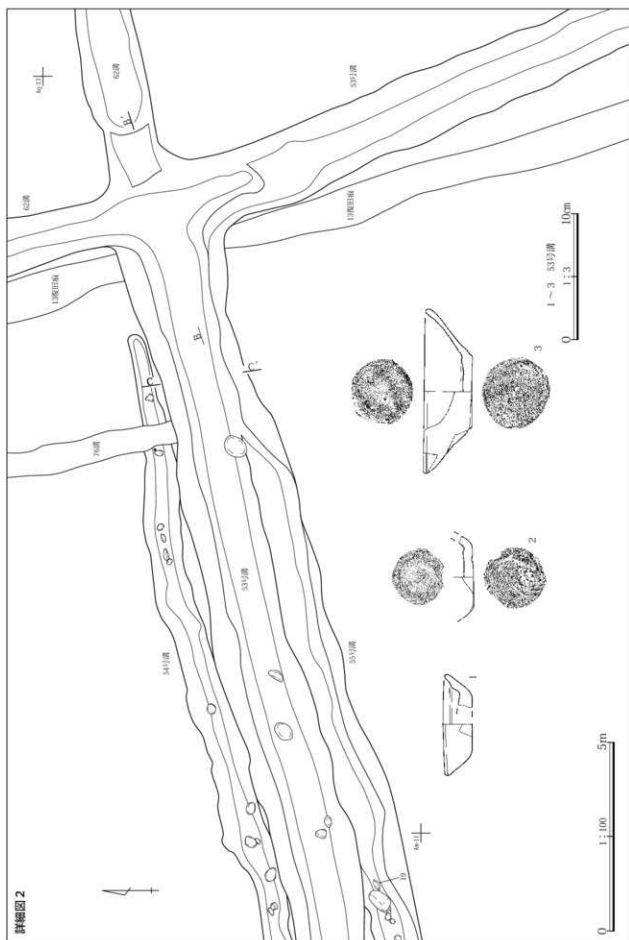
53・62号溝 B-B'

- 1 灰褐色土 砂粒を含む灰褐色粘質土主体。
- 2 灰褐色土 砂粒を含む灰褐色粘質土と砂層が層状。
- 3 明褐色土 砂粒を含まないシルト質土。
- 4 明褐色土 3層のプロックと黄灰色土・砂の混土。
- 5 灰褐色土 As-Cを含む明褐色土と灰褐色土・ブロックの混土。
- 6 褐色土 燧層土主体。

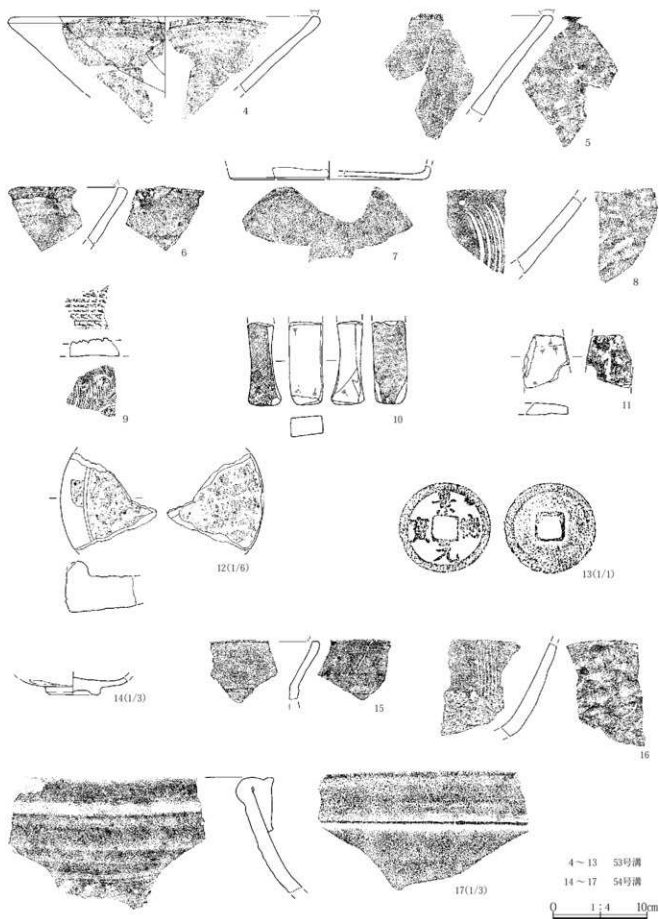
53・62号溝



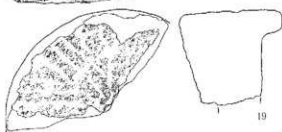
第225図 53・54・55・62号溝土層断面図



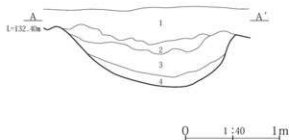
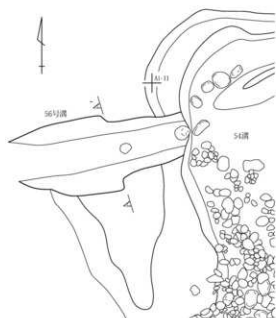
第226図 53・54・55号溝詳細図2・出土遺物



第227図 53・54号溝出土遺物

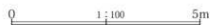


第228図 54・55号溝出土遺物



56号溝 A-A'

- 1 褐色土 黄色粒をわずかに含む。
- 2 褐色土 灰色シルトの混入。
- 3 灰色シルト 酸化鉄を含む。
- 4 灰色シルト 灰白色粘質土・酸化鉄を含む。

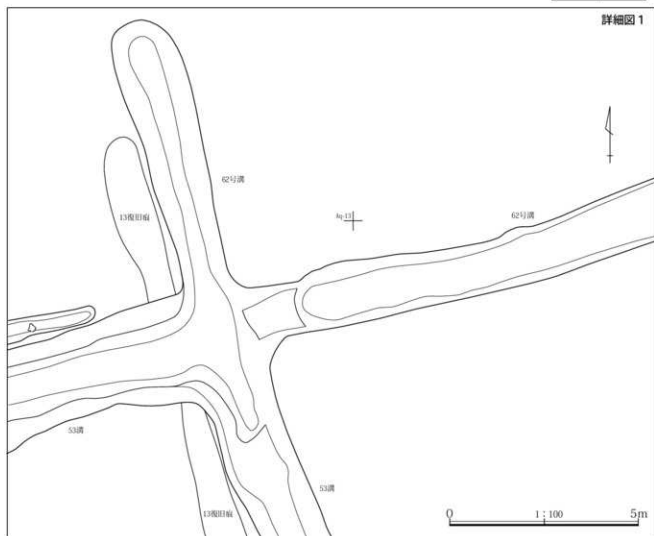
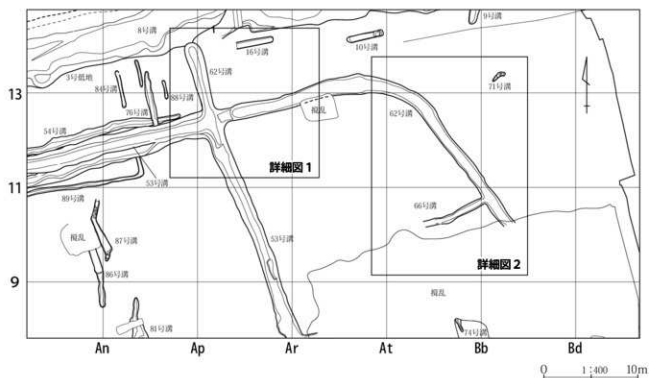


第229図 56号溝



第230図 62号溝出土遺物

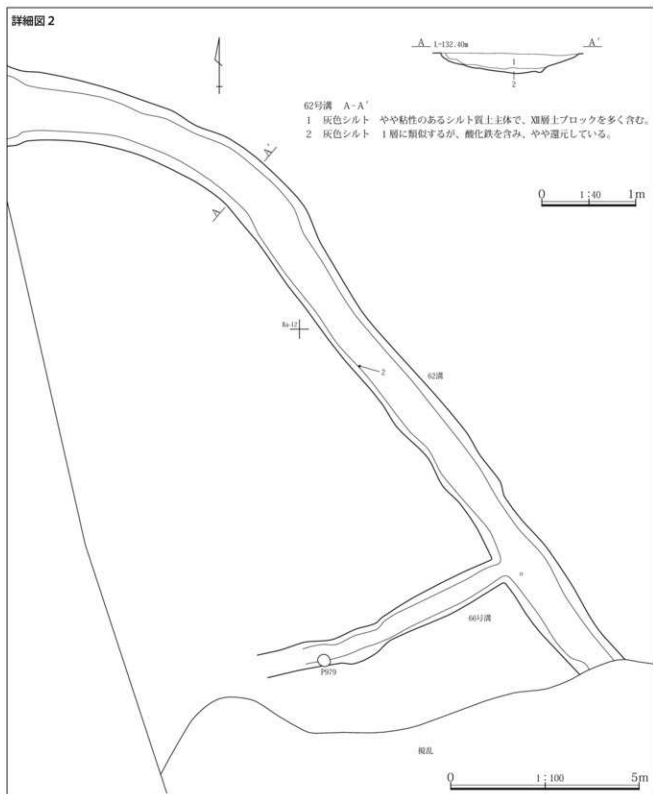
第5章 2面の調査（中世～古墳時代後期）



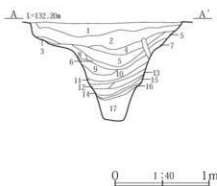
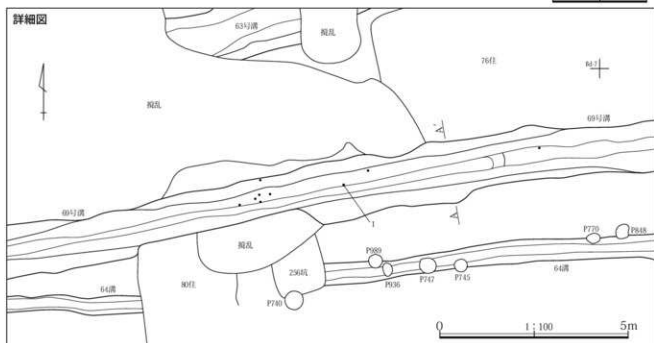
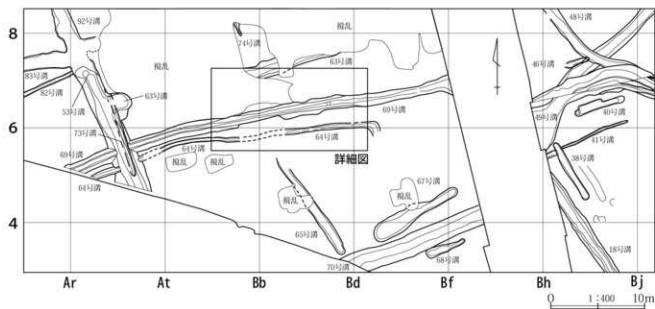
第231図 62号溝(1)

方向に走行する鍋底状の断面形状を有する比較的規模の大きな溝であることがわかった。調査区南端の狭い範囲での検出であるため他の溝との関係を直接的に確かめることはできなかった。東側に延びていけば、田口下田尻遺跡1区の18号溝と重複することになるが、この地点で

規模・形状の異なる溝の重複は認められず、まして70号溝の延長上に溝は検出されていないことから、市道下で走行方向を変えている可能性が高い。西側の溝で並行し規模・形状の異なる69号溝などに連続することは考えにくく、最も可能性の高いのは53号溝であろう。



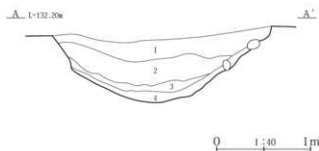
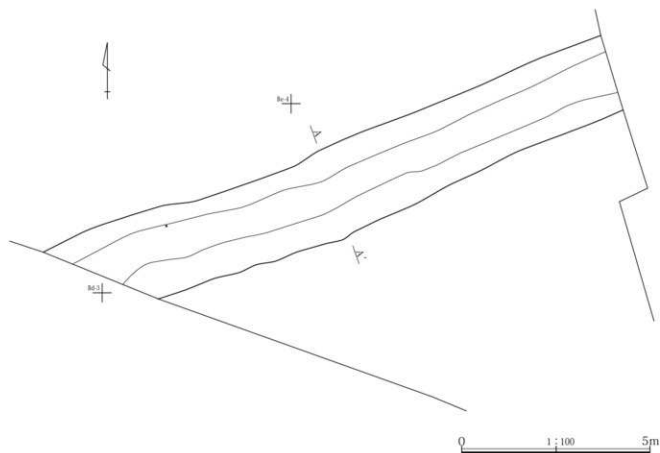
第232図 62号溝(2)



69号溝 A-A'

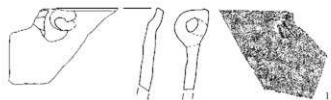
- 1 灰褐色土 B混土。
- 2 暗褐色土 B混土とAs-Cを含み、粘性が強い。
- 3 暗褐色土 B混土とX層土の大粒を少量含む。
- 4 暗褐色土 2層に類似するが、ややAs-Bの含有量が少ない。
- 5 灰褐色土 灰褐色シルト質が縮状に入り、As-Cを含む。
- 6 暗褐色土 As-Cを少量含む、わずかに粘性が強い。
- 7 黄褐色土 X層土主体。
- 8 暗褐色土 As-B・C混土の暗褐色土主体で、X層土相当の粒子を含む。
- 9 暗褐色土 C混土でやや粘性が強い。
- 10 暗褐色土 C混土とB混土。砂質土が縮状に入る。
- 11 暗褐色土 10層に類似するが、砂質土を含まない。
- 12 暗褐色土 C混土で、やや粘性がある。
- 13 暗褐色土 C混土主体で、砂質土が帯状に含む。
- 14 暗褐色土 C混土で、灰褐色シルト質を含む。
- 15 暗褐色土 地山の茶褐色シルト粒を多量に含む、しまりが弱い。
- 16 暗褐色土 As-Cを少量含む暗褐色土主体で、地山の茶褐色シルト粒を少量含む。
- 17 茶褐色土 X層土主体で、暗褐色土ブロックを多量に含む。

第233図 69号溝



70号溝 A-A'

- 1 灰黄褐色土 礫を多く含み、畑層上ブロックを少量、ニッ岳系軽石をわずかに含む。
- 2 灰黄褐色土 畑層上ブロックを斑状に含み、As-Cを少量、礫をわずかに含む。
- 3 暗褐色土 畑層上ブロックを少量含み、礫をわずかに、As-C・炭化物の微粒をこくわずかに含む。
- 4 暗褐色土 3層に類似するが、砂質土を多く含む。



0 1:4 10cm

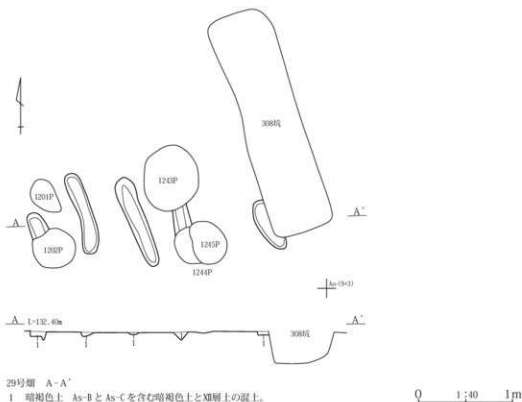
第234図 70号溝・出土遺物

(2) 畑

29号畑(第235図 P L.50)

位置: An-9グリッド 検出サク数: 5条 規模: (0.27) ~ 0.99m × 0.15m 残存深度: 0.04 ~ 0.17m サク間幅: 0.36 ~ 0.73m サク方位: N-22°-W 埋没土: As-B, As-Cを含む暗褐色土とⅫ層土の混土。遺物: なし 重複: 308号土坑に東側が削平されている。所見: Ⅶ層土中で断片的に検出したものであり、畑の全体は判

然としない。サク間幅は計測値に開きがあるが、0.73mの間隔の部分については、間に1条のサクがあったと想定すると、ほぼ0.36mのサク間幅になる。他の時期の畑と同様に、検出された部分はサクの最深部分でであったものと思われる。当該時期の畑は他に検出されていないが、田口下田尻遺跡でも溝として報告した中に耕作痕跡が含まれており、遺構の上では明確に見えてこないものの、各所に畑が営まれていたものと思われる。



第235図 29号畑

(3) 墓坑

3号土坑(第236図 P L.50)

位置: Bc-16・17グリッド 形状: 隅丸長方形 規模: 1.65m × 0.96m 残存深度: 0.21m 主軸方位: N-8°-W 埋没土: V層土とⅫ層土ブロックの混土。遺物: なし 重複: 2号住居と重複し、検出状況から2号住居→3号土坑である。所見: Ⅻ層土中における住居の確認に伴い検出した。上半は復旧痕によって削平されているため、残存深度はわずかである。骨の残存は痕跡的であったが、頭骨、腰骨と脊椎骨の一部、下肢骨の位置は

ほぼ特定できたことから、両手足を折り曲げて頭を北に向け、右脇を下にして墓坑内に直葬されたものと判断した。墓坑内からは黒色土器塚が1点出土しているが、重複する2号住居に帰属する遺物が墓坑の掘削に伴い混入したものであろう。

112号土坑(第236図 P L.50)

位置: A0-18・19グリッド 形状: 隅丸長方形 規模: 2.96m × 2.12m 残存深度: 0.38m 主軸方位: E-14°-N 埋没土: V層土とⅫ層土の混土。遺物: なし 重複: 27号溝と重複し、検出状況から27号溝→112号土

坑と思われる。 所見：やや濁ったⅩ層土中で確認したもので、骨が2カ所検出されたことから墓坑として報告したが、他の当該時期の墓坑と比較して規模が大きく、骨の出土が西寄りに偏っていることなど異質な部分がある。東西方向の土層を詳細に検討していないため断言はできないが、東西でやや形状の違いが認められることから、2基の土坑の重複を識別できなかった可能性が高い。したがって、墓坑となるのは西半部分で、長辺1.99m、主軸方位N-17°-Wとなる隅丸長方形の平面形であったものと推定される。骨の残存状況が悪く、埋葬状態は不明である。

213号土坑(第237図 P L.50・51・243)

位置：Bb・Bc-3・4グリッド 形状：隅丸長方形 規模：1.70m×1.23m 残存深度：0.48m 主軸方位：N-26°-W 埋没土：褐色土とⅩ層土ブロックの混土。遺物：「景德元宝」2枚、「天禧通宝」1枚(5)、「洪武通宝」1枚(6)、「永楽通宝」1枚(3)、「至道元宝」と見られる1枚(4)の6枚の銭貨が出土した。重複：なし 所見：Ⅹ層中で確認したもので、掘り下げた結果確認面から0.37mほどの位置にテラス状の平坦部が西側を除く3方に認められた。骨の出土は頭部と腰部と思われる位置に痕跡的に検出ただけで、他の部位は確認できなかった。銭貨は2カ所から出土しているが、頭骨の位置から胸元の位置にあったものと考えられる。

251号土坑(第238図 P L.51)

位置：Bb-4グリッド 形状：隅丸長方形 規模：1.56m×0.99m 残存深度：0.41m 主軸方位：N-17°-W 埋没土：上下2層に分層可能で、上層は、V・Ⅷ層土の混土主体で、Ⅹ層土が輪状に入っており、下層はⅩ層土の含有が多い。遺物：なし 重複：当該時期の遺構との重複なし。 所見：Ⅹ層土中で検出したもので、Ⅹ層土ブロックが塊状に入る範囲として明瞭に確認することができた。残存した骨は腰骨及び下股骨、上股骨の一部で、頭骨は残存していなかった。全体に骨の残りは悪く、出土状態のまま取り上げることができなかった。埋葬形態は、他事例と同様に両手足を折り曲げ、北頭位で右脇を下にしている。埋没上からは、東側から埋め戻されたような状況が窺え、棺があったような様子は窺えない。

283号土坑(第238・239図 P L.51・243)

位置：Ar-17グリッド 形状：隅丸長方形 規模：(0.72)m×0.98m 残存深度：0.30m 主軸方位：N-20°-W 埋没土：Ⅴ層土主体 遺物：「永楽通宝」2枚(1・2)、「聖宋元宝」1枚(3)、銭名不詳1枚の4枚の銭貨と、不明の金属製品が2点出土した。重複：115・116号住居と重複している他、当該時期の遺構との重複はない。 所見：Ⅹ層土中で住居の確認をした時点で存在に気付いたもので、締まりのないⅤ層土が明瞭に確認することができた。北側1/2ほどは道路下になるため調査することができなかった。検出された骨は下股骨の一部で、極めて脆弱な状態であったため、取り上げに際して出土状態を保つことができなかった。残りが悪いと判断したが、下股骨は曲げた膝を西に向けた状況が窺えるので、他の事例と同様に両手足を曲げて、頭を北に向け、右脇を下にして埋葬されたものと思われる。銭貨は、足と腕の間にまとまって出土しており、胸前の位置にあったものと考えられる。

338号土坑(第238・239図 P L.51・243)

位置：Ap-11グリッド 形状：隅丸長方形 規模：1.43m×1.12m 残存深度：0.38m 主軸方位：N-30°-W 埋没土：Ⅴ層土 遺物：「元祐通宝」2枚(5・6)、「聖宋元宝」1枚(4)などの6枚の銭貨が出土した。重複：当該時期の遺構との重複はない。 所見：Ⅹ層土中で平面確認を行い、Ⅹ層土ブロックを均一に含む締まりの弱い土の範囲として明瞭に確認することができた。埋葬の状態は、両手足を折り曲げ、頭を北にして右脇を下にした、他の事例と共通する埋葬形態である。頭骨、上肢及び下股骨は比較的良好な残存状態であったが、腰骨は痕跡が検出されただけで、脊椎骨にいたってはまったく残存していなかった。頭骨は埋葬後に首から落ちたものとみられ、不自然に土坑底面を向いていた。銭貨は腹部あたりの位置にまとまって出土した。

350号土坑(第240図 P L.51)

位置：Aq・Ar-9グリッド 形状：隅丸長方形 規模：1.62m×1.22m 残存深度：0.15m 主軸方位：N-22°-W 埋没土：Ⅹ層土主体で暗褐色土ブロックを含む。遺物：なし 重複：1面の343号土坑との重複で、南西部が削平を受けている。 所見：338号土坑と同様にⅩ層土中で平面確認を行ったにもかかわらず、残存深度は半分以下であり、当初から338号土坑と比較して浅く掘

削されていたものと考えられる。骨の状況は、頭骨・上肢骨・下肢骨が痕跡的に残ったもので、形のままに取り上げられるような状態ではなかった。下肢骨は折り曲げられた状況が窺えることから、埋葬状態は当該時期の他の事例と同様に埋葬されたものと思われる。

396号土坑(第240図 P L.51)

位置: Ap-10グリッド 形状: 円形 規模: 径0.62m
 残存深度: 0.07m 主軸方位: — 埋没土: V層土主体で、Ⅻ層土ブロックを多量に含んでいる。遺物: なし 重複: 当該時期の遺構との重複なし。所見: IX層土中で確認したもので、確認時点で骨が散在したように検出された。人骨であるとの確認があるわけではないが、埋没土の状況から埋葬されていると判断されたので墓坑として扱った。出土した骨は断片的であり、部位の特定もできないような状態である。墓坑の規模は成人が埋葬でき

ようなものではなく、乳幼児埋葬の可能性もあるものと考えたが、当該時期の幼児は田口下田尻遺跡205号土坑の事例のみ限りは、小規模ではあるが成人と同形態の墓坑に埋葬されており、396号土坑の例は異質である。

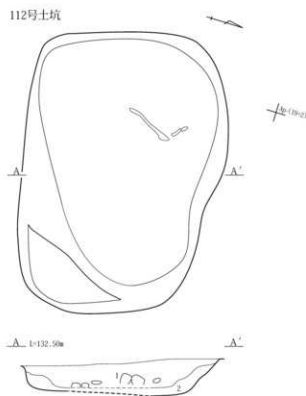
397号土坑(第240図 P L.51)

位置: Ap-10グリッド 形状: 円形 規模: 径0.58m
 残存深度: 0.07m 主軸方位: — 埋没土: V層土主体で、粘性・締まりがない。遺物: なし 重複: 当該時期の遺構との重複なし。所見: 規模・形態ともに396号土坑に類似している。骨の状態も同様であるが、出土数は格段に少ない。出土した骨が人のものであるかどうか判断できないほどに断片的であるが、396号土坑同様に埋没土は埋め戻されたような状況を呈していることから埋葬されたものと判断した。



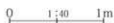
3号土坑 A-A'

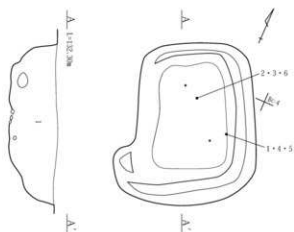
- 1 黒褐色土: 黒色粘質土とⅫ層土ブロックの混土。
- 2 暗褐色土: Va層土主体で、Ⅻ層土小ブロックを多く含む。しまりなし。



112号土坑 A-A'

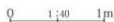
- 1 暗褐色土: Va層土主体で、Ⅻ層土(砂質)粒を含む。しまりなし。
- 2 暗褐色土: Ⅻ層土(砂質)小ブロックとⅠ層の混土。





213号土坑 A-A'

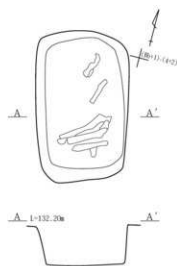
1 褐灰色土 2層土をブロック状に全体に含み、As-Cをわずかに含む。粘性ややあり。



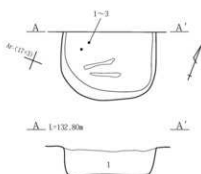
1~6 (1/1)

第237図 213号土坑・出土遺物

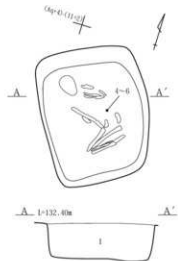
251号土坑



283号土坑



338号土坑

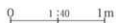


283号土坑 A-A'

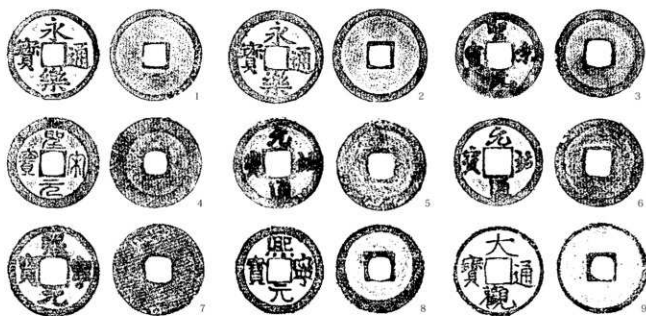
1 暗褐色土 B混主体で、2層土大粒を含む。

338号土坑 A-A'

1 灰黄褐色土 As-Cをわずかに含む灰黄褐色土で、2層土ブロックを全体に含む。



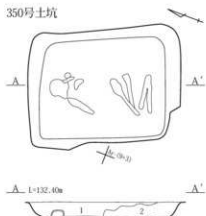
第238図 251・283・338号土坑



1~3 283号土坑、4~9 338号土坑 (1/1)

第239図 283・338号土坑出土遺物

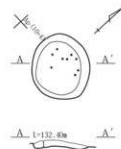
350号土坑



350号土坑 A-A'

- 1 黄褐色土 Ⅱ層土を主体で、暗褐色土ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 As-B?を含む暗褐色土主体で、地山の小ブロックを少量含む。

396号土坑



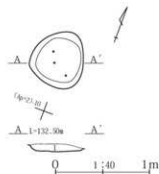
396号土坑 A-A'

- 1 褐色土 As-B・As-Cを含む暗褐色土主体で、Ⅱ層土粘質土小ブロックを多く含む。

397号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 As-B・As-Cを含む暗褐色土で、しまり・粘性なし。

397号土坑

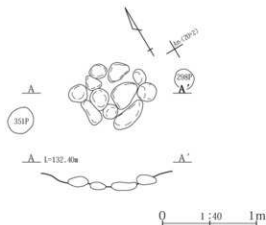


第240図 350・396・397号土坑

(4) 配石

2号配石(第241図 P.L.51)

位置: An-20グリッド 規模: 0.93m×0.72m 遺物:
なし 所見: 深さ0.12mほどの浅い窪み部分の底面に円形に礫が配置されており、礎石のぐり石のような状況であるが、礎石となるような礫は周辺からも出土していない。建物の基礎である可能性があるが、対応する同様な遺構が検出されていないため判断はできない。窪み部を埋めていた土層は、Ⅴ層土と見られるものであることから中世の所産と考えここで扱った。



第241図 2号配石

(5) 集石

3号集石(第242図 P L.52)

位置:A1・Am-16グリッド 規模:1.55m×1.17m 遺物:
なし 所見:大小の礫が重なるように南北に長軸を持つ
楕円形の範囲に集積されたものである。下部に土坑状の
掘り込みは検出されておらず、平坦面に礫が集積され
たものであろう。出土遺物が皆無であるため時期の特定が
し難いのであるが、礫間に入った土がV層土相当と見ら
れることから中世の所産と判断しここで扱った。礫は前
述のように集積されたもので、配石されたような状況は
認められない。

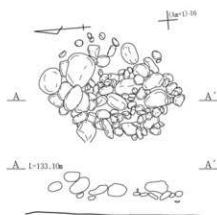
4号集石(第242・243図 P L.52・244)

位置:Aq・Ar-7グリッド 規模:2.10m×2.50m 遺物:
礫に混じって15～16世紀代の在地系すり鉢(5)、内耳
鍋(1～4・6)が出土しているが、いずれも破片の状
態である。石製品では、茶臼の上下(8・9)、下臼(10)、
石鉢(7)などが出土した。 所見:大小の礫が上下にや
や幅を持った出土状況であり、本来は土坑状の掘り込み
内に集積された可能性があるが、掘り込みを検出するこ
とはできなかった。礫間にはⅧ層土を主体とするもの
であったが、出土遺物から中世の所産であることは確実
である。前述のように礫は集積された状況であり、配石
された可能性はないものと考えられる。

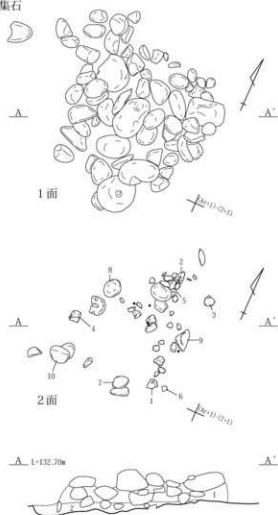
5号集石(第243・244図 P L.52・244)

位置:Ap・Aq-7グリッド 規模:1.75m×5.30m
遺物:時期を特定し得るような陶磁器の出土は見られな
かったが、上臼が一点(11)出土した。 所見:带状に礫
が集積されたものであり、西側に小礫がやや集中する傾
向がある。写真では長楕円形の掘り込みがあるように見
えるが、明確に検出されたものではなく集石の範囲を明
瞭に出すために掘り窪めてしまったものである。遺物出
土が無いため時期が捉えにくい、礫間の土にV層土
(As-B混)が認められることから中世の所産である可能
性が高いためここで扱った。4号集石同様に配石されたよ
うな状況を窺うことはできず、基本的には邪魔な石を片
づけたものと見るのが妥当であろう。

3号集石



4号集石



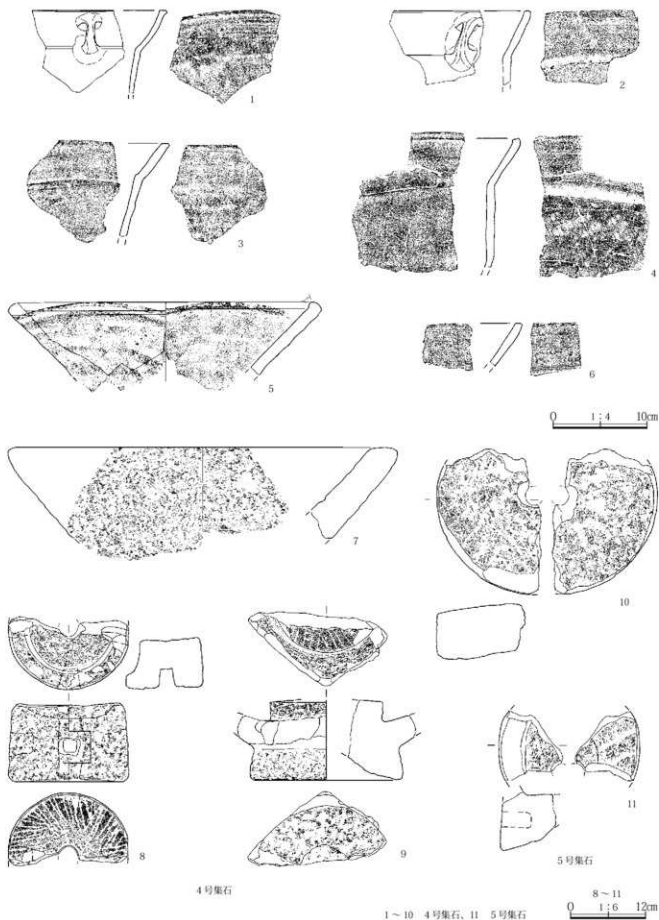
4号集石 A-A'

- 1 褐色土 酸化鉄を含む褐色土主体で、As-Cと二ッ岳系軽石を微量に含む。
- 2 灰黄褐色土 酸化鉄を含んだ灰黄褐色土で、As-Cと二ッ岳系軽石を微量、炭化物・焼土の微粒子をごくわずか含む。

0 1:40 1m

第242図 3・4号集石

第5章 2面の調査（中世～古墳時代後期）

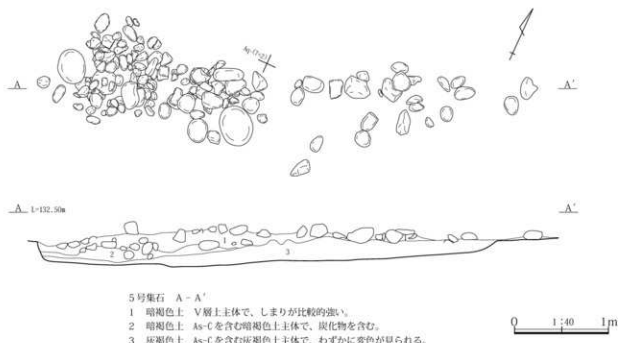


4号集石

1～10 4号集石、11 5号集石

5号集石

第243図 4・5号集石出土遺物



- 5号集石 A-A'
- 1 暗褐色土 V層土主体で、しまりが比較強い。
 - 2 暗褐色土 As-Cを含む暗褐色土主体で、炭化物を含む。
 - 3 灰褐色土 As-Cを含む灰褐色土主体で、わずかに変色が見られる。

第244図 5号集石

(6) 土坑(付図5)

当該時期とした土坑は、As-Bを含有することを主な根拠にして判断したが、必ずしもAs-Bの含有が明確でないものについても2面II期を特徴付ける二ッ岳系軽石及びAs-Cを含む暗褐色土や3面を特徴付けるAs-Cを含む黒褐色土を主体とする埋没土と異なり、また、1面に特徴的な灰色粘質土または灰褐色土などが混入していないものについて当該期と判断したものもある。平面形態は楕円形及び隅丸長方形、円形、不整形と多様な状況であり、また、埋没土及び埋没の状況にも違いが認められることから、単一の用途で掘削されたものでないことは明らかである。埋没状況では、地山となるX層土ブロックなどを均一に含み、しまりのないものが目立っており、埋戻されたものが多いことが傾向として捉えられる。しかし、埋戻された土坑であっても、土坑墓のように歯骨や関連遺物の出土から性格を特定できるものは少ない。当遺跡における土坑の分布は、建物による大規模な攪乱や復旧痕によって削平されたものも予測されることから、明確な傾向を捉えることは難しいのであるが、大まかな傾向としてみると以下の通りである。北側のI・III区においては、59・70号土坑のような円形の土坑や、78・122号土坑などの楕円形または隅丸長方形の比較的

小規模な土坑が散在しており、これに対して、V・VI区の中ほどと南寄りには226・383号土坑などの隅丸長方形の土坑が比較的集中しており、北側に比較して中ほどから南寄りに密集する傾向が強い。特に、V区の南端付近には211・233・371号土坑のような長辺が2.5mを越えるような比較的大規模な土坑が含む集中個所があることが大きな特徴である。211号土坑のような大規模な土坑については、方形竪穴などと呼ばれている遺構との関連も考慮する必要があるものと考えている。もう一つの傾向として、中ほどの土坑集中個所には338・350号土坑、南寄りの集中個所には213・251号土坑などの土坑墓が検出されていることが上げられる。土坑墓については、調査段階では歯骨の検出や墓を想起させるような遺物出土、及び人為的埋没などを根拠として判断していたが、土坑墓と判断しなかった330・342・349・374号土坑などは、土坑墓と類似する規模と長軸方位を有しており、土坑墓の可能性も想定しておきたい。

以上の傾向を踏まえて、本来であれば土坑について個別に調査所見などを詳細に記載すべきであるが、検出基数が多く紙数にも限りがあることから個別土坑の記載をせずに計測値などの基本的な項目について一覧を掲載し、特徴的なものについては備考欄に簡潔な記載をした。

(7) ビット(付図6・7 P.L.53)

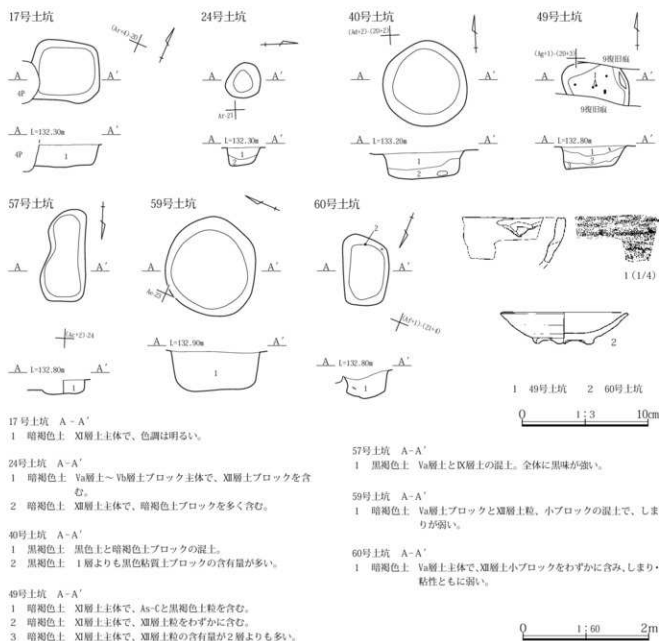
検出したビットについては、埋没土などの状況や平面形態などの特徴から当該時期と判断したものは多い。特に方形平面を有するビットについては、他遺跡における調査事例からも建物の柱穴である可能性が高いものである。したがって、本来であればビットの配置を検討し、建物の復元を試みるべきであるが、当遺跡の特徴として復旧痕が地山の深くまで及んでいる個所が多く、本来存在したであろうビットが削平され残存していないことが

予測されることから、建物の復元までの検討を行わなかった。検出したビットの分布傾向は、付図6・7に示したように数カ所の集中部分が存在するように見える。例えば、I区の中ほどとIV・VI区南寄り、V区中ほどと南寄りなどである。しかし、V区の中ほどと南側の集中部分との間にある空白部分に代表されるように、こうした部分は、現代の建物による掘削や、溝などの遺構によって削平された部分であり、本来はこうした空白部分にも多くのビットが存在したものと考えられる。

第6表 田口上田尻遺跡 I期土坑一覧表

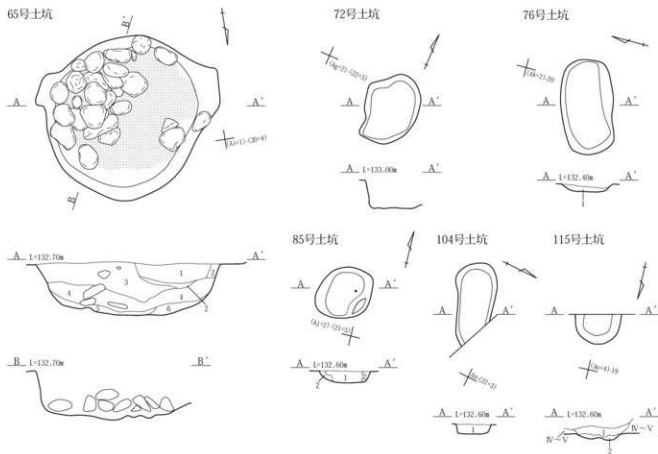
番号	緯度	P.L.	グリッド	平面形	規模(m)	主軸方位	出土遺物	埋没土	備考
17	土坑	245	52	Ar-19	楕丸形	1.06×0.95×0.35	E-20°-N		
24	土坑	245		Aq-20・21	不整形	0.58×0.51×0.29			
40	土坑	245		Ad-20	円形	1.35×-×0.40			
49	土坑	245		Ag-20	楕丸形?	1.04×(0.53)×0.35	E-0°-N	在地焙烙	
50	土坑			Ag-19	不明	1.35×(0.46)×0.23			
57	土坑	245		Ae-23	楕丸長方形	1.46×0.57×0.21	N-0°-E		
59	土坑	245	52	Ad・Ae-22・23	円形	1.57×-×0.62			V
60	土坑	245	52・244	Af-21	楕丸長方形	1.14×0.72×0.40	N-28°-W	白磁	
65	土坑	246	52	Al-20	円形	2.88×-×0.83			
70	土坑			Af・Ag-20・21	不整形円形	(1.22)×1.01×0.19			
72	土坑	246		Ag-22	不整形円形	1.16×0.86×0.43	N-0°-E		
73	土坑			Af-23	不整形	(0.82)×(0.51)×0.06	E-0°-N		
76	土坑	246	52	Ak-19	楕円形	1.50×0.82×0.11	E-18°-N		
85	土坑	246	52	Aj-21	不整形	0.88×-×0.19			
93	土坑			Aj-22	楕円形	(0.90)×1.14×0.37			V・VII・XII
94	土坑		52	Ak-22	楕丸長方形	0.72×0.54×0.20	N-27°-W		V・XII
101	土坑			Aa-20・21	楕円形	1.00×0.77×0.35	E-27°-N		
104	土坑	246		Aa-22	楕円形	(1.25)×0.54×0.15	E-20°-N		
108	土坑			Ap-19・20	不整形	2.17×-×0.22			V・XII
109	土坑			Ap-20	不整形	2.03×-×0.28			V・XII
115	土坑	246		Ao-18	楕円形	(0.47)×0.73×0.20	N-13°-W		
116	土坑	246		Ao・Ap-20・21	不整形	(4.12)×3.86×0.27			
120	土坑			Ae・Af-23	楕円形	1.37×(0.83)×0.33	N-4°-W		
122	土坑	247		Ae-24	楕丸長方形	1.47×0.61×0.29	N-15°-W		
128	土坑			Ao・Ap-19	楕円形	0.83×0.70×0.28	E-30°-S		
135	土坑			Ak-22・23	不整形	1.74×(0.28)×0.38			
140	土坑			Ae-22	楕円形	(1.15)×0.94×0.30	E-20°-N		
141	土坑			Ak・Al-22	不整形	(0.96)×(0.47)×0.12			
142	土坑			Al-21・22	不整形	0.55×(0.33)×0.32			
143	土坑			Ak・Al-21・22	不整形	(1.17)×(0.43)×0.27			
173	土坑		52	Af-17	不整形	0.78×(0.45)×0.25			
174	土坑		52	Af-17	不整形	2.33×1.56×0.45			羅石
177	土坑			Af-17	楕円形	1.11×1.00×0.63	N-23°-E		
181	土坑	247		Ak・Al-8	楕丸長方形?	1.56×(0.87)×0.45	N-17°-W		
211	土坑	247	52	Ba-4・5	楕丸長方形	3.05×2.30×0.55	N-29°-W		
226	土坑			Bd-7	長方形	2.27×1.32×0.17	N-8°-W		
233	土坑	247	52	Bb-5	楕丸長方形	2.59×2.44×0.56	E-18°-N		
242	土坑	247	53	As-11・12	楕丸長方形	1.56×0.78×0.36	N-27°-W	中国磁器	VII・XII
243	土坑	247		As・At-11・12	楕丸長方形	1.20×0.98×0.48	N-45°-E		褐色土
244	土坑	247		At-11・12	楕丸長方形	1.35×0.66×0.23	N-43°-E		
269	土坑			Bb-3・4	不整形	(1.52)×(1.46)×0.20			
306	土坑	248	53	Ao-8	円形	1.28×-×0.45			
307	土坑	248	53	Ao-8	楕丸長方形	2.60×1.26×0.24	N-21°-W		
311	土坑	248		Ar-9・10	楕円形	1.10×0.70×0.10	N-24°-W		
327	土坑	248		As-11	楕円形	1.30×0.83×0.09	E-11°-N		
328	土坑	248	53	As-12	楕丸長方形	2.14×0.73×0.23	N-25°-W		
329	土坑	248		As-10	楕円形	1.00×0.65×0.10	N-29°-W		
330	土坑	248		As-10・11	楕丸長方形	0.66×0.62×0.05	N-27°-W		
342	土坑	248	53	Ap-12	楕丸長方形	1.61×1.12×0.33	N-12°-W		
349	土坑	248		Ap-11・12	楕丸長方形	1.55×0.87×0.67	N-15°-W		

番号	棟四	P.L.	グリッド	平面形	規模(m)	主軸方位	出土遺物	埋没土	備考
358	土坑	248	244	At-4	楕丸長方形	(1.40)×0.54×0.17	N-15°-W	中国白磁	
359	土坑			At-4	円形	1.01××0.12			
360	土坑	249		At・Ba-4	楕丸長方形	1.75×1.10×0.22	E-0°-N		
361	土坑			At-4	楕円形	0.55×0.40×0.35	N-5°-W		
362	土坑	249		As・At-4・5	不整形	×××0.17			
363	土坑			As・At-4・5	不整形	×××0.21			
364	土坑			As・At-4・5	楕円形	1.39×1.15×0.40	N-5°-W		
366	土坑			Ba-4	不整形	2.45×(2.02)×0.35			
367	土坑			Ba-3・4	楕円形?	1.15×(0.51)×0.20			
371	土坑			As・At-4・5	楕丸長方形	2.53×2.21×0.30	N-21°-W		
374	土坑	249		Ar-12	楕丸長方形	1.97×1.30×0.33	N-18°-W	在地内耳飾	
376	土坑	249		Al-9	円形	1.14××0.49		金属製品	
382	土坑	249		Aq-5・6	楕円形	1.60×0.73×0.32	E-29°-N	在地片口	
383	土坑	249	53	Aq・Ar-5	楕丸長方形	1.74×1.20×0.16	N-20°-W		
386	土坑			Am-9	不整形円形	0.55××0.12			
387	土坑			Al・Am-8・9	不整形円形	0.70××0.19			
402	土坑	249	53	Al-9・10	楕丸長方形	1.77×0.99×0.44	N-7°-E		
407	土坑			Am-9	楕丸長方形	1.63×0.90×0.30	N-7°-W		



第245図 17・24・40・49・57・59・60号土坑・出土遺物

第5章 2面の調査(中世~古墳時代後期)



65号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 畑層土粒と二ッ岳系軽石を少量含む。
- 2 暗褐色土 畑層土粒を多く含む、黄色味が強い。
- 3 暗褐色土 二ッ岳系軽石を多く含む砂質土。
- 4 暗褐色土 畑層土粒を含み、3層よりもさらに砂質。
- 5 暗褐色土 Va層土・畑層土主体で、黒色灰を含み、しまりが弱い。
- 6 黄褐色土 畑層上下の砂層。

76号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Va層土とⅡ層土の混土で、粘性が強い。

85号土坑 A-A'

- 1 灰褐色土 Va層土?主体で、灰白色粘質土ブロックとAs-Cを少量含む。
- 2 灰褐色土 1層と灰白色粘質土ブロックの混土。

104号土坑 A-A'

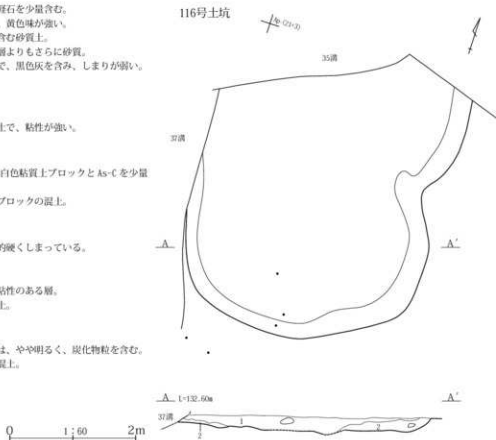
- 1 暗褐色土 Va層土主体で、比較的硬くしまっている。

115号土坑 A-A'

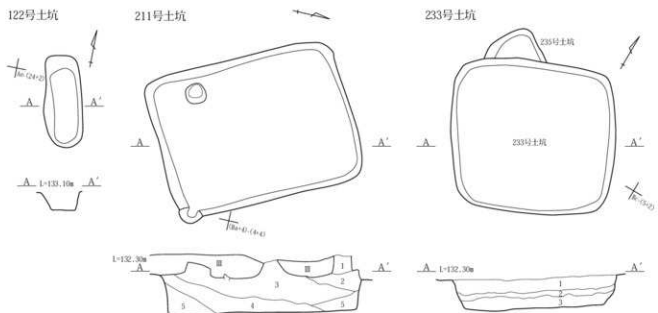
- 1 暗褐色土 Va層土主体で、やや粘性のある層。
- 2 暗褐色土 Va層土と畑層土の混土。

116号土坑 A-A'

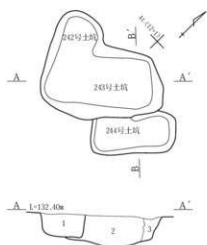
- 1 暗褐色土 Va層土主体で、色調は、やや明るく、炭化物粒を含む。
- 2 暗褐色土 Va層土と畑層土粒の混土。



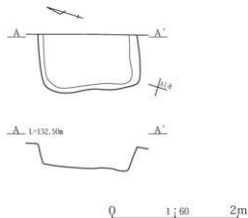
第246図 65・72・76・85・104・115・116号土坑



242・243・244号土坑



181号土坑



211号土坑 A-A'

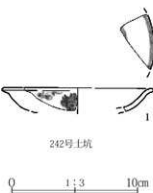
- 1 灰黄褐色土 As-Cと二ッ岳系軽石をわずかに、畑層土小ブロックを斑状に、上面に酸化鉄をわずかに含む。
- 2 灰黄褐色土 1層に類似するが、酸化鉄は含まない。
- 3 褐色土 褐色土上主体で、As-Cを少量、二ッ岳系軽石をわずかに、畑層土ブロックを全体に斑状に含む。
- 4 褐色土 3層に類似するが、As-Cと二ッ岳系軽石ともにごくわずかに含む。
- 5 黄褐色土 畑層土主体で、褐色土粒を斑状に含み、しまりがやや弱い。

233号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 畑層土大ブロックを多量に含み、As-Cを少量、二ッ岳系軽石をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 畑層土大ブロックを斑状に含み、As-Cをわずかに含む。
- 3 黄褐色土 暗褐色土小ブロックを少量含み、As-Cをごくわずかに含む。

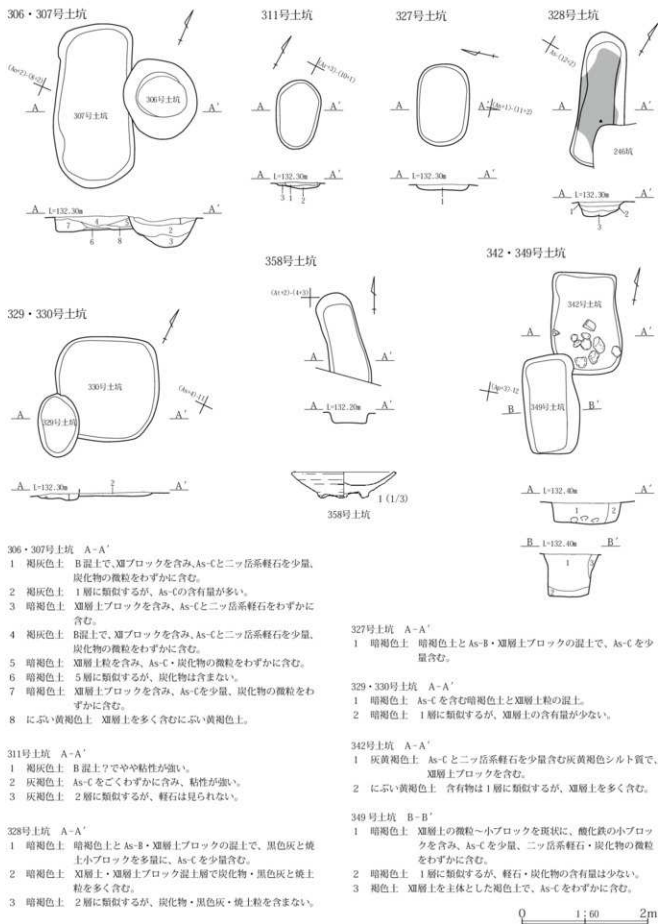
242・243号土坑 A-A'

- 1 褐色土 畑層土ブロックを全体に、As-Cと二ッ岳系軽石をわずかに含む。
- 2 褐色土 畑層土粒を含み、白色・黄色軽石微粒をごくわずかに含む。
- 3 に近い黄褐色土 畑層土との混上で、白色・黄色軽石微粒をごくわずかに含み、しまりがやや弱い。



第247図 122・181・211・233・242・243・244号土坑・出土遺物

第5章 2面の調査(中世~古墳時代後期)

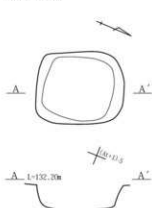


第248図 306・307・311・327～330・342・349・358号土坑・出土遺物

360号土坑



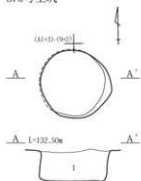
362号土坑



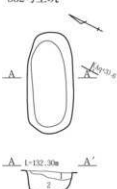
374号土坑



376号土坑



382号土坑



383号土坑



402号土坑



0 1:50 2m

360号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Ⅱ層上をブロック状に含み、As-Cと二ヶ岳系軽石をわずかに、炭化物の微粒をこくわずかに含む。

374号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 As-Bを含む暗褐色土主体で、しまりが弱い。
2 暗褐色土 As-CとⅡ層上大粒を含む暗褐色土主体で、やや粘性がある。
3 暗褐色土 2層に類似するが、硬くしまりが強い。
4 暗褐色土 As-Cを含む暗褐色土とⅡ層上大粒の混上。

376号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土 As-Bを多量に含む黒褐色土で、Ⅱ層上粒を含み、しまりが弱い。

382号土坑 A-A'

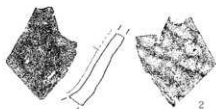
- 1 暗褐色土 Ⅱ層上ブロックを含み、As-Cを少量、炭化物の微粒をこくわずかに含む。
2 暗褐色土 1層に類似するが、As-Cの含有量は少なく、シルトブロックを全体に斑状に含む。

383号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 B混上で、As-Cを多く含み、Ⅱ層上ブロックを含む。

402号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Ⅱ層上をやや多く含み、As-Cをわずかに含む。
2 暗褐色土 As-Cを1層よりも多く含み、Ⅱ層上を斑状に含む。色調は1層よりも暗い。
3 暗褐色土 1層に類似するが、As-Cと二ヶ岳系軽石をわずかに含む。

1 374号土坑
2 382号土坑

0 1:4 10cm

第249図 360・362・374・376・382・383・402号土坑・出土遺物

第2項 田口下田尻遺跡

(1) 溝

5号溝(第250・251図 P.L.54)

位置: Bq～Bs-0～2グリッド 規模: (16.45)m×0.30m 残存深度: 0.09m 走行方位: E-40°-N 遺物: なし 所見: 調査区南東端に検出したもので、6～8号溝と重複しているが、埋没土が6号溝と類似しており、新旧関係を捉えることはできなかった。底面付近に薄い砂層が形成されており、通水された可能性がある。溝の走行は直線的であるが、国道17号の東側のIV区では延長上には同様の溝は検出されていない。走行方向が南側に振れているものの、規模や断面形状などが類似する51号溝が連続する可能性が高い。

6号溝(第250・251図 P.L.54)

位置: Bq-0～3グリッド 規模: (17.60)m×0.62m 残存深度: 0.22m 走行方位: N-1°-E 遺物: なし 所見: 調査区南東部に検出されたもので、北側は看板が設置されていたために、これより先は明らかにできなかった。底面付近に薄い砂層が形成されており、5号溝と同様に通水の可能性がある。

7号溝(第250・251図 P.L.54)

位置: Bq-0～2グリッド 規模: (8.50)m×0.63m 残存深度: 0.22m 走行方位: N-0°-W 遺物: なし 所見: 6号溝の東側に検出したもので、土層断面の観察で7号溝→6号溝であることが確認されている。北側にさらに延びていたものと考えられるが、6号溝との重複によって失われたものと思われる。

8号溝(第251図 P.L.54)

位置: Br-0～3グリッド 規模: (12.80)m×0.91m 残存深度: 0.28m 走行方位: N-4°-W 遺物: なし 所見: 6・7号溝と並行するように検出されたもので、埋没土は5・6号溝と類似しているものの、底面付近に砂層の形成は見られない。また、底面には平面形が半月形の工具痕を残しており、溝ではなく帯状に耕作された痕跡を溝として認識した可能性がある。

9号溝(第252図 P.L.54)

位置: Bk～Bp-16・17グリッド 規模: (26.35)m×0.80m 残存深度: 0.44m 走行方位: N-13°-W～E-12°-N 遺物: 灰軸陶器の破片が多数出土したが、当

該時期の遺物は皆無である。他に破片化した馬歯が1点出土した。所見: 調査区の北端に検出したもので、北端より5.35mほどの位置でほぼ直角に東へと走行方向を変えて国道17号下へと向かっている。国道を挟んで東側のV区で検出されている55号溝は、9号溝の延長線上にあり連続する可能性が高い。やや様相の異なる砂質土や細かな砂の堆積が見られることから、通水された可能性があるものの、直角に曲がっており本来通水を目的としたものとは考えにくく、区画として掘削されたものと考えるのが妥当であろう。埋没土上層にV層土が見られることから第1期に含めた。断面は逆台形状の部分と鍋底状を呈する部分があり一定していない。

11号溝(第253図)

位置: Bn・Bo-18・19グリッド 規模: (9.65)m×0.40～0.65m 残存深度: 0.12m 走行方位: N-22°-W～N-45°-W 遺物: なし 所見: 調査区北端に14号溝と並行するように検出された。途中で切れており、2条の溝として扱うべきであるかもしれないが、埋没土の共通性などから一連の遺構と判断した。南に向かうにしたがって幅は狭く、深さも浅くなっていることから、本来はさらに南側に延びていたものと考えられる。

12号溝(第253図 P.L.54)

位置: B1～Bp-13～15グリッド 規模: (19.40)m×1.63～4.11m 残存深度: 0.17m 走行方位: - 遺物: 灰軸陶器と須恵器の破片がわずかに出土した他、当該時期の遺物出土はなかった。所見: V層土上面で平面確認を行い、Va層土によって埋没して検出された。東西に走行し西側で南西方向に走行を変えている。東側は10号復旧痕によって削平されているが、重複する部分では幅が広がっていた。また、南西側で調査区際までは確認することができたが、南側調査区(Ⅲ区)では対応する溝は検出されなかった。同様に国道17号を挟んだIV区においても未検出である。走行方向はやや蛇行さみで底面は平坦であるが、途中で深さの変わる部分があるなど、区画としても水路としても決め手に欠ける遺構である。道の可能性も考えたが、硬化した面は検出されていない。

13号溝(第254図)

位置: Bp-16グリッド 規模: (2.80)m×1.05m 残存深度: 0.24m 走行方位: W-8°-N 遺物: なし 所見: 調査区東端に検出したもので、溝であるか断定はで

きないものの、断面形状などから溝と考えた。V層土で埋没しており、西側で浅くなり平面形が捉えにくくなることから、この位置で終わるものではなく、西側に延びていた可能性が高い。

15号溝(第254図 P L.54)

位置: Bk・B1-13・14グリッド 規模: (6.80)m×1.82m 残存深度: 0.17m 走行方位: N-20°-W 遺物: なし 所見: II区の南端に検出したもので、II期の3号道が下部に位置している。南側のIII区では対応する遺構が認識されていないが、I区北側の調査でII期3号道の上面に平行して類似の浅い溝が検出されており、III区にもあった溝が検出できなかったものと考えられる。3号道とほぼ平行しており、本来は溝として掘削されたものではなく、道の窪みにV層土主体の土が溜まったものを溝と認識してしまった可能性もある。

16号溝(第254図)

位置: Bp-3グリッド 規模: 2.11m×0.50m 残存深度: 0.16m 走行方位: N-10°-W 遺物: なし 所見: I面1号道と重複して検出したもので、V層土とVI層土の混土で埋没していた。検出部分は短く、溝と分類してよいものか判断に迷う遺構であり、掘り方が曖昧である点などを考慮すると中世以降の耕作痕跡の一部である可能性がある。

17号溝(第254図)

位置: Bo・Bp-3・4グリッド 規模: 4.36m×0.20~0.39m 残存深度: 0.26m 走行方位: N-33°-W 遺物: なし 所見: 途切れている3条を一連の遺構と認識し17号溝とした。16号溝の埋没土と同様の土で埋没している。ここでは走行方向を記載したが、やや湾曲しており掘り方も一定していないことなど16号溝と類似する点があり、中世以降の耕作痕跡の一部が残存したものである可能性がある。

18号溝(第255図 P L.54・55)

位置: Bh・Bj-2~5グリッド 規模: (17.80)m×1.20m 残存深度: 0.75m 走行方位: N-33°-W 遺物: 緑軸陶器の破片2点の他、灰軸陶器・須恵器の破片が多数出土したが、当該時期の遺物出土はなかった。所見: 調査区の南西部に位置しており、全域に復旧痕が掘削されていたことからX層土まで下げた時点で検出した。断面形状は葉研状を呈しており、調査区際の断面での計測

では、上端が1.20m、中段で0.50m、下端で0.25mである。埋没土は、V層土を主体としてII層土ブロックを含み全体にしまりが弱いもので、砂の堆積などは皆無であり通水された形跡はない。北側は市道下になるため先の繋がりを明らかにすることができなかったが、規模や断面形状など田口上田尻遺跡69号溝との共通性が認められ、市道下で90°西に走行方向を変えて69号溝に繋がりが、区画を構成するものと考えられる。

21号溝(第256図 P L.55・244)

位置: Bj・Bk-3グリッド 規模: (4.72)m×1.02m 残存深度: 0.31m 走行方位: N-28°-W 遺物: 石臼が1点出土した。所見: I区南側の調査で検出したもので、北側調査においては認識できなかったため、北にどの程度延びていたのか判断としない。55号土坑と重複しているが、土層断面で21号溝が新しい遺構であることが確認できた。走行方位が18号溝と類似しており、位置も比較的近いことなど関連する溝である可能性がある。

24号溝(第256図)

位置: Bo~Bq-1~5グリッド 規模: (1.60)m×0.30m 残存深度: 0.04m 走行方位: N-27°-W 遺物: 北寄りの43号溝として調査した部分で、14世紀代の古瀬戸おろし皿が出土した。所見: XI層土中で確認をしたもので、埋没土中にはAs-Cと砂を多量に含有しており、As-Bを認識することはできなかった。埋没土中の砂は、水の流れによって溜まった状況ではなく、南北に続く溝も検出されていないことから、区画を目的として掘削されたものと思われる。南側で17号住居と重複しており、住居の検出時点では溝との新旧関係が捉えきれなかったために、住居を先行調査する結果となったが、出土遺物の比較から17号住居→24号溝である。

33号溝(第257図 P L.55)

位置: Bp・Bq-4~8グリッド 規模: (22.34)m×0.25~0.78m 残存深度: 0.13m 走行方位: N-19°-E 遺物: なし 所見: 調査区東寄りに34~36号溝と一連で検出したもので、Va層土で埋没していた。埋没土を除去すると底面には半月形の工具痕が多数検出され、その中にもAs-B混土が入っていた状況から溝として掘削されたものではなく、一定の幅で連続的に耕作された痕跡を溝と認識してしまったものと考えられ、埋没土としたも

のは耕作土が残されたものと考えられる。また、南側で検出されている8号溝とは底面の状況が共通しており一連の遺構である可能性が高い。

34号溝(第257図 P.L.55)

位置: Bp-Br-4~8グリッド 規模: (22.38)m×1.01m 残存深度: 0.16m 走行方位: N-18°-E 遺物: 鉄滓が1点出土した。 所見: 北寄りの位置で2条が重複しているように見えるが一連の遺構として捉えた。底面の状況は33号溝と同様であり33・35・36号溝と一連の耕作痕跡と考えられる。

35号溝(第257図 P.L.55)

位置: Bq-Br-4~8グリッド 規模: (19.70)m×0.25~0.92m 残存深度: 0.17m 走行方位: N-24°-E 遺物: 鉄滓が1点出土した。 所見: やや弓なりになっており、北側は調査区外へと延びている。底面の状況が33号溝と同様であることから一連の耕作痕跡と考えられる。

36号溝(第257図 P.L.55)

位置: Bq-Br-5~7グリッド 規模: 12.05m×1.39m 残存深度: 0.08m 走行方位: N-24°-E 遺物: なし 所見: 33~35号溝と比較すると全長が短いものの、南北端ともに先細りに曖昧になっており、本来はさらに南北に延びていたものであろう。埋没土や底面の状況は33号溝と同様であり、一連の耕作痕跡と見られる。

37号溝(第258図 P.L.244)

位置: Bn-Bp-4~8グリッド 規模: (13.25)m×2.72~4.30m 残存深度: 0.10m 走行方位: N-14°-E 遺物: 埋没土中から鉄鏃(1)が1点出土した他、骨片が1点出土した。 所見: 1区北側の調査時に3号道上部のやや東寄りに平行して検出したもので、1区南側では対応する溝を確認することができなかった。掘り方は上端と下端の確定が難しいほどに緩やかなもので、15号溝と同様に溝として掘削されたものではない可能性がある。埋没土はV層土を主体とするものであり、15号溝の埋没土に類似しており、一連のものであろう。

38号溝(第255図)

位置: Bh-4・5グリッド 規模: 6.89m×0.90m 残存深度: 0.32m 走行方位: N-31°-W 遺物: なし 所見: 復旧痕が全面に掘削されていた場所であり、XI層土まで確認面を下げた時点で検出された。南北端ともに

明確に立ち上がっており、これより先にまで掘削されていたとは考えられない。埋没土は、V層土を主体としてXI層土ブロックが混入した締まりのない土であり、埋め戻されたような状況を示している。同様の埋没土で埋没した遺構には11mほどの距離を置いて平行する39号溝と、北側に直行する位置関係で掘削された40号溝があるが、いずれも両端で明確に立ち上がっており、溝とするよりは細長い土坑との見方もできる。同様の掘り方を有する土坑は、時代は下がるが芋穴として掘削された事例が見られることから、同様の用途を想定しておきたい。

39号溝(第256図 P.L.55)

位置: Bj-Bk-5グリッド 規模: 4.92m×0.68m 残存深度: 0.31m 走行方位: N-29°-W 遺物: なし 所見: 復旧痕が深くまで及んでいた場所に検出されたもので、XI層土中で平面の確認をした。埋没土はV層土主体で38号溝と共通し、38号溝から東に11mほど距離を置いて平行して検出あり、規模は若干小さいものの類似する掘り方であることから、38号溝と同様の用途で掘削されたものと考えられる。

40号溝(第258図 P.L.55)

位置: Bh-Bi-6グリッド 規模: 5.53m×0.60~1.03m 残存深度: 0.65m 走行方位: E-19°-N 遺物: 陶器片がわずかに出土した。 所見: 1号道に接するような位置に検出したもので、XI層土中で平面確認を行った。走行方向は38・39号溝と直行する方向ではあるが、埋没土の状況は共通し、掘り方も類似していることから同様の用途を想定した。

46号溝(第260図 P.L.55)

位置: Bh-7グリッド 規模: (2.70)m×0.43m 残存深度: 0.14m 走行方位: E-17°-N 遺物: なし 所見: 17号復旧痕によって西側が削平されているため、どの程度西に延びていたものか不明である。砂質土主体で埋没しており、As-Bの含有は確認されなかったが、埋没土の状況が古代や近世に特徴的なものとも相違していたため、2面1期に含めて報告した。東側で立ち上がっており、これ以上東に延びることは考えにくい。検出部分がかわずかであるため、溝の性格について推定することはできない。

47号溝(第259図 P.L.55)

位置: Bl-Bn-8~13グリッド 規模: (26.65)m×0.55

～0.98m 残存深度：0.08m 走行方位：N-19°-W
遺物：灰釉陶器・須臾器の破片が多数出土したが、当該時期の遺物は皆無である。 **所見**：Ⅲ区中央で検出したものであり、下部にはⅡ期で扱った3号溝が位置している。北端はⅡ区へと続くような状況であったが、同規模の溝はⅡ区では検出されていない。As-B混土主体の埋没土の状況から見てⅡ区12・15号溝とした遺構との関係を想定し得るものの、形状や規模の違いが顕著である。溝の断面形状は皿状であり、明確な掘り方が捉えられないことから、検出された部分が15号溝のような遺構の最深部分を痕跡的に検出したものと理解すると同種の遺構と見ることも可能であろうか。

51号溝(第260図)

位置：Cb～Cd-3グリッド 規模：(7.85)m×0.62m
 残存深度：0.30m 走行方位：E-12°-N **遺物**：陶器片がわずかに出土した。 **所見**：Ⅳ区の狭い調査区を東西に横切るように検出した。国道17号を扶むために直接つながることを確認することはできないものの、Ⅰ区で検出した5号溝と形態が類似し、底面標高もほぼ同じであることから連続する遺構である可能性が高い。

53号溝(第260図 P L.55)

位置：Cb～Cd-1～3グリッド 規模：(12.30)m×0.72m 残存深度：0.38m 走行方位：N-36°-E
遺物：不明の鉄製品が1点出土した。 **所見**：Ⅳ区南側に検出した谷状の部分の東側崖線に沿って掘削された溝である。断面形状は逆台形状を呈し、掘り方はしっかりとしていた。埋没土上層にAs-B混土が確認されていることからⅠ期とした。下層には砂質の土が堆積しており、部分的に還元状態となっていることから、水の影響を受けたものと思われる。西側は国道下に入ってしまうために明らかにならないが、東側は今後の調査によつて検出されるはずである。埋没土に明確な通水痕跡を見出すことはできなかったが、断面形状や掘削位置などから水路であった可能性が高いものと思われる。

55号溝(第260図)

位置：Bs-18グリッド 規模：(1.72)m×0.68m 残存深度：0.16m 走行方位：E-35°-N **遺物**：なし
所見：Ⅴ区の南寄りの位置に検出したもので、狭い範囲しか調査することはできなかったが、堆積土の状況が国道17号西側で検出した9号溝に類似する上に、若干の走

行方向の違いはあるものの、基本的に9号溝の走行を東側に延長した線上にあることから同一の溝となる可能性が高い。9号溝でも述べたように通水の痕跡は認められるが、基本的には区画溝になるものと考えられる。

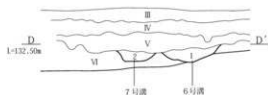
5号溝



5号溝 A-A'・B-B'

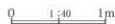
- 1 黒褐色土 V層上主体で、ふい黄褐色粒と白色粒を含み、下部にわずかに川砂の堆がある。

6・7号溝

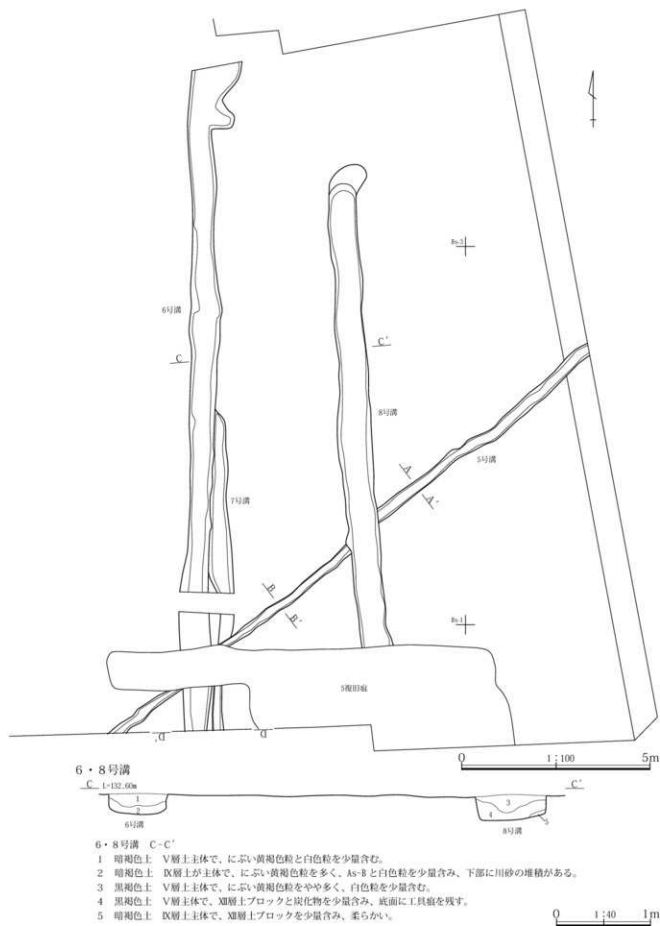


6・7号溝 D-D'

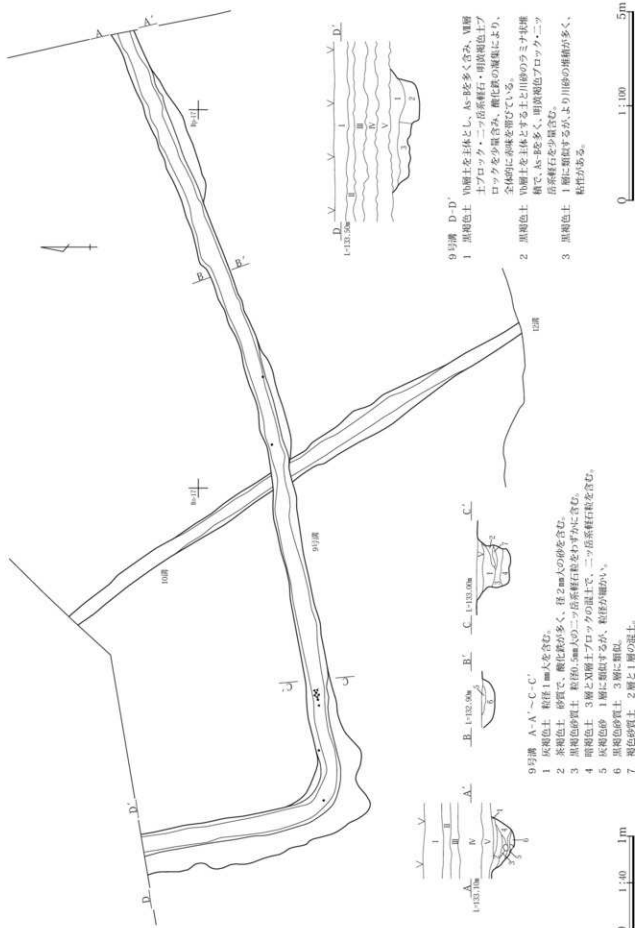
- 1 暗褐色土 D層上主体で、ふい黄褐色粒を多く、As-Bと白色粒を少量含む。
 2 黒褐色土 V層上主体で、D層上ブロックを多く、ふい黄褐色粒を少量含む。



第259図 5・6・7号溝土層断面図



第251図 5～8号溝



9号溝 A-A'~C-C'

- 1 灰褐色土 粒径1mm大を含む。
- 2 茶褐色土 砂質で、酸化鉄が多く、径2mm人の砂を含む。
- 3 黒褐色砂質土 粒径0.5mm人のニツ岳系軽石をわずかに含む。
- 4 暗褐色土 3層とIV層土ブロックの賦土で、ニツ岳系軽石を含む。
- 5 灰褐色砂 1層に類似するが、粒径が細かい。
- 6 黒褐色砂質土 3層に類似。
- 7 褐色砂質土 2層と1層の賦土。

9号溝 D-D'

- 1 黒褐色土 V層土を主体とし、As-Bを多く含む、V層土ブロック・ニツ岳系軽石・明礬黒色土ブロックを少量含む、酸化鉄の賦集により、全体的に赤味を帯びている。
- 2 黒褐色土 V層土を主体とする土と川砂のラミナ状層で、As-Bを多く、明礬黒色土ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土 1層に類似するが、より川砂の層積が多く、粘性がある。

第252図 9号溝

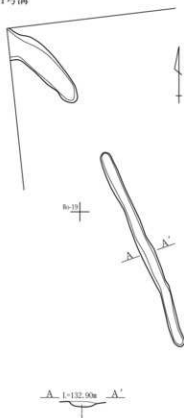
12号溝



12号溝 A-A'

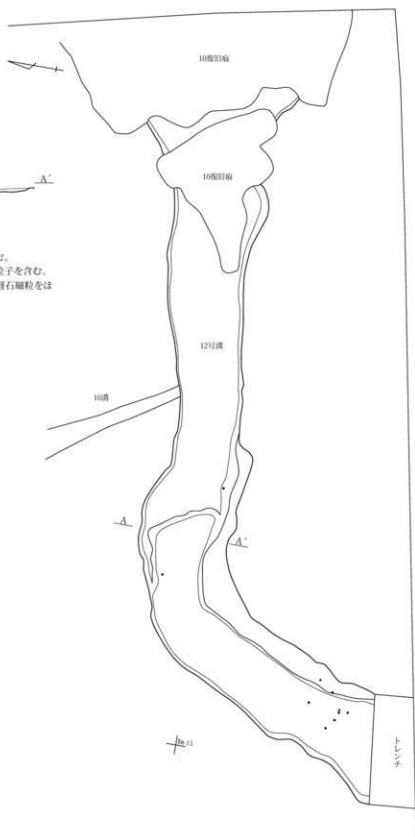
- 1 暗褐色土 B 混土主体で、Ⅱ層土小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 B 混土主体で、白色軽石細粒と橙色の粒子を含む。
- 3 黒褐色土 B 混土主体で、2層に比較して、白色軽石細粒をほとんど含まない。

11号溝



11号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 B 混土とⅨ層土・Ⅹ層土の混土。

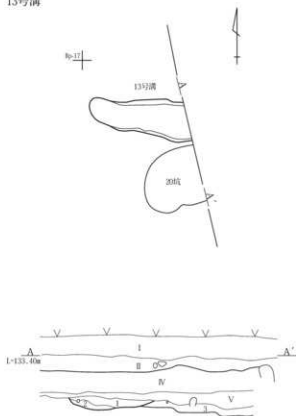


0 1:40 1m

0 1:100 5m

第253図 11・12号溝

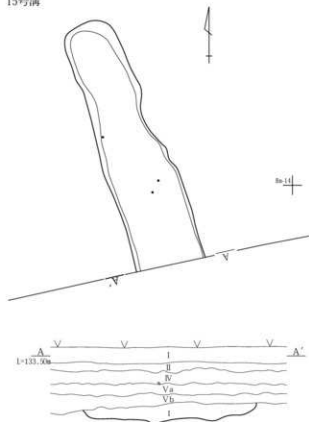
13号溝



13号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 B 混土と燻層土ブロックの混土。
- 2 暗褐色土 B 混土主体で、燻層土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 B 混土を主体に、黄色細粒を均一に含む。

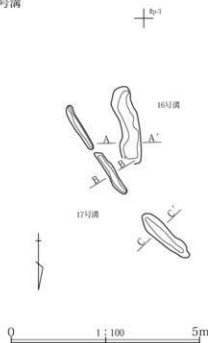
15号溝



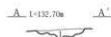
15号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 Vb層土を主体とし、As-Bを多く含み、Ⅳ層土・ニッ岳系軽石・明黄褐色ブロックを少量含む。

16・17号溝



16号溝



16号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 IV層土を主体とし、As-B・As-Cを多く、ニッ岳系軽石を少量含み、粘性が強い。

17号溝

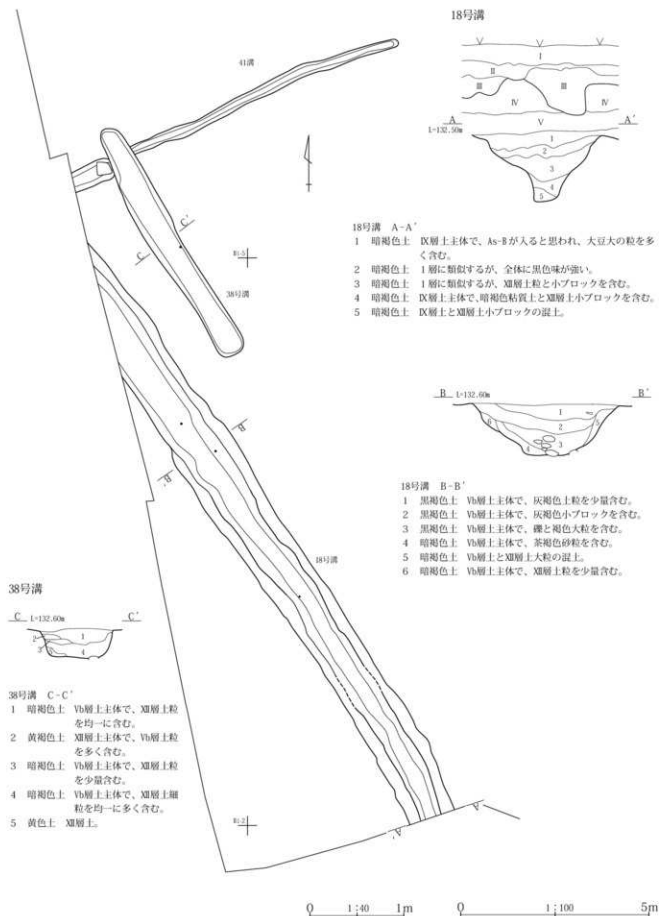


17号溝 B-B'・C-C'

- 1 黒褐色土 IV層土を主体とし、As-B・As-C・ニッ岳系軽石を少量含み、粘性が強い。
- 2 黒褐色土 Va層土ブロック・As-Bを多く含み、As-Cを少量含む。

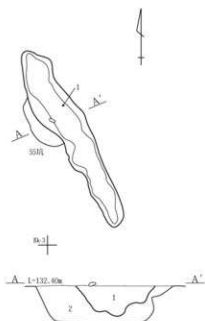


第254図 13・15・16・17号溝



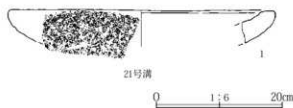
第255図 18・38号溝

21号溝



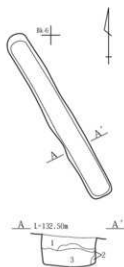
21号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 As-Bを多く含むしまりのない暗褐色土。
- 2 暗褐色土 暗褐色土と畑層土ブロックの混土。



21号溝

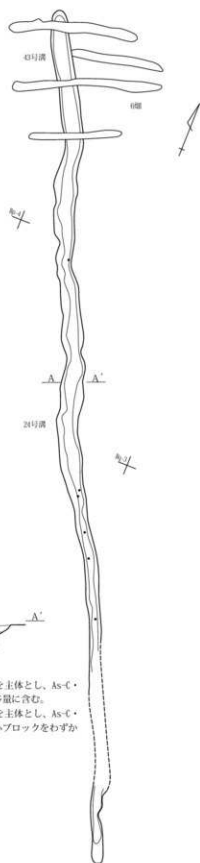
39号溝



39号溝 A-A'

- 1 黄褐色土 畑層土主体で、Va層土小ブロックを含む。
- 2 黄色砂質土 畑層土。
- 3 暗褐色土 Va層土主体で、畑層土小ブロックを少量含む。

24号溝



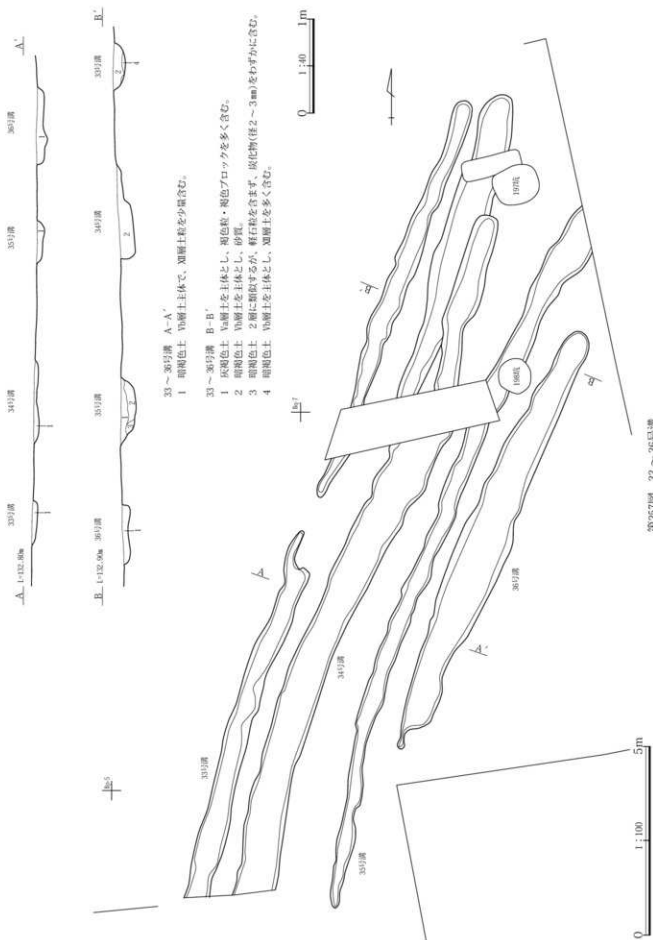
24号溝 A-A'

- 1 暗褐色砂質土 Dc層土を主体とし、As-C・川砂を多量に含む。
- 2 暗褐色砂質土 Xd層土を主体とし、As-C・畑層土小ブロックをわずかに含む。

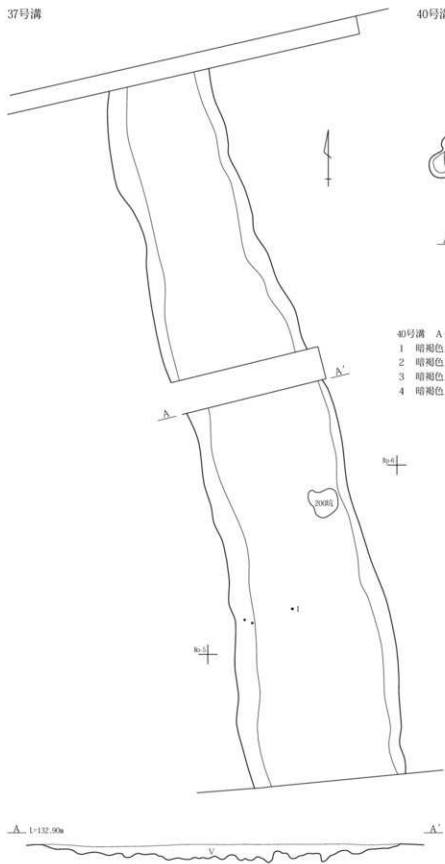
0 1:40 1m

0 1:100 5m

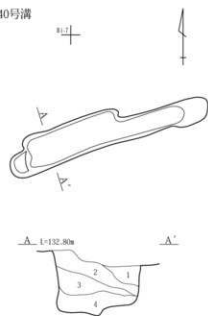
第256図 21・24・39号溝・出土遺物



37号溝

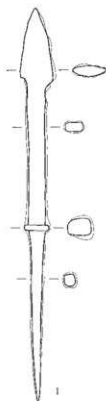


40号溝



40号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 Vb層上主体で、Ⅱ層土粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 Vb層上主体で、Ⅱ層土大粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 Vb層上主体で、Ⅱ層土大粒をわずかに含む。
- 4 暗褐色土 Vb層上主体で、Ⅱ層土粒を多く含む。



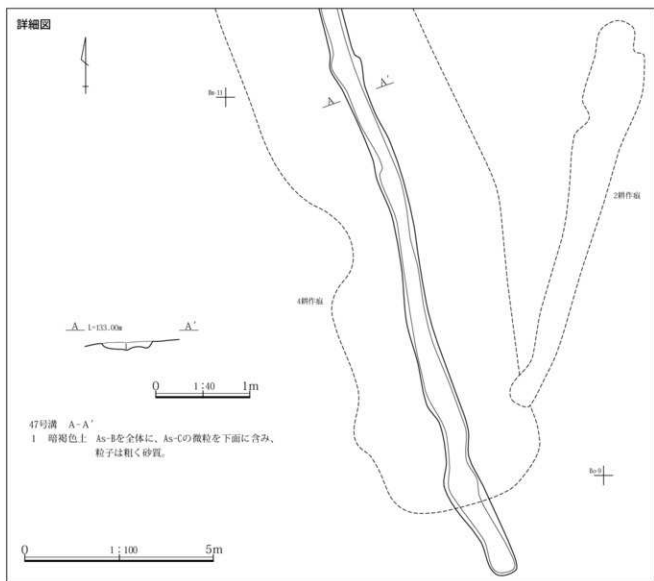
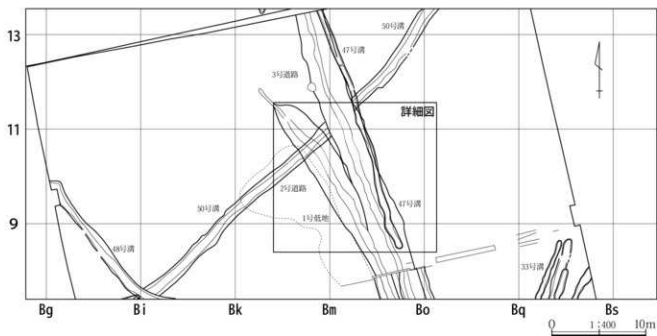
37号溝

0 1:40 1m

0 1:100 5m

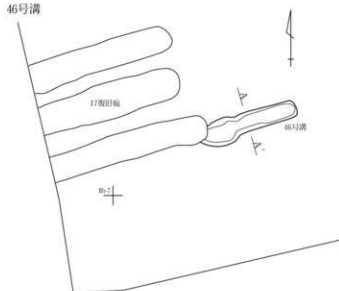
0 1:2 4cm

第258図 37・40号溝・出土遺物



第250図 47号溝

46号溝

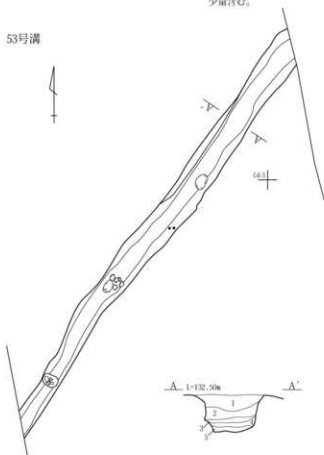


46号溝 A-A'

- 1 褐灰色土 粘質土で、酸化鉄を多く、白色黄色の微粒を全体に、炭化物をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 細層土の細粒、白色黄色の微粒を少量含む。



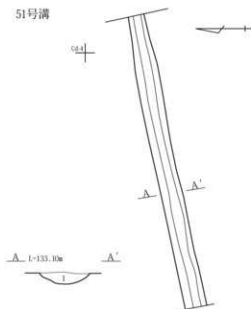
53号溝



53号溝 A-A'

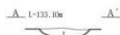
- 1 暗褐色土 B 混土主体で、細層土ブロックを含む。
- 2 灰褐色土 灰色シルト主体で、細層土と砂を多量に含む。
- 3 灰色土 灰色の砂質土主体。
- 4 黄灰色土 還元状態のシルト主体で、灰色シルトブロックを含む。
- 5 黄褐色土 細層土主体。

51号溝

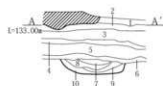
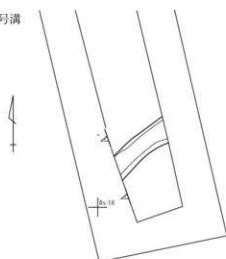


51号溝 A-A'

- 1 褐灰色土 全体に酸化鉄を含み、白色と黄色の微粒（軽石）を少量、二ヶ岳系軽石をわずかに含む。



55号溝



55号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 白色粒を含む暗褐色土(近世耕作土?)
- 2 茶褐色土 白色粒を含み酸化鉄が多い層。(近世水田の床土?)
- 3 暗褐色土 白色粒・大粒を均一に含むまりのない層。
- 4 茶褐色土 酸化鉄を多く含み、白色粒・大粒を均一に含む。
- 5 暗褐色土 As-B を多量に含む。
- 6 暗褐色土 酸化鉄が凝集した硬い層。
- 7 黒褐色砂質土 やや粗い砂主体。
- 8 暗灰色土 細層土と細粒砂の混土。
- 9 暗灰色砂 7層よりさらに粗い砂。
- 10 茶褐色土 細層土と暗灰色シルトの混土。



第260図 46・51・55号溝

(2) 耕作痕

耕作痕としたのは、47号溝の周辺で観察された帯状にV層土が薄く堆積した部分であり、V層土を掘り上げると幅10cm前後の半月形の工具痕が連続的に検出された。鋤先の痕跡と考えられ、V層土中から行われているものと思われることから当該時期とした。ここでは具体的な図は提示しないが、33～36号溝としたものも、底面に同様の耕作痕が検出された部分もあることから耕作痕であった可能性がある。

(3) 墓坑

107号土坑(第261図 P.L.55)

位置: B1-3・4グリッド 形状: 隅丸長方形 規模: 1.62m×1.32m 残存深度: 0.54m 主軸方位: N-28°-W 埋没土: XI層土とXII層土粒の混土。遺物: なし 重複: 108・109号土坑と重複しており、検出状況から108・109号土坑→107号土坑と考えられる。

202号土坑(第261・262図 P.L.56・244)

位置: B1-5グリッド 形状: 隅丸長方形 規模: 1.60m×1.35m 残存深度: 0.37m 主軸方位: N-9°-W 埋没土: As-Bを含む暗褐色シルト質土とXII層土で構成され、量比で比較的複雑に分層されることから、人為的な埋没を示している。遺物: 「洪武通宝」、「景祐元宝」、「政和通宝」、「元口通宝」の4枚(3～6)の銭貨が首の上位から、「永楽通宝」4枚、「開元通宝」、「皇宋通宝」、「天禧通宝」、「熙寧元宝」の4枚の銭貨が折り曲げた体の間から出土した他、刀子と思われる鉄製品が右腕と底面との間から出土した。重複: なし 所見: 上面は復旧痕によって削平されていたために、XII層土中まで全体を下げた時点で遺構の存在が認識できた。南北方向に長軸を有する長方形の墓坑で、両手・両足を折り曲げ、頭を北に向けて右脇を下にした状態で埋葬されていた。木片や釘などの出土はなく、棺の痕跡も検出できないことから、坑内へ直葬したものであろう。調査時頭蓋骨内は空洞の状態で、わずかの衝撃で左側頭部が陥没したために、良好な状態で取り上げることができなかった。人骨についての詳細は、第6章に譲るが、成人男性が埋葬されていたと考えられる。西側0.80mほどの至近の位置には、成人女性が埋葬されたと思われる206号土坑があり、極めて近い位置に杖を並べるかのように埋葬されているこ

とから、関連の深さが想定される。

205号土坑(第262図 P.L.56)

位置: B1-5・6グリッド 形状: 隅丸長方形 規模: 0.92m×0.58m 残存深度: 0.18m 主軸方位: N-25°-W 埋没土: As-Bを含む暗褐色シルト質土とXII層土粒との混土で、締まりがまったく認められなかった。

遺物: なし 重複: なし 所見: 206号土坑の北東方向1.40mほどに位置し、XII層土中で遺構の確認を行った。人骨の残存は認められなかったが、北西コーナー付近の底面からわずか上の位置から乳歯が数本出土したことから墓坑であることが確認できた。位置関係から202号土坑と206号土坑の関連を想定したが、205号土坑も至近の位置にあり関連する可能性がある。

206号土坑(第262・263図 P.L.56・244)

位置: B1-5グリッド 形状: 隅丸長方形 規模: 1.15m×1.03m 残存深度: 0.45m 主軸方位: N-22°-W 埋没土: 暗褐色土ブロックとXII層土ブロックの混土で構成されているが、量比で複雑に分層され、人為的な埋没状況を示している。遺物: 「開元通宝」と「洪武通宝」の2枚(22・23)が顔の位置から、「元祐通宝」、「大観通宝」、「元豊通宝」の3枚(19～21)の銭貨が折り曲げた体の間から、「永楽通宝」(18)が大腿骨の間からそれぞれ出土した。重複: なし 所見: 202号土坑と東西に並んで検出されたもので、規模は202号土坑よりも一回り小さい。確認はXII層土中であるが、比較的残存状況は良好であった。埋葬の状況は、両手・両足を曲げ、頭を北に向けて右脇を下にした直葬と考えられる。202号土坑と同様に頭骨の残存状況は良好で、脊椎骨・腰骨なども位置は判別できる程度には残存した。これらに比較して上肢骨はやや残存が悪く、検出されたのは上腕骨の一部だけであった。銭貨は、顎付近、胸元、両足の間と3カ所に置かれていた。前述のように202号土坑との位置関係は、両者の関連を示唆している。

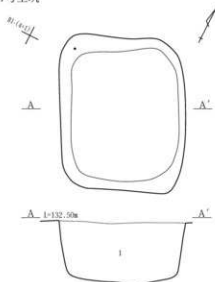
227号土坑(第263図 P.L.56・244)

位置: B1-4グリッド 形状: 隅丸長方形 規模: 1.05m×0.89m 残存深度: 0.44m 主軸方位: W-40°-N 埋没土: 上層は暗褐色土ブロックとXII層土ブロックの混土、下層はXII層土主体で暗褐色土ブロックが少量混入するもので、掘り上げられた土が逆に戻されたような状況を呈している。遺物: 「紹聖元宝」が1枚(24)と釘

と思われる鉄製品(25)が1点出土した。重複：56号住居と重複しているが、56号住居→227号土坑であることは明らかである。所見：Ⅱ層土中まで下げた時点で確認したものであるが、土坑掘り込みの残存は良好であった。底面からわずかに上がった位置から出土した骨の残存状況は悪く、下肢骨と思われるものが4本横並びのような状況で検出されたことから、両足を折り曲げていたことが認識できる程度であった。頭骨及び上肢骨は残存

せず、脊椎骨も断片的に検出されただけである。下肢骨の状況から、202・206号土坑における埋葬状況と同様の姿勢で埋葬されたものと考えられる。田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡を通して、当該時期の墓坑の主軸が北から8～28°の範囲であり、基本的に北頭位であるのに対して、227号土坑では西に大きく振れた主軸を有しており、北向きの墓坑として掘削できない場所とも考えにくく、やや異質である。

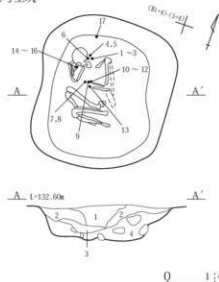
107号土坑



107号土坑 A-A'

1 暗褐色土 Ⅱ層土ベースのⅡ層土主体で、Ⅱ層土粒を均一に含む。

202号土坑



202号土坑 A-A'

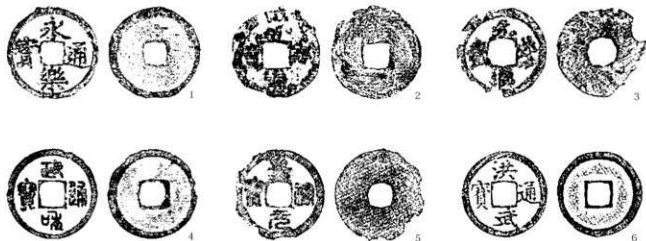
1 暗褐色土 Ⅱ層土主体で、Ⅱ層土粒を少量含む。しまりなし。

2 暗褐色土 Ⅱ層土とⅡ層土小ブロックの混土。しまりなし。

3 黄色砂質土 Ⅱ層土主体。しまりなし。

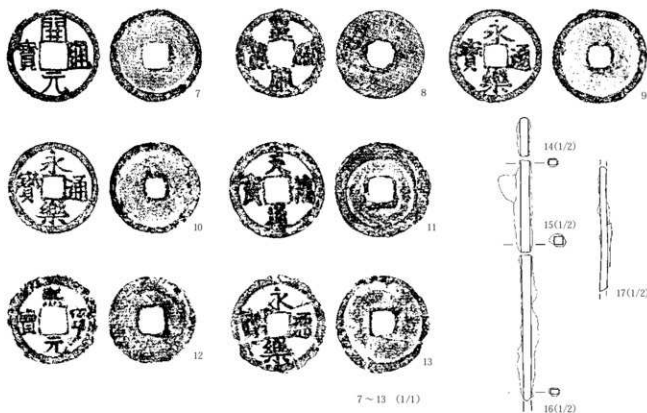
4 暗褐色土 2層と類似するが、小礫が混じる。しまりなし。

0 1:40 1m



1～6 202号土坑(1/1)

第261図 107・202号土坑・出土遺物



7～13 (1/1)

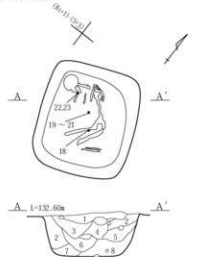
205号土坑



205号土坑 A-A'

1 暗褐色土 IX層上主体で、褐色土粒・ブロックを多く含む。

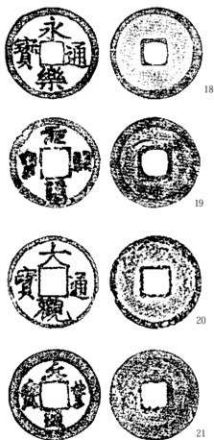
206号土坑



206号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 IX層上主体で、褐色土粒・ブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土 XI層上主体で、褐色土ブロックを多く、小礫をわずかに含む。
- 3 暗褐色土 2層に類似するが、より褐色土ブロックが少ない。
- 4 暗褐色土 XI層上主体で、褐色土ブロックを含む。粘性あり。
- 5 暗褐色土 XI層上主体で、全体的に暗褐色土にくすんでいる。
- 6 暗褐色土 5層に類似するが、黄褐色土ブロックを少量含む。より粘性強い。
- 7 黄褐色土 XI層上に類似するが、暗褐色土粒・ブロックを多く含む。
- 8 暗褐色土 5層に類似するが、黄褐色土ブロックを少量含む。炭化物粒を少量含む。

7～17 202号土坑



18～21 206号土坑(1/1)



22・23 206号土坑(1/1)

227号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 暗褐色土ブロックとⅩ層土小ブロックの混土。やや粘性あり。
2 黄褐色土 Ⅹ層土主体で、暗褐色土ブロックを少量含む。(編入に入る部分あり)

24・25 227号土坑

第263図 206・227号土坑・出土遺物

(4) 集石

1面調査が終了し、2面調査のために全体に掘り下げていく過程で、東西2群の礎集中部分を検出した。調査時点では建物の礎石の可能性を想定したため個別に遺構名称を付さず、西寄りに検出した一群を1号集石、東寄りの一群を2号集石とし、個別の礎集中部にはAからの枝番を付けた。その結果1号集石ではA～Iの9カ所、2号集石ではA～Dの4カ所を検出したが、最終的には集石の状況にバラエティが見られ、建物を構成するような配置にはないと判断した。また、調査の進捗で1号集石Aとして扱った部分については、2面の16号住居に伴う可能性が出てきたために1号集石からは除いた。

1号集石B(第264・265図 P L.57)

位置: Bi・Bj- 2グリッド 規模: (1.87)m×1.12m

遺物: なし 所見: 小礎が面的に検出されたもので、北側部分では2段の礎の重なりが見られた。南北2カ所の集石を一つとして捉えた可能性もある。

1号集石C(第264・265図 P L.57)

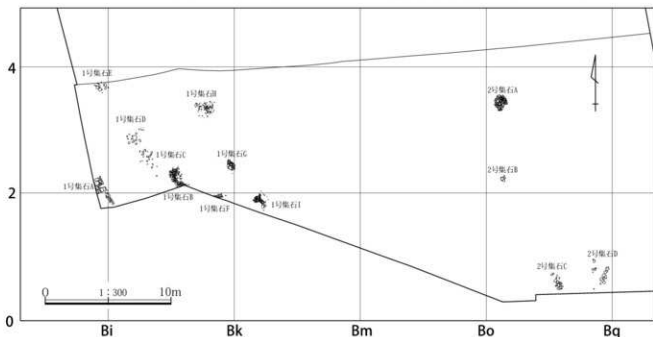
位置: Bi- 2グリッド 規模: 2.35m×1.25m 遺物:

なし 所見: 礎が面的に散在していたもので、1号集石Dと同様に礎の間だった集中個所は見られない。

1号集石D(第264・265図 P L.57)

位置: Bi- 2グリッド 規模: 1.23m×1.09m 遺物:

なし 所見: 扁平な大形礎の周囲に小礎が散在しており、



第264図 1・2号集石全体図

一見すると礎石のような印象を持つが、小礫は大形礫を支えるような位置関係にはない。

1号集石E(第264・265図 P.L.57)

位置: Bh-3グリッド 規模: 1.03m×0.89m 遺物: なし 所見: 調査区際で検出したもので、北側調査で広がりが見えられかど期待したが、北への広がりはない。やや大形の礫が面的に検出されたものである。

1号集石F(第264・265図 P.L.57)

位置: Bj-1グリッド 規模: (1.05)m×(0.35)m 遺物: 下臼(1)が出土した。 所見: 調査区南端で検出したもので、さらに南側に広がることは確実であるが、調査区外であるため全体は不明である。やや小さめの礫が上下少なくとも2段検出されていることから、本来は掘り込み内に集石されたものと思われるが、掘り込みの輪郭を捉えることはできなかった。礫間を埋めている土層はⅪ・Ⅻ層土ブロックの混土で、時期を特定することができないのであるが、近世土は見られなかったことからここで扱った。

1号集石G(第264・265図 P.L.57)

位置: Bj・Bk-2グリッド 規模: 1.07m×0.72m 遺物: 石鉢(2)・上臼(3)が出土した。 所見: 小礫が集中していたもので、集石の下部には灰褐色を呈するシルト質土とⅪ層土ブロックの混土が検出されている。遺物から時期の認定ができないのであるが、検出状況などから中世以降の集石と判断しここで扱った。

1号集石H(第264・266図 P.L.57)

位置: Bj-3グリッド 規模: 1.64m×1.30m 遺物: なし 所見: 小礫が比較的広い範囲に散在したものである。1号集石と同様に際立った礫の集中部分は見られなかった。遺物出土がないために時期が捉えにくい検出状況などから近辺の集石と同様の時期の可能性が高いと判断しここで報告した。

1号集石I(第264・266図 P.L.57)

位置: Bk-1グリッド 規模: 1.58m×1.21m 遺物: なし 所見: 当初小礫が南北方向に帯状に検出されたが、図化後再度掘り下げたところ、やや南にずれた位置の下部に径0.50mほどの円形に礫の集中が見られた。下部で検出した集石は、礎石のぐり石のようにも見られるが、上部の集石と同一の集石であるとする礎石の可能性は低くなる。

2号集石A(第264・266図 P.L.57)

位置: Bc-3グリッド 規模: 1.06m×0.95m 遺物: 下臼(1)が出土した。 所見: 検出当初は円形の範囲にやや大振な礫の集中が見られ、これを図化後に取り上げ下部の調査を進めたところ、下部に小礫と大振りな礫の集中が見られた。少なくとも2段程度の礫の重なりが認められることから、本来は土坑状の掘り込み内に集積されていたものと考えられるが、掘り込みの範囲を捉えることはできなかった。2号集石Aも礎石のぐり石のように見られなくもないが、中央部の扁平礫などは立てられたような状況で出土しており、また、一部の礫には被熱痕跡が認められたことなどから、ぐり石として配置されたものではないであろう。遺物から時期を特定することができないのであるが、検出状況などから中世以降の所産と判断しここで報告した。

2号集石B(第264・266図 P.L.58)

位置: Bc-2グリッド 規模: 0.48m×0.45m 遺物: なし 所見: 礫が3段ほど積み重なったような状況で検出されたものであるが、北西側は削平を受けており全体が検出されたものではない。平坦な部分に礫を3段も積み上げるのは不自然であり、本来は土坑状の比較的深い掘り込み内に集積されたものと思われる。時期については2号集石Aと同じ判断である。

2号集石C(第264・266図 P.L.58)

位置: Bp-0グリッド 規模: 1.51m×0.69m 遺物: なし 所見: 2号集石Aと同程度の礫が同一平面上に置かれたような出土状況である。南側にトレンチが掘削されており、本来は帯状の集石であったものの一部を壊している可能性がある。

2号集石D(第264・266図 P.L.58)

位置: Bp-0グリッド 規模: 2.23m×1.60m 遺物: なし 所見: 列状に礫を検出したもので、北側部分では2～3段の礫の重なりが認められるので、本来は掘り込みがあった可能性が高いが、検出には至らなかった。時期を特定し得るような遺物の出土はなく、明確に捉えることができないが、他の集石と同様の検出状況であることから中世以降の所産とした。ただし、近世を特徴付ける灰色土は観察されていないことからそれ以前と見てよいであろう。

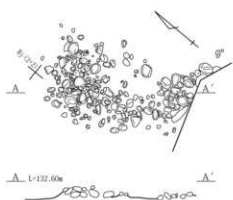
3号集石(第266図)

位置: Bk・Bl-4 グリッド 規模: 1.02m×0.75m 遺物:

なし 所見: 1区の北側調査で検出したため3号集石と

しているが、位置関係から1号集石の一群と見てよいであろう。やや大形の礫が面的に集中したもので、2号集石Cに類似する検出状況である。

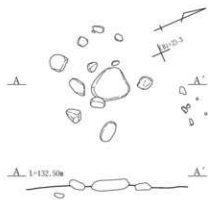
1号集石B



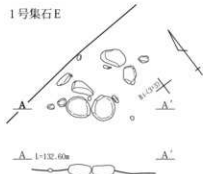
1号集石C



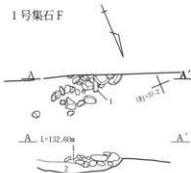
1号集石D



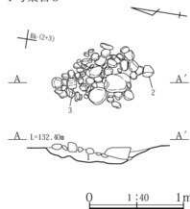
1号集石E



1号集石F



1号集石G

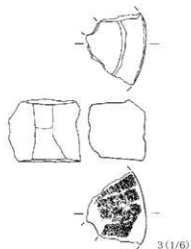
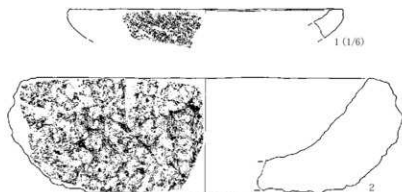


1号集石F A-A'

- 1 暗褐色土 XI・XII層上の混土。炭化物を微量含む。
- 2 暗褐色土 XI・XII層上の小ブロックの混土層。炭化物を含まない。

1号集石G A-A'

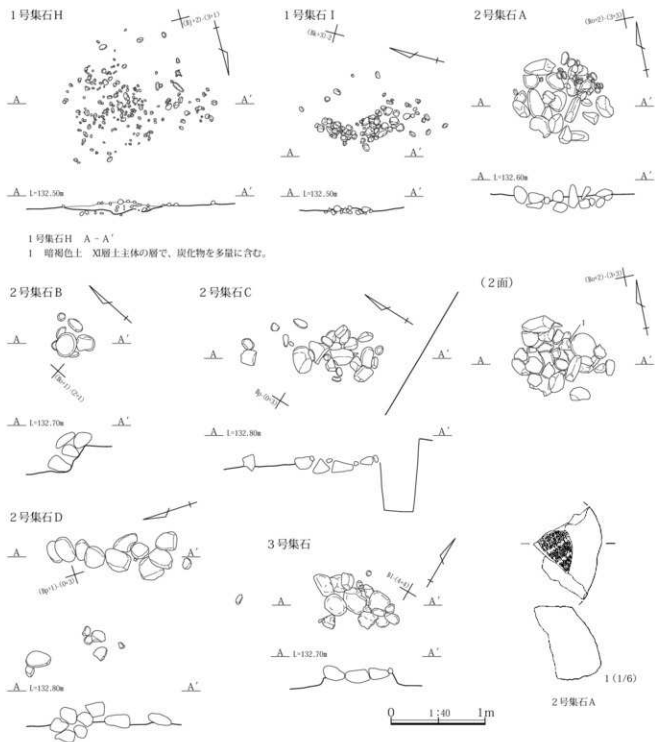
- 1 暗褐色土 灰褐色砂質土とXII層上ブロックの混土。



- 1 1号集石F
- 2・3 1号集石G



第265図 1号集石B~G・出土遺物



第266図 1号集石H・I、2号集石A～D、3号集石・出土遺物

(5) 土坑

当該時期の土坑の多くはⅠ区の西寄りの一角に集中して検出された。Ⅱ・Ⅲ区においても当該時期と判断した土坑はあるが、196・257号土坑などのような円形で比較的小規模の土坑が散在しており、こうした傾向は田口上田尻遺跡と共通している。南西部に集中している土坑で特徴的なのは、25・26・73号土坑などのような隅丸長方

形で比較的深い土坑が重複しながら集中していることである。田口上田尻遺跡と同様にこうした土坑集中部分には、107・227号土坑などの土坑墓が検出されており、調査時点で土坑墓との関連を想定していた。しかし、73号土坑などの埋没土は、掘り込まれたⅫ層土主体で締まりの弱い点では類似しているが、土坑墓のようにⅫ層土が

小ブロック状を呈するものはなく、掘り込み後埋没するまでには一定時間の経過が想定されるが、具体的に土坑の性格に迫れるような情報は抽出できなかった。本来で

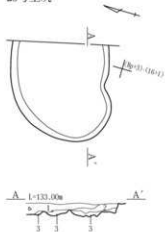
あれば、個別土坑について調査所見を記載すべきであるが、前述のようにここでは計測値等の基本的な項目について一覧で掲載した。

第7表 田口下田尻遺跡 1期土坑一覧表

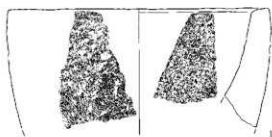
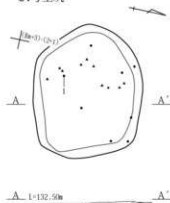
番号	層回	PL	グリッド	平面形	規模 (m)	主軸方位	出土遺物	埋没土	備考
20	土坑	267	Bp-16	不整楕円形	1.55×1.44×0.20	E-22°-N			
24	土坑	267	Ba-2	楕丸長方形	2.10×1.69×0.20	E-14°-N	石鉢		
25	土坑	267	Ba-3	楕丸長方形	1.79×1.61×0.89	E-20°-N			
26	土坑	267	Ba-3	楕丸長方形	1.77×1.36×0.91	E-20°-N			
27	土坑	267	Ba-3	楕丸長方形	1.47×1.05×0.70	E-20°-N			
28	土坑	267	Ba-3	楕丸長方形	1.74×1.61×0.85	E-12°-N	内耳銅・鉄貨「洪武通宝」・すり鉢・鉄貨		
29	土坑	268	B1-2・3	楕丸長方形	1.80×1.63×0.65	E-29°-N	鉄貨「永楽通宝」・鉄貨		
30	土坑	268	B1-3	楕丸長方形	2.08×1.47×0.56	E-24°-N	鉄貨「天聖元宝」		
32	土坑		Ba-2	楕丸長方形	1.53×1.40×0.65	N-8°-W			
34	土坑	268	B1-3	楕丸長方形	1.48××0.24	E-29°-N			
35	土坑	268	Ba-3・4	楕丸長方形	2.82×1.95×0.90	E-19°-N			
39	土坑	268	Ba-3・4	楕円形	(0.54)×0.73×3.3	N-3°-W			
44	土坑		Bh-2	円形?	1.65××0.65		内耳銅		
46	土坑	269	Bk-1・2	楕丸長方形	3.01×2.18×0.50	E-17°-N	石臼・鉄製品		
52	土坑	268	Bk-2	楕丸長方形	1.48×1.20×0.48	N-10°-W	鉄貨		
53	土坑	268	Bk-2	不整形	3.42×2.62×0.30		緑釉陶器・灰釉陶器		
54	土坑	268	Bk・B1-2	不整形	2.83×(1.73)×0.23		緑釉陶器		
55	土坑	270	Bj・Bk-3	不整楕円形	1.46×1.22×0.40				
63	土坑	270	Bj・Bk-2	楕丸長方形	1.94×1.38×0.59	N-23°-W			
64	土坑	270	Bj・Bk-2	楕丸長方形	1.33×1.22×0.66	E-23°-N			
65	土坑	270	B1-3	楕丸長方形	2.37×1.28×0.57	N-36°-W	中国白磁		
66	土坑	270	Ba-15	楕円形	1.13×1.09×0.16				
68	土坑	270	Bj・Bk-3	楕円形	1.35×1.05×0.36	N-95°-W			
69	土坑	270	Bj-3	楕丸長方形	2.19×1.96×0.50	E-36°-N			
73	土坑	271	Bk-2・3	楕丸長方形	2.13×1.70×0.92	N-20°-W	石臼		
74	土坑	271	Bj・Bk-3	楕丸長方形	1.42×0.59×0.34	E-6°-N			
79	土坑	271	B1-3	楕丸長方形	2.96×1.62×0.50	N-25°-E			
80	土坑	271	B1-3	楕円形?	1.68×0.73×0.30	N-39°-E			
82	土坑	271	Bs-3	円形	0.66××0.21				
85	土坑	271	Bt-3	不整楕円形	0.95×0.52×0.20	N-15°-W			
91	土坑	271	Bt-3	円形	0.65×0.58×0.10				
104	土坑	272	Bk-3	楕丸長方形	1.74×1.56×0.54	N-29°-W	青磁		
116	土坑		Ba-3	不整形	0.91×0.97×0.31				
117	土坑		Ba-3	不整形	1.72×0.98×0.48				
148	土坑		B1-1	不整形	1.06×0.55×0.24				
154	土坑	272	B1-3・4	不整円形	1.80××0.30		在地内耳銅		
173	土坑		Bf-14	楕丸長方形	1.18×0.71×0.13	E-13°-N			
177	土坑		Bg-14・15	長方形	2.58×0.84×0.16	N-12°-W			
196	土坑	272	Bo-7・8	円形	1.00××0.33				
197	土坑	272	Bt-8	楕円形	1.21×0.01×0.10	E-14°-N			
198	土坑	272	Bt-7	円形	0.90××0.23				
199	土坑		Bq-6	不整形	0.74×(0.25)×0.13				
200	土坑		Bo-5	楕円形	0.85×0.80×0.23	E-33°-S			
203	土坑	272	B1-4	楕丸長方形	1.50×1.27×1.25	N-34°-W			
215	土坑	272	Bq-6	円形	1.07××0.23				
217	土坑	272	Bt-7	円形	1.10××0.29				
219	土坑		Bp-8	円形	0.91××0.18				
220	土坑	272	Bp-7	楕円形	0.86×0.66×0.31	N-7°-W			
229	土坑	273	Ba-5	楕丸長方形	2.25×1.01×0.47	E-33°-S			
231	土坑		Bh・B1-3・4	楕円形	1.09×0.83×0.20	E-20°-S	内耳銅		
232	土坑		Bk・B1-4	不整形	1.75×(0.49)×0.15				
236	土坑		Be-17	不整形	(1.15)×(0.29)×0.46				
254	土坑	273	Ba-12	楕円形	1.75×1.20×0.40	E-3°-N			
257	土坑	273	Ba-12	円形	1.40××0.64				
267	土坑	273	Bj-11	円形	1.95××0.24				
345	土坑	273	Ca-7	楕丸長方形	4.50×2.43×0.45	N-37°-W			

第5章 2面の調査（中世～古墳時代後期）

20号土坑

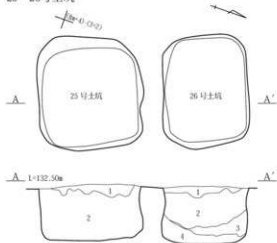


24号土坑

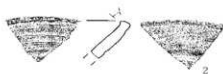
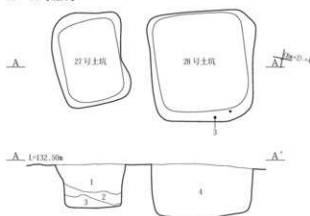


24号土坑

25・26号土坑



27・28号土坑



20号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 B 混土を主体に、黄色細粒を均一に含む。
- 2 暗褐色土 B 混土を主体に、XI層土小ブロックを少量含む。
- 3 黄灰色土 B 混土とXI層土の混土。

24号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 XI層土を主体とし、As-Cと二ヶ岳系軽石・炭化物・XI層土ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 XI層土ブロックを多く含む、炭化物を少量含む。粘性があり、やや硬くしまっている。

25・26号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 IX層土主体で、XI層土・XI層土粒を含む。
- 2 暗褐色土 暗いXI層土主体で、小礫をわずかに含む。全体に均一な層。
- 3 暗褐色砂質土 暗いXI層土主体で、暗褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色砂質土 XI層土主体で、XI層土粒を多く含む。

27・28号土坑 A-A'

- 1 暗褐色砂質土 暗いXI層土主体で、XI層土小ブロックを含む。小礫はわずかで、しまりが強い。
- 2 暗褐色砂質土 暗いXI層土主体で、暗褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色砂質土 XI層土主体で、XI層土粒を多く含む。
- 4 暗褐色砂質土 暗色のXI層土主体で、XI層土小ブロック・粒子を含む。小礫・炭化物をわずかに含む、しまりが弱い。



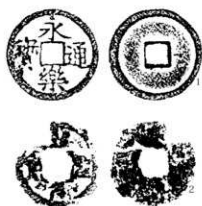
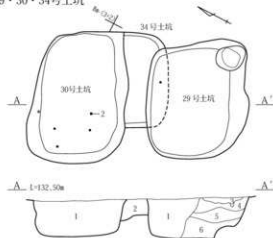
3 (1/1)

28号土坑



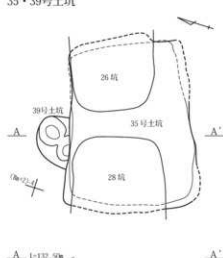
第267図 20・24～28号土坑・出土遺物

29・30・34号土坑

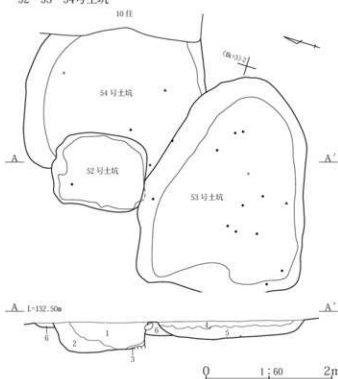


1 29号土坑(1/1), 2 30号土坑(1/1)

35・39号土坑



52・53・54号土坑



35・39号土坑 A-A'

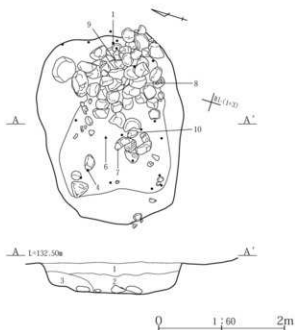
- 1 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、IX層土ブロックを多く含む。XII層土ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、IX層土・XII層土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、IX層土・XII層土小ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、XII層土ブロックを多く含む。
- 5 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、XII層土粒を多く含む。
- 6 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、IX層土・XII層土ブロックを少量含む。
- 7 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、XII層土ブロックを多く含む。

52・54号土坑 A-A'

- 1 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、XII層土ブロックを多量に含む。柔らかい。
- 2 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、XII層土小ブロック・炭化物を少量含む。柔らかい。
- 3 灰黄褐色砂質土 XII層土を主体とし、XI層土小ブロックを少量含む。柔らかい。
- 4 暗褐色土 Vb層土・XI層土の混上で、XII層土小ブロック・As-B・炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色土 XI層土を主体とし、XII層土ブロックをやや多く含む。
- 6 暗褐色土 XI層土を主体とし、XII層土ブロックを多く含む。やや粘性がある。

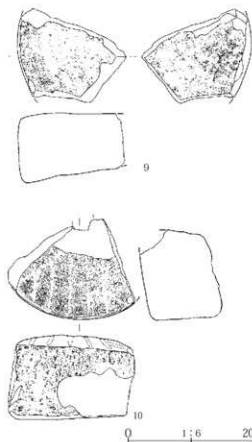
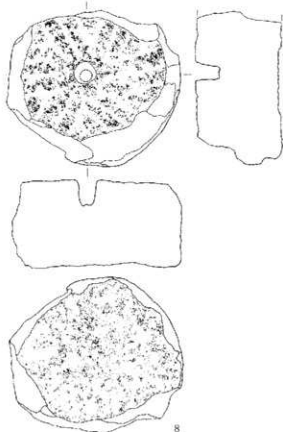
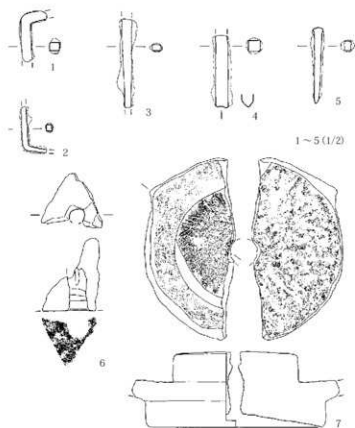
29・30・34号土坑 A-A'

- 1 暗褐色砂質土 軽石(As-C?)・小礫はわずかで、XI層土・XII層土小ブロックを多く、黒褐色土小ブロックをわずかに含む。
- 2 暗褐色砂質土 1層に類似するが、XI層土・XII層土含有量がやや多い。
- 3 黒褐色土 IX層土主体で、黒褐色土小ブロック、白色細粒を少量含む。
- 4 暗褐色土(砂質) IX層土~XII層土の混上。
- 5 暗褐色土 1層に類似する層。
- 6 暗褐色土 1層に類似するが、黒褐色土小ブロックの含有量が多い。



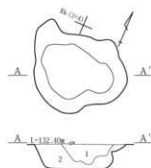
46号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土 Vb層土を主体とし、As-Bを多く含み、炭化物・小礫を少量含む。
- 2 黒褐色土 Vb層土・XI層土の混土で、最大径30cm大の礫を多く含み、As-B・As-Cと二ッ岳系軽石・炭化物を少量含む。
- 3 暗褐色土 XI層土を主体とし、XII層土ブロックを多く含み、炭化物を少量含む。

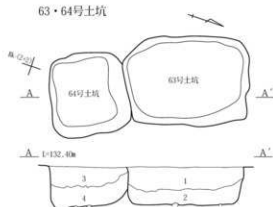


第269図 46号土坑・出土遺物

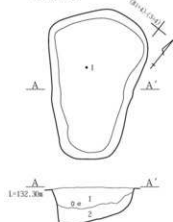
55号土坑



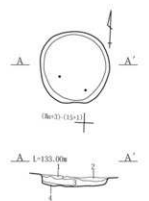
63・64号土坑



65号土坑



66号土坑



0 1:60 2m

68・69号土坑



55号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 As-Bを含むしまりのない暗褐色土。
- 2 暗褐色土 暗褐色土とⅩ層土ブロックの混土。

63・64号土坑 A-A'

- 1 暗褐色砂質土 Ⅹ層土・Ⅹ層土の混土。炭化物を少量含む。柔らかい。
- 2 暗褐色砂質土 1層に比べ、よりⅩ層土の割合が多い。炭化物を少量含む。柔らかい。
- 3 暗褐色砂質土 Ⅹ層土を主体とし、Ⅹ層土ブロックを多く含む。炭化物を少量含む。
- 4 暗褐色砂質土 2層に比べ、よりⅩ層土の割合が多い。炭化物を少量含む。柔らかい。

65号土坑 A-A'

- 1 暗褐色砂質土 Ⅹ層土を主体とし、Ⅹ層土ブロック・炭化物・礫を少量含む。柔らかい。
- 2 暗褐色砂質土 1層に比べ、よりⅩ層土ブロックが多く、やや粘性がある。柔らかい。

66号土坑 A-A'

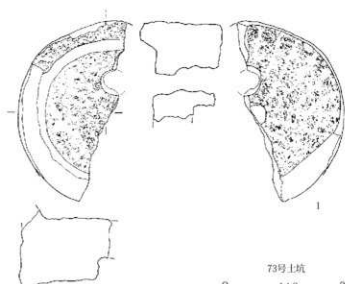
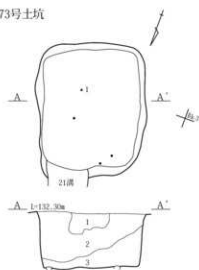
- 1 暗褐色土 B混上で、全体に灰色味が強い。
- 2 暗褐色土 B混上で、褐色粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 Ⅹ層土主体に、B混ブロックを若干含む。
- 4 暗褐色土 Ⅹ層土主体に、B混ブロックを少量含む。

68・69号土坑 A-A'

- 1 暗褐色砂質土 Ⅹ層土を主体とし、Ⅹ層土ブロック・炭化物を少量含む。柔らかい。
- 2 暗褐色砂質土 Ⅹ層土を主体とし、Ⅹ層土ブロックをやや多く含む。柔らかい。

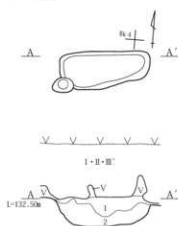
第5章 2面の調査(中世～古墳時代後期)

73号土坑



73号土坑
1:6
20cm

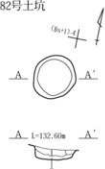
74号土坑



79・80号土坑



82号土坑



73号土坑 A-A'

- 1 暗褐色砂質土 X層土を主体とし、XII層土ブロックを多く含み、As-Cと二ッ岳系軽石・炭化物を少量含む。柔らかい。
- 2 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、XII層土ブロックを多量に含み、As-Cと二ッ岳系軽石・炭化物をごく少量含む。柔らかい。
- 3 暗褐色砂質土 XI層土を主体とし、XII層土ブロック・礫を少量含む。やや粘性あり。柔らかい。

74号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Va層土・Vb層土主体で、XII層土小ブロック・炭化物を少量含む。(21号溝埋没土)
- 2 黄褐色砂質土 Va層土とVb層土ブロックの混土。

79・80号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 IX層土を主体とし、XII層土ブロック(径1~2cm)を均一に含むしまりのない層。炭化物をわずかに含む。
- 2 暗褐色土 IX層土を主体とし、I層よりも暗色で、XII層土ブロックの含有量が少ない。
- 3 暗褐色土 IX層土を主体とし、XII層土粒を多く含む。
- 4 暗褐色土 IX層土を主体とし、XII層土ブロックはI層よりも小さく少ない。色調は暗色。

85号土坑



91号土坑



82号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土 Vb層土主体で、XII層土ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 Vb層土主体で、XII層土ブロックを多く含む。

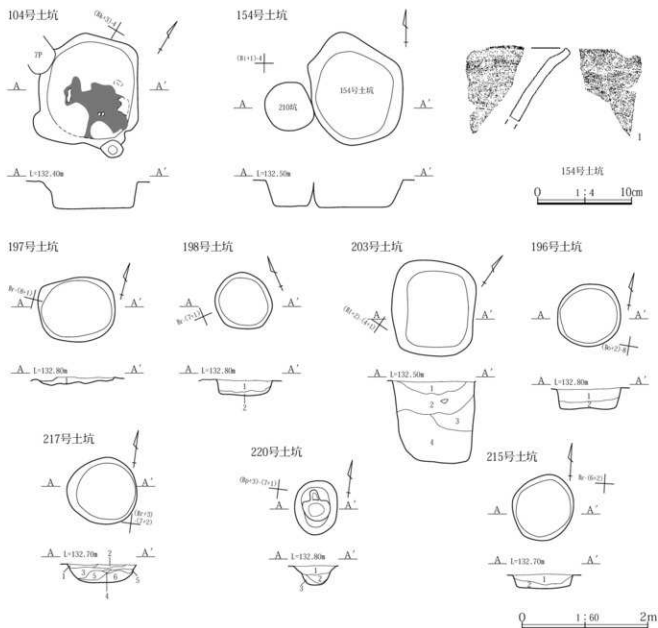
85号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土 Vb層土主体で、XII層土ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 Vb層土主体で、XII層土ブロックを多く含む。

91号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土 Vb層土主体で、XII層土ブロックを少量含む。

第271図 73・74・79・80・82・85・91号土坑・出土遺物



196号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Vb層上主体で、As-Cと二ヶ系軽石粒を含む。
- 2 黒褐色土 Vb層上・ⅩⅧ層上小ブロックを含む。

197号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 Vb層上。

198号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土 Vb層上主体で、ⅩⅧ層上ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 Vb層上とⅩⅧ層上粒の混土。

203号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 暗褐色砂質土とⅩⅧ層上大粒の混土。
- 2 暗褐色土 暗褐色砂質土とⅩⅧ層上大粒の混土で、黒褐色土小ブロックをわずかに含む。
- 3 黄褐色土 ⅩⅧ層上主体で、暗褐色砂質土粒を多く含む。
- 4 黄褐色土 ⅩⅧ層上。

215号土坑 A-A'

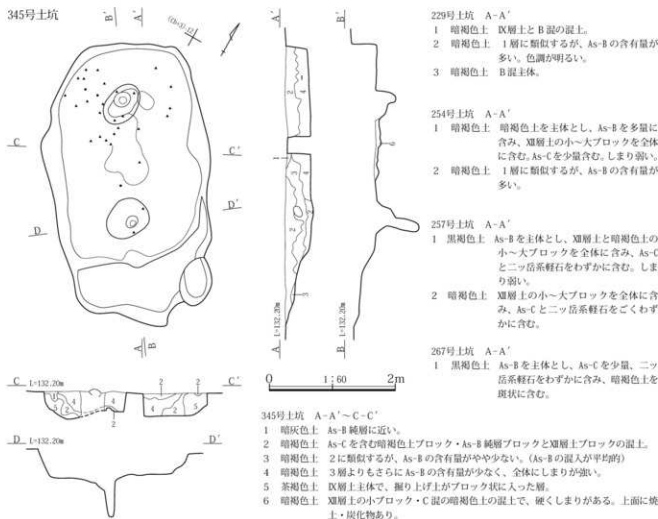
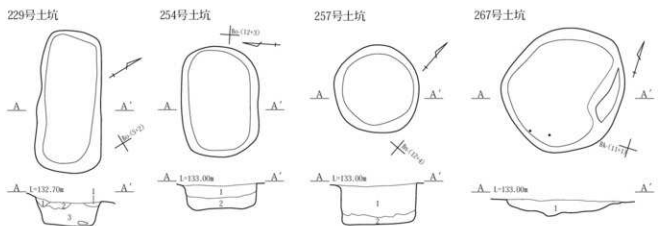
- 1 黒褐色土 Va層上主体で、As-Bを多く含む。二ヶ系軽石を少量含む。
- 2 黒褐色土 1層に類似するが、全体的に粒子が細かい。黄褐色粒をわずかに含む。

217号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 ⅩⅧ層上主体で、黄褐色粒を多く含む。
- 2 黒褐色土 Va層上主体で、As-Bを多く含む。二ヶ系軽石を少量含む。
- 3 黒褐色土 Va層上主体で、黒褐色粒・二ヶ系軽石を少量含む。
- 4 暗褐色土 6層に類似するが、二ヶ系軽石をわずかに含む。
- 5 暗褐色土 6層に類似するが、黄褐色粒・ブロックをより多く含む。
- 6 暗褐色土 ⅩⅧ層上主体で、As-Cを少量含む。黄褐色粒をわずかに含む。

220号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土 Va層上主体で、As-B・二ヶ系軽石を多く含む。As-Cもわずかに含む。
- 2 暗褐色土 VⅧ層上。
- 3 暗褐色土 DⅩ層上主体で、黄褐色粒、ブロックを多く含む。



第273図 229・254・257・267・345号土坑

(6) ピット(付図6・7)

検出したピットについては、田口上田尻遺跡のピットの項目で述べた通り、埋没土などの状況や平面形態などの特徴から当該時期と判断したものは多い。特に方形平面を有するピットについては、これまでの経験からも建物の柱穴である可能性が高いものであり、本来であれば

建物の構造について検討すべきであるが、当遺跡の特徴として復旧痕が地山の深くまで及んでおり、本来存在したであろうピットが削平されている部分が多いものと予測されることから、建物の柱穴配置までの検討を行わなかった。